

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書 X

西川内北遺跡
西川内南遺跡

2005

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書 X

にし かわ うち きた
西川内北遺跡

にし かわ うち みなみ
西川内南遺跡

2005

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

日本海東北自動車道は、新潟市を起点とし、村上市、山形県酒田市、秋田県秋田市等を経由して、秋田県小坂ジャンクションに至る約332kmの高速自動車道です。新潟県内では平成14年度に北蒲原郡中条町の中条インターチェンジまでが開通しました。

高速自動車道建設を取り巻く状況は厳しいものがありますが、平成15年末の国土開発幹線自動車道建設会議において、日本海東北自動車道の中条-朝日間は、日本道路公団が有料道路として建設を進めることになりました。しかし、公団の民営化に伴い、整備の優先順位付けに「採算性」がより重視され、同区間の完成がさらに遅れる事態となることも懸念されています。

同区間は、この地域内外の経済的な交流・連携を促すだけでなく、救急患者の搬送・災害時の緊急輸送等の「命の高速道」としての役割も期待されており、早期の開通が望まれます。

本書は、この高速自動車道建設に先立って発掘調査を実施した「西川内北遺跡・西川内南遺跡」の調査報告書です。調査の結果、西川内北遺跡では、阿賀野川以北ではこれまであまり見られなかった8世紀前半の奈良時代を中心とした遺構・遺物が発見されました。川沿いに建てられた数棟の掘立柱建物が検出され、川跡の中からは廃棄されたと思われる土師器・須恵器が多数出土しました。隣接する西川内南遺跡では、上層からは古代および中近世の道路状遺構や、川跡から橋の橋脚と推定される杭列が検出されました。下層からは古墳時代前期の掘立柱建物を伴う円形周溝状遺構が2基発見され、周溝内やその周辺部から舟形木製品や小型銅鏡、勾玉等が出土しました。阿賀野川以北における古墳時代や古代の発掘調査は、まだその端についたばかりです。今回発見された遺構や遺物は、古墳時代から奈良時代にかけての当地域の歴史を知る上で、貴重な資料を提供したと言えるでしょう。

今回の調査成果が、考古学研究者だけでなく、地域の歴史を知り、学ぼうとする多くの方々に活用されることを願っております。

最後に、この調査に参加された地元住民の方々や地元区長並びに中条町教育委員会には多大なる御協力と御援助を頂きました。また、日本道路公団北陸支社および村上工事事務所、胎内川沿岸土地改良区には、調査に際して格別のご配慮を頂きました。ここに厚く御礼を申し上げます。

平成17年5月

新潟県教育委員会

教育長 武藤克己

例 言

- 1 本報告書は、新潟県北蒲原郡中条町大字西川内字家ノ浦148ほかに所在する西川内北遺跡と、中条町大字西川内字中曾根202ほかに所在する西川内南遺跡の発掘調査記録である。
- 2 発掘調査は日本海東北自動車道（以下日東道とする）の建設に伴い、新潟県教育委員会（以下県教委とする）が日本道路公団北陸支社から委託して実施した。
- 3 発掘調査は県教委が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下埋文事業団とする）に調査を依頼した。埋文事業団は発掘調査作業および関連諸工事を株式会社吉田建設（以下吉田建設とする）に委託し、西川内北遺跡は平成15年7月4日～10月27日・平成16年4月7日～6月11日、西川内南遺跡は平成16年4月7日～11月30日に実施した。発掘調査面積は、西川内北遺跡が4,620㎡、西川内南遺跡が延べ12,940㎡（上層・下層6470㎡）である。
- 4 整理および報告にかかわる作業は、平成16年12月1日～平成17年3月31日の間に、吉田建設整理棟で行った。
- 5 出土遺物および記録類は、県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。遺物の注記記号は西川内北遺跡を「西北」、西川内南遺跡を「西ミナミ」とした。また調査年度・出土地点・層位を併記した。
- 6 引用文献は著者および発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に掲載した。ただし、第Ⅲ章4・第Ⅳ章4自然科学分析については各章末に掲載した。
- 7 本書に掲載した遺物番号はすべて通し番号とし、本文・図面図版・写真図版の番号は一致している。
- 8 本書の方位は、すべて真北である。ただし、ここでいう「真北」とは日本平面国家座標のX軸方向を示す。
- 9 調査成果の一部は現地説明会（平成16年11月3日）、遺跡発掘調査報告会（平成17年3月6日）などで公表しているが、本報告書の記述をもって正式な報告とする。
- 10 整理および本書作成に関わる作業は、野水晃子・継 実・小林義廣・伊藤正志・山下 研（吉田建設埋蔵文化財事業部）および吉田建設埋蔵文化財事業部整理作業員がこれにあたった。
- 11 第Ⅲ章・第Ⅳ章の放射性炭素年代測定・樹種同定・種実遺体同定・動物遺体同定・小型鋼鏡の成分分析・赤色顔料の成分分析は、株式会社バリノ・サーヴェイに分析・原稿を依頼した。
本書は、野水晃子・継 実・小林義廣・伊藤正志・山下 研・寺崎祐助が分担執筆したもので、執筆分担は以下のとおりである。編集は野水が担当した。
- 12 第Ⅰ章1・3…寺崎祐助 第Ⅰ章2、第Ⅱ章、第Ⅲ章1・3B、第Ⅳ章1・2B5)・3B2)・3)…小林義廣
第Ⅲ章2・5A、第Ⅳ章2A・5A1)・5B1) a)・5B2) d)…継 実
第Ⅲ章3A・5B・5C、第Ⅳ章3B1)・5A3)・5B2) a)・b)・c)・5B3)…野水晃子
第Ⅳ章2B1)～4)・3A・5A2)・5B1) b)…伊藤正志
第Ⅳ章3B4)・5B2) e)…山下 研
- 13 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多くのご教示とご協力を頂いた。記してここに厚く御礼を申し上げます。（五十音順、敬称略）

相田 泰臣 赤澤 徳明 安立 聡 伊藤 秀和 折原 洋一 及川 良彦 金子 拓男
木下 良 坂井 秀弥 笠沢 正史 佐藤 慎 品田 高志 関 雅之 高浜 信行
田中 謙作 田辺 早苗 田村 浩司 田村 良照 土屋 浩美 鶴亀 康志 中島 栄一
橋本 博文 林原 利明 古川 知明 榎野 高伯 前川 雅夫 水澤 幸一 宮島 宏
宮本長二郎 山口 忠明 山田 昌久 吉井 雅勇 吉村 光彦

新潟県新発田地域振興局農村整備部 胎内川沿岸土地改良区

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の方法と経緯	2
A 試掘確認調査	2
1) 西川内北遺跡	2
2) 西川内南遺跡	2
B 本 調 査	3
1) 西川内北遺跡	3
2) 西川内南遺跡	4
3 調査・整理体制	5
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	7
1 地理的環境	7
2 歴史的環境	8
A 古墳時代	8
B 奈良・平安時代	8
第Ⅲ章 西川内北遺跡	10
1 調査の概要	10
A グリッドの設定	10
B 基本層序	10
2 遺 構	11
A 概 要	11
B 記述の方法	11
C 各 説	12
3 遺 物	16
A 土 器	16
1) 古墳時代	16
2) 奈良時代	17
3) 中 世	19
B 木 製 品	19
4 自然科学分析	20
はじめに	20
A 試 料	21
1) 古環境	21
2) 遺構の年代観および植物利用	21
B 分析方法	22
1) 放射性炭素年代測定	22
2) 建築分析	22

3) 花粉分析	22	4) 植物珪酸体分析	23
5) 樹種同定	23		
C 結果	23		
1) 放射性炭素年代測定	23	2) 珪藻分析	25
3) 花粉分析	26	4) 植物珪酸体分析	28
5) 樹種同定	28		
D 考察	29		
1) 埋蔵環境	29	2) 古植生	30
3) 遺構の年代観と植物利用	31		
引用文献	32		
5 まとめ	39		
A 遺構	39		
1) 建物群	39	2) 道路状遺構	41
B 遺物	42		
1) 出土土器の編年的位置付け	42	2) 東北系土師器について	43
C 奈良時代の西川内北遺跡	45		

第四章 西川内南遺跡

1 調査の概要	47		
A グリッドの設定	47		
B 基本層序	47		
2 上層の調査	49		
A 遺構	49		
1) 概要	49	2) 記述の方法	49
3) 各説	49		
B 遺物	54		
1) 概要	54	2) 古墳時代の土器	54
3) 奈良・平安時代の土器	55	4) 中世の土器	56
5) 木製品	56		
3 下層の調査	57		
A 遺構	57		
1) 概要	57	2) 各説	58
B 遺物	67		
1) 土器	67	2) 木製品	78
3) 土製品	79	4) 石製品	80
5) 金属製品	80		
4 自然科学分析	80		
はじめに	80		
A 試料	81		
1) 上層	81	2) 下層	81

B	分析方法	82
1)	放射性炭素年代測定	82
2)	花粉分析	82
3)	植物珪酸体分析	82
4)	種実同定	82
5)	樹種同定	82
6)	動物遺存体分析	82
7)	金属成分分析	82
8)	X線回折分析	83
C	結果	83
1)	放射性炭素年代測定	83
2)	花粉分析	84
3)	植物珪酸体分析	86
4)	種実同定	87
5)	樹種同定	92
6)	動物遺存体分析	94
7)	金属成分分析	95
8)	X線回折分析	95
D	考察	95
1)	遺構の年代観	95
2)	古植生	98
3)	植物資源利用	99
4)	動物資源利用	101
	5) 赤色顔料	101
	引用文献	102
5	まとめ	111
A	上層の調査	111
1)	遺構	111
2)	遺物	114
3)	奈良・平安時代の西川内南遺跡	114
B	下層の調査	115
1)	遺構	115
2)	遺物	119
3)	古墳時代前期の西川内南遺跡	127
	<要約>	129
	<引用・参考文献>	131
	<観察表>	134

挿図目次

第1図	西川内南遺跡・西川内北遺跡位置図と 試掘確認調査トレンチ配置図	3
第2図	遺跡周辺の地形	7
第3図	周辺の古墳時代・奈良時代・平安時代遺跡	9
第4図	西川内北遺跡グリッド設定図	10
第5図	西川内北遺跡基本層序	11
第6図	遺構の分類	11
第7図	小グリッド別遺物破片数分布図	18
第8図	各地点の模式柱状図・試料採取位置 および分析層位	21
第9図	西川内北遺跡主要珪化石群集の 層位分布	25
第10図	西川内北遺跡主要花粉化石群集の 層位分布	26
第11図	西川内北遺跡植物珪酸体群集の 層位分布と珪化組織片の産状	28
第12図	西川内北遺跡珪化石	34
第13図	西川内北遺跡花粉化石	35
第14図	西川内北遺跡植物珪酸体	36
第15図	西川内北遺跡木材 (1)	37
第16図	西川内北遺跡木材 (2)	38
第17図	道路状遺構分割想定図	40
第18図	機能別・種類別構成比率 (口縁部残存率計測法)	42

第19図	種類別構成比率(破片数計測法) ……42	第31図	西川内南遺跡植物珪酸体 ……104
第20図	沈線文土師器 ……44	第32図	西川内南遺跡種実遺体(1) ……105
第21図	西川内南遺跡グリッド設定図・ 基本土層柱状図 ……48	第33図	西川内南遺跡種実遺体(2) ……106
第22図	粟の法量分布図 ……68	第34図	西川内南遺跡木材(1) ……107
第23図	土器分類図1(S=1/6) ……69	第35図	西川内南遺跡木材(2) ……108
第24図	土器分類図2(S=1/6) ……70	第36図	西川内南遺跡木材(3) ……109
第25図	西川内南遺跡主要花粉化石群集の 層位分布 ……84	第37図	西川内南遺跡出土骨 ……110
第26図	西川内南遺跡植物珪酸体群集の 層位分布 ……86	第38図	西川内南(北)遺跡検出 道路方向想定図 ……113
第27図	西川内南遺跡金属成分 分析結果(1) ……96	第39図	西川内南I期の土器 ……122
第28図	西川内南遺跡金属成分 分析結果(2) ……97	第40図	西川内南II~IV期の土器 ……123
第29図	西川内南遺跡X線回折図 ……98	第41図	器種構成比率 ……124
第30図	西川内南遺跡花粉化石 ……103	第42図	粟の底部形態 ……124
		第43図	船首に切り込みのある舟形木製品 ……125
		第44図	準構造船の形態 ……125
		第45図	県内出土の舟形木製品 ……126

表目次

第1表	西川内北遺跡放射性炭素年代 測定結果 ……23	第11表	西川内南遺跡植物珪酸体分析結果 ……87
第2表	西川内北遺跡暦年校正結果 ……23	第12表	西川内南遺跡種実同定結果 ……88
第3表	西川内北遺跡浮遊分析結果 ……24	第13表	西川内南遺跡出土種実分類群一覧 ……88
第4表	西川内北遺跡花粉分析結果 ……27	第14表	西川内南遺跡遺構別種実出土状況 ……89
第5表	西川内北遺跡植物珪酸体分析結果 ……28	第15表	西川内南遺跡樹種同定結果 ……93
第6表	西川内北遺跡樹種同定結果 ……29	第16表	西川内南遺跡遺構・器種別樹種構成 ……93
第7表	西川内北遺跡遺構別種類構成 ……31	第17表	西川内南遺跡同定された各種類の 物理的性質 ……93
第8表	西川内南遺跡放射性炭素年代 測定結果 ……83	第18表	西川内南遺跡出土分類群一覧 ……93
第9表	西川内南遺跡暦年校正結果 ……84	第19表	西川内南遺跡動物遺存体分析結果 ……94
第10表	西川内南遺跡花粉分析結果 ……85	第20表	西川内南遺跡EPMA半定量分析結果 ……98
		第21表	編年対照表 ……120

図版目次

【図 面】

図版1	西川内北遺跡遺構全体図
図版2	西川内北遺跡遺構分割図(1)
図版3	西川内北遺跡遺構分割図(2)
図版4	西川内北遺跡遺構個別図(1) SB1001・SB1014・P1046・柱1047・P1059・P1073・P1074・P1075
図版5	西川内北遺跡遺構個別図(2) SB1069
図版6	西川内北遺跡遺構個別図(3) SB1069・SB1070・P1032・P1033・P1034・P1037・P1045・P1048・ P1053・P1055・柱1080

- 図版 7 西川内北遺跡遺構個別図 (4) SB1085・SX87・SX1026・P1010・P1011・柱1012・P1025・P1052・P1063・柱1072・P1079・P1081
- 図版 8 西川内北遺跡遺構個別図 (5) SD29・SD56・SD57・SD91・SD1027・SD1028・SD1029・SD1030・SD1035
- 図版 9 西川内北遺跡 古墳時代の土器・奈良時代の土器 (1) SD29・SD56・SD57・SX87・SX26・SD91
- 図版10 西川内北遺跡 奈良時代の土器 (2) SD91・遺構外・中世の土器
- 図版11 西川内北遺跡木製品
- 図版12 西川内南遺跡上層・下層遺構全体図
- 図版13 西川内南遺跡上層遺構分割図 (1)
- 図版14 西川内南遺跡上層遺構分割図 (2)
- 図版15 西川内南遺跡上層遺構分割図 (3)
- 図版16 西川内南遺跡上層遺構分割図 (4)
- 図版17 西川内南遺跡上層遺構分割図 (5)
- 図版18 西川内南遺跡上層遺構個別図 (1) 道路状遺構 1
- 図版19 西川内南遺跡上層遺構個別図 (2) 道路状遺構 2
- 図版20 西川内南遺跡上層遺構個別図 (3) 道路状遺構 2
- 図版21 西川内南遺跡上層遺構個別図 (4) 道路状遺構 3
- 図版22 西川内南遺跡上層遺構個別図 (5) SK1・SK3・SK5・SX7・SX51・SX52・枕199・SD2・SD4・SD6・SD8・SD9・SD10・SD53
- 図版23 西川内南遺跡上層遺構個別図 (6) 川跡 1・2・3
- 図版24 西川内南遺跡上層遺構個別図 (7) 川跡 2 枕列 1・2・3
- 図版25 西川内南遺跡下層遺構分割図 (1)
- 図版26 西川内南遺跡下層遺構分割図 (2)
- 図版27 西川内南遺跡下層遺構分割図 (3)
- 図版28 西川内南遺跡下層遺構個別図 (1) 1号円形周溝状遺構
- 図版29 西川内南遺跡下層遺構個別図 (2) 2号円形周溝状遺構
- 図版30 西川内南遺跡下層遺構個別図 (3) SB1042
- 図版31 西川内南遺跡下層遺構個別図 (4) SB1136・SB1137・SX1109
- 図版32 西川内南遺跡下層遺構個別図 (5) SX1001・SX1004・SX1008・SX1019・SX1023・SX1024・SX1034・SD1113
- 図版33 西川内南遺跡下層遺構個別図 (6) SK1002・SK1005・SK1007・SK1017・SK1047
- 図版34 西川内南遺跡下層遺構個別図 (7) SK1045・SK1048・SK1211
- 図版35 西川内南遺跡下層遺構個別図 (8) SK1214・SK1223・SK1208・SK1215・SK1216・SK1227・SD1226・SK1219・SK1228・SK1242
- 図版36 西川内南遺跡下層遺構個別図 (9) SK1102・SK1111・SK1116・SK1107・SK1108・SK1117
- 図版37 西川内南遺跡下層遺構個別図 (10) SK1110・SD1011・SD1018・SD1245・SD1220・SD1114・SD1115・SX1243・SX1112・SX1106
- 図版38 西川内南遺跡上層 古墳時代中期の土器・古代の土器 (1) SD21～SD24・SD159・川跡 1・川跡 2
- 図版39 西川内南遺跡上層 古代の土器 (2) 川跡 3・包含層・中世の土器
- 図版40 西川内南遺跡上層木製品
- 図版41 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (1) SD1201・SX1221・SK1225
- 図版42 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (2) SD1218
- 図版43 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (3) SD1218
- 図版44 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (4) SD1218
- 図版45 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (5) SD1218・SK1240・SK1246

- 図版46 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (6) SX1109・SX1004・12C25一括
- 図版47 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (7) SX1008・SX1034
- 図版48 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (8) SX1034・SD1113・SK1002・SK1007
- 図版49 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (9) SK1007・SK1017・SK1015・SK1045
- 図版50 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (10) SK1045
- 図版51 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (11) SK1048・SK1211・SK1214
- 図版52 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (12) SK1216
- 図版53 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (13) SK1208・SK1228・SK1242・SK1102・SK1111・SK1116・SK1107・SK1108
- 図版54 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (14) SK1117・SK1110・SD1011・SD1114・SD1245・SD1220
- 図版55 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (15) SD1115
- 図版56 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (16) SD1115・包含層
- 図版57 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (17) 包含層
- 図版58 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器 (18) 包含層
- 図版59 西川内南遺跡下層木製品 (1)
- 図版60 西川内南遺跡下層木製品 (2)
- 図版61 西川内南遺跡下層木製品 (3)
- 図版62 西川内南遺跡下層土製品・石製品・金属製品
- 【写 真】**
- 図版63 西川内北遺跡近景
- 図版64 西川内北遺跡調査区全景・建物群と川跡
- 図版65 西川内北遺跡調査前の状況・基本土層・調査風景・遺構個別写真 (1)
- 図版66 西川内北遺跡遺構個別写真 (2)
- 図版67 西川内北遺跡遺構個別写真 (3)
- 図版68 西川内北遺跡遺構個別写真 (4)
- 図版69 西川内北遺跡遺構個別写真 (5)
- 図版70 西川内北遺跡遺構個別写真 (6)
- 図版71 西川内北遺跡遺構個別写真 (7)
- 図版72 西川内北遺跡遺構個別写真 (8)
- 図版73 西川内北遺跡遺構個別写真 (9)
- 図版74 西川内北遺跡 古墳時代の土器・奈良時代の土器 (1) SD29・SD56・SD57・SX87・SX1026・SD91
- 図版75 西川内北遺跡 奈良時代の土器 (2) 遺構外・中世の土器・木製品
- 図版76 西川内南遺跡近景・遠景
- 図版77 西川内南遺跡上層・下層完掘状況
- 図版78 西川内南遺跡上層の遺構・下層の遺構
- 図版79 西川内南遺跡上層・下層遺物集合写真・小型銅鏡・勾玉
- 図版80 西川内南遺跡上層完掘状況・道路状遺構2完掘状況・調査前の状況・作業風景・基本土層・遺物出土状況
- 図版81 西川内南遺跡上層遺構個別写真 (1)
- 図版82 西川内南遺跡上層遺構個別写真 (2)
- 図版83 西川内南遺跡上層遺構個別写真 (3)
- 図版84 西川内南遺跡上層遺構個別写真 (4)
- 図版85 西川内南遺跡上層遺構個別写真 (5)
- 図版86 西川内南遺跡上層遺構個別写真 (6)

- 図版87 西川内南遺跡上層遺構個別写真(7)
- 図版88 西川内南遺跡上層遺構個別写真(8)
- 図版89 西川内南遺跡上層遺構個別写真(9)
- 図版90 西川内南遺跡上層遺構個別写真(10)
- 図版91 西川内南遺跡下層完掘状況・作業風景・基本土層・遺構個別写真(1)
- 図版92 西川内南遺跡下層遺構個別写真(2)
- 図版93 西川内南遺跡下層遺構個別写真(3)
- 図版94 西川内南遺跡下層遺構個別写真(4)
- 図版95 西川内南遺跡下層遺構個別写真(5)
- 図版96 西川内南遺跡下層遺構個別写真(6)
- 図版97 西川内南遺跡下層遺構個別写真(7)
- 図版98 西川内南遺跡下層遺構個別写真(8)
- 図版99 西川内南遺跡下層遺構個別写真(9)
- 図版100 西川内南遺跡下層遺構個別写真(10)
- 図版101 西川内南遺跡下層遺構個別写真(11)
- 図版102 西川内南遺跡下層遺構個別写真(12)
- 図版103 西川内南遺跡下層遺構個別写真(13)
- 図版104 西川内南遺跡下層遺構個別写真(14)
- 図版105 西川内南遺跡上層古墳時代中期の土器・古代の土器(1) SD21・SD22・SD23・SD24・SD66・SD159・SD9・SD10・川跡1・川跡2・川跡3・包含層
- 図版106 西川内南遺跡上層 古代の土器(2)・中世の土器・木製品
- 図版107 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(1) SD1201・SX1221・SK1225・SD1218
- 図版108 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(2) SD1218
- 図版109 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(3) SD1218・SK1240
- 図版110 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(4) SK1240・SK1246・SX1109・SX1004・12C25一括
- 図版111 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(5) 12C25一括・SX1008・SX1034
- 図版112 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(6) SX1034・SD1113・SK1002・SK1007
- 図版113 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(7) SK1007・SK1017・SK1015・SK1045
- 図版114 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(8) SK1048・SK1211・SK1214・SK1216
- 図版115 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(9) SK1216・SK1208・SK1228・SK1242・SK1102・SK1111・SK1116・SK1107・SK1108・SK1117
- 図版116 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(10) SK1117・SK1110・SD1011・SD1114・SD1245・SD1220・SD1115
- 図版117 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(11) SD1115・包含層
- 図版118 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(12) 包含層
- 図版119 西川内南遺跡下層 古墳時代前期の土器(13) 包含層
- 図版120 西川内南遺跡下層木製品(1)
- 図版121 西川内南遺跡下層木製品(2)
- 図版122 西川内南遺跡下層土製品・石製品・金属製品

第I章 序 説

1 調査に至る経緯

日本海東北自動車道(以下、日東道とする)は、新潟市の新潟空港インターチェンジ(以下、インターとする)から秋田県小坂ジャンクションに至る総延長322kmの高速自動車道である。新潟県内においては中条インターまでが平成14年に完成している。中条インター以北は、平成元年および平成3年に基本計画が決定され、本遺跡が所在する中条インター～荒川インター間の第13次施工命令区間は平成10年4月に施工命令が出された。これを受けて、日本道路公団北陸支社(以下、道路公団とする)と新潟県教育委員会(以下、県教委とする)との間で、法線内の埋蔵文化財の取り扱いに関する協議が本格化した。

分布調査は、県教委から委託を受けた財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(以下、埋文事業団とする)が平成11年度に中条インター～朝日インター間で行なった。そして、周知遺跡7か所、遺跡推定地27か所において試掘確認調査が必要であるという調査結果を県教委に報告した。中条インター(STA274+50)～荒川左岸(STA399+20)は10月～11月にかけて分布調査を実施し、周知遺跡2か所と遺跡推定地12か所を確認した。本遺跡は、周知遺跡№1の福田遺跡・地下館跡及び周辺(中条町大字弥彦岡ほか)に含まれる。周知遺跡№1の福田遺跡・地下館跡及び周辺は土師器が多数と須恵器などが採集されたことから、古墳時代・平安時代・中世の複合遺跡と考えられる。また、遺物の分布状況から、分布範囲は広いが圃場整備で遺物が拡散している可能性と時期毎に遺物の集中地点が存在する可能性が指摘できる。

試掘確認調査は、同じく埋文事業団が平成13年度～平成15年度にかけて中条インター北側近接地～村上インター手前間で行った。その結果、本遺跡を含む周知4遺跡と新発見16遺跡の合計20遺跡について本調査が必要であることが明らかとなり、その旨を県教委に報告した。周知遺跡№1の福田遺跡・地下館跡及び周辺の試掘確認調査は、平成12年度～平成15年度の4か年にわたって実施し、その調査対象面積は平成12年度が11,750㎡・平成13年度が48,600㎡・平成14年度が24,000㎡・平成15年度が20,000㎡の都合104,350㎡の広範囲に上った。実質調査面積は平成12年度が610㎡・平成13年度が3,190㎡・平成14年度が1,260㎡・平成15年度が987㎡の都合6,047㎡で、確認率は平均5.9%であった。調査の結果、福田・西川内南・西川内北・反貫目の4遺跡が存在し、本調査が必要ということが明らかになった。西川内北遺跡は、遺物包含層は削平されていたが、遺構覆土などから古代(8世紀)の土師器や須恵器、および古墳時代後期の土器が出土した。本調査面積は7,600㎡である。西川内南遺跡は、古代(上層)と古墳時代(下層)という2枚の遺構確認面が検出された。上層は耕作の影響をかなり受けているものの古代の遺物出土し、数10cmの間層を挟んだ暗灰色粘質土からは古墳時代前期の遺物が多数出土した。本調査面積は表面積で9,200㎡であり、遺構確認面が2枚検出されたことから延面積18,400㎡(9,200㎡×2層)である。本調査面積は、その後、道路公団と文化行政課との本発掘調査範囲の限定協議により2基線部分などは除外され、西川内北遺跡は6,710㎡、西川内南遺跡は12,940㎡(上層6,470㎡・下層6,470㎡)となった。

西川内北遺跡の本調査は、道路公団の日東道調査促進要望に伴って、平成15年5月に急浮上してきた。このため、6,710㎡のうち4,620㎡を対象に平成15年7月4日から調査を実施することに決定した。なお、残りの2,090㎡は平成16年度以降に行うこととなった。

西川内南遺跡の本調査は、平成15年10月1日に行われた道路公団事業に係わる埋蔵文化財調整会議にお

1 調査に至る経緯

いて、道路公園から平成16年度に実施の要望が出された。しかし、道路公園の民営化や事業の見直しなどにより先行き不透明な感否めない状況であった。10月8日、県教委と埋文事業団で来年度の受託事業について協議を行い、先行き不透明な状況であることから、本遺跡は平成16年度の本調査実施遺跡の候補から外れた。そして、もし日東道建設が決定した場合の調査体制は、専門職員の増員を求めるが、それが望めない時は、日東道の調査は民間調査機関に全面委託して実施することで合意に達した。平成16年1月8日、国土開発幹線自動車道建設会議が終了し、日東道は日本道路公園で建設することが可能になった旨が道路公園から文化行政課に伝えられ、本遺跡は来年度本調査要望遺跡の中で5番目の優先順位が与えられた。2月20日には、平成16年度本調査に係わる協議が道路公園・文化行政課・埋文事業団の3者で行われ、その席上で西川内南遺跡は調査要望優先順位が5番目から1番目へと格上げとなり、平成16年度に調査を実施することで合意・決定した。また、その席上で本調査は、日東道に限り、埋文事業団の指導・監督のもとに民間の調査機関に全面委託することになった。

2 調査の方法と経緯

A 試掘確認調査

県教委から委託を受けた埋文事業団は、周知の福田遺跡が日本海東北自動車道法線内に存在するため、平成13年4月・5～6月・11月に試掘確認調査を実施した。その結果、3地点で遺構・遺物の集中区を確認したが、登録されている福田遺跡と範囲も性格も異なるため別遺跡として取り扱うこととし、近接する集落の名をとって西川内北遺跡・西川内南遺跡として登録・周知した。

1) 西川内北遺跡

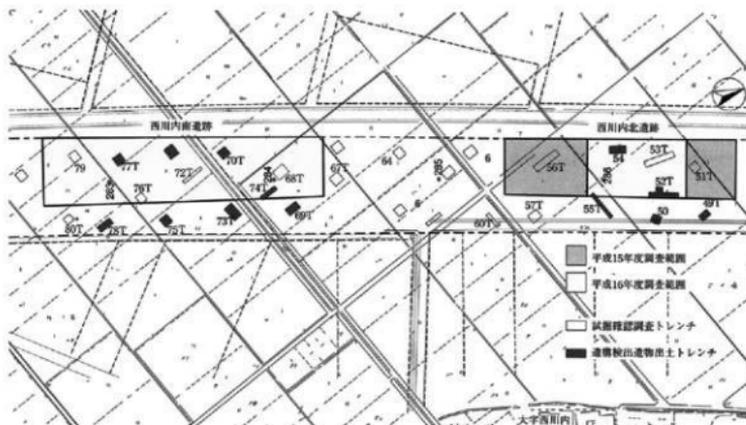
試掘確認調査の結果、耕作土および遺構覆土から8世紀頃の土師器や須恵器が出土した。しかし、遺物包含層は過去の圃場整備によって削平されており、耕作土と搬入客土を除去すると青灰色シルト層の遺構確認面（標高7m）になる。検出された遺構は、掘立柱建物・溝・畝状遺構の可能性のある溝などである。掘立柱建物は、2間×2間の総柱建物1棟・2間×？間の建物1棟のほか、少なくとも2棟の建物跡の存在が確認できた。また、これらの掘立柱建物の多くは掘り方をもち柱が残存していた。このほか、50センチから52センチにかけて、建物跡と切合関係にある大きな溝が認められた。このように試掘確認調査の段階で数棟の掘立柱建物を検出したことから、本遺跡は保存状態が良好な集落遺跡と考えられた。一方、遺構覆土が遺構検出面の青灰色シルト層と土質・色調共に極めて類似することから、本調査において遺構の認識に困難が伴うと予想された。

遺跡の年代については、52センチの柱穴覆土から8世紀の土師器や須恵器が出土したことから、古代（奈良時代）と考えられる。ただし少量ではあるものの、搬入土下位の茶褐色腐植土層や青灰色シルト層上部から、古墳時代後期の遺物が出土した。

今回の調査結果を受けて、県教委は掘立柱建物や溝が集中する地点を中心に、約7,600㎡について本調査が必要であることを道路公園に通知した。

2) 西川内南遺跡

西川内北遺跡の南側約300mに位置する本遺跡では、古墳時代前期と古代（奈良時代）の2層の遺物包含



第1図 西川内南遺跡(左)・西川内北遺跡(右)位置図と試掘確認調査トレンチ配置図 (S=1/3000)

層が確認された。耕作土直下の上層の遺物包含層では、8世紀頃の土師器や須恵器が出土し、間層を約1～1.5m挟んだ下層の遺物包含層からは、古墳時代前期の遺物が多数出土した。

遺構は、上層遺物包含層下位の青灰色シルト層中で、古代と考えられる柱が何基か検出された。これらの柱は、青灰色シルト層上面に検出面が存在せず、この層を掘り下げる途中で確認されることが多かった。78トレンチでは2間3点の柱を確認し、71トレンチでは先端の尖った打ち込み式と考えられる柱を検出した。古墳時代の遺構は確認されなかったが、遺物の出土状況および炭化物の集中状況から、近くに遺構が存在すると考えられた。

調査結果の報告を受けて県教委は、これらのトレンチや遺物が出土したトレンチを中心に、その周辺も含めた範囲の上層と下層の2層、約18,400㎡ (9,200㎡×2) について本調査が必要であることを道路公団に通知した。

B 本調査

西川内北遺跡と西川内南遺跡の試掘確認調査後に行われた道路公団と県教委の協議の結果、本調査は二期線部分を除くことになり、西川内北遺跡の調査面積が、試掘確認調査終了時点の7,600㎡から4,620㎡に、西川内南遺跡の調査面積は、上・下層ともに9,200㎡から6,470㎡、延べ18,400㎡から12,940㎡に変更となった。発掘深度は、試掘確認調査の結果から西川内北・西川内南両遺跡とも2m以下と予想されたため、矢板の打設は行わず安定勾配の法面に対応した。なお、表土剥ぎや上層と下層遺物包含層間の間層掘削などは重機(バックホー)を使用した。

1) 西川内北遺跡

平成15年7月4日から調査員1名と作業員10～20名体制で調査を開始した。遺跡を囲む暗渠掘削工事から始め、5日以降、層位確認トレンチを17か所設定して人力で掘り下げ、15日からはバックホーによる表土剥ぎを行なった。その後、遺物包含層発掘を8月26日までに終了し、遺構精査に入った。その結果、調査

区北側では遺構・遺物の検出を見なかったが、調査区中央部で川跡、調査区南側で畝状遺構と溝が確認され、8月26日から各遺構の発掘に入った。9月に入り8B・8Cグリッド、10E・11Eグリッドで掘立柱建物を検出したため、同月17日以降調査員2名体制で調査にあたり、畝状遺構のみ調査を完了した。残る遺構については来年度調査とし、検出状態や半載状態のまま発掘を終了し、10月21日にラジコンヘリによる航空写真撮影を行い、23日に全体測量を実施した。10月27日、調査区外西側に2本の排水用トレンチを掘削して15年度の調査を終了した。

翌年度の調査は、平成16年4月19日から調査員3名体制で再開した。調査は遺構精査を主とし、昨年検出された川跡と掘立柱建物のほか、新たに9Cグリッドにおいて畝状遺構が検出された。5月11日から西川内南遺跡に調査員1名と作業員若干を派遣し、残る体制で調査を継続して、5月20日には川跡を除く全遺構の調査を完了した。引き続いて5月21日に全体測量、27日にはラジコンヘリによる航空写真撮影を行った。5月29日と31日には現地説明会を開催し、116名の参加があった。

2) 西川内南遺跡

上層の調査は、5月11日から調査区全域の法面成形から始まり、13日からは表土掘削を開始した。20日から包含層発掘と併せて遺構精査を行ったが、遺物は全体に希薄で、遺構は10B～10Eグリッド以南に集中していた。5月20日には6B～Eグリッドにかけて、調査区外へ続く2組の浅い溝に挟まれた幅7m前後の道路と考えられる遺構を検出した。6月17日には2B～5Eグリッドにかけて、調査区南部を平行して斜行する幅の異なる2列の溝が検出された。そして南側の幅広の溝東端から特徴的な短い畝状遺構が、南北に連なって調査区南端から調査区外へと延びているのが確認された。7月8日に8Dグリッドで川跡を横切る3本3列を基本とする杭列を検出し、さらに7月21日と23日には、最初の杭列に隣接して9Dグリッドおよび10Dグリッドで同じ配列を示す杭列が川跡から検出された。道路状遺構および溝、畝状遺構の精査後7月28日にラジコンヘリによる航空写真撮影を実施し、その後杭列の精査と取り上げを行って8月11日に調査を終了した。

下層の調査は、7月9日からバックホーによる間層掘削に着手することから開始した。間層掘削は9月8日に終了した。層位確認トレンチを設定して層位を観察したところ、遺物包含層相当層は調査区全域に分布することが確認されたが、遺物は7B～Eグリッドから9B～Eグリッドに集中することが明らかになった。遺構精査は9月9日から開始したが、検出が困難なため東西方向に5～10mごとにトレンチを設定して土層観察を行いながら遺構の有無を確認した。その結果、13B～Eグリッド以北と5B～Eグリッド以南は、遺物が希薄なことに加え遺構が認められないことから遺構精査の対象から除外した。9月28日に8～9Cグリッドで円形周溝状遺構が確認され、10月25日には東側の8・9D・Eグリッドでも円形周溝状遺構の存在が確認された。円形周溝状遺構中央部には掘立柱建物が存在し、溝からは大量の土師器や舟形木製品が出土したが、11月17日から27日にかけて調査を終了した。また、円形周溝状遺構の南側で検出された土坑や溝についても、円形周溝状遺構に併せて調査を完了した。遺構の最終確認は、11月24日・26日・27日にバックホーを使用して実施し、新たに検出した柱の実測と写真撮影を行ってそれらを取り上げた。11月27日には全ての調査を完了し、道路公園に現地を引き渡した。

3 調査・整理体制

試掘確認調査と本調査および整理作業は、以下のような期日と体制で行った。

【試掘確認調査】

調査期間 平成13年4月9日～12日、5月8日～6月7日、11月27日～30日

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 板屋越 麟一）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（専務理事・事務局長 須田 益輝）

管 理 須田 益輝（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 専務理事・事務局長）

長谷川司郎（同 総務課長）

岡本 郁栄（同 調査課長）

庶 務 椎谷 久雄（同 総務課主任）

調査指導 寺崎 裕助（同 調査課道路公団担当課長代理）

調査担当 小田由美子（同 調査課主任調査員）

調査職員 小林 芳宏（同 調査課主任調査員）

加藤 義隆（同 調査課主任調査員）

栗林 宣明（同 調査課主任調査員）

【本調査（平成15年度分）・整理作業】

調査期間 平成15年7月4日～10月27日＜西川内北遺跡＞

整理期間 平成15年11月1日～平成16年3月31日＜西川内北遺跡＞

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 板屋越 麟一）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（専務理事・事務局長 黒井 幸一）

管 理 黒井 幸一（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 専務理事・事務局長）

長谷川二三夫（同 総務課長）

藤巻 正信（同 調査課長）

庶 務 高野 正司（同 総務課主任）

調査担当 寺崎 裕助（同 調査課道路公団担当課長代理）

調査職員 佐藤 優一（同 調査課主任調査員）

調 査 員 細井 佳浩（株式会社吉田建設 埋蔵文化財事業部調査員）

野水 晃子（株式会社吉田建設 埋蔵文化財事業部調査員）

【本調査（平成16年度分）・整理作業】

調査期間 平成16年4月7日～11月27日＜西川内南遺跡＞

平成16年4月7日～6月7日＜西川内北遺跡＞

整理期間 平成16年12月1日～平成17年3月31日＜西川内南遺跡＞

平成16年12月1日～平成17年3月31日＜西川内北遺跡＞

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 板屋越 麟一）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（事務局長 黒井 幸一）

管 理 黒井 幸一（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 専務理事・事務局長）

長谷川二三夫（同 総務課長）

3 調査・整理体制

- 藤巻 正信 (同 調査課長)
監督 寺崎 裕助 (同 調査課日東道担当課長代理)
山田 秀樹 (同 調査課日東道担当主任調査員)
庶務 高野 正司 (同 総務課主任)

調査組織 株式会社吉田建設

- 現場代理人 反町 嘉人 (埋蔵文化財事業部工務係)
現場世話人 榎海 誠 (埋蔵文化財事業部工務係)
水井 功 (埋蔵文化財事業部工務係)
調査担当 野水 見子 (埋蔵文化財事業部調査員)
調査職員 小林 義廣 (埋蔵文化財事業部調査員)
榎 実 (埋蔵文化財事業部調査員)

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

西川内北遺跡・西川内南遺跡は新潟平野北東部に所在する。両遺跡の西には平野と日本海を隔てる新潟砂丘が、東には更新世に隆起したとされる柳形山脈があり、また南には江戸時代に干拓された紫雲寺潟(塩津潟)(以下、紫雲寺潟)干拓地が広がっている。

両遺跡は、胎内川扇状地の扇端部と紫雲寺潟干拓地との境界付近に立地し、柳形山脈まで約3km、新潟砂丘まで800m余りの地点に所在している。標高は約7mである。両遺跡の周辺は、胎内川の伏流水がもたらす「どっこん水」と呼ばれる豊富な湧き水に恵まれ、一部に低温の湧き水に依拠する水芭蕉自生地も存在する。また、国場整備以前の地形図によれば、遺跡が存在する胎内川左岸一帯は、中条町本郷から江上・西条へと連なる標高18m前後の湧水線に源をもつ細流が、西ないし南西方向に流れ、直接あるいは砂丘に沿って旧紫雲寺潟方面へと向かっている。おそらく遺跡が集落として機能していた当時においても、幾筋もの流れが遺跡周辺を現在と同じように流れていたと推測される。

遺跡周辺の景観は近世以降、江戸時代の紫雲寺潟干拓や、明治時代に工事が行われた胎内川の新河口開削などで大きく変化している。さらに、紫雲寺潟湖底の青田遺跡 [荒川¹⁰2004] の調査結果から、水域の形成が平安時代(9世紀)以降であることが明らかになっている [安井¹¹2002]。これらのことから、西川内北遺跡および西川内南遺跡が営まれていた時代の景観は、現在と大きく異なっていたと推定される。



第2図 遺跡周辺の地形(1947年11月米軍撮影)S₁1/50,000

2 歴史的環境

新潟平野北部の古墳時代・古代の遺跡分布は、第3図に示すとおりである。遺跡分布図は、県教委の遺跡カードをもとに作成したもので、遺跡の大半は砂丘列内陸部と礪形山脈山麓、および胎内川扇状地に集中している。しかし、加治川村青田遺跡〔荒川¹⁰2004〕をはじめ、沖積平野における発掘調査の増加は、かつて沖積面下に現在と異なる地形が存在し、その埋没した旧地形上に遺跡が立地していたことを明らかにしつつある。

A 古墳時代

調査地域周辺の古墳時代の遺跡はそれほど多くはない。遺跡は、中条町築地や中倉・下高田など新潟砂丘と沖積面の境界部に比較的集中しているほか、中条町本郷・久保田・西桑を通る湧水線と旧紫雲寺潟の間に分布している。地形図からも読み取れるように、この地域は胎内川の湧水や伏流水に恵まれた水田地帯で、近年まで畑や桑園が広がっていた湧水線以北と土地利用が大きく異なっている。豊富な湧水や伏流水は、古墳時代においても重要な立地条件の一つであったことは想像に難くない。また、調査地域の南を流れる加治川は、阿賀野川を經由して信濃川河口へと続いており、青田遺跡で確認された紫雲寺潟形成以前の河川の存在と併せて、立地条件の一つに内水面交通の利用が想定される。

調査地域周辺の古墳時代前期の遺跡には、扇端部に位置する城の山遺跡〔水澤1999b〕をはじめ、胎内川扇状地の扇尖から扇端部にかけて屋敷遺跡〔水澤・吉村2004〕・野付遺跡・船戸川崎遺跡〔水澤2002〕・福田遺跡〔後藤2003〕・反貫目遺跡〔寺崎¹¹2004〕、砂丘縁辺部に四ツ持遺跡〔水澤1998〕が存在している。中期になると前期から続く天野遺跡・反貫目遺跡や六斗苜遺跡〔小林2002〕が分布しているが遺跡数は減少する。後期は再び遺跡数が増加する傾向にあり、屋敷遺跡・野付遺跡・船戸松田遺跡〔水澤・吉村2001〕・下名倉遺跡〔水澤2004a〕で遺物が出土している。これらの遺跡は、増減を繰り返しながらも一貫して城の山遺跡周辺に集中し、細流に沿って分布していることが窺える。

B 奈良・平安時代

古墳時代に比べ飛躍的に遺跡数が増加する。遺跡は、新潟砂丘内陸部と胎内川扇状地左岸および礪形山脈の山麓に立地し、旧紫雲寺潟を囲むように分布している。中条町築地から加治川右岸にかけて、砂丘列縁辺部に連なる遺跡の多くは、旧紫雲寺潟の水域内に位置しており、砂丘列の沈降と紫雲寺潟の水域拡大を示唆している。一方、胎内川扇状地が広がる旧紫雲寺潟北東部は、中条町草野遺跡〔水澤2004b〕・中倉遺跡〔水澤1999a〕・船戸川崎遺跡〔水澤2002〕・船戸松田遺跡〔水澤・吉村2001〕・蔵ノ坪遺跡〔飯坂¹²2002〕など、9世紀を主体とする遺跡が礪形山脈山麓の船戸川流域に集中している。これらの遺跡は、川跡から完形の土師器・須恵器に加え、蒔草や馬形を含む木製品が出土しており、祭祀行為に関与した遺跡と推定されている〔水澤2003〕。また、多くの遺跡から木簡や墨書土器が出土しており、船戸川崎遺跡出土木簡の「土師船守」〔水澤2002〕、蔵ノ坪遺跡出土木簡の「小目」・同遺跡出土墨書土器の「津」などが確認されている。これらの文字資料と船戸川沿いの立地を併せ考えると、この地域に立地する遺跡が、内水面交通と関係していた可能性が高い。



No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	長谷遺跡	古	25	黒山遺跡	中	49	船戸屋敷遺跡	古	73	八幡津遺跡	中
2	駒田遺跡	古	26	六中倉遺跡	古	50	下町町遺跡	中	74	菅原山遺跡	中
3	南原遺跡	中・中	27	浮草遺跡	中	51	堀ノ子遺跡	古・中	75	長谷遺跡	中
4	上相子遺跡	中	28	下名倉遺跡	中	52	蟹沼遺跡	古・中	76	長谷中層A遺跡	中
5	中野丸遺跡	古	29	下野、赤城遺跡	中・古・中	53	蟹沼北遺跡	中・中	77	長谷中層C遺跡	中
6	赤尾遺跡	中・古・中	30	沢ノ人遺跡	中	54	二軒茶屋遺跡	中	78	長谷中層D遺跡	中
7	古谷島立遺跡	中	31	堀原寺遺跡	中	55	権左遺跡	中	79	山田遺跡	中
8	鳥居川遺跡	中	32	村長寺遺跡	古	56	西宮遺跡	中	80	稲荷岡C遺跡	中
9	赤守遺跡	中・中	33	西宮内土遺跡	古・中・中	57	大野人遺跡	中・中	81	下中沢遺跡	中
10	城山遺跡	中	34	西宮内土遺跡	古・中・中	58	大野町遺跡	中・中	82	院山遺跡	中
11	宮前遺跡	中・古・中	35	稲村遺跡	中	59	石川遺跡	中・中	83	稲原内土遺跡	中
12	岡山遺跡	中	36	中野屋敷遺跡	中	60	大畑町遺跡	中・中	84	上院山遺跡	中
13	大野遺跡	中・中・中	37	段村遺跡	古・中	61	妻の丁遺跡	中・中	85	稲野西人遺跡	中
14	家ノ前遺跡	中	38	中宮上(宮山)遺跡	中・中	62	具原遺跡	中	86	長谷新土層遺跡	中
15	河田遺跡	中	39	黒山東遺跡	中	63	蟹ノ丁遺跡	中	87	稲原土層遺跡	中・中
16	一井田遺跡	古	40	茨城遺跡	中・中	64	具原C遺跡	中	88	稲原遺跡	中
17	守野遺跡	中	41	東川内中野野遺跡	中・古	65	一の野遺跡	中	89	小川遺跡	中
18	菅原遺跡	中	42	堀の山遺跡	中	66	堀の野遺跡	中	90	院山遺跡	中
19	長谷遺跡	中	43	稲村遺跡	古・中	67	宮川遺跡	中	91	稲原遺跡	中・中
20	竹の丸遺跡	古	44	黒山遺跡	古	68	西ノ坪遺跡	中・中・中	92	山田中層下遺跡	中
21	黒山和北遺跡	中・中	45	上原敷遺跡	古	69	長谷遺跡	古・中・中	93	次郎川遺跡	中
22	長谷新土層遺跡	中	46	大野遺跡	古	70	下小川山遺跡	中・中	94	了願寺遺跡	中
23	くさねり遺跡	中・中	47	段村遺跡	中・中	71	下中沢遺跡	中	95	下中沢遺跡	古・中
24	下原遺跡	中	48	稲村野遺跡	古						

第3図 周辺の古墳時代・奈良時代・平安時代遺跡(国土地理院「中土」新発田 2003)

第三章 西川内北遺跡

1 調査の概要

A グリッドの設定 (第4図)

グリッドは、日東道道路法線センター杭STA285とSTA287を結ぶ線を6m西側に平行移動した地点をセンターラインとして設定した。このためグリッドの方位は、真北から20°9'51"東偏している。

グリッドは10m四方の大グリッドを1単位として、中を2m四方の小グリッドに25分割した。呼称は、大グリッド南西隅の杭をグリッド名とし、センター杭の方向に算用数字、それと直交する方向をアルファベットとして、両者の組み合わせにより表示した。例えばセンター杭STA286北側の区画は「8D」である。小グリッドは1～25の算用数字で表し、南西隅を1、北東隅を25とし、「8D15」のように大グリッドの後に付して呼称した。なお、調査範囲内における主な杭の座標は、日本測地系により7C1でX = 227796.305・Y = 76413.724、9C1でX = 227815.079・Y = 76420.618である。

B 基本層序 (第5図)

遺跡の立地する地域は、胎内川扇状地の扇端部と紫雲寺湖の境にあたる。このため、耕作土の下位には細粒の砂質土が堆積し、一部に埋没した旧流路を示す砂礫層やガツボ層が認められる。調査区内の土層堆積状況は、次に示すとおり基本的に同じ層相を呈しているが、一部埋没河川の流路部では遺構確認面であるⅢ層が欠落し、Ⅳ層が遺構確認面を形成する調査区も存在する。なお、遺物包含層は、削平されて基本的には残存しないが、客土の可能性のあるⅡ層から中・近世の遺物が少量ながら出土している。

I層 暗褐色土層 現在の水田耕作土。

Ⅱ層 茶褐色土層 わずかに中・近世の遺物を包含する。耕地整理による客土の可能性もある。

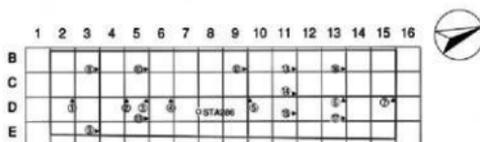
Ⅲ層 灰色シルト混じり極細粒砂層 酸化鉄の集積が認められる。しまりが良く、粘性は弱い。古代の遺構確認面。

Ⅳ層 硬くしまりは良いが粘性の低い層で、堆積物の粒度によって3層に区分できる。

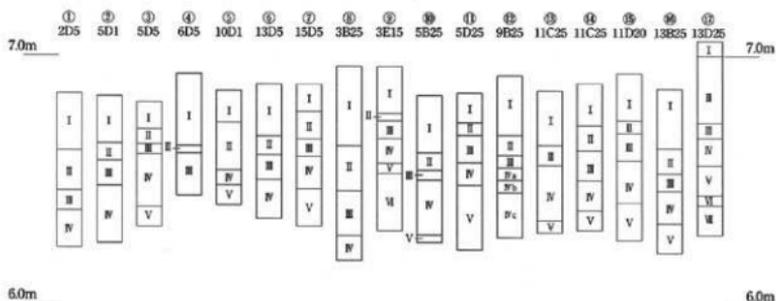
Ⅳa層 砂混じり灰色シルト層。3層中最も硬くしまる。古代の遺構確認面。

Ⅳb層 灰色極細粒砂層。

Ⅳc層 灰色シルト層。



第4図 西川内北遺跡 グリッド設定図



第5図 西川内北遺跡 基本層序

2 遺 構

A 概 要

調査において発見、調査された遺構は掘立柱建物5棟、建物に伴わない柱5本、柱穴14基、道路状遺構1、畝状小溝5条、性格不明遺構3基などである。掘立柱建物はすべて欄柱式の建物構造を採り、SB1001のみが単独で存在するほかはまとまっている。溝は、道路施設に関連する可能性が窺われるものが79条と大半を占め、純然たる溝跡は6条と少ない。また、いわゆる畝状小溝5条も検出されている。このほかに調査の便宜上、遺構番号を付したものと、川跡2本 (SD56・91)、風倒木1か所 (SX1077) がある。出土遺物は総じて少なく、遺構に供伴するものはわずかである。

B 記述の方法

検出した遺構は調査年度毎に振り分け、それぞれ遺構種に関係なく通し番号を付した。すなわち、平成15年度調査で検出されたものについては0001から、平成16年度調査で検出されたものについては1001から始まる通し番号を付してある。また、遺構番号の頭には遺構種別毎に略号を組み合わせることで遺構の認識を容易にした。遺構略号は次の通りである。掘立柱建物：SB、柱穴：P、土坑：SK、溝（川跡含む）：SD、性格不明遺構：SX。

本文および観察表に記述するにあたり、遺構の平面・断面形態の表記は和泉A遺跡〔荒川¹⁰1999〕の分類（第6図）に準拠した（以下、参照）。

平面形態

- 円形：長径が短径の1.2倍未満のもの
- 楕円形：長径が短径の1.2倍以上のもの
- 方形：長軸が短軸の1.2倍未満のもの
- 長方形：長軸が短軸の1.2倍以上のもの
- 不整形：凸凹で一定の平面形をもたないもの

断面形態

- 台形状：底部に平坦面を持ち、穏やか〜急角度に立ち上がるもの



第6図 遺構の分類

- 箱 状：底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの
 弧 状：底部に平坦面を持たない皿状で、穏やかに立ち上がるもの
 半 円 状：底部に平坦面を持たない碗状で、急角度に立ち上がるもの
 U 字 状：確認面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの
 V 字 状：点的な底部を持ち、急角度に立ち上がるもの
 漏 斗 状：下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの
 階 段 状：階段状の立ち上がりをもつもの

C 各 説

掘立柱建物

掘立柱建物は柱間の多い部分（原則として長軸）を「桁行」、少ない部分（原則として短軸）を「梁間」とした。建物の方位は桁行方向が北を中心に東西に偏する角度で表した。面積は桁行と梁間の乗数である。

SB1001 (図版2・4・65・66)

10E・11Eに位置する桁行2間(3.2～3.5m)×梁間2間(3.15～3.3m)の榺柱建物である。方位はN-1°-W、床面積は10.8㎡を測る。柱間寸法は桁行が1.65～3.2m、梁間が1.45～1.85mを測る。このように柱間寸法は全体的にまちまちといった感があるものの、以下の傾向が看取される。すなわち、桁行方向は南側の方が若干狭く、平面形が台形を呈すること、梁間間隔は南側柱穴列(P1013-P1002・P1006-P1007)より北側柱穴列(P1002-P1003・P1007-P1008)の方が若干、柱間が狭いことなどが確認できる。南側柱穴列は中央に直径5.4cmの杭(柱1004)が検出されたものの、建物を構成する柱や柱穴は発見されなかった。またP1007の内側には柱1004に類する杭が1本(柱1009)検出されている。柱は丸材・削材が用いられる。柱穴は確認面から40～52cmの深さを有し、断面形は漏斗状を呈する。覆土はⅢ層に近似する灰色砂質土・灰色シルトでやや強くしまるものの、根固めの痕跡は確認されなかった。遺物は出土していない。

SB1014 (図版2・4・66)

8B・8Cに位置する桁行3間(4.7～4.8m)×梁間2間(3.15～3.3m)の榺柱建物である。方位はN-67°-W、床面積は15.3㎡を測る。柱間寸法は桁行が1.5～1.65m、梁間が1.55～1.7mを測り、柱間寸法にはやはり若干のばらつきが見られる。特に梁間方向は東側の方が15cmほど狭く、平面形は台形を呈する。柱は一本も残存していなかった。覆土を観察した限りでは、柱が腐蝕し土壌化した痕跡は確認できず、また、覆土自体もⅢ層に近似する灰色シルト・灰色砂質土の単層堆積であることなどから見て、柱は建物の廃絶に伴ってすべて抜き取られたものと思われる。柱穴は確認面から20～30cmの深さを有し、断面形は台形状・半円形を呈する。遺物はP1016から須恵器無台杯片が、P1019から土師器長甕片が出土している。

SB1069 (図版2・5・6・67)

9C・10Cに位置する桁行3間(4.95～5.25m)×梁間2間(4～4.25m)の榺柱建物である。方位はN-46°-E、床面積は21㎡を測る。柱間寸法は桁行が1.55～1.95m、梁間が1.9～2.15mとばらつきが大きく、桁行方向は南側が30cmほど狭く、梁間方向は東側が25cmほど狭い。特に桁行方向は南側が柱間1.65mで統一されているのに対し、北側では柱間数値に最大40cmの開きがあり、目を引く。柱は丸材・削材が用いられる。柱穴は確認面から55～90cmの深さを有し、断面形は漏斗状を呈する。覆土はⅢ層に近似する灰色砂質土・灰色シルトでやや強くしまるものの、根固めの痕跡は確認されなかった。P1039・P1061・P1050などでは柱の上端が腐って土壌化したとみられる土層が堆積する。柱穴はこのほかに、南側の桁・梁の交点

付近でP1034が検出されている。建物に伴うものと同様の柱穴・柱規模をもつが、その関係については不明である。遺物は出土していない。

本址では建物の南側と西側に平行する柱穴列が検出された。南側のものはP1045・P1031・P1048の3基で構成され、建物とは60cmの間隔をおいて設けられる。柱間寸法は3.3～3.5mを測る。柱穴はP1031・P1048が直径45cm前後とほぼ同じ規模であるのに対し、P1045は直径10cmと非常に小さい。断面形・深さに関してはまちまちで規格性が窺えない。西側のものはP1055・P1037の2基で構成され、建物とは80cmの間隔をおいて設けられる。柱間寸法は2.3mを測る。柱穴の規模はP1055が32×20cm、深さ20cmを測るのに対し、P1037は直径12cm、深さ26cmと、南側のものとは比べばつきは少ない。また、P1037は柱を伴っている。これらの性格については、SB1069に伴う目隠し塀が考えられるが、柱穴の規格性の低さから見て、断定はできない。遺物はP1031から土師器長莖片が出土している。

SB1070 (図版2・6・68)

8C・9Cに位置する桁行2間(4.65～4.7m)×梁間2間(3.05～3.1m)の欄柱建物である。方位はN-25°-E、床面積は14.4㎡を測る。柱間寸法は桁行が2.2～2.4m、梁間が1.45～1.6mとやはりばつきが見られる。桁行の柱間寸法が2mを越えるのが特徴的である。柱は丸材・割材が用いられる。地震によるものか、西側列すべてと東側列P1067は北に、北側列のP1065と南側列のP1042・P1068は南に、それぞれ20～40°ほど傾斜する。柱穴は確認面から30～60cmの深さを有し、断面形は漏斗状もしくはU字状に掘り込まれる。後者については柱材とほぼ同寸で掘られており、打ち込みの可能性が考えられるが、柱は特に先端を尖らせたものではない。覆土はⅢ層に近似する灰色砂質土・灰色シルトでやや強くしまるものの、根固めの痕跡は確認されなかった。遺物は出土していない。

SB1085 (図版2・7・69)

9B・9Cに位置する桁行1間(2～2.05m)×梁間1間(1.65～1.9m)の建物である。当初は建物として認識していなかったが、材の規模がほぼ一定することや、周辺に同規模の柱がまったくみられないことなどから建物と判断した。方位はN-45°-E、床面積は3.6㎡を測る。柱(椀)はすべて打ち込み式で、柱1078は材が完全に腐って土壌化していた。杭の規模は直径10cm前後とほかの建物と比べわずかに細い。遺物は出土していない。

性格不明遺構

SX87 (図版3・7・70)

4B・5Bに位置する。平面規模は南北2.5m、東西2m、深さ約20cmを測る。底部は凹凸がみられ大きくうねる。覆土はⅢ層に近似する灰黄褐色シルトを基本とし、最下層には黒褐色土が堆積する。本址の性格は不明だが、覆土中より須恵器無台杯(7)が出土している。

SX90 (図版2・70)

7Eに位置する。西側の境は不明瞭である。平面規模は南北9m、東西6m以上を測る。平面形から見て、調査区外に向けて拡大しつつ伸延するものと思われる。確認面からの深さは約10cmと浅く、底面には細かな凹凸が見られる。本址の性格は不明だが、覆土中より須恵器無台杯が出土している。

SX1026 (図版2・7・70)

9Bに位置する。平面形は隅丸方形を呈し、規模は南北4.3m、東西3.2mを測る。長軸方位はN-45°-E、面積は約14㎡を測る。底面の深さは確認面から0～5cmと、地表面との比高差はほとんどないものの、底

面形状が堅穴住居の掘り方のような凹凸面を形成することから遺構と判断した。覆土はⅢ層に近似する灰色シルトであるが、黒褐色土が少量に混入する点が特徴的である。付帯する遺構としては、底面からP1057・P1058・P1060・P1062の4基が検出されたほか、近接するP1061も前述の4基と同一の覆土をもつことから本址に付帯するものと判断した。掘り込みの規模は直径16～42cm、確認面から4～18cmの深さを有し、覆土は暗褐色土を少量に含む灰色砂質土である。本址の性格は、周辺の建物、特にSB1069・SB1085と同じ方位を指すことからみて、これらに関連する施設（平地式の建物か）と思われる。遺物は須恵器無台杯片、土師器長壺片（8・9）などが出土している。

柱 穴（図版2・4・6・7）

建物やそれに付帯するもののほかに、柱5本、柱穴14基が検出された。検出位置はSB1069の周辺とSB1014の西側に集中するが、P1010・柱1012はそれぞれ11C・11Eグリッドに単独で検出された。各柱穴とも、覆土はⅢ層に近似する灰色砂質土・灰色シルトである。SB1014の西側で検出されたもののうち、P1059・P1073・P1075は直角に配されることから建物の可能性が窺われるが、断定はできない。このほかには規則的な配列は認められない。P1059では柱が残存していたが、先端を尖らせており、打ち込み式の可能性も考えられる。柱はこのほかに柱1012・柱1047・柱1072・柱1079・柱1084があり、すべて打ち込み式と思われる。なお、柱1084は検出状況が悪く、図面は掲載できなかった。

畝状小溝（SD1027～SD1035）（図版2・8・71）

9Cに位置する。約1mの間隔で5条の溝が検出された。遺構の形態や配置から、畝の間に位置する溝状の部分と思われる。SB1069と重複するが、本址の方が新しい。全長は最も長いSD1029が6.2m、最も短いSD1030が1.2mとばらつきが見られる。確認面からの深さは2～6cmと浅いことから、各溝共、両端は消滅した可能性が考えられる。幅はいずれも25cm前後を測る。覆土はⅢ層に近似する灰色シルトで、SB1069との違いは基本的にはみられない。遺物はSD1029から土師器長壺片が出土している。

道路状遺構

調査区南端部、4グリッド以南に位置する。川跡と思われるSD56の南側に平行するSD29・SD57・SD58・SD88・SD89およびその間に展開する小溝群、また、それらより南東方向に軸線がずれる小溝群（SD1～SD28はか）で構成される。SD56を除く溝群は道路側溝、また、小溝群は道路に伴う波板状凹凸面と考えられる。

側 溝

SD29（図版3・8・71・72）

2Bに位置する。軸方位はN-78°-E、全長は6m以上を測る。溝幅は約1m、確認面からの深さは約25cmを測る。溝底の標高は調査区東端で6.22m、西端で6.11mと、西側がやや低いことがわかる。断面形は基本的に台形状を呈するが、溝底からの立ち上がりは比較的緩やかである。覆土は黄灰色土を基本とし、土質やしまりなどの違いから2層に分層される。遺物は須恵器横板（1）が出土している。遺物整理時にSD56で出土した破片と接合し、同一個体と判明した。

SD57（図版3・8・71・72）

3B・3Cに位置する。軸方位はN-80°-E、全長は16m以上を測る。溝幅は約1.5m、確認面からの深さは

約50cmを測る。溝底の標高は調査区東端で6.25m、西端で6.15mと、西側がやや低いことがわかる。断面形は基本的に台形状を呈するが溝底は荒れており、凹凸の激しいところも見られる。覆土は黄灰色粘質土を基本とし、土質やしまり、土色などの違いから5層に分層される。遺物は須恵器無台杯(4・5)、土師器小甕(6)などが出土している。

SD58 (図版3・72)

3C・3Dに位置する。軸方位はN-78°E、全長は6.63mを測る。溝幅は約60cm、確認面からの深さは約25cmを測る。溝底の標高は6.13~6.32mと、起伏が大きい。断面形は基本的に台形状を呈する。覆土は黄灰色土で単層堆積である。遺物は須恵器無台杯・横瓶などの破片が出土している。

SD88 (図版3・72)

3D~4Eに位置する。軸方位はN-98°E、全長は15m以上を測る。SD57の延長部分の可能性がある。溝幅は約80cm、確認面からの深さは約15cmを測る。溝底の標高は東端で6.41m、西端で6.34mと、西側がやや低いことがわかる。断面形は基本的に台形状を呈する。覆土は黄灰色土で単層堆積である。遺物は須恵器無台杯が出土している。

SD89 (図版3・72)

4D・4Eに位置する。軸方位はN-95°E、全長は10.4m以上を測る。SD88から分岐するような形で平行する。溝幅は約1.25m、確認面からの深さは約30cmを測る。溝底の標高は東端で6.43m、西端で6.3mと、西側がやや低いことがわかる。断面形は基本的に台形状を呈する。覆土は黄灰色土で単層堆積である。遺物は須恵器無台杯が出土している。

波板状凹凸面 (図版3・71・72)

SD57の東側延長、SD57の南側、SD29の南側の3か所で検出された。SD29南側のものは更に南北2群に分けられる。SD57の東側延長で検出されたものはSD52~SD47の6条で構成され、SD57とSD88あるいはSD89を連結するように設けられている。軸方位はN-75°Eを指す。SD57の南側で検出されたものはSD30~SD46の19条で構成され、道路面の中央に位置する。遺構群の軸方位は調査区西端では東北東(N-59°E)に向かい、途中で東(N-85°E)に向きを変える。全長は約16mを測る。SD29の南側で検出されたものは、SD28~SD60の18条で構成されるものと、SD8~SD68の21条で構成されるものに二分される。前者はSD29をまたぐように側溝をもつ道路から分岐する。東(N-94°E)に向かって延び、2Cグリッド北東端付近で消滅する。全長約14mを測る。後者は2Bグリッド北東端付近から発生し、東(N-106°E)に向かって延び、途中で北寄りに向きを変え(N-91°E)、やはり2Cグリッド北東端付近で消滅する。

波板状凹凸面を構成する掘り込みの平面形は、円形を呈するものから、細長く畚状小溝のような形態を呈するものまで様々であるが、短軸方位はほぼ一定する。全長は15~390cmを測る。幅は28~130cmとばらつきが見られるが、40~50cm幅のものが最も多い。確認面からの深さは10cm以下とおおよそ浅く、最も浅いものは1cmとわずかなくぼみでしかない。覆土は黄灰色土で単層堆積である。遺物はSD19、SD23、SD24、SD25、SD28、SD29、SD40、SD42、SD44、SD46、SD69、SD83などから須恵器無台杯・杯蓋・横瓶などの破片が出土している。

川 跡

SD56 (図版3・8・71・72)

軸方位はN-78°E、全長は40m以上を測る。4D・4Eの境で約4mほど南側に張り出す部分がみられるほ

かは、直線的に調査区外に伸延する。溝幅は2~2.8m、確認面からの深さは約40cmを測る。溝底の標高は調査区東端で6.36m、西端で5.95mと、西に向かって流下することがわかる。断面形は台形状を呈するが、西側部分では溝底中央が段をもって10cmほど深くなる。覆土は暗灰黄色シルトを基本とし、土質やしまり、土色などの違いから5層に分層される。5層以外は水平に堆積し、1・2層は剛厚も厚く、人為的に埋められた可能性が窺える。遺物は須恵器無台杯・杯蓋(2)・横瓶(1)・甕(3)などが出土している。横瓶は遺物整理時にSD29で出土した破片と接合し、同一個体と判明した。

SD91 (図版2・8・73)

調査区中央に位置する。流路は西進してSB1069前面で大きく南西に向きを変え、SB1070前面で今度は西に向きを戻しそのまま調査区外に伸延する。逆にいえば、川が小割みに向きを変える部分に建物群が展開するということになる。川幅は5~9m、確認面からの深さは最大1.1mを測る。川底の標高は調査区東端で6.4m、調査区西端で5.8mと、西に向かって流下することがわかる。覆土は黒褐色シルトを基本とし、15層に分層される。堆積状況はいわゆるレンズ状堆積で、加えて各層の堆積も薄いことなどから、自然に堆積していったものと考えられる。また、各層とも灰白色砂とのラミナ状堆積がみられることから、埋没過程においても常時あるいは頻繁に流水のある状況であったことが知れる。覆土中からは須恵器無台杯(10~13)・有台杯(14・15)、高杯(18)、土師器高杯(19)、長甕(20~47)などが出土した。これら土器類の出土量は多い。また、8D・9Dグリッド境付近(SB1069前面)では自然木がまとまって出土したほか、木製品として建物部材の破片が1点(71)出土している。

3 遺 物

概 要

西川内北遺跡から出土した遺物は、古代の須恵器4箱、土師器19箱、中・近世の陶磁器1箱である。その他に木製品と少量の砥石がある。木製品は大半が建築部材で、柱材・鴨居もしくは敷居材がある。

出土状況

古代の土師器・須恵器の分布状況を見ると(第7図)、大きく二つの分布域に分かれる。一つはSD56以南の道路状遺構が検出された地区である。特に道路の側溝跡に相当するSD57から多くの遺物が出土している。もう一つの分布域は川跡(SD91)以北の独立柱建物等の遺構が集中する地区である。川跡はSB1014に面する北岸およびSB1070・SB1069に面する西岸から遺物が多量に出土し、建物から川へ遺物が廃棄されたと推測できる。

SD56とSD91の約30m間と、SB1069から調査区北端の間は遺構がほとんど存在しない。これに伴い遺物の出土もまばらである。一方、中世の遺物は図版10に示した珠洲焼3点のみの出土であるが、遺構が検出されていない11ライン以北に分布している。

A 土 器

1) 古墳時代(図版9-17・18・図版74)

古墳時代の遺物は2点確認できた。17は古墳時代中期以来の須恵器杯蓋の蓋である。口縁端部は丸く、焼成はやや不良である。胎土はやや粗い。18は須恵器高杯の脚部である。外面には波状文がめぐり、

内面には浅い沈線が入る。胎土は精良で外面には自然釉がうすく被る。

2) 奈良時代

須恵器 器種を機能別にみると、食膳具と貯蔵具に大別できる。食膳具には無台杯・有台杯・杯蓋、貯蔵具には甕・横瓶がある。このほか、高杯の脚部片が1点出土している。

土師器 食膳具はなく、煮炊具のみである。長甕が大多数を占め、小甕が少量ある。長甕・小甕ともすべて非ロクロ成形であるが、54の鍋1点のみロクロ成形である。

各 説

a) 遺構出土遺物

SD29 (図版9-1・図版74)

1は須恵器横瓶である。口縁部は欠損する。外面にはタクキ目、内面には同心円状の当て具痕が残る。胎土は精良で器表面は灰色を呈するが、断面の色調は赤褐色である。SD56出土のものと同接した。

SD56 (図版9-2・3・図版74)

須恵器杯蓋(2)・甕(3)がある。2はつまみを欠損する。天井部にはロクロケズリが施される。胎土はやや粗く、器面はざらつく。3の口縁部はくの字に屈曲し、口縁端部が内側へわずかに突出する。

SD57 (図版9-4～6・図版74)

須恵器無台杯(4・5)・土師器小甕(6)がある。4・5は法量・器形・胎土・色調など類似点が多い。全体的に厚みがあり、体部は直立ぎみに立ち上がる。酸化炎焼成で胎土は軟質、灰白色を呈する。6の体部はふくらみをもち、口縁部はくの字に強く屈曲する。体部内外面は縦方向のハケで、頸部内面には煤・コゲがベルト状に付着する。胎土は粗く、雲母を多く含む。

SX87 (図版9-7・図版74)

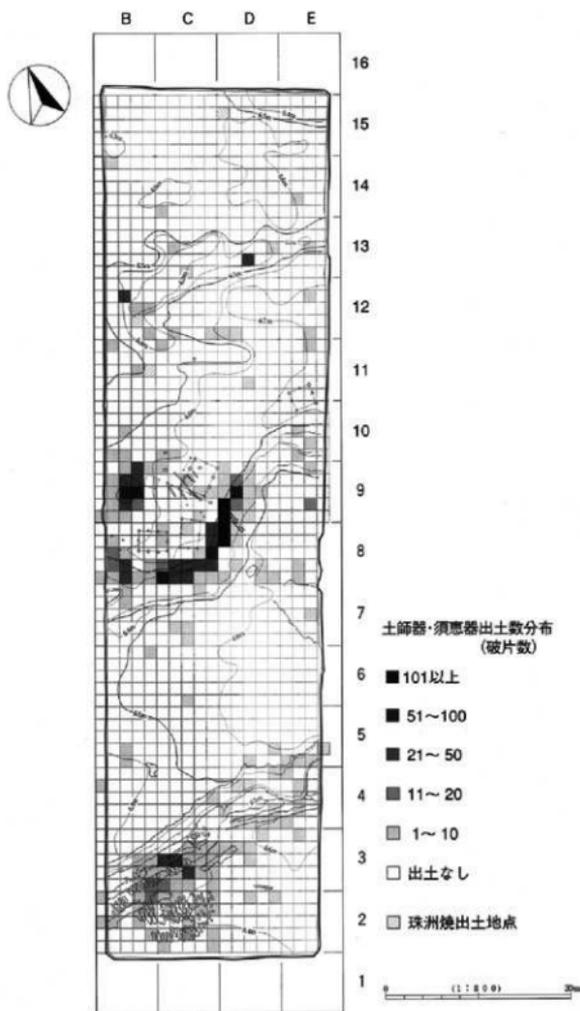
7は須恵器無台杯である。器壁はやや薄い。酸化炎焼成で胎土は軟質である。

SX1026 (図版9-8・9・図版74)

8・9は土師器長甕である。8は頸部の破片で、外面には浅い沈線が2本確認できる。9は底部片で底面に木葉痕がある。

SD91 (図版9-10～16・19～25・図版10-26～47・図版74)

須恵器無台杯(10～13)・有台杯(14・15)・杯蓋(16)、土師器高杯(19)・長甕(20～47)がある。10～12の体部は外側にやや大きく開く。12の底部は厚みがあり、下方に突出するため器が高い。13の底部も厚く、体部は直立ぎみに立ち上がる。11の胎土はち密で小礫等はほとんど含まないが、13の胎土はやや粗く、器面はざらつく。14・15の高台は底部の外縁に付き、15は内端接地する。14の底部外面には墨痕が残る。16は笠状を呈し、つまみはやや大きく扁平である。酸化炎焼成で胎土はやや粗く、雲母を含む。19は高杯の脚部である。脚部中にミガキが残るが、全体的にはハケ目が残るやや粗雑なつくりである。胎土はやや粗く、雲母を含む。20～30は長甕の口縁部である。くの字に外反する口縁部にふくらみの小さい体部が狭く器形と推測されるが、全形を知ることのできる資料は出土していない。口縁部は長いもの(20・21・24・25・27)と短いもの(26・29・30)がある。口縁端部は丸いものが多いが、しっかりとした面をもつもの(21)と角ばるもの(28)がある。20は口縁部から体部にかけて縦方向のハケの後、口縁部から頸部は強くヨコナデされる。そのため頸部と体部の境には浅い段ができています。21も20



第7図 小グリッド別遺物破片数分布図

と同様に口縁部から体部にかけて縦方向のハケの後、強いヨコナデが施される。21は20よりも強いヨコナデのため、段というよりも浅い沈線が作り出されている。口縁部内外面には細いヘラ状工具でなだ調整痕が確認できる。27は比較的体部の残りが良い資料であるが、体部外面は縦方向のハケ、内面は板状の工具でなだた痕跡(板ナデ)が確認できる。胎土には雲母を多く含む。31・32は長巻の頸部片である。20と同様、縦方向のハケの後、強いヨコナデが施され、浅い沈線が作り出されている。33~36は口径が12~13cmと小さく、小壺の可能性も考えられる。35は口縁部の外反度が弱いが、36は強く外反する。37~47は長巻の底部である。39・40は底部外面に径1mm程の粗い砂粒が多量に付着する。41・43は木葉痕が残る。44は底部が外側に張り出し、底部外面の中央が浅くくぼむ。46の底部は張り出すことなく体部へつづく。底部外面の中央はわずかにくぼむ。45・47は木葉痕が残るが、平行脈であることから笹の葉であると推測される。

b) 遺構外出土遺物(図版10-48~53・図版75)

ここで記述する遺物は主にⅡ層中のもや、遺構確認面から出土したものである。

48は須恵器無台杯である。4・5のような器形と推測される。酸化炭焼成で胎土は軟質、灰黄色を呈する。49は須恵器有台杯であり、胎土は細かな砂粒を多く含む。50は須恵器杯蓋である。天井部にはロクロケズリが施される。51~53は須恵器横瓶である。51・52は口縁部で、肩部が外側へわずかに突出する。53は体部片で閉塞痕が確認できる。54は土師器鍋である。ロクロ成形で体部にはカキ目がめぐる。

3) 中世(図版10-55~57・図版75)

中世の遺物は珠洲焼が3点ある。3点とも遺構が検出されていないグリッドのⅡ層中から出土した。

55は釜の底部で、56・57は鉢鉢である。56は肥厚した口縁部内面に櫛目波状文がめぐる。吉岡康暢氏による編年〔吉岡1994〕のV期に相当する。

B 木製品

木製品の大半は柱穴や溝などの遺構から出土しているが、遺物包含層から出土したのも少量だが存在する。出土数は、柱・杭など建築材が多く47点中42点を占め、その他の性格不明遺物が5点、遺物の多くには何らかの加工痕が認められる。

SB1001(図版11-58・59・図版75)

SB1001は7基の柱穴から5点の柱が出土している。木取りはP1007出土柱が丸材のほか、すべて割材が使用されている。法量は、丸材は直径13.9cm、割材は幅13.8~15.5cm・平均14.6cm、厚さ9.7~13.8cm・平均11.7cmである。下端部は、58が一方から鋭角に切断され、59は両方向から鈍角に切断されている。

SB1069(図版11-60~66・図版75)

SB1069は10基の柱穴から9点の割材を用いた柱が出土している。66が両面から切断されているほか、残りの柱はすべて一方から切断されており、刃先の侵入角は32°~43°の範囲に収まっている。法量は、幅13.9~18.6cm・平均15.9cm、厚さ9.6~15.4cm・平均は12.7cmである。

SB1070(図版11-67・68・図版75)

SB1070は8基の柱穴全てから柱が出土している。木取りは丸材5点、割材3本である。先端部切断面は、67の端部をやや鋭角に切断して削り加工を施したものの、68の水平に切断したものなどがある。法量は、丸

材の直径が7.1～11.9cm・平均9.7cmを測り、割材は幅4.4～8.5cm・平均6.2cm・厚さ3.7～5.2cm・平均5.0cmである。

SB1085 (図版11-69・70・図版75)

4基の柱穴から3点の柱が出土した。木取りは丸材2点と割材1点である。ともに先端部は鋭角に削り加工が施されている。量量は、丸材の直径が7.3～9.2cm・平均8.3cmを測り、割材は幅8.1cm・厚さ6.4cmである。

SD91 (図版11-71・図版75)

71はSD91の下層から2枚の板状木製品とともに出土した。その形状から、建築部材の「蹴放し」先端部である可能性が考えられる。端部に支柱はめ込み用の切欠と思われる凸形の加工が施されている。扉軸穴は確認できないが、欠損部分に扉軸穴が設けられていたと推測される。切欠は小さい方が幅4.2cm・長さ6.4cm、大きい方は幅7.3cm・長さ7.9cmを測る。全体の1/3は被熱により表面が炭化する。

4 自然科学分析

はじめに

西川内北遺跡は中条町大字西川内字家ノ浦に所在し、胎内川扇状地に形成された自然堤防上に立地する。発掘調査の結果、古代の掘立柱建物や畑跡と考えられる畝状遺構、道路状遺構、川跡などが検出され、川跡からは土師器や須恵器等が多数出土する状況が確認されている。また、川跡付近に掘立柱建物が構築されることから、川を遺物の廃棄場として利用した可能性が示唆されている。さらに、掘立柱建物と道路状遺構の分布が異なることから、集落内における空間利用の差が想定される。

なお、本遺跡では隣接する反貫目遺跡【寺崎¹⁰2004】と異なる立地・地形を示すことから、当地点における微地形の発達過程に関わる情報を得るため、以下の3地点を対象に土層の観察を行っている。以下に、各地点の所見を示す。

9B25

調査区内に設定された基本土層観察のためのセクションベルト(9B25)である。当地点では、発掘調査時に下位からⅣ・Ⅲ・Ⅱ・Ⅰの4層に分層されている。最下層のⅣ層はさらに上・中・下部に細分され、Ⅳ層下部は灰色シルトからなり、部分的に極細粒砂が混じる。Ⅳ層中部は灰色極細粒砂、Ⅳ層上部は砂混じり灰色シルトからなる。Ⅲ層は灰色シルト混じり極細粒砂からなり、これらの土層では、酸化鉄の沈着が見られる。上位のⅡ層は暗褐色土であり不整合にⅢ層を覆い、最上位のⅠ層は耕作土とされている。なお、本遺跡における遺構検出面はⅢ～Ⅳ層に相当する。

SD91 (A-A' ベルト北壁)

当地点は川跡(以下、SD91)に設定されたA-A' ベルトの北壁に相当する地点である。SD91内の堆積物下位より13～1層に分層される。最下層の13層は植物遺体を含む黄灰色粘土からなり、植物遺体を含む黒色土層の薄層を挟む。13層を直接覆う10層およびその上層の9・7層は灰～暗褐色の極細粒～細粒砂からなる。その上位の5・4層は褐～灰褐色のシルト～極細粒砂で、植物遺体を多量に含む。4層からは遺物が多く出土しており、5層からもわずかに遺物が認められる。その上位の3層は黒色シルトからなり、下位の4層と漸移的である。3層を不整合に覆う2層は黒褐色の砂混じりシルトであり、植物遺体を多く含む。最上位の1層は黒褐色砂質シルトである。

SD91 (A-A' ベルト トレンチ東壁)

当地点は、SD91の立ち上がり付近の地層状況を確認するために設定されたトレンチである。下位より5層に分層される。最下層は灰色シルト～粘土からなり、植物遺体を含む。その上位の灰～暗褐色シルトは腐植質であり、ラミナが発達する。V層は青灰～灰色シルトからなり、部分的に細粒砂を含み、下位の土層を不整合に覆う。当土層の上位はSD91の埋積物が堆積しており、8層および1層に対比されている。8層は、褐灰色シルト質砂で、酸化鉄を含み、1層は黒褐色砂質シルトである。

本報告では、以上の発掘調査所見および土層観察状況から課題とされた、①西川内北遺跡の

古環境（堆積環境・古植生）、②遺構の年代観および植物利用の2点を検討するため、①については、珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析を、②については、放射性炭素年代測定・樹種同定を行う。

A 試料

1) 古環境

試料は、前述の各土層観察地点より採取した土壌である。9B25では、基本土層I～IV層の各層を対象とし、特に、IV層は層厚が厚いことから、土層上・中・下部と分け土壌6点を採取した。SD91では、セクションベルト中央部を主な対象とし、1～10・12層からは層位毎に、13層以深では高さ20cmの柱状でそれぞれ試料採取した土壌14点である。同SD91のトレンチ東壁からは、SD91埋積物（I・8層）、V層、V層以深を対象とし、SD91のI・8層は層位毎に、V層は層厚が厚いことから、上・中・下部と分けて土壌試料を採取した。また、V層下位の埋積物は、高さ20cmの柱状で試料採取を行っており、当地点から計6点の土壌試料を採取した。

これらの試料のうち、SD91の遺物が多量に出土した4・3層と、本遺跡における遺構検出面とされるIV層上部（以下、N層上）・III層の計4試料を対象に珪藻分析、植物珪酸体分析を行う。また、これらの4試料に加え、SD91トレンチ東壁のV層下位に認められた腐植質のシルト（以下、腐植質層）の5試料を対象に花粉分析を行う。SD91を除く各地点の模式柱状図、試料採取位置図および分析層位を第8図に示す。

2) 遺構の年代観および植物利用

試料は、掘立柱建物3棟（SB1001・1069・1070）の柱22点と、帰属する遺構が不明の柱10点、さらに、SD91内から出土した自然木2点である。これらの試料を対象に樹種同定を行う。また、3棟の掘立柱建物の年代観を検証するため、樹種同定結果および柱の遺存状況から各遺構より2点ずつ選択した計6点（SB1001：P1106・P1007、SB1069：P1036・P1082、SB1070：P1043・P1068）を対象に放射性炭素年代測定を行う。



第8図 各地点の模式柱状図、試料採取位置および分析層位

B 分析方法

1) 放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS法により行う。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma) に相当する年代である。測定年代の補正に用いた $\delta^{13}\text{C}$ の値は、加速器を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{14}\text{C}$) を測定し、標準試料PDB (白亜紀のペレムナイト類の化石) の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差 (%パーミル) で表したものである。また、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年較正曲線を用いる条件を与え計算を行っている。

2) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プレパラットで封入して、永久プレパラットを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、[原口 us-1998]、[Krammer1992]、[Krammer & Lange-Bertalot1986・1988・1991a・1991b]、[Witkowski et al.2000]などを参照する。

同定結果は、海水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度 (pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性か判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析は、海水～汽水生種については [小杉1988]、淡水生種については [安藤1990]、陸生珪藻については [伊藤・堀内1991]、汚濁耐性については、[Asai & Watanabe1995] の環境指標種を参考とする。

3) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液 (臭化亜鉛、比重2.3) による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス (無水酢酸9, 濃硫酸1の混合液) 処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラットを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラット全面を走査し、出現する全ての種類を対象に500個体以上同定・計数する (化石の少ない試料はこの限りではない)。また、花粉・胞子量のほかに、試料中に含まれる炭片量の割合も求める。炭片は20 μm 以上を対象とし、それ以下のものは除外する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。炭片量の割合は、植物遺体 (花粉、胞子、植物片、炭片) の総数を基数として百分率で示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を

算出し図示する。

4) 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検出しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリユウラックスで封入してプレバートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、およびこれらを含む珪化組織片を〔近藤・佐瀬1986〕の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植物生について検討するために、植物珪酸体群集と珪化組織片の産状を図化する。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。

5) 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柢目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（泡水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレバートを作製する。作製したプレバートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

C 結 果

1) 放射性炭素年代測定

遺構名	試料名	試料の質	種類	修正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
SB1001	P1006	木片	サクラ属	1230 ± 30	-25.14 ± 0.60	1230 ± 30	IAAA-60908
	P1007	木片	トネリコ属	1280 ± 30	-27.37 ± 0.60	1320 ± 30	IAAA-60909
	P1036	木片	トネリコ属	1230 ± 30	-25.75 ± 0.70	1240 ± 30	IAAA-41000
SB1060	P1082	木片	トネリコ属	1280 ± 30	-26.03 ± 0.75	1330 ± 30	IAAA-41001
	P1043	木片	トネリコ属	1250 ± 30	-26.24 ± 0.69	1270 ± 30	IAAA-41002
SB1070	P1068	木片	トネリコ属	1230 ± 50	-25.68 ± 0.57	1230 ± 50	IAAA-41003

1) 年代値の算出には、Libbyの平均値5568年を従用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第1表 西川内北遺跡 放射性炭素年代測定結果

遺構名	試料名	測定年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)						相対比	Code No.	
			cal AD	AD	cal AD	AD	cal BP	BP			
SB1001	P1006	1230 ± 30	cal AD	723	- cal AD	741	cal BP	1227	- 1.209	0.158	IAAA-60908
			cal AD	771	- cal AD	783	cal BP	1179	- 1.167	0.134	
			cal AD	788	- cal AD	830	cal BP	1162	- 1.120	0.420	
	P1007	1280 ± 30	cal AD	838	- cal AD	870	cal BP	1112	- 1.080	0.291	IAAA-60909
			cal AD	690	- cal AD	734	cal BP	1300	- 1.235	0.501	
SB1060	P1036	1230 ± 30	cal AD	739	- cal AD	772	cal BP	1211	- 1.178	0.690	IAAA-41000
			cal AD	724	- cal AD	799	cal BP	1256	- 1.211	0.131	
			cal AD	772	- cal AD	782	cal BP	1178	- 1.157	0.116	
	P1082	1280 ± 30	cal AD	788	- cal AD	831	cal BP	1162	- 1.119	0.430	IAAA-41001
			cal AD	838	- cal AD	873	cal BP	1112	- 1.077	0.324	
SB1070	P1043	1250 ± 30	cal AD	690	- cal AD	727	cal BP	1300	- 1.223	0.500	IAAA-41002
			cal AD	737	- cal AD	773	cal BP	1213	- 1.177	0.800	
			cal AD	800	- cal AD	704	cal BP	1200	- 1.246	0.113	
	P1068	1220 ± 50	cal AD	707	- cal AD	793	cal BP	1243	- 1.197	0.527	IAAA-41003
			cal AD	757	- cal AD	781	cal BP	1193	- 1.169	0.283	
P1008	1230 ± 50	cal AD	793	- cal AD	806	cal BP	1158	- 1.144	0.197	IAAA-41003	
		cal AD	722	- cal AD	743	cal BP	1228	- 1.207	0.151		
			cal AD	770	- cal AD	882	cal BP	1130	- 1.068	0.840	

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and P.J. Reimer) を使用
2) 付記した誤差は、測定誤差（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第2表 西川内北遺跡 暦年較正結果

4 自然科学分析

種 類	生態性			環境	SD01		RSCS	
	塩分	pH	流水		3期	4期	前期	后期 (上)
<i>Actinocyclus ingens</i> Ratray	Euh				-	-	-	1
<i>Coccinodiscus marginatus</i> Ehrenberg	Euh				-	-	1	1
<i>Coccinodiscus</i> spp.	Euh				-	-	1	1
<i>Grammatophora macilenta</i> W.Smith	Euh				-	-	-	1
<i>Paralia sulcata</i> (Ehr.) Cleve	Euh			B	-	-	-	1
<i>Thalassiosira nitescens</i> Grun./Grunew	Euh			AB	-	-	1	3
<i>Thalassiosira</i> spp.	Euh				-	-	1	2
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) Muller	Ogh-Meh	al-li	ind		-	1	-	-
<i>Achnanthes crenulata</i> Grunew	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	-	-	-	1
<i>Amphora</i> cf.	Ogh-ind	al-li	ind	U	4	8	-	-
<i>Caloneis leptosoma</i> Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	1	-	-	-
<i>Cyclotella ocellata</i> Pantocsek	Ogh-ind	al-bi	l-bi		-	1	-	-
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-li	ind	OT	5	7	-	-
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-
<i>Cymbella heteropleura</i> var. minor Cleve	Ogh-hob	ac-li	l-ph		-	2	-	-
<i>Cymbella lanceolata</i> (Ehr.) Kriechner	Ogh-ind	al-li	l-ph	T	1	3	-	-
<i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	-	4	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Grev. ex Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-li	ind	T	2	7	-	-
<i>Emotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-li	ind		5	-	-	-
<i>Emotia fallax</i> A.Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	1	-	-	-
<i>Emotia</i>	Ogh-hob	ac-li	l-ph	O	1	-	-	-
<i>Emotia gracilis</i> Meister	Ogh-hob	ind	l-bi		1	-	-	-
<i>Emotia implicata</i> Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-li	ind	O	3	-	-	-
<i>Emotia monodon</i> var. asiatica Skvortzow	Ogh-hob	ac-li	ind		2	-	-	-
<i>Emotia pectinatis</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-li	ind	O.T	1	-	-	-
<i>Emotia peritima</i> var. minor (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-li	ind	O.T	22	1	1	-
<i>Emotia praeputa</i> var. bidens Grunew	Ogh-hob	ac-li	l-ph	RBO	12	-	-	-
<i>Emotia</i> spp.	Ogh-unik	unk	unk		2	-	-	-
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	4	12	-	-
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-li	ind	U	-	1	1	-
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-li	l-ph	OU	4	1	-	-
<i>Gomphonema helveticum</i> Brun	Ogh-unik	ind	r-ph	T	4	11	-	-
<i>Gomphonema parvulum</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	1	-	-
<i>Navicula arifoliosa</i> Okuno	Ogh-unik	unk	unk		1	-	-	-
<i>Navicula eligensis</i> var. neglecta (Kraus) Patrick	Ogh-ind	al-li	r-ph	U	-	-	-	1
<i>Navicula mutica</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-li	ind	RAS	-	1	-	-
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unik	unk	unk		-	1	-	-
<i>Pinularia acrophaeria</i> W.Smith	Ogh-ind	al-li	l-ph	O	-	1	-	-
<i>Pinularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	-
<i>Pinularia brausiana</i> Grun./Mills	Ogh-hob	ac-bi	l-ph		1	-	-	-
<i>Pinularia brevistriata</i> Cleve	Ogh-ind	ac-li	ind		-	1	-	-
<i>Pinularia divergens</i> W.Smith	Ogh-ind	ac-li	l-ph		-	1	-	-
<i>Pinularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-li	ind	OU	10	11	1	-
<i>Pinularia gibba</i> var. linearis Hustedt	Ogh-hob	ac-li	ind		-	2	-	-
<i>Pinularia mesolepta</i> (Ehr.) W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	1	-	-	-
<i>Pinularia neoajor</i> Krammer	Ogh-ind	ac-li	l-bi	T	2	3	-	-
<i>Pinularia repusaris</i> Hantzsch	Ogh-hob	ac-li	ind		2	1	-	-
<i>Pinularia stomatophora</i> Grun./Cleve	Ogh-ind	ac-li	l-ph		-	1	-	-
<i>Pinularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-li	ind		-	1	-	-
<i>Pinularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RBS	O	6	4	-
<i>Pinularia</i> spp.	Ogh-unik	unk	unk		2	4	-	-
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	1	1	-	-
<i>Stauroneis japonica</i> H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind	T	-	1	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	2	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> f. hastorii Tsunomura	Ogh-ind	ind	ind	O	-	1	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. signata Meister	Ogh-ind	ind	ind		2	1	-	-
<i>Stauroneis</i> spp.	Ogh-unik	unk	unk		-	1	-	-
<i>Suriirella</i> spp.	Ogh-unik	unk	unk		1	-	-	-
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	al-li	ind	U	1	4	-	-
<i>Tabellaria</i>	Ogh-hob	ac-li	l-bi	T	-	1	-	-
海水生物					0	0	4	10
淡水-汽水生物					0	0	0	0
汽水生物					0	1	0	0
淡水-汽水生物					0	1	0	0
淡水生物					111	106	5	2
陸産化石動物					111	106	9	13

凡 例

H.R.: 塩分濃度に対する適応性

- Euh : 海水生物
- Ogh-Meh : 淡水-汽水生物
- Ogh-bi : 汽水-汽水生物
- Ogh-ind : 真塩不定性種
- Ogh-hob : 真塩濃性種
- Ogh-unik : 真塩不明種

pH: 水素イオン濃度に対する適応性

- al-bi : 真アルカリ性種
- al-li : 好アルカリ性種
- ind : pH不定性種
- ac-li : 好酸性種
- ac-bi : 真酸性種
- unk : pH不明種

C.R.: 炭素に対する適応性

- lbi : 真止水性種
- lbi : 好止水性種
- ind : 真水不定性種
- r-ph : 好流水性種
- r-bi : 真流水性種
- unk : 流水不明種

環境指標種群

- A: 汚濁指標種, B: 内湾指標種 [小野 1988]
- O: 沼沢地産付着性種 [安藤 1990]
- S: 好汚濁性種, U: 広域適応性種, T: 好清水性種 以上は [Asai and Watanabe 1995]
- R: 陸産陸産 (RA: 湖沼, RB: 沼澤, RE: 未区分, (伊藤・堀内 1991))

表 3. 陸産分析結果

第3表 西川内北産跡 陸産分析結果

測定結果を第1表に、暦年較正結果を第2表に示す。試料の測定年代(補正年代)は、SB1001:P1006は1230BP、P1007は1280BP、SB1069:P1036は1230BP、P1082は1280BP、SB1070:P1043は1250BP、P1068は1220BPの値を示した。なお、これらの試料の暦年較正年代のうち、相対比の最も高い年代範囲に着目すると、SB1001:P1006はcalAD788-830、P1007はcalAD690-724、SB1069:P1036はcalAD788-831、P1082はcalAD690-727/calAD737-773、SB1070:P1043はcalAD707-753、P1068はcalAD770-882を示した。

各試料の樹種は、SB1001:P1006はサクラ属、その他の5試料はいずれもトネリコ属に同定された。

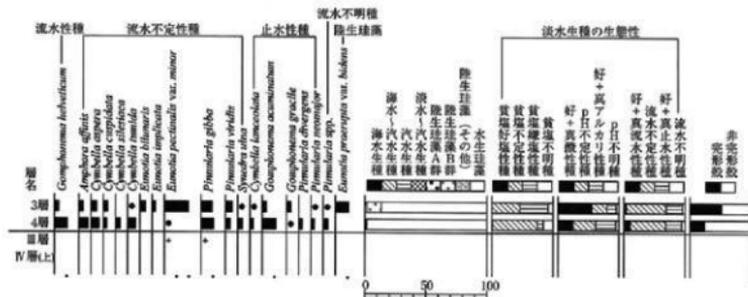
2) 珪藻分析

結果を第3表、第9図に示す。流路堆積物のSD91の3・4層からは珪藻化石が産出したが、9B25のⅢ層、Ⅳ層上では少なかった。化石が産出した試料の完形殻の出現率は、30~50%と化石の保存状態が悪かった。これらの試料における産出分類群数は、合計で21属53種類である。

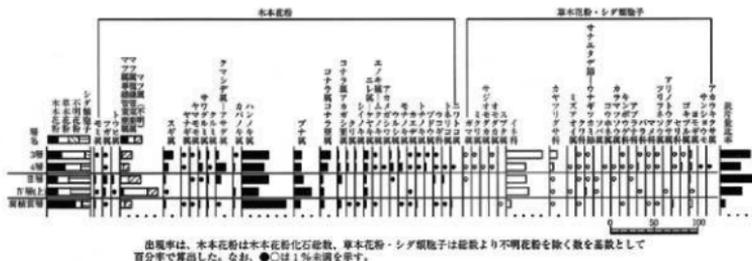
SD91

SD91の3・4層は淡水域に生育する水生珪藻が優占するが、淡水生種の生態性(塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応態)や産出種の特徴は異なっていた。4層は、水生珪藻が優占し、その生態性的特徴は、貧塩不定性種(少量の塩分には耐えられる種)、真+好酸性種(pH7.0以下の酸性水域に最もよく生育する種)~真+好アルカリ性種(pH7.0以上のアルカリ性水域に最もよく生育する種)、流水不定性種(流水域にも止水域にも普通に生育する種)と真+好止水性種(止水域に最もよく生育する種)が優占あるいは多産した。産出種の特徴は、好流水性の*Gomphonema helveticum*、流水不定性の*Amphora affinis*、*Cymbella aspera*、*C. tumida*、流水不定性で沼沢湿地付着生種群〔安藤1990〕の*Pinnularia gibba*、好止水性で沼沢湿地付着生種群の*Gomphonema acuminatum*が約10%産出した。なお、沼沢湿地付着生種群とは、沼よりも浅く水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や更に水深の浅い湿地で優劣な出現の見られることから、その環境を指標することができる種群とされている〔安藤1990〕。

3層は、貧塩不定性種と貧塩線塩性種(少量の塩分にも耐えられない種)、真+好酸性種、流水不定性種と真+好止水性種が優占あるいは多産する。産出種の特徴は、流水不定性で沼沢湿地付着生種群の*Eunotia*



第9図 西川内北遺跡 主要珪化石群集の層位分布



第10図 西川内北遺跡 主要花粉化石群集の層位分布

pectinalis var. minorが約20%と多産し、同じく沼沢湿地付着生種群のPinnularia gibba, P. viridis, 好止水性で沼沢湿地付着生種群のGomphonema acuminatum, G. gracile、水域にも陸域にも生育する陸生珪藻B群であり沼沢湿地付着生種群でもあるEunotia praerupta var. bidensを伴うことである。

9B25

当地点の基本土層のⅢ層、Ⅳ層上では、第三紀絶滅種を含む海水生種や前述した淡水生種が少量産出したのみである。

3) 花粉分析

結果を第4表、第10図に示す。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。

SD91

SD91の3・4層では、木本花粉ではハンノキ属が最も多く産出し、マツ属、スギ属、クマシデ属-アサダ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科が最も多く産出し、カヤツリグサ科、ヨモギ属などを伴う。また、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、ツリフネソウ属、ゴキツル属、サンショウモ、アカウキクサ属など、多くの種類の水湿地生植物に由来する花粉・胞子が検出される。炭片量比率は、3層で34.6%、4層で23.2%である。

9B25

9B25のⅢ・Ⅳ層上では、花粉化石が検出するものの、かろうじて定量解析が行える程度の産出量であり、全体的に保存状態は不良で、シダ類胞子が多産する。木本花粉ではマツ属、ハンノキ属が多産し、ツガ属、ブナ属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科が最も多く産出し、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属などが認められる。水湿地生植物のガマ属、ミズアオイ属等のほか、栽培植物であるソバ属に由来する花粉も検出される。炭片量比率はⅢ層で38.6%、Ⅳ層(上)で24.4%である。

SD91トレンチ東壁

V層下位の腐植質層では、木本花粉の占める割合が高い。木本花粉群集をみるとハンノキ属が多産し、マツ属、ブナ属、コナラ属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科、セリ科、ヨモギ属などが産出し、水生植物のスプタ属に由来する花粉も認められる。炭片量比率は5.4%である。

種 類	SD91		WGS		SD91
	試料番号	3層	4層	層別	層別
				(上)	層別
木本花粉					
モミ属	1	-	2	1	3
ツグ属	1	1	5	3	1
トウヒ属	-	-	3	1	-
マツ属(葉輪管束形属)	1	1	1	4	2
マツ属(輪管束形属)	4	8	10	28	10
マツ属(不明)	26	17	15	12	17
スギ属	24	13	2	1	5
ヤナギ属	2	1	-	-	1
ヤマモモ属	1	-	1	-	1
ヤワグルミ属	4	11	1	-	3
クルミ属	5	1	2	-	3
クワシダ属-アサダ属	7	29	6	-	1
カハノキ属	1	4	-	-	3
ハンノキ属	71	65	33	19	111
ブナ属	20	20	11	20	15
コナラ属コナラ属属	26	21	3	4	10
コナラ属アカガシ属属	3	6	5	-	8
クリ属	3	5	-	-	1
シラカバ属	3	3	-	-	2
ニレ属-クマノ木属	11	11	3	4	6
エノキ属-ムクノ木属	1	1	-	-	1
ツキザクラ属	-	-	-	-	1
カハダ属	-	1	-	-	1
アカメダラ属	-	1	-	-	-
ウルシ属	3	9	1	-	-
モチノ木属	3	11	-	-	1
カエデ属	2	1	-	1	2
トクノ木属	1	1	-	-	3
ブドウ属	1	4	-	-	-
ウコギ科	1	1	2	-	1
ツツジ科	-	-	-	1	1
エゴノ木属	1	1	-	-	-
イボタノ木属	1	1	-	-	-
トネリコ属	-	1	2	-	1
ニワトコ属	-	1	-	-	3
ゴウズミ属	-	1	-	-	1
タニウツギ属	-	1	-	-	1
スイカズラ属	-	1	-	-	-
草本花粉					
ゴマ属	1	3	1	-	-
ミタリ属	1	1	-	-	-
ヤブオモミダカ属	-	1	-	-	-
オモダカ属	1	3	-	-	-
スズガ属	-	-	-	-	1
イネ科	279	122	105	106	17
カヤツリダサ科	57	24	4	1	2
ミズアオイ属	-	1	-	1	-
クワ科	1	2	1	-	3
サナエタダ属-ウナギツカミ属	1	2	1	6	-
タデ属	-	-	-	-	1
フウ科	-	-	1	2	-
ナゲシ科	-	-	-	1	-
コウホネ属	-	1	-	-	-
カタマツソウ属	-	1	1	-	-
キンボウゲ科	1	1	-	-	1
アブラナ科	-	1	1	-	-
バラ科	1	8	-	1	-
マメ科	2	4	-	-	2
カヤバミ属(近縁種)	-	-	1	-	-
アフリネツウ属	2	1	-	-	1
アリノトウダマ属	-	-	-	2	-
セリ科	1	4	-	-	5
ネナシカズラ属	1	1	-	-	-
シソ科	-	1	-	-	-
ゴキツル属	1	11	-	-	-
ヨモギ属	15	15	6	2	11
カヤ草科	-	1	-	2	1
不明花粉	10	9	2	-	8
シダ類孢子					
サンショウモ	-	1	-	-	-
アキウキタマ科	-	1	-	-	-
他のシダ類孢子	78	127	227	187	62
合 計					
木本花粉	229	253	108	101	219
草本花粉	365	219	122	124	45
不明花粉	10	9	2	0	8
シダ類孢子	78	129	227	187	62
総計(不明を除く)	672	601	457	412	336
花粉集積率(%)	34.6	23.2	38.6	24.4	5.4

第4表 西川内北遺跡 花粉分析結果

4) 植物珪酸体分析

結果を第5表、第11図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、保存状態は不良で、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

SD91

3・4層では、ともにヨシ属の産出が目立ち、栽培植物のイネ属も認められる。この他に、ネザサ節やススキ属、イチゴツナギ亜科なども検出される。

9B25

9B25のⅢ・Ⅳ層上では、タケ亜科やヨシ属などがわずかに認められるのみである。

5) 樹種同定

結果を第6表に示す。掘立柱建物の柱やSD91内か

ら出土した自然木は、針葉樹1種類(マツ属複雑管束亜属)と広葉樹5種類(ハンノキ属ハンノキ亜属、サクラ属、カエデ属、エゴノキ属、トネリコ属)に同定された。なお、SB1070:P1067については、木質が僅かに残存するのみで、切片作成および組織観察も不可能であったことから不明とした。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

マツ属複雑管束亜属 (*Pinus subgen. Diploxylon*) マツ科

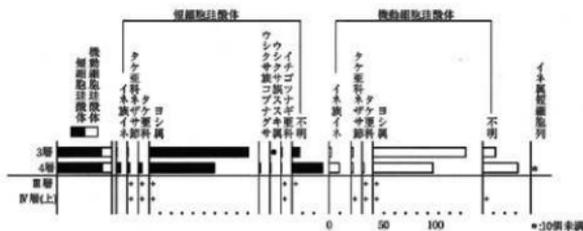
軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急へやや緩やかで、晩材部の幅は広い。放射組織は柔細胞、仮道管、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1~15細胞高。

ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus subgen. Alnus*) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2~4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1~30細胞高のもの集合放射組織とがある。

種 類	SD91		9B25	
	3層	4層	3層	4層(上)
イネ科葉部細胞珪酸体				
イネ属イネ属	2	20	-	-
タケ亜科ネザサ節	4	10	4	1
タケ亜科	-	16	1	1
ヨシ属	419	290	1	2
ウシシヤクコブナギ亜属	-	7	-	-
ウシシヤクススキ属	1	5	-	-
イチゴツナギ亜科	4	3	1	1
不明キビ属	5	106	1	-
不明ヒゲシバ属	26	25	1	-
不明ツナギ属	2	6	-	-
イネ科葉身細胞珪酸体				
イネ属イネ属	2	10	-	-
タケ亜科ネザサ節	2	2	-	1
タケ亜科	-	2	1	2
ヨシ属	94	58	4	1
不明	13	34	-	1
合 計	463	488	9	5
イネ科葉身細胞珪酸体	111	106	5	5
能 計	574	594	14	10
珪化組織片				
イネ属短細胞列	-	1	-	-

第5表 西川内北遺跡 植物珪酸体分析結果



出現率は、イネ科葉部細胞珪酸体、イネ科葉身細胞珪酸体の総数を基盤として百分率で算出した。なお、●は1%未満、+は100%未満の試料で検出された種類を示す。また、珪化組織片の産状を*で示す。

第11図 西川内北遺跡 植物珪酸体群集の層位分布と珪化組織片の産状

サクラ属 (*Prunus*) バラ科

散孔材で、管壁は中厚、横断面では角張った楕円形、単独または2~8個が複合して晩材部へ向かって管径を漸減させながら散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1~3細胞幅、1~30細胞高。

カエデ属 (*Acer*) カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2~3個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列~交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1~5細胞幅、1~30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

エゴノキ属 (*Styrax*) エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または2~4個が複合して、年輪界に向かって径を漸減させながら散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1~3細胞幅、1~20細胞高。

トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔間部は1~2列、孔間外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独または2個が放射方向に複合し、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1~2細胞幅、1~20細胞高。

D 考 察

1) 堆積環境

古代の遺物が出土したSD91の3・4層と、当該期の遺構検出面とされる基本土層Ⅲ・Ⅳ層の珪藻分析の結果、SD91では堆積環境を検討する上で有効な珪藻化石が産出したが、基本土層Ⅲ・Ⅳ層上では珪藻化石の産出は少なかった。珪藻化石の産出が少なかった要因として、流速や堆積速度の関与で堆積物中に元々化石が相対的に少なかったことや、化石が何らかの影響を受けて分解消失してしまったことが考えられるが、現段階ではこのどちらの要因であるか判断できない。

一方、SD91の3・4層では、前述のように多産種に差異が認められたが、いずれも沼沢湿地付着生種群を多く含む流水不定性種や止水性種によって特徴付けられ、流水環境を指標する種が少ないことが指摘される。したがって、3・4層は弱

遺構名	層位・地点	試料名	試料採取日	樹種名
SD91	4層	W-1(自然木)	040512	サクラ属
		W-2(自然木)	040512	サクラ属
SB1001	10E10	F1002	040610	サクラ属
	11E11	F1003	040610	サクラ属
	10E20	F1006	040610	サクラ属
	11E11	F1007	040610	トネリコ属
	10E10	F1013	040610	サクラ属
	9C15	F1036	040610	トネリコ属
SB1069	9C14	F1038	040610	トネリコ属
	10C16	F1039	040610	トネリコ属
	9C23	F1049	040610	トネリコ属
	9C24	F1050	040610	トネリコ属
	9C25	F1051	040610	トネリコ属
	9C8	F1054	040610	トネリコ属
	9C25	F1064	040610	トネリコ属
	9C16	F1082	040610	トネリコ属
	9C13	F1031	040610	トネリコ属
	8C8	F1042	040610	エゴノキ属
SB1070	8C15	F1043	040610	トネリコ属
	9C11	F1044	040724	トネリコ属
	9C11	F1065	040724	サクラ属
	9C16	F1066	040724	トネリコ属
	8C20	F1067	040724	不明
	8C13	F1068	040610	トネリコ属
	8C16	F1071	040610	サクラ属
	9C11	F1072	040610	サクラ属
SB1085	9E23	柱1041	040610	カエデ属
	11E11	F1009	040610	マツ属(樹膠管束型)
編年不明	11E9	F1012	040610	マツ属(樹膠管束型)
	9C14	F1034	040610	サクラ属
	9C25	F1059(上)	040610	カエデ属
	8B13	F1069(下)	040610	カエデ属
	9C16	F1072	040610	ハンノキ属(ハンノキ型)
	8C15	柱1060	040610	トネリコ属
	8C17	柱1064	040610	エゴノキ属

第6表 西川内北遺跡 樹種同定結果

酸性を呈した沼沢～湿地のような湿潤な環境で堆積した堆積物と考えられ、これらの層が堆積する頃の川は、水の流れが弱く、水が停滞して沼沢～湿地のような湿潤な状態となっていたことが推測される。

2) 古植生

花粉化石はいずれの試料からも検出されたが、その保存状況は地点により大きく異なる。基本土層V層下位に相当する腐植質層 (SD91トレンナ東壁) では、花粉化石の保存状況は良好で、木本花粉が多産する。木本花粉ではハンノキ属が多産し、マツ属、スギ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科、セリ科、ヨモギ属などが認められる。最も多く検出されるハンノキ属は、河畔や低湿地などの過湿地に林分を形成する種を含む分類群であり、ニレ属-ケヤキ属なども同様である。このことから、本層準堆積時の遺跡周辺は、ハンノキ属などからなる河畔林・湿地林が形成されていたと推測され、イネ科、セリ科、ヨモギ属などの草本類も生育していたと考えられる。ブナ属、コナラ亜属は冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成要素であることから、後背山地に分布しており、場所によりマツ属、スギ属などの針葉樹、アカガシ亜属などの常緑広葉樹を伴っていた可能性がある。また、植物遺体を多量に含む腐植質層であることや、水生植物であるスプタ属の花粉も検出されることから、当該期の当地点は湿地的環境にあった可能性もある。

基本土層のⅢ・Ⅳ層上 (9B25) では、花粉化石が検出されたが保存状態は不良であり、植物遺体の産出状況も不良であった。木本花粉では、前述の腐植質層と同様にハンノキ属が多く認められるが、マツ属の検出が目立つ。その他には、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属などが認められる。一般的に花粉やシダ類胞子は、腐蝕に対する抵抗性が種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている [中村1967; 徳永・山内1971]。当地点の試料をみると、保存状態および産出状況が悪く、マツ属以外にもツガ属などの針葉樹が検出され、シダ類胞子も多産することから、比較的分解に強いマツ属が相対的に多く検出されたことが推測される。なお、検出されたマツ属では、複雑管束亜属の割合が高い。マツ属複雑管束亜属 (いわゆるニョウマツ属) は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺など他の広葉樹の生育に不適な立地にも生育が可能であり、海岸沿いの砂丘上などに現在でも生育している。また、マツ属の急増は日本各地で知られており、その原因は自然干渉の結果としての二次林や植林が増加したためとされている [たとえば波田1987など]。このことから、検出されたマツ属は、植林については言及することはできないが、恐らく、代償植生の二次林として後背山地や低地に存在し、海岸砂丘上などにも生育していたと考えられる。

また、木本花粉の検出状況から、ハンノキ属、ニレ属-ケヤキ属などからなる河畔林・湿地林、ブナ属、コナラ亜属などからなる落葉広葉樹林が、依然として周辺に存在していたと推測され、草本類ではタケ亜科やヨシ属などのイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが生育していたと考えられる。なお、Ⅲ・Ⅳ層のいずれの試料からも栽培種であるソバ属の花粉も僅かながら検出されたことから、周辺域における当該期のソバ栽培が指摘される。

一方、SD91の3・4層の花粉分析結果をみると、ハンノキ属が多く、マツ属、スギ属、クマシヤ属-アサダ属、ブナ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属、ウルシ属、モチノキ属などを伴う。したがって、ハンノキ属、ニレ属-ケヤキ属などからなる河畔林・低湿地林、ブナ属、コナラ亜属などからなる落葉広葉樹林、マツ属、スギ属などの針葉樹の存在が窺われる。基本土層Ⅲ層や古代以前と考えられる腐植質層

(SD91トレンチ東壁)と同様の植生が想定される。ただし、ヤナギ属、サワグルミ属、クルミ属、クマシダ属-アサダ属、ウルシ属、モチノキ属、トチノキ属といった渓谷や河畔などに生育する種を含む分類群が多く認められることから、胎内川上流域の渓谷林や河畔林の要素も強く反映していると考えられる。また、珪藻化石の産状から、沼沢-湿地のような湿潤な環境で堆積したことが示唆されており、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、ゴキヅル属、サンショウモ、アカウキクサ属といった水湿地に生育する種類の花粉化石や、湿潤な場所に生育するヨシ属の植物珪酸体の産出が目立つ。したがって、SD91内や流路沿いの湿地部等には、これらの草本類が生育していたと考えられる。なお、栽培植物のイネ属に由来する植物珪酸体・組織片も検出されており、花粉分析で検出されたサジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、サンショウモ、アカウキクサ属などは、水田雑草としても知られている。これらのことから、3・4層が堆積する古代頃の本遺跡周辺には、耕作地が存在した可能性がある。

上記した各試料の炭片量比率をみると、本遺跡の集落形成以前の土層である腐植質層 (SD91トレンチ東壁)は、5.4%であるのに対し、その他の試料では23-39%を示す。炭片は人間活動と密接に関係しているとみられ、鳥浜貝塚(福井県)では6000年前から炭片量が増加することから、山野を焼き払っていたことが推測されている[安田1987]。また、このような微粒炭は黒ボク土中にも多量に含まれ[山野井1996; 井上ら2002]、黒ボク土の成因の一つとして、火入れによるイネ科草本類を主とする草原の維持が推定されている[松井・近藤1992]。基本土層Ⅲ・Ⅳ層は遺構検出面とされることや、SD91の3・4層から遺物が多く出土する状況を考慮すると、腐植質層との炭片量比率の差は、人間活動に由来する可能性がある。

ところで、本分析結果で認められた花粉化石群集は、本遺跡の北側に隣接する反貫目遺跡の古墳時代前~中期の堆積物にも認められている[バリノ・サーヴェイ株式会社2004]。したがって、今回得られた花粉化石群集は、当時の広域植生・周辺植生を反映していると推測される。また、栽培植物であるイネ属は、反貫目遺跡では植物珪酸体・組織片や炭化したイネ胚乳(順付きのものも含む)、六斗葺遺跡では炭化したイネ胚乳、穎が検出される[バリノ・サーヴェイ株式会社2005未公表]ことから、少なくとも、古墳時代前~中期には本地域で利用されていたと考えられる。現段階では、これらの生産域の存在を特定には至らないが、SD91におけるイネ属の植物珪酸体の検出状況は、当該期の本地域でイネが利用されていたことを追証する結果と言える。

3) 遺構の年代観と植物利用

本遺跡では、掘立柱建物の柱材である柱や、これらの掘立柱建物に伴わない柱が検出されている。このうち、3棟の掘立柱建物 (SB1001・SB1069・SB1070)の柱の年代観は、いずれも8世紀前半(あるいは7世紀末)から9世紀後半を示した。

これらの掘立柱建物の柱は、広葉樹3種類(サクラ属、エゴノキ属、トネリコ属)が認められ、数量ではトネリコ属が最も多く、次いでサクラ属、エゴノキ属といった順を示した(第7表)。また、いずれの遺構からもトネリコ属が認められる状況から、本遺跡で検出された掘立柱建物の柱材には主としてトネリコ属を用いる状

遺構・用途	樹種	掘立柱建物用	ハシノキ属	サクラ属	カエデ属	エゴノキ属	トネリコ属	不明	合計
SD91	自然水			2					2
SB1001	柱材			4			1		5
SB1069	柱材						9		9
SB1070	柱材			2		1	4	1	8
建物不明	柱材	2	1	1	3	1	2		10
合計		2	1	9	3	2	16	1	34

第7表 西川内北遺跡 遺構別種類構成

況が指摘される。トネリコ属は環孔材、サクラ属、エゴノキ属は散孔材と木材組織は異なるが、いずれも重硬で強度の高い材質を有する種類である。花粉分析の結果ではトネリコ属のみが検出されるが、花粉分析結果から推定される当該期の古植生を考慮すると、サクラ属、エゴノキ属も周辺の森林および林縁部などに存在していた可能性があり、本地域周辺に生育していた樹木より強度の高い種類を選択し、利用していた可能性がある。

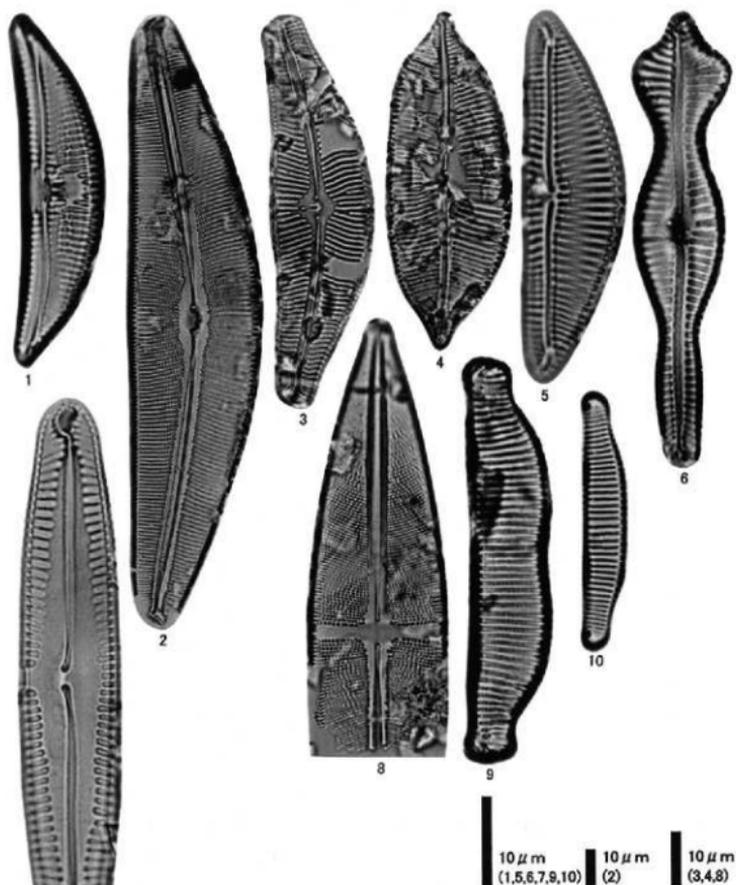
一方、この他の柱材と考えられる柱では、針葉樹1種類、広葉樹5種類が確認され、掘立柱建物の柱に認められた樹種構成と比べ多様である。また、認められた樹種は、上述の広葉樹3種類と、針葉樹の複維管束亜属、広葉樹のハンノキ亜属、カエデ属からなる。マツ属複維管束亜属は、針葉樹材としては比較的重硬で強度が高く、加工は容易で保存性が高い。ハンノキ亜属、カエデ属も重硬で強度の高い材質を有する種類であることから、いずれの柱材も強度の高い種類を利用していたと考えられる。

ところで、本遺跡周辺では、反貫目遺跡 [寺崎²⁰⁰⁴]・蔵ノ坪遺跡 [飯坂²⁰⁰²]で掘立柱建物の柱材と考えられる柱を対象とした調査事例がある [パリオ・サーヴェイ株式会社2002,2004]。その結果を見ると、反貫目遺跡の9世紀中頃と考えられる2棟の掘立柱建物の柱は、トネリコ属が約半数以上を占め、この他にコナラ亜属コナラ節、オニグルミ、ニレ属-ケヤキ属、エゴノキ属等の比較的強度の高い樹種が利用される傾向が認められている。一方、蔵ノ坪遺跡の8-9世紀と考えられる13棟の掘立柱建物の柱の大部分がクリであり、本遺跡や反貫目遺跡で多く認められたトネリコ属は1点確認されるのみである [パリオ・サーヴェイ株式会社2002]。したがって、本遺跡および近隣の反貫目遺跡ではトネリコ属を主体として用いているのに対し、蔵ノ坪遺跡ではクリ属を主体して用いているという、異なった木材利用の傾向が指摘される。このような異なる傾向を示す要因としては、掘立柱建物の構造（強度）等に伴う選択や、あるいは、遺跡の立地環境とそれに伴う植生の差異、すなわち、周辺域で調達しやすい植物資源の差異などが推測される。この点については、現時点では比較資料が少ないため、さらに、本地域における調査事例を蓄積し、改めて検討したい。

引用文献

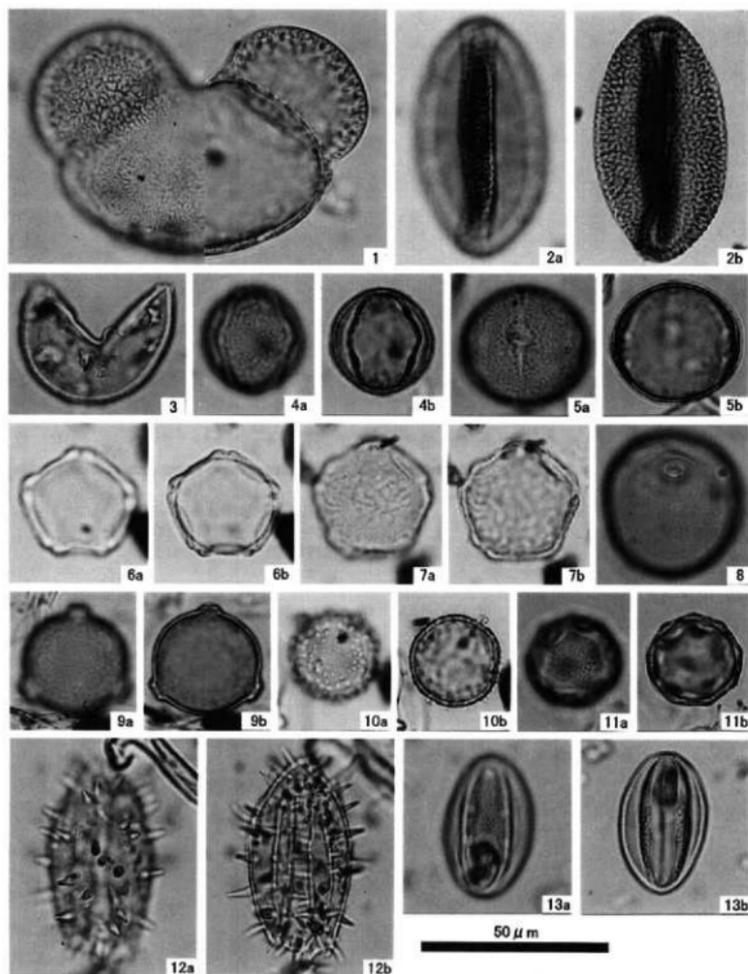
- 安藤一男 1990 「淡水産建業による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42 p73-88.
- 飯坂盛泰²⁰⁰² 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第115集 蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊藤直永・堀内誠示 1991 「陸生建業の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『建業学会誌』6 p23-45.
- 井上 淳・吉川周作・千々和一豊 2002 「琵琶湖周辺域に分布する黒ボク土中の黒色木片について」『日本第四紀学会講演要旨集』32 p74-75.
- 小杉正人 1988 「建業の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究』27 p1-20.
- 近藤謙三・佐瀬 隆 1986 「植物球体分析,その特性と応用」『第四紀研究』25 p31-64.
- 寺崎裕助²⁰⁰⁴ 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第135集 反貫目遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 徳永重元・山内 輝子 1971 「花粉・胞子,化石の研究法」共立出版株式会社 p50-73.
- 中村 純 1967 「花粉分析」『古今書院』 p232.
- 波田善夫 1987 「松くい虫被害対象として実施される特別防除が自然生態系に与える影響評価に関する研究 - 松くい虫等被害に伴うマツ林生態系の擾乱とその動態について -」『資料集』日本自然保護協会 p41-49.
- 原口和夫・三友清史・小林 弘 1998 「埼玉の建業類」『埼玉県植物誌』埼玉県教育委員会 p527-600.
- パリオ・サーヴェイ株式会社 2002 「蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第115集

- 蔵ノ坪遺跡」新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 p45-59.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2004 「自然科学分析」[新潟県埋蔵文化財調査報告書 第135集 反貫目遺跡]新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 p30-60.
- 松井 健・近藤鳴雄 1992 「土の地理学-世界の土・日本の土-」[明倉書店] p122.
- 山野井 徹 1996 「黒土の成因に関する地質学的検討」[地質学雑誌] 102 p526-544.
- 安田喜憲 1987 「文明は緑を食べる」読売新聞社 p227.
- Asai K. & Watanabe T. 1995 Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophylic and saproxenous taxa. *Diatom* 10 p35-47.
- Krammer K. 1992 PINNULARIA.eine Monographie der europaischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26.
J.CRAMER p353.
- Krammer K. & Lange-Bertalot H. 1986 Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In:Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1. Gustav Fischer Verlag p876.
- Krammer K. & Lange-Bertalot H. 1988 Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae Bacillariaceae Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag p536.
- Krammer K. & Lange-Bertalot H. 1991a Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales Fragilariaceae Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag p230.
- Krammer K. & Lange-Bertalot H. 1991b Bacillariophyceae.4.Teil: Achnantheaceae Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4. Gustav Fischer Verlag p248.
- Witkowski A. & Lange-Bertalot H. & Metzeltin D. 2000 Iconographia Diatomologica 7. Diatom flora of Marine coast I. A.R.G.Gantner Verlag K.G. p881.



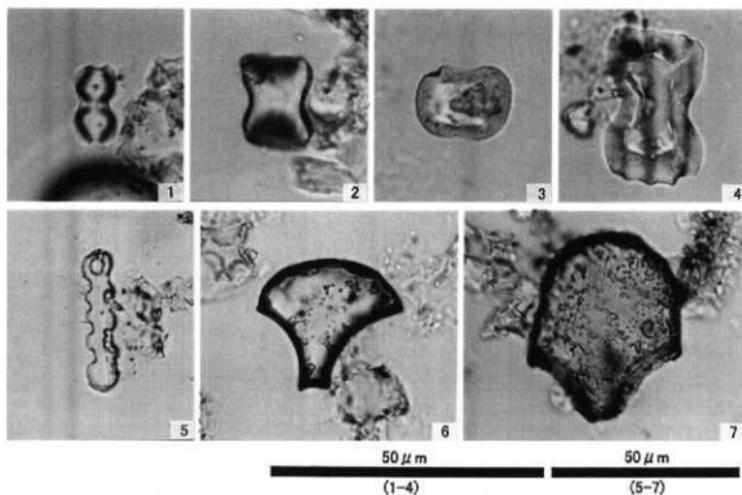
1. *Amphora affinis* Kuetzing(SD91;4層)
2. *Cymbella aspera* (Ehr.)Cleve(SD91;4層)
3. *Cymbella tumida* (Breb. Ex Kuetz.)V.Heurck(SD91;4層)
4. *Cymbella cuspidata* Kuetzing(SD91;4層)
5. *Cymbella silesiaca* Bleisch(SD91;4層)
6. *Gomphonema acuminatum* Ehrenberg(SD91;3層)
7. *Pinnularia gibba* Ehrenberg(SD91;4層)
8. *Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.)Ehrenberg(SD91;4層)
9. *Eunotia praeurupta* var. *bidens* Grunow(SD91;3層)
10. *Eunotia pectinifera* var. *minor* (Kuetz.)Rabenhorst(SD91;3層)

第12圖 西川内北遺跡 硅藻化石



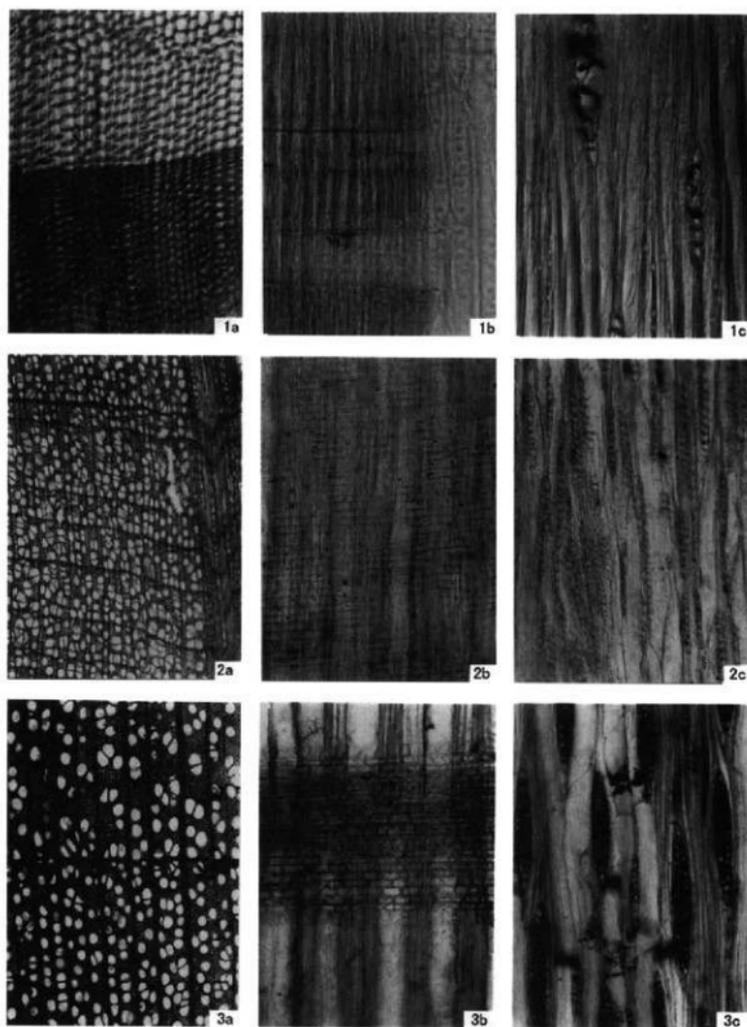
- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. マツ属(SD91:4層) | 2. ソバ属(9B25;IV層上)) |
| 3. スギ属(SD91:4層) | 4. コナラ属コナラ亜属(SD91:4層) |
| 5. ブナ属(SD91:4層) | 6. ハンノキ属(SD91:3層) |
| 7. ニレ属ーケヤキ属(SD91:3層) | 8. イネ科(SD91:4層) |
| 9. クマシデ属ーアサダ属(SD91:4層) | 10. オモダカ属(SD91:4層) |
| 11. サジオモダカ属(SD91:4層) | 12. コウホネ属(SD91:4層) |
| 13. ゴキツル属(SD91:4層) | |

第13図 西川内北遺跡 花粉化石



- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. イネ属短細胞珪酸体(SD91;3層) | 2. ネザサ節短細胞珪酸体(SD91;3層) |
| 3. ヨシ属短細胞珪酸体(SD91;3層) | 4. コブナグサ属短細胞珪酸体(SD91;3層) |
| 5. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(SD91;3層) | 6. イネ属機動細胞珪酸体(SD91;3層) |
| 7. ヨシ属機動細胞珪酸体(SD91;3層) | |

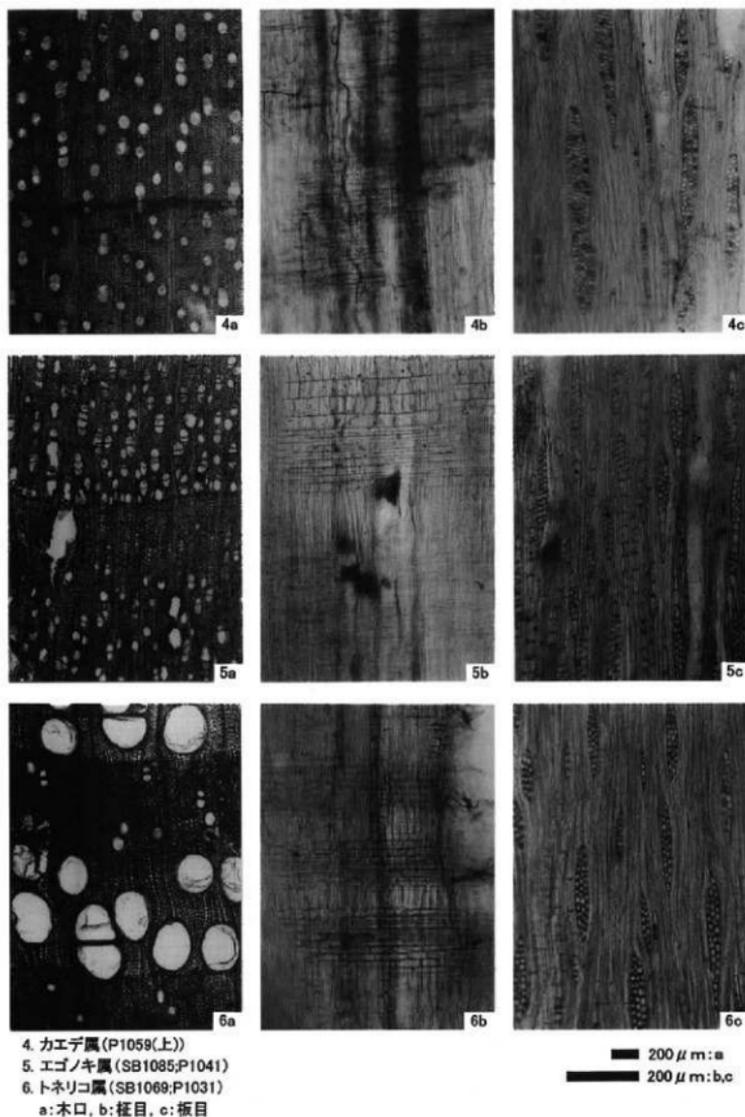
第14図 西川内北通跡 植物珪酸体



1. マツ属複維管束亜属 (P1009)
 2. ハンノキ属ハンノキ亜属 (P1072)
 3. サクラ属 (SB1001:P1003)
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μ m: 2-3a
 200 μ m: 1a, 2-3b, c
 100 μ m: 1b, c

第15図 西川内北遺跡 木材 (1)



第16図 西川内北道辨 木材 (2)

5 まとめ

A 遺 構

今回の調査では、2本の川に沿って展開する掘立柱建物を中心とする建物群、道路状遺構などを検出した。前者は調査区中央を流れる川跡(SD91)の北岸に展開し、後者は調査区南側を流れるもう一つの川跡(SD56)の南岸に形成される。2本の川跡は約30mの間隔をおいて平行し、その間は風倒木(SX88)、性格不明の落ち込み(SX87)や凹凸面(SX90)が散見される程度で、これといった建造物は見あたらない。また、建物群の北側でもP1010、柱1012が点在するのみで基本的には空閑地の様相を呈している。ここでは建物群と道路状遺構について調査所見を述べることによってまとめたい。

1) 建 物 群

建物群は15mほどの空閑地を挟んで2か所に分かれる。東側のSB1001は単独で存在し、そのほかの建物群はSD91が南西から西に流れを変える部分にまとまって構築される。SB1001については調査区東端で検出されていることもあって、本来的に単独で存在するの否か不明である。建物は川岸から約2mの間隔を置いて設けられている。川筋とは平行せず、ほぼ真北(N-I°-W)を向いている事を記しておく。

一方、SB1001以外の建物群はおおよそ川筋に沿う形で設けられており、やはり川岸から約2mの間隔を置く。建物群の配置は川に沿ってSB1014・SB1069・SB1070が並び、SB1069の西側にSB1085・SX1026が展開する。掘立柱建物3棟の軸方位はまちまちであり、かかる3棟の配置については特に規格性といったものは窺えないが、SB1085・SX1026についてはSB1069と軸方位が一致しており、これに付帯する施設と考えられる。SB1069については更に、目隠し棚的な柱穴配置が建物外周に見られることや床面積が最も大きいといった特徴があり、一連の建物群の中で中核的な役割をもつものである可能性が高い。

建物群の時期については、時期判別に足る遺物が出土していないこともあって、その詳細は不明とせざるを得ないが、SD91を中心に出土した本遺跡の遺物はその大半が8世紀初頭のもので占められることから、建物群についてもかかる時期の所産として差し支えないものと考えられる。すなわち、これらは奈良時代前半に出現→消滅するという、非常に短期間のうちにその役割を終えたものと理解され、重複の見られない建物群は時期差なく併存していた可能性が高い。但し、SB1070のみ柱が大きく傾いた状態で検出されており、その要因を地震によるものと仮定した場合、ほかの建物は地震後に構築されたとの推察が可能である。なお、各掘立柱建物から2本ずつ抽出して行った柱材の放射性炭素年代測定の結果では、土器年代よりも若干下る年代が示されているが、その時間幅はやはり50年弱と狭いものである。

当該期の集落形態としては、聖籠町山三賀Ⅱ遺跡[坂井¹⁹⁸⁹]に代表される大規模な集落形態があげられるが、今回の調査例はこういった「律令型集落」ともいふべき集落形態とは対照的である。近隣に位置する蔵ノ坪遺跡[飯坂²⁰⁰²]、船戸板田遺跡[水澤・吉村2001]、船戸川崎遺跡[水澤2002]などでは本遺跡と同様、川岸に遺構群が立ち並び、蔵ノ坪遺跡では、集落から物資集積を担う津の施設へと性格を変容[飯坂²⁰⁰²]、また、船戸川崎遺跡・船戸板田遺跡についても物資集積に関わる津施設としての役割が考えられている[前掲]。また、蔵ノ坪遺跡の報告では、山三賀Ⅱ遺跡などと比べ、煮炊具の割合が極端に低い事に報告者は着目し、その点から遺跡の性格を「(Ⅱ期以降は)生活の場ではなく仕事場なのである」と結論付ける[前掲]。本遺跡の場合、出土遺物が僅少なだけでなく建物群に伴うものがほと



両側溝をもつ道路

側溝間の距離：約3.6m (2間)
道路幅員：約2.7m (1.5間)



波板状凹凸面による道路 (北側)

幅員：約4.5m (2.5間)



波板状凹凸面による道路 (南側)

幅員：最大約2.7m (1.5間)

0 (1 : 500) 20m

第17図 道路状道構分割想定図

んど見られないため、直接比較できるものではないが、やはり食糧具の割合は胎器種を凌駕する。そのあり方から見れば、かかる遺構群は集落ではなく、何らかの用途に供された一過性の施設という評価が妥当であると思われる。

2) 道路状遺構

発見された道路状遺構は、5グリッド以南に東西方向に延びる溝列と波板状凹凸面という形で検出された。溝や波板状凹凸面構成土坑から出土した遺物はやはり8世紀初頭の年代観が与えられるものであり、かかる時期の所産と考えられる。道路構造は、両端に溝（側溝）をもつものと、いわゆる波板状凹凸面のみで構成されるものの2種類に大別される。前者はSD57・SD88とSD29・SD25・SD58が平行関係にあること、その間にSD30～SD46の19条で構成される波板状凹凸面が見られることなどから両側に側溝をもつ道路と判断した。道路面の幅は約2.7m（1.5間）、両側溝の幅は心々で約3.6m（2間）を測る。後者はSD28～SD60の18条で構成されるものと、SD8～SD68の21条で構成されるものが南北に平行して検出され、各々の列がそのまま道路面となるものと考えられる。道路幅は北側のものが約4.5m（2.5間）、南側のものは最大2.7m（1.5間）を測る。西端は側溝をもつ道路と接する形で収束していることから、波板状凹凸面のみで構成される道路は一時的な迂回路であった可能性が考えられる¹⁾。

いずれの道路も古代道路の特徴であるとされる直線的なものよりも、川筋に沿ったような印象を受けるが、調査できたのは40mと限られた範囲であり、実体は不詳である。側溝については、残存部位が一定の深さをもつことから、上面の削平によって消滅した部分はあるにせよ、本来的に断続したものであったと考えられる。当然、排水機能は持ち得ないが、古代道路に伴う側溝は「むしろ幅員を規制するための意味が強い」[近江1997]らしく、本遺跡でみられるような姿が普遍的なものようである。側溝の間隔、道路幅は上述のように規格性の高いものといえる。

波板状凹凸面については、古代官道研究に於いて最も活発に議論が展開されているものの一つといえ、その機能については、硬化面構築の工法とする説[飯田1993]、重量物運搬のためのコロや丸太の配列の結果とする説[早川1991]、積載説²⁾など様々な説が提示されているが、各地の調査事例をみる限りいずれの説も否定できないというのが現状である。県内に於いてもかかる遺構の検出例は散見でき、例えば上信越自動車道の建設に伴って発掘調査が実施された中野城郡中野村の野林遺跡[島田as2000]では、検出された波板状凹凸面について、構成遺構の底面形態や深度から「早川説」とは考えにくく、遺構底面や周辺が転圧されたように硬くしまっていることから「飯田説」を支持する[立木(土橋)as1999]。本遺跡の場合、構成遺構の深度にあまり違いはみられず底面の硬化も認められないものの、道路面の硬化なども確認できなかったため、波板状凹凸面の機能については不明とせざるを得ない。

道路の方向であるが、西側については恐らく海岸沿いの砂丘列か紫雲寺湯(塩津海)方面に延びているだろうということ以外はよくわからないが、東側についてはその延長に中世居館である新館があり、そこに向かって延びている可能性が高い。新館は比較的安定した自然堤防上に営まれており、そこに古代の集落が存在したのと考えられる。

1・2) 古川知明氏(富山県歴史文化財センター)のご教示による。

B 遺 物

1) 出土土器の編年的位置付け

奈良時代の土器は、主に道路状遺構が検出された地区、掘立柱建物群の周辺、川跡（SD91）の覆土中から出土した。道路状遺構を構成するSD57の覆土中からは4・5の須恵器無台杯、7の土師器小甕が出土しており、道路状遺構の時期決定の指標となり得る。SD91は第Ⅲ章3でも述べたように、掘立柱建物群に面する北岸から多数の遺物が出土し、建物から川へ遺物が廃棄されたと推測される。SD91は川跡という性格上、出土遺物には17・18のように古墳時代のものも含まれ、若干の時期幅がある。しかし17・18以外は全て奈良時代の所産であることから、SD91出土遺物は掘立柱建物群の存続時期を知る手がかりとなり得る資料と考える。以下では、SD91および道路状遺構を構成するSD57出土土器の編年的位置付けについて検討してみたい。

まず、SD91出土土器の特徴をみていくこととする。機能別構成比率をみると、甕などの貯蔵具はなく、食器類・煮炊具のみという特徴がある。これに種類別構成比率を合わせてみると、食器類は須恵器、煮炊具は土師器に機能分化されていることが分かる（第18図）。土師器は全て非ロクロ成形であり、ロクロ成形のものは確認できなかった。個々の器種をみると、須恵器無台杯は全体的に厚みがあり、特に底部が厚いものが目立つ（12・13）。有台杯は口径が大きく、高台が底部の外側に付く（14・15）。杯蓋は有台杯に対応して口径が大きい（16）。土師器は非ロクロの長甕が大多数を占め、くの字に外反する口縁にあまりふくらまない体部がつづく。口縁部は横方向に強くナナられ、頸部に段または浅い沈線が作り出されるものがある。底部は外底面に粗い砂粒が付着するもの、木葉痕・笹葉痕が残るもの、底部が外側に張り出すもの等がある。

一方、SD57では、須恵器無台杯（4・5）、土師器小甕（7）が出土している。4・5の須恵器無台杯は口径が大きく、底部に厚みがあり、体部は直立気味に立ち上がる。

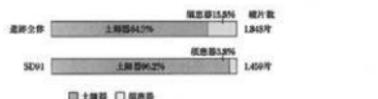
SD91・SD57の資料と類似する特徴をもつ遺跡は、中条町草野遺跡〔水澤2004b〕、荒川町坂町宮ノ腰B遺跡〔吉井1993〕、聖籠町山三賀Ⅱ遺跡〔坂井⁴⁶1989〕、新井市栗原遺跡〔坂井1982〕、上越市今池遺跡〔坂井⁴⁶1984〕などがある。

山三賀Ⅱ遺跡では奈良・平安時代を4期に区分し〔坂井1989b〕、第Ⅰ期は8世紀第1四半期前後、第Ⅱ期は8世紀第2～3四半期、第Ⅲ期は8世紀第4四半期～9世紀第1四半期、第Ⅳ期は9世紀第2～3四半期にそれぞれ比定されている。第Ⅰ期の特徴としては、

- ①土師器は非ロクロが主体
- ②須恵器の数量が土師器よりも相対的に少ない
- ③須恵器は食器類が主体
- ④杯類の器壁は全体的に厚い
- ⑤有台杯は腰が張り、高台が底部の外縁に付される
- ⑥有台杯は身が浅く、口径14～15cmの大型のものが多い



第18図 機能別・種類別構成比率（口縁部残存率計測法）



第19図 種類別構成比率（破片数計測法）

などが挙げられている。SD91の種類別構成比率をみると(第18図)、土師器よりも須恵器の割合が高く、遺跡全体をみても須恵器の割合が高い。これは個体数が少ないことと、口縁部のみを計測対象とする口縁部残存率計測法〔宇野1992〕を採用したこと起因するであろう。一方、体部片を含む全ての破片数を数えると、須恵器よりも土師器の方が数量は多い(第19図)。いずれにしても遺物の数量が少ないため、安定した数値ではないことから、土師器と須恵器の比率について言及することは困難である。したがって②について除外すると、その他の特徴はほとんど当てはまることから、SD91の資料は山三賀遺跡の第I期に併行するものと考えられる。また8世紀初頭に位置付けられる新井市栗原遺跡SD25出土資料と比較しても、14の有台杯などは口径・底径が大きく、栗原遺跡資料と類似する。

SD57の無台杯4・5は底部が水平で体部が直線的にひろくことから、山三賀Ⅱ遺跡のⅡ1期に相当するものと考えられる。以上のことから、本遺跡の資料は春日真実氏による編年〔春日1999〕のⅢ1期・Ⅲ2期に相当し、年代は8世紀第1～第2四半期(8世紀初頭～前葉)に比定される。

2) 東北系土師器について

本遺跡から出土した土師器は大多数がロクロを使用しない非ロクロ土師器であり、爆腐時期は共に出土した須恵器の特徴から8世紀初頭のものと考えられる。これらの土師器のうち、長甕の頸部に浅い沈線が施されるもの(8・21・31・32)、段をもつもの(20)、底部に相い砂較が付着するもの(39・40)、木葉痕が残るもの(9・41・43・45・47)、底部が外方へ張り出すもの(44)があることが分かった。このような土師器は東北地方北部に特徴的なもので、新潟県内では阿賀野川以北の地域(阿賀北地域)にのみ確認できることが最近の研究で明らかとなっている〔加藤2004〕。以下では東北地方北部の土師器の特徴を概観し、県内の類例とともに本遺跡の資料を検討してみたい。

沈線文土師器

東北地方北部を中心とした地域では、7～8世紀の土師器(主に甕)の口頸部に装飾的な沈線文が施されるものがあり、「東北北部型土師器」〔三浦1994〕や、「沈線文土師器」〔宇部2000〕などと呼ばれている。1997年の日本考古学協会秋田大会では、古代蝦夷地域の特質を探る手掛かりのひとつとして取り上げられ、資料の集成が行われた。沈線文土師器の主な基本形態をまとめると、以下のような特徴が認められる。

口縁部はくの字状に外反し、頸部には胴部との境に一条の明瞭な段をもつ。

口唇部は面取りされたもの、あるいは凹線状を呈するものがある。

底部は外方にやや張り出す形状を示し、底面には木葉・笹葉痕をもつ例が多い。

器面調整はハケ目が最終調整となる個体と、ハケの後ヘラミガキを行う個体が存在する。

沈線文は頸部の段以外に1ないし2条程度巡らすものや、10条を越すような多条のものがある。1・2条のものは「横走沈線文土師器」、3条以上のものは「多条沈線文土師器」とよばれている〔高橋1997〕。このような沈線文は、明瞭な沈線として描かれるものはむしろ少なく、段差の作り出しにより沈線状となるものが主体である〔宇部1997〕。

本遺跡の土師器21と類似する資料としては、青森県八戸市田面水平遺跡〔藤田・宇部1989〕56号住居出土資料(第20図1)がある。口縁部はくの字に外反し、口縁部は面取りされている。2条の沈線は段状で、断面は三角形である。口縁部外面はハケの後ナデ調整で、ハケ目が部分的に残存する。本遺跡の土師器31・32は頸部片ではあるが、外面に3条の浅い沈線がめぐる。外面は縦方向のハケ、内面は横方向のハケである。これと類似する資料としては、秋田県秋田市後城遺跡〔小松¹⁾1978〕SI179出土資料(第20図

2・3)がある。頸部には横走沈線が巡り、器面調整は外面が縦および斜方向のハケ、内面は横および斜方向のハケである。秋田県内の資料は器面調整にハケが多用されることが指摘されている〔高橋1997〕。本遺跡の土師器31・32は小破片のため全体的に不明な点が多いものの、器面の最終調整はハケのようである。また土師器21の口縁部に施された調整痕は、ミガキというよりも、ヘラ状の工具でなでたような調整痕である。器面調整に主眼をおくと、ミガキを多用する青森県よりも、ハケを多用する秋田県の様相に近いようである。

沈線文土師器の底部に着目すると、秋田市後城遺跡SI180出土の土師器壺底部は、外側へ張り出し、底部外面には笹葉痕がある(第20図5)。また青森県八戸市田面水平遺跡(1)〔工藤¹⁹⁸⁸〕第50号壺穴住居跡出土土師器の底部も外側へ張り出し、底部外面に木葉痕が残る(第20図4)。

東北地方における、土器外底面に砂粒が付着する、いわゆる「砂底土器」については、櫻田隆氏によって集成されている〔櫻田1997〕。これによれば、砂底土器が出土する遺跡の分布範囲は、北緯39°の東北地方北緯4°から北緯42°の北海道南部であるが、特に北緯40°から北緯41°の米代川・阿比川・馬河川・岩木川流域に集中する。年代については奈良時代のもは少なく、ほとんどが平安時代の所産とされている。



1: 田面水平遺跡66号住

2・3: 後城遺跡SI179

4: 田面水平遺跡(1)50号住

5: 後城遺跡SI180

第20図 沈線文土師器

新潟県内の類例

新潟県内の東北系土師器に関連する資料としては、豊栄市松影A遺跡〔加藤2001a〕、新発田市馬見坂遺跡〔岡2001〕、神林村砂山VI遺跡、聖籠町山三賀II遺跡〔坂井¹⁹⁸⁹〕などの遺跡が知られている〔加藤2004〕。松影A遺跡の壺(報告番号122)は、内外面の入念なミガキ調整や頸胴部に巡る1条の沈線のほか、大きく外反する長い口縁部、最大径が上部に位置する胴部、外方に張り出す底部と、東北地方の沈線文土師器と共通する要素が数多く見出せる。馬見坂遺跡、砂山遺跡の土師器壺は、頸部と胴部の境に段差をもつもの、ミガキ調整が施されるものがある。

山三賀II遺跡SI71出土土師器(報告番号76)は、底部外面には砂の付着痕がみられ、特に底部が接地する外周部に著しい。同遺跡SI741出土土師器(報告番号132)の底部外面は木葉痕と砂痕であり、葉の圧痕以外の部分に砂痕が残る。

外底面に砂粒が付着する砂底土器については、東北地方北部では主に平安時代に盛行する〔櫻田1997〕。新潟県内で砂底土器が出土した遺跡の時期は、馬見坂遺跡は7世紀前葉～中葉、山三賀II遺跡・砂山VI遺跡は8世紀初葉であり、東北地方北部の砂底土器とは大きな時期差がある。この時期差の要因については今のところ不明であるが、新潟県において砂底土器が阿賀北地域のみ認められることから、東北地方との関連性が想定される〔加藤2004〕。今回、本遺跡において東北系土師器や木葉痕・笹葉痕をもつ土器とともに砂底土器が出土したことによって、砂底土器の源流を東北地方との関連性の中に求め得るか否かという、注目すべき資料を提示できたと考える。

ま と め

県内において東北系土師器が出土した遺跡は、現段階では上述した5遺跡のみで、阿賀北地域のみ分布している。加藤氏はこれらの遺跡に共通する特徴として、海岸砂丘上に立地することを指摘されている[加藤2004]。この遺跡の分布は内陸の砂丘列上であるとしても海岸に近く、日本海の利用を想定する上で都合の良い立地条件としている。本遺跡は海岸砂丘上の立地ではないものの、遺跡と海岸砂丘の間は直線距離にして約2kmであり、さほど離れているわけではない。また本遺跡からは道路状遺構が検出されており、他集落との往来がさかんであったことが窺える。さらに古代の阿賀北地域では、海岸部に砂丘列が存在することから、広大な内水面が形成されていた[坂井1996]。SD91やSD56のような小河川を利用した水上交通が発達しており、海岸砂丘上の集落との連絡が頻繁におこなわれていたと想像できる。

C 奈良時代の西川内北遺跡

2か年にわたる調査によって、本遺跡からは奈良時代(8世紀初頭)の掘立柱建物群と道路状遺構が発見された。阿賀北地域において8世紀前半の遺跡が調査された例は少なく、わずかに中条町草野遺跡[水澤2004b]、荒川町坂町宮ノ腰B遺跡[吉井1993]、聖龍町山三賀Ⅱ遺跡[坂井²⁰⁰⁵1989]などがあるに過ぎない。本遺跡の調査は阿賀北地域の奈良時代を知る上では重要な調査事例となり得ることから、ここでは掘立柱建物群と道路状遺構、出土遺物についてまとめておきたい。

掘立柱建物は川跡(SD91)の北側にあり、川跡に沿って建ち並ぶ。建物群に面する川跡北岸斜面部から多数の遺物が出土したこと、建物から川へ遺物が廃棄されたものと考えられる。

中条町内の奈良・平安時代の遺跡調査例をみると、多くの場合調査区内に川跡が検出され、川跡内からは多数の遺物が出土する。中条町赤川に所在する8世紀前半の草野遺跡[水澤2004b]では川跡が2か所あり、川跡からは遺物が多量に出土している。遺物は遺構が存在する西側に多く集中し、川へ遺物が投げ込まれたと考えられている。舟戸川水系の船戸川崎遺跡[水澤2002]では、9世紀後半の掘立柱建物2棟が川跡に近接して建ち、川跡には大量の遺物が投棄されている。また船戸桜田遺跡[水澤・吉村2001]でも9世紀中葉の掘立柱建物と川跡が調査されている。船戸桜田遺跡の上流に位置する蔵ノ坪遺跡[飯坂²⁰⁰²2002](8世紀後半～9世紀後半)でも、川跡沿いに多くの掘立柱建物があり、川跡からは多くの遺物が出土している。こうした調査事例をみると、8～9世紀の奈良・平安時代には、小河川沿いに集落が形成され、川へ遺物が廃棄されることが多かったようである。

古代の阿賀北地域では、船内川・加治川などの河川は海岸砂丘に流れを遮られ、直接日本海へ注がず、荒川・阿賀野川と合流し、広大な内水面を形成していた[坂井1996]。本遺跡や上記の遺跡を含む奈良・平安時代の人々は、内水面を交通路として利用し、小河川沿いに集落を展開していたと想像できる。

本遺跡から出土した遺物の中には、東北地方北部で盛行する沈線文土師器に類似する土器がある。このような土器が出土する遺跡は、新潟県内では阿賀北地域にのみ認められる[加藤2004]。こうした遺跡は海岸砂丘上に分布していることから、日本海を介して東北地方の文化が伝わったと推測できる。本遺跡は海岸砂丘上の立地ではないものの、遺跡周辺に広がる内水面を交通路として利用していたことを想定すれば、海岸砂丘上の集落との連絡は緊密に行われていたと想像できる。

川跡(SD56)に沿ってのびる道路状遺構は、割溝と波板状凹凸面をもつ規格的な道路跡である。中条町内における道路状遺構の調査例としては、奈良・平安時代の蔵ノ坪遺跡[飯坂²⁰⁰²2002]がある。蔵ノ坪遺跡の道路は3基あり、平行する2本の溝で構成される。建物と川を結ぶ道路、あるいは建物間をはしる道

路であり、つまり集落内部の生活道である。一方、本遺跡の道路状遺構は集落の中心部とは約30mの間をあけて存在していることから、生活道というよりも、集落と集落を結ぶ連絡道路としての役割を果たしていたと推測される。しかし道路状遺構は調査区の幅40mを調査したにすぎず、その全貌は不明と言わざるを得ない。第IV章で後述する西川内南遺跡においても時期は下るものの、8世紀後半ころの道路状遺構が検出されており、本遺跡周辺は道路が集約するような地理的環境にあったのだろうか。現段階では資料が少ないため、今後の検討課題としたい。

第IV章 西川内南遺跡

1 調査の概要

A グリッドの設定 (第21図)

グリッドは、西川内南遺跡と同じ要領で設定し、日東道路法線センター枕STA283からSTA284へ向かう線を6m西側に平行移動させた地点をセンターラインとした。方位は真北から19°7'21" 東偏している。

グリッドは大小2種あり、大グリッドは10m四方を1単位とし、小グリッドは大グリッドを2m四方の小グリッドに25分割したものである。大グリッドの呼称は、センター枕の方向に算用数字、それと直交する方向をアルファベットとし、両者の組み合わせにより南西隅の枕を基準に「4B」のように表示した。また、小グリッドは1～25の算用数字で表し、南西隅を1、北東隅を25とし、「4B15」のように大グリッドの後に付して呼称した。なお、調査範囲内の主な枕の座標は、日本測地系で4B1が $X = 227507.266 \cdot Y = 76300.227$ 、10C1で $X = 227560.679 \cdot Y = 76329.331$ 、16D1では $X = 227614.093 \cdot Y = 76358.434$ である。

B 基本層序 (第21図)

本遺跡は西川内北遺跡に隣接し、同遺跡と同一地形面上に立地しているが、西川内北遺跡と異なり、開層を挟んで上層・下層と2つの遺物包含層及び遺構確認面が存在する。耕作土下位の堆積物は、全体に砂質で砂層とシルト層の互層で形成されている。また、一部に埋没した旧流路を示す砂礫層やガツボ層が存在し、特に、遺跡内を南北に横断する埋没河川底部には、西川内北遺跡で検出された特徴的な黄灰色（風化すると黄色）土が認められる。調査区内の土層堆積状況は、基本層序柱状図に示すとおり調査区全域で同じ層相を呈しているが、上層遺物包含層が調査区南部と北部の一部で検出されるに過ぎないのに対し、下層遺物包含層及び同層相当層は、調査区全域にわたって認められる。

I層 暗褐色土層 現在の水田耕作土で、客土の可能性はある。

II層 黒色土層 場所により下位のIII層が混在する。少量ながら中・近世の遺物を包含する。

III層 暗灰色シルト質粘土層 しまりが良く、やや強い粘性がある。奈良時代の遺物を含む。

IV層 灰色シルト質粘土層 硬くしまりが良く、やや強い粘性がある。古代の遺構確認面。

V層 灰色細粒砂層 一部でシルトの開層を挟んで上位のVa層と下位のVb層に区分される。主に調査区北側に分布する。

Va層 細粒砂とシルトのラミナが発達する。しまりは良いが粘性は弱い。

Vb層 シルト及び暗褐色シルト質粘土のラミナが発達する。Va層に比べ粘性が強い。

VI層 灰色シルト層 調査区全域に分布するが、一部で暗褐色部分を挟んで上位のVIa層と下位のVIb層の2層に区分される。

VIa層 全体にシルト質で、シルトと細粒砂層のラミナが発達する。しまり・粘性ともにやや強い。

VIb層 上位のVIa層より粘土分に富む。しまり・粘性ともにやや強い。

VII層 灰色シルト層 上位VI層より暗色を呈し粘土分に富む。主に調査区南側と北側の一部に分布し、

1 調査の概要

上部に植物繊維を含む。色調により2層に区分する。

Ⅶa層 Ⅶ層上部、わずかに植物繊維を含む。

Ⅶb層 上位Ⅶa層に比べ黄色を帯びる。

Ⅷ層 灰色細粒砂層 土壌化の程度で2層に区分する。

Ⅷa層 シルトと細粒砂のラミナが発達する。しまりはやや弱い。

Ⅷb層 土壌化したⅧ層。8C25付近にのみ認められる。

Ⅸ層 暗灰褐色粘土質シルト層 いわゆるガツゴ層で植物遺体を多く含む。連続性の良い厚さ5mm程度の植物を主体とする薄層がラミナ状に堆積する。

X層 シルト層で古墳時代前期の遺物包含層。層中の一部に遺構検出面が認められる。色調と包含する炭化物の量で、Xa層(上位)とXb層(下位)に区分する。

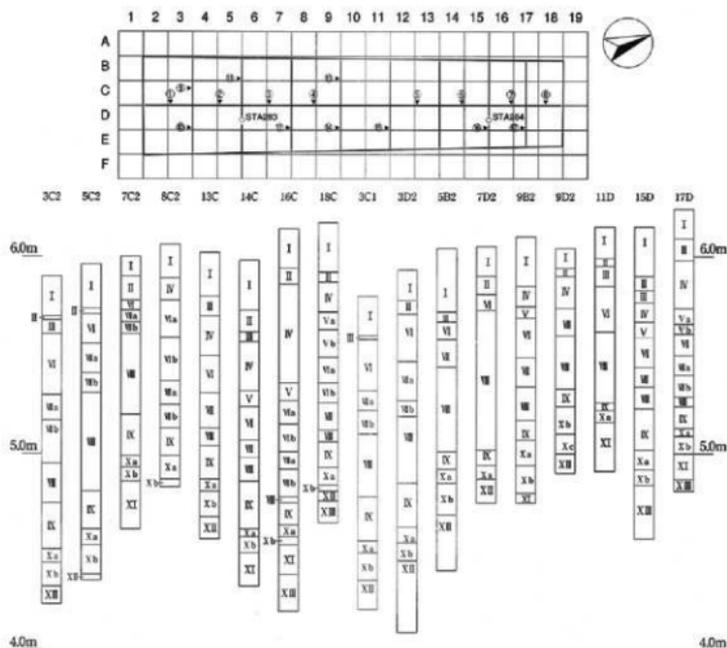
Xa層 炭化物を多く含む暗灰色層を呈する。粘性が高い。

Xb層 上位Xa層に比べ炭化物の量が少なく、灰色を呈する。粘性は強い。古墳時代前期の遺構確認面。

XI層 灰色粘土質シルト層。

XII層 灰色シルト層 やや砂質でXI層とXIII層の漸位層。

XIII層 灰色中粒砂層 河川堆積物で粒径の大きい砂を含む。調査区北部でのみ確認できる。



第21図 西川内南遺跡 グリッド設定図・基本土層柱状図

2 上層の調査

A 遺 構

1) 概 要

上層の調査において発見、調査された遺構は古墳時代の溝2条、古代（8・9世紀代）の土坑3基、性格不明遺構3基、溝7条、枕1本、道路状遺構2本、川跡3本（枕列3か所）、中・近世の道路状遺構1本である。

調査区内における遺構の分布状況はおよそ次のとおりとなる。すなわち、調査区中央に川跡3条が重複しながら西流し、その北側に溝・土坑・性格不明遺構などが点在する一方、川跡の南側には道路状遺構が南北・東西方向にはしるといった状況である。上層の出土遺物は少なく遺構に伴うものはわずかである。

2) 記述の方法

検出した遺構は、それぞれ遺構種に関係なく通し番号を付した。また、川跡を除く遺構番号の頭には、遺構種別に略号を組み合わせて、遺構の認識を容易にした。遺構略号は次の通りである。掘立柱建物：SB、柱穴：P、土坑：SK、溝：SD、性格不明遺構：SX。

本文及び観察表に記述するにあたり、遺構の平面／断面形態の表記は和泉A遺跡〔荒川₁₀1999〕の分類に準拠しておこなった（第III章2B参照）。

3) 各 説

a) 古墳時代の遺構

確認面は古代の遺構群と同一であり、覆土も近似するものであったが、出土遺物の年代観から古墳時代と判断した。以下、検出された溝2条について詳述する。

SD9（図版15・22・88）

11B・11Cグリッドに位置する。軸方位はN-36°-Eを指す。規模は全長10m以上、幅約1.5m、確認面からの深さは20～50cmを測る。北側は近・現代の水路に、南側は川跡1にそれぞれ切られる。断面形は基本的に弧状を呈するが、底部には緩やかな起伏が見られる。覆土はⅢ層に近似する褐灰色シルト及び黒褐色シルトで、2層に分層される。本址の性格は、川跡1とSD10をつなぐ水路と思われる。覆土中からは土師器薬片が出土しており、その一部はSD10から出土した破片と接合、図示した（76）。

SD10（図版15・22・88）

11C～11Eグリッドに位置する。軸方位はN-66°-Wを指し、川跡1に平行する。規模は全長27.5m以上、幅1.3～3mを測り、確認面からの深さは5～10cmと浅い。東側は調査区外に延伸し、西側はSD9に合流する。断面形は基本的に弧状を呈するが、底部は細かな凹凸が全面に見られる。溝底の標高は、東端で5.78m、SD9との合流点で5.67mと西流する事がわかる。覆土は黒褐色シルトの単層堆積である。本址の性格は、川跡1やSD9との関連から見て、水路と考えられる。覆土中からは土師器薬片が少量出土している。SD9から出土した破片と接合関係にある（76）。

b) 古代の遺構

上層で検出された遺構群の中核をなす時期である。検出された遺構のうち、最も注目されるのは調査区

南半において検出された2本の道路状遺構である。以下、道路状遺構・土坑・性格不明遺構・溝・川跡の順に詳述する。

道路状遺構1 (図版16・18・81・82)

6B～6Eグリッドに位置する。西北西-南南東 (N-65°-W) を指向する溝と、液板状凹凸面と呼ばれる土坑列で構成される遺構である。

溝 (図版16・18・81・82)

17条検出されている。遺構の規模は、最も大型のSD58が全長17.6m、幅約2m、最も小型のSD57が全長1.18m、幅32cmを測る。確認面からの深さは5～28cmとかなりばらつきがみられる。断面形は小型のものは弧状、大型の物は台形状といった基本形をもつが、溝底の形態は各々凹凸が激しく、水路と考えられるSD2・9・10・181などが比較的滑らかな形態をもつとは対照的である。覆土はⅢ層に近似する褐灰色シルト単層堆積のものが多くを占めるが、Ⅱ・Ⅲ層に近似する黒褐色・褐灰色シルトの2層が堆積するものも少数見られる (SD25・26・56・66・67)。出土遺物としては、SD27・56・58・66やSK30などから須恵器や土師器の破片が出土したほか、SK30では例物桶の破片が1点 (121) 出土している。土器の大半は破片で占められ、図示できたのはSD66で出土した須恵器無台杯2点 (73・74) のみである。

液板状凹凸面 (図版16・18・81)

6Bグリッド (SD17～24)・6Dグリッド (SK54・55)・7Bグリッド (SD12・13・20) に位置する。溝と同じく西北西-南南東に軸線を持つが、6B・6Dグリッドのものはやや北-南方向に偏る (N56°-W)。平面形は楕円形を基本とし、規模は全長65～140cm、幅35～70cm、確認面からの深さ2～10cmを測る。断面形は基本的に弧状を呈するが、底部にはやや凹凸が見られる。覆土はⅢ層に近似する褐灰色シルトの単層堆積である。SD17～19・21～24などでは須恵器や土師器の破片が出土している。その大半は破片で占められ、図示できたのは須恵器横断1点 (72) のみである。

道路状遺構2 (図版17・19・20・84・85)

1D～4Eグリッドに位置する。液板状凹凸面と呼ばれる円形～長円形の土坑が短軸方向に列状に配される遺構である。土坑列の方位はおおよそ北北東-南南西を指向するが、細かくはN-5°-E、N-17°-E、N-20°-Eと微妙に方向を逸えた3種類の遺構方位が認められる。調査区内において検出された土坑数は261基であるが、調査区の南側に向けて更に伸延する状況が確認されている。一方、北側は3・4グリッド境界付近でまばらになり、そのまま消滅する。

土坑列は最小単位が土坑2基で一組になるもの、最大単位は土坑12基で一組になるもので、全長はそれぞれ約1.5m、約7mを測る。最も多くみられる単位は土坑5～8基で一組になるもので、全長は4～5mを測る。土坑の断面形は弧状を基本形態とするもので占められる。底面には凹凸がみられ、丁寧に掘られたというよりは作物の雑跡のような印象を受けるものである。覆土はすべてⅢ層に近似する褐灰色シルトの単層堆積である。なお、遺物は出土していない。

土 坑

SK1 (図版13・22・86)

18Dグリッドに位置する。平面形は不整形を呈し、長軸方位はN-59°-Eを指す。平面規模は東西1.2m、南北96cmを測り、確認面からの深さは9cmと浅い。断面形は弧状を呈する。覆土はⅢ層に近似する褐灰色シルトの単層堆積である。本址の性格は不明である。なお、遺物は出土していない。

SK3 (図版13・22・86)

16C・17Cグリッドに位置する。平面形は不整形を呈し、長軸方位はN-64°-Wを指す。平面規模は東西1.5m、南北1.15m、確認面からの深さは22cmを測る。断面形は基本的に台形状を呈するが、底部からの立ち上がりは緩やかである。覆土はⅢ・Ⅳ層に近似する褐色や灰色シルトで、2層に分層される。本址の性格は不明である。なお、遺物は出土していない。

SK5 (図版13・22・86)

16Cグリッドに位置する。平面形は不整形円形を呈し、長軸方位はN-28°-Eを指す。平面規模は南北106cm、東西60cm、確認面からの深さは10cmを測る。断面形は基本的に台形状を呈するが、底部は全体に起伏が見られる。覆土はSK1と同じく褐色シルトの単層堆積である。本址の性格は不明である。なお、遺物は出土していない。

SX7 (図版14・22・86)

15B・15Cグリッドに位置する。平面形は不整形円形あるいは溝状を呈する。長軸方位はN-20°-E、平面規模は南北7.4m、東西2.55mを測り、確認面からの深さは2~10cmと浅い。断面形は浅い弧状を呈し、底部は細かな凹凸面を形成する。覆土はⅢ層に近似する褐色シルトの単層堆積である。本址の性格は不明である。なお、遺物は出土していない。

性格不明遺構

SX51 (図版14・22・86)

14D・14E・15Dグリッドに位置する。平面形は不整形円形あるいは溝状を呈する。長軸方位はN-28°-W、平面規模は南北15.5m以上、東西約4mを測る。調査区東壁に向かって、幅は50cm程度に細くなり純然たる溝状を呈する。確認面からの深さは1~7cmと非常に浅く、断面形は浅い窪み状を呈する。底部には、ちょうど泥濘に付いた足跡のような直径10cm前後の細かな凹凸が全面に見られる。覆土はⅡ層に近似する黒褐色シルトの単層堆積である。土中に含まれる鉄分の酸化により、色調はやや茶味がかかる。本址の性格は不明である。なお、遺物は出土していない。

SX52 (図版14・22・87)

15E・16Eグリッドに位置する。平面形は不整形円形あるいは溝状を呈する。長軸方位はN-19°-E、平面規模は南北約6m、東西1.7m、確認面からの深さは5~12cmを測る。断面形は浅い弧状を呈し、細かな凹凸が全面に見られる。覆土はⅢ層そのものであり、かかる土層の堆積によって埋没した事がわかる。本址の性格は不明である。なお、遺物は出土していない。

溝状遺構

SD2 (図版13・22・87)

18B・18D・19C・19Dグリッドに位置する。軸方位はN-78°-W~N-104°-Wと、概ね西を指向する。規模は全長28m以上、幅約25cm、確認面からの深さは10~15cmを測る。平面・断面とも形態や寸法のばらつきは少ない。断面形は半円形を呈し、底部の形状は比較的滑らかである。溝底の標高は5.69~5.75mと、若干の比高差が見られるが、流下方向を示すような偏差は見られない。覆土はⅢ層に近似する褐色シルトの単層堆積である。本址の性格は水路の可能性が考えられる。なお、遺物は出土していない。

SD4 (図版13・22・87)

16C・17C・18C・19Dグリッドに位置する。軸方位は南半部分がN-15°-E、北半部分がN-64°-Eを指す。規模は全長35m、幅約1.65m、確認面からの深さは3~10cmを測る。断面形は浅い弧状を呈し、底部にはところどころ細かな凹凸が見られる。覆土はⅢ層に近似する褐色シルトの単層堆積である。本址の性格は不明である。なお、遺物は出土していない。

SD6 (図版14・22・87)

14C・15Cグリッドに位置する。軸方位はN-19°-Eを指す。規模は全長3.2m、幅75cm、確認面からの深さは4~6cmを測る。断面形は弧状を呈し、底部にはところどころ細かな凹凸が見られる。覆土はⅢ層に近似する褐色シルトの単層堆積である。本址の性格は、SD8と直交方向で対になるものと見られる事から、何らかの区画的性格を有する可能性が考えられよう。なお、遺物は出土していない。

SD8 (図版14・22・87)

15Cグリッドに位置する。軸方位はN-65°-Wを指す。規模は全長5.75m、幅約50cm、確認面からの深さは3~8cmを測る。断面形は弧状と台形状の中間的な形態を呈する。底部にはところどころ細かな凹凸が見られる。覆土はⅢ層に近似する褐色シルトの単層堆積である。本址の性格は、SD6と直交方向で対になるものと見られる事から、何らかの区画的性格を有する可能性が考えられよう。遺物は出土していない。

SD53 (図版15・22・88)

9C・9D・10C・10Dグリッドに位置する。平面形はL字形を呈し、長軸方位はN-24°-Eを指す。規模は長軸方向3.2m、直交方向約1mを測り、確認面からの深さは5~10cmと浅い。断面形は弧状を呈し、底部に起伏や凹凸は見られない。覆土はⅢ層に近似する褐色シルトの単層堆積である。本址の性格は不明である。遺物は出土していない。

SD181 (図版15・22・88)

10C・11Cグリッドに位置する。軸方位はN-79°-Eを指す。規模は全長3.4m以上、幅約40cm、確認面からの深さは約10cmを測る。川跡1に切られる。断面形は弧状を呈し、底部に起伏や凹凸は見られない。覆土はⅢ層に近似する褐色シルトの単層堆積である。本址の性格は基本的には不明であるが、川跡1との関連から、水路の可能性が考えられる。遺物は出土していない。

川 跡

調査区中央(8~10グリッド)に位置する。調査区を横断する川跡1に切られる形で川跡2が北流し、川跡2から派生するような形で川跡3が形成される。

川 跡 1 (図版15・23・89)

西北西(N-64°-W)に向かって流下する川跡である。川幅は3.5~4.8m、確認面からの深さは40~60cmを測る。断面形は弧状もしくは台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトや灰色シルトで構成され、10層に分層される。覆土中には多量の植物遺体が含まれるほか、河床には流木が多く見られる。覆土上層からは須恵器や土師器といった土器類のほか、田下駄(122)などが出土している。土器は遺存状態の良好な須恵器無台杯2点(77・78)、土師器裏底部片1点(79)を図示した。

川 跡 2 (図版15・16・23・89)

北北西(N-18°-W)に向かって流下する川跡で、10Cグリッドで川跡1に切られる。川幅は2.8~4.8m、確認面からの深さは35~70cmを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は灰色シルトや灰色砂で構成され、

12層に分層される。部分的に多量の植物遺体を含む。覆土中からは須恵器や土師器が少量出土し、比較的遺存状態の良好な須恵器無台杯5点(80~84)、土師器甕底部片2点(85・86)を図示した。

河床では、方形に杭を配する遺構が3か所で検出された。杭の上端が本来どのあたりまで立ち上がるのかは不明であるが、本址の性格については橋脚であろうと思われる。以下、杭列毎に詳述する。

杭列 1 (図版15・24・90)

10C・10Dグリッドに位置する。川筋に直交する形で3本を1列とし、川筋方向に3列が組み合わさって一つの遺構を構成する。杭の間隔は70~85cm、杭列の間隔は約1mを測る。杭は先端を尖らせた丸太杭が用いられる。上端は河床より5~30cm上方で欠失しており、遺構確認面まで立ち上がるものは見られない。

杭列 2 (図版15・24・90)

9Dグリッドに位置する。杭列1と同様の遺構構造を採るが、川筋方向に1本ずつ杭が多く、逆に中心の杭が見られない。杭の間隔は55~65cm、杭列の間隔は0.8~1.3mを測る。杭は先端を尖らせた丸太杭が用いられる。上端は河床より15~30cm上方で欠失しており、遺構確認面まで立ち上がるものは見られない。

杭列 3 (図版15・24・90)

8D・9Dグリッドに位置する。杭列1と同様の遺構構造を採るが、川筋方向東側では杭が1本少ない。杭の間隔は55~65cm、杭列の間隔は約1mを測る。杭は先端を尖らせた丸太杭が用いられる。上端は河床より5~15cm上方で欠失しており、遺構確認面まで立ち上がるものは見られない。

川跡 3 (図版15・23・90)

南南東から流れ、9Dグリッドで川跡2に合流する。川幅は2.4~3.2m、確認面からの深さは60~90cmを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は灰色シルト・灰色砂で構成され、10層に分層される。川底に近い7層中には植物遺体が多く含まれる。下層で検出されたSD1218(2号円形周溝状遺構)とは平面的に重複しており、下層の遺構の影響を受けて窪地状となった部分に流路が形成された可能性が考えられる。覆土上層からは須恵器や土師器が少量出土し、遺存状態の比較的良好的な須恵器杯2点(87・88)を図示した。

c) 中・近世の遺構

当該期のものとして、道路状遺構1本を調査区南半において検出した。古代の道路状遺構と比べ、遺構方位や堆積土層が異なる。以下、詳述する。

道路状遺構3 (図版17・21・82・83)

1B・2B・2C・3C・3D・4D・4E・5D・5Eグリッドに位置する。東北東-南南西(N-62°E)に軸線を持つ溝2条と、土坑列・小溝列(波板状凹凸面か)などで構成される遺構である。

例 溝

SD151 (図版17・21・83)

SD159と平行する溝で、南西側では溝が消滅し、10~30cmの間隔で下記土坑列が展開する。溝の規模は全長37.5m、幅75cm、確認面からの深さは10~30cmを測る。断面形は台形状を基本とするが、底部からの立ち上がりは緩やかである。底部には直径約50cm、深さ約10cmの土坑状の掘り込みが30cm前後の間隔で設けられる。覆土はⅢ・Ⅳ層に近似する褐灰色・灰色シルトの2層が堆積する。本址の性格は道路側溝と考えられる。なお、遺物は出土していない。

2 上層の調査

SD159 (図版17・21・83)

SD151と平行する溝である。規模は全長57m以上、幅1.8～4.6m、確認面からの深さは20～40cmを測る。断面形は弧状を基本とするが、底部は起伏が激しい。特に4Dグリッドでは直径約2m、深さ約40cmを測る落ち込みが見られる。覆土はⅡ層に近似する黒褐色シルトを基本に、灰色シルト、暗灰色砂などで構成され、5層に分層される。本址の性格は道路あるいは道路側溝と考えられる。覆土中からは土師器や須恵器の破片が出土したが、いずれも細片であり図示できなかった。

土坑列 (図版17・21・82・83)

SD34～46・48・152・154・155・156・158で構成される遺構群で、SD151の南西側延長に展開する。平面形は概ね楕円形を呈するが、SD154～156のように溝状を呈するものも見られる。規模は楕円形のものが全長35～100cm、幅25～60cm、溝状のものが全長1.1～3.4m、幅35～85cmを測る。確認面からの深さは3～22cmで、10cm前後の深さのものが大半を占める。断面形は弧状あるいは台形状を基本とするが、底部は細かな凹凸が多く、丁寧に掘られたものは皆無である。覆土はⅡ層に近似する黒褐色シルトを基本とするものと、Ⅲ層に近似する褐色シルトを基本とするものに大別され、それぞれ単層堆積のもの2層に分層されるものが見られる。本址の性格は、一見、波板状凹凸面ともみれるが、SD151との関連から幅員を規制する側溝的な性格を有するものとみられる。また、SD151の底部に設けられている土坑状の掘り込みとの類似性から、上部構造が削平により失われている可能性も否定できない。なお、遺物は出土していない。

小溝列 (図版17・21・82・83)

SD47・49・50・157で構成される遺構群で、SD151の西側に展開する。遺構の短軸方位はN-72°Eと、溝や土坑列と同様の軸方位を指す。遺構規模は、全長が最も小さいSD157が1.35m、最も大きいSD47で4.7m以上、幅は75～110cmを測る。確認面からの深さは5～16cmと概して浅い。断面形は弧状を基本とするが、底部には細かな凹凸が見られる。覆土はⅡ層に近似する黒褐色シルトを基本とし、単層のもの、褐色シルトと2層に分層されるものが見られる。本址の性格は波板状凹凸面の可能性が考えられる。遺物は出土していない。

B 遺物

1) 概要

上層の調査で出土した遺物は平箱に3箱で、古墳時代から近・現代に及ぶ。このうち主体をなすのは古代の須恵器、土師器である。ほかに古墳時代、中世、近世以降の遺物が若干認められる。木製品は40点出土しており、杭、田下駄などがある。遺物の分布状況は道路状遺構1や川跡にある程度まとまって出土する傾向にあるものの、遺構からの出土は全体的に少ない。遺物包含層(Ⅲ層)は後世の土地改良等によってかなりの削平を受けており、ところによっては遺構確認面(Ⅳ層)にまで及ぶ。よって遺物は包含層が残存しているところから出土している状況がみとれる。

2) 古墳時代の土器

SD9・10 (図版38-76・図版105)

76は土師器甕である。最大径が体部上半にあり肩が若干張る。口縁部はくの字状に外反し、口縁端部

はわずかに面取りされる。底部は平底である。口縁部はハケの後ナデ、体部外面は斜め方向のハケ、内面上半は板状工具によるナデ、下半は横方向のハケである。口縁部から体部外面にかけて煤が付着する。

川 跡 1 (図版38-79・図版105)

土師器甕(79)がある。体部内外面に縦方向のハケが施される。胎土に海綿骨針を含み、焼成は不良である。

3) 奈良・平安時代の土器

a) 遺構出土土器

道路状遺構1 (図版38-72・73・図版105)

72はSD21~24・確認調査トレンチ77Tから出土した須恵器横瓶である。口縁部は外傾し、端部は外側へ突出する。体部外面にはタタキ目、側端部にはカキ目、体部内面には同心円状の当て具痕が残る。口縁部内面に薄く自然釉がかかる。両面閉塞である。73はSD66出土の須恵器無台杯で器壁は薄く、口縁端部は尖り気味である。器高は低いと推定される。

道路状遺構3 (図版38-74・75・図版105)

74・75はSD159から出土した須恵器無台杯である。74の口縁端部は丸みをおびる。胎土は小礫を多く含み粗い。75の胎土はやや精良で焼成も良好である。

川 跡 1 (図版38-77・78・図版105)

須恵器無台杯(77・78)がある。77・78は器高が高く、底部は厚めである。77は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部はわずかに外反する。底部外面にヘラ記号「×」がある。還元炎焼成であるが暗褐色を呈し、硬質である。78は口縁端部が尖り気味である。内面に自然釉、降灰がみられ灰オリブ色を呈する。胎土には小礫が多く含まれる。

川 跡 2 (図版38-80~86・図版105)

須恵器無台杯(80~84)、土師器長甕(85・86)がある。80は体部が大きく開き、身は浅い。81は器壁が薄く、ロクロ回転方向は左である。胎土は精良で白色小粒子を多く含む。焼成は良好である。佐渡小泊産と推定できる。82は器壁が薄く、体部はやや大きく外側に開く。身は浅い。83は口縁端部が丸みをおびる。胎土は精良である。佐渡小泊産の須恵器無台杯であろう。84は身が浅い無台杯と推定できる。85は体部外面に斜め方向のハケが施され、煤が付着する。86は体部外面が縦方向のハケ、内面は斜め方向のハケで粘土紐の接合痕が残る。

川 跡 3 (図版38-87・88・図版105)

須恵器無台杯(87・88)がある。87の底部は水平に近く、体部から口縁部にかけて直線的である。口縁端部は丸くおさまる。焼成はやや不良である。88は口縁端部が丸みをおびる。身は浅いと推定できる。

b) 包含層出土土器

Ⅱ 層 (図版39-89~91・図版105)

須恵器無台杯(89~91)がある。89は体部から口縁部にかけて直線的で、口縁端部はやや尖り気味である。90は全体に器壁が厚く、体部が外側へやや大きめに開く。胎土は小礫が多く粗い。焼成は不良で軟質である。91は底部に厚みがあり、体部にかけて丸みをもつ。胎土は小礫を多く含み粗く、器面はざらつく。

Ⅲ 層 (図版39-92~101・図版105)

須臾器無台杯 (92~94)・有台杯 (95)・長頸瓶 (96)・横瓶 (97・98)、土師器長甕 (99~101)がある。92は器高が高く、やや直立気味に立ち上がる。胎土は粗いが焼成は良好である。93は器壁が薄く、底部は水平である。体部は外側にやや開き、口縁端部は丸みをおびる。底部はヘラ切り後にナデが施される。胎土は精良で焼成は良好である。94は長頸瓶の頸部である。口縁部と体部を欠くが、口縁部は外反すると予想される。内外面に自然軸がかかる。胎土は精良で非常に硬質である。97・98は横瓶である。21は口縁部で端部が外側へ突出し、内面に自然軸がかかる。98の口縁部は外傾し、端部は外側へ突出する。体部外面はタタキ目、側面にはカキ目が廻り、体部内面には当て具痕が残る。口縁部内外面に自然軸がかかる。99は長甕である。口縁部は厚みがあり、くの字状に外反する。頸部に1条の沈線が廻り、体部内外面にはカキ目が施される。胎土は精良である。100の体部外面は底面までケズリが施され、内面はナデである。101は底部外面に粘土紐の貼り付けが確認できる。胎土は小礫を多く含む粗い。焼成は不良である。

4) 中世の土器 (図版39-102~105・図版106)

中世の土器は、調査区内に散在している。珠洲焼が6点出土しているが、すべてⅡ層からの出土である。このうち4点を図示した。

102は甕の口縁部である。103・104は甕の体部で外面は平行タタキ目、内面は当て具痕が残る。105は壺あるいは甕の体部片で外面が摩耗していることから研磨具に転用された可能性がある。

5) 木製品

上層では杭・箱・田下駄など総数40点の木製品が川跡・土坑から出土している。

杭 列 1 (図版40-106~110・図版106)

杭列1から10点の杭が出土している。木取り方法は、図化しなかった杭185が割材、ほかは全て丸材が使用されている。法量は丸材の直径が7.5~11.4cm、平均9.1cm、割材が幅5.2cm、厚さ4.5cmを測る。先端部切断面は、106~108の直径8.9cm未満の杭が片面のみを削っているのに対し、109・110の直径8.9cm以上の杭と割材は端部全面を削る加工が施されている。

杭 列 2 (図版40-111~115・図版106)

杭列2から10点の杭が出土している。木取り方法は、図化しなかった杭192が割材、ほかは全て丸材が使用されている。法量は丸材の直径が4.3~12.8cm、平均9.3cm、割材は幅6.4cm、厚さは3.3cmを測る。先端部切断面は、112の直径10.0cm未満は片面だけを削り、111・113~115の直径10.0cm以上のものと割材は、端部全面を削る加工が施されている。

杭 列 3 (図版40-116~120・図版106)

杭列3から丸材の杭8点が出土している。法量は直径7.1~8.7cm・平均8.0cmである。先端部の加工に規則性はなく、116・120の片面だけ削り加工を施しているもの、117~119の2面に削り加工を施しているものに分けられる。

SK30 (図版40-121・図版106)

削り物種と思われる木製品(121)が1点出土している。木取り方法は、縦木取りの丸材が使用されている。

樹種同定は行っていない。器形は銅板の胴部が膨らむ太鼓形を呈し、口縁内部には一段厚い部分がある。銅板の下側に孔が存在するが、廃棄後に開けられた可能性が高い。高さ26.9cm、厚さ1.6cmを測り、推定胴部径は約20.0cmである。上部には蓋を緊縛するための紐孔突起が認められる。紐孔は横方向に穿たれているが、突起の位置が口縁端と同じ高さであることから、置き蓋もしくは栓蓋との併用が考えられる。紐孔突起が横に設けられている容器は、弥生時代あるいは古墳時代前期より新しい時期の特徴とされる。底部の形態は不明だが、一本作りか、別材の底板をはめる桶形容器と考えられる。

川跡 1 (図版40-122・図版106)

田下駄が1点出土している。使用によるスレが激しいが、ほぼ1/2が残存していた。

足板・足枠・踵板が一体となって製作されており、結縄用の孔が足枠中央に認められる。湿田用の板型田下駄と称されるものである。木取り方法は割材の横木取りで、柁目である。長さ26.9cm、幅は現存長10.8cm、足枠の高さ5.3cmを測る。

3 下層の調査

A 遺構

1) 概要

下層で確認された遺構は円形周溝状遺構2基、掘立柱建物3棟、土坑24基、溝8条、柱穴26基、性格不明遺構14基である。調査区中央に位置する川跡は、上層の調査で検出された川跡1と同様のものであり、この川跡が古墳時代前期から近世に至るまで、連続と同じ場所を流れていたことがわかる。下層の遺構は、川跡を中心に北側約15m、南側約40mの範囲に集中し、この範囲の外側では遺構・遺物がほとんど検出されていない。また標高も遺構集中範囲をピーク(5.1m)として、南北側ともに下降する。調査区内での比高差は最大40cmを測る。

遺構覆土は地山の色調に近似しており、検出困難なものが多かった。したがって確認面をある程度まで下げて検出できた遺構や、遺物・炭化物の広がり、わずかな色調の差で認定した遺構が大半を占める。遺構の中にはXa層を掘り込むものもあるが、上記の理由により、Xb層で確認したものも少なくない。また人力調査、平面測量後の重機による最終確認で見つかった柱も多数ある。ここでは円形周溝状遺構、掘立柱建物、Xa層上面で検出された遺構、Xb層で検出された遺構の順で評述する。なお、図版25にあるSK1003・SK1004・SK1009・SK1010・SK1014～SK1017・SK1050・SK1051は現代の用水路に伴うコンクリート杭打設時に遺物包含層が落ち込んだものである。この中には遺物が多数含まれていたため、現地調査では遺構番号を付したが、正確には遺構として認定できないものである。よって、特に記述は行わなかった。遺構の平面・断面形態などの記述の方法については、第IV章2Aに準じた。

2) 各説

円形周溝状遺構

川跡の南側において、2基の円形周溝状遺構が検出された。調査区中央部の西側に1号円形周溝状遺構があり、約3m東側に2号円形周溝状遺構が東西に並んで位置する。確認面はXa層である。本址は基本的に周溝を伴う建物と理解される。周溝内にはほかに土坑、炭化物の集中範囲、柱穴などが存在する。

1号円形周溝状遺構 (図版12・26・28・78・91~93)

8 B・8 C・9 B・9 Cグリッドに位置する。周溝 (SD1201) と建物 (SB1256)、炭化物が集中する浅いくぼみ (SX1221・SX1229)、溝状の掘り込み (SX1230)、柱穴 (P1258・P1260・P1262~P1267) で構成される。周溝は外径約12.0m、内径約9.7mを測る。東西に比べて南北が若干長く、平面形は隅丸方形に近い形状を呈する。長軸方向はN-10°Eを指す。周溝東側の中央付近は1.2mほど途切れて陸橋状となることから、出入口にあたと推測される。周溝の幅は80~210cm、深度は15~30cmを測り、出入口付近で最大幅・最大深度を確認できる。底面は平坦で、立ち上がりは全体的に緩やかである。覆土は4層に分かれ、レンズ状堆積をなす。4層は地山に似た灰色粘土で、周溝南西隅では炭化物の集中が検出された。この炭化物層上面で壺の大破片がまとめて出土しているほかは、細片の遺物が大半を占め、出土状況も周溝全体に均一である。出土遺物のほとんどは最下層の4層に含まれる。器種は甕 (123)・壺 (124~129・131)・鉢 (130)・器台 (132・133) が出土しており、小型の壺や器台などが多い傾向にある。舟形木製品 (436) は出入口部分の南側周溝内、4層底面付近から正位で出土している。

周溝の内部は平坦面をなし、面積は約68㎡を測る。周溝の有無については不明である。SB1256はこの平坦面の中央部に位置する、柱間1間×1間の建物である。方向は周溝と同じくN-10°Wを向き、面積は約4.8㎡を測る。柱間は東西両側柱列2.15~2.20m、南北側柱列1.85~2.20mを測り、南側の柱間が狭いため平面形は台形状を呈する。柱はP1202のみに遺存し、径7.2cmである。P1203は柱痕が確認できた。柱穴は確認面からの深さが9~45cmとばらつき、底面標高は4.40~4.82mを測る。浅い柱穴は下層部分を確認しえなかった可能性もある。柱穴の平面形は径20~30cmの円形または楕円形、断面形は漏斗状またはU字状を呈する。覆土はいずれも炭化物を含む灰色シルトで、出土遺物はない。

SX1221はP1248の西側、SX1229はP1203とP1248の中間に位置する。SX1221・SX1229は浅いくぼみをなし、径が大きく木炭状のものから、微粒子状のものを多量に含む炭化物層が堆積する。これらの炭化物層と建物を構成する柱穴の確認面にはさほどの標高差はみられない。SX1221は炭化物層直上で多数の土器 (134・135) と魚骨が検出された。SX1229は床部で被熱によると思われる茶褐色土が部分的に確認されており、建物に伴う炉の可能性が考えられる。SX1230はP1244の南側に位置する溝状の掘り込みで、砂利・小礫を多量に含む黄灰色粘土が堆積する。以上の点から、本址は周溝を伴う平地式建物である可能性が考えられる。

また、建物を構成する柱穴のほかに、多数の柱が検出された。SB1256の西側にP1262・P1263・P1264があり、P1262・P1263は隣接する打ち込み式の柱である。P1264は柱の最下部のみが確認でき、掘り方の有無については不明である。底面標高は4.40~4.45mを測る。P1262・P1263・P1264を結んだ軸は周溝及び建物の軸と同方向を示す。出入口部分ではP1258・P1260とP1266・P1267があり、いずれも柱を伴う。P1258・P1260は周溝の底面より検出された。P1266・P1267は出入口の東側に位置する。これらの柱間は南北3.40m、東西1.80mないしは1.70mで、間隔がある程度一致する配列である。底面標高は4.30~4.43mと概ね揃い、平面形も長方形になることから1間×1間の建物となる可能性がある。またP1265は北側柱列の同軸上にあり柱間も1.50mを測る。これと対になる南側の柱は検出されなかったが、建物を構成する柱とも考えられる。これら柱穴の覆土は灰色シルトで地山に近い。なおP1262~P1267は重機による最終確認で見つかった柱である。

2号円形周溝状遺構 (図版12・26・29・78・94~96)

8D・8E・9D・9Eグリッドに位置する。周溝 (SD1218) と掘立柱建物 (SB1259)、土坑 (SK1240・

SK1246)で構成される。周溝は外径約15.6m、内径は南北で約11.2m、東西で約9.3mを測る。軸線は南北にやや長く、長軸方向はN-8°-Eを指す。平面形は1号円形周溝状遺構と同じく隅丸方形に近い形態を呈する。周溝は途切れることなく全面する。出入口に相当する施設の痕跡は検出されなかった。周溝の幅は1.6~4.0m、深度は20~45cmを測り、東側が特に幅広で深い。底面は平坦で、立ち上がりは全体的に緩やかである。覆土はレンズ状堆積をなすが、2層に分かれる西側については、層が厚いことから人為的な埋土である可能性も考えられる。東側においては、土層観察によって周溝内側に周溝の痕跡が確認された。周溝の土層堆積状況は内側部分から埋まっていることが看取できることから、周溝盛土の流れ込みがあった可能性が考えられる。また4層より上層はレンズ状堆積をなしており、これが堆積した時期には遺構自体が廃絶していたか、周溝が機能していない可能性が考えられる。遺物は1号周溝が全域で均一に出土するのに対して、本址では復元率の高い大破片が東側(8・9Eグリッド)に集中し、周溝西壁つまり周溝内側から廃棄されている状況が確認された。また周溝内の堆積層は大きく2層の炭化物層に分かれ(6・7層、12・13層)、各々多量の土器を含む。この状況は、出土遺物が漸次堆積していったのではなく、少なくとも2回、あるいはそれ以上の回数に分けて、周溝中に廃棄されたことを示すものと推測される。遺物は甕(147~158)、壺(159~182・185)、鉢(183・184)、高坏(186~196)、器台(197~206)、土製品(481・482・486)が出土している。

周溝の内側は平坦で、南北に若干長い隅丸方形を呈する。面積は約87㎡を測る。SB1259は円形周溝内の中央部に位置する、桁行1間(3.2~3.3m)×梁間1間(3.1m)の掘立柱建物である。方向は周溝と同じくN-8°-Eを指し、面積は約10.2㎡である。柱間寸法は東側桁行3.2m、西側桁行3.3m、梁間3.1mを測る。建物を構成する柱穴のうち、P1253は規模が他と比較して極端に小さく、浅いことから床束柱と推定され、本建物は高床構造の可能性もある。またP1250、P1252は棟持柱の可能性が窺える。柱はP1252・P1253以外で遺存する。柱の径は17.3~20.9cmを測り、ほぼ同一規格で、P1250以外はすべてスギの材材が用いられる。礎板はP1250・P1253以外の各柱穴、つまり建物の四隅と内側に立つP1252の底面に設けられ、長さ26.9~38.8cm、厚さ3.3~6.6cmを測る。これは柱の沈下を防ぐために用いられたものと考えられ、本遺跡検出のほかの掘立柱建物とは異なった構造が窺える。確認面からの深さはP1253が11cmと浅いほかは47~68cmを測る。底面標高はP1253が4.73mと最も高く、P1250が4.15mで最も低い。ほかは4.24~4.38mを測る。柱穴の平面形はP1253のみ径15cmと小さく、柱や礎板が残る柱穴は径30~60cmの円形または楕円形を呈する。断面形は漏斗状またはU字状を呈する。柱穴の覆土は概ね灰色粘土、灰色シルトで炭化物を含む。柱穴からの出土遺物はない。

SK1240は建物の南東隅P1261に重複して位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。長径1.5m、短径1.1m、深度53cmを測り、急斜度で立ち上がる。覆土は14層に分かれ、レンズ状堆積をなす。この覆土は土質から上層、下層の2つに大別できる。1~9層は灰色シルトを基本とし、10~14層は炭化物を多量に含む黒色もしくは黒褐色粘土である。SK1240とP1261は重複しているが、両遺構の覆土は近似していること、P1261がSK1240の西端に位置していることから、両遺構の新旧関係については不明と言わざるを得ない。遺物は遺構上面で甕(207・208)、完形の壺(211)が横位で出土している。ほかに甕・壺(210)・器台(212)が出土している。

SK1246は円形周溝内の西側に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。長径1.6m、短径1.2m、深度25cmを測り、緩やかに立ち上がる。周境と考えられる層の下から掘り込まれており、建物や周溝よりも古いと考えられる。覆土は4層に分かれ、1~3層までは灰色シルト。4層は灰色粘土で、3・4

層は炭化物をわずかに含む。遺物は壺(213)が出土している。

掘立柱建物

側柱構造の掘立柱建物3棟が検出された。SB1042は川跡の北側、SB1136・SB1137は1号円形周溝状遺構の南西に位置する。すべてXb層で検出された。なおSB1136・SB1137の柱穴はSX1109発掘後の検出である。この2棟の主軸は円形周溝状遺構と直交に近い。また2棟は重複関係にあるが、柱穴の切り合い等は全く新旧関係は不明である。

SB1042 (図版12・25・30・96)

11B・11Cに位置する。桁行2間(3.3~3.4m)×梁間1間(3.3m)の側柱構造で、横持柱(P1033・P1038)を有する掘立柱建物である。方向はN-69°-Wを指し、川跡と平行に近い。面積は約11.2㎡を測る。P1038は柱筋から柱1本程度、P1033は柱筋より1.4mほど外側に位置する。柱間寸法は桁行が1.6~1.7mを測り、ほぼ等間隔に配置される。柱はP1031・P1033以外遺存する。柱の径は側柱が12.9~18.1cmを測るのに対し、P1038のみ9.2cmと細めである。柱穴は確認面からの深さがP1033のみ32cmと浅く、ほかは44~65cmである。底面標高はP1033のみ4.68mと高いほかは4.31~4.48mを測る。これらのことから横持柱は側柱よりも規模が小さいことが窺える。柱穴の平面形は径20~40cmの円形、断面形はU字状または漏斗状を呈し、覆土は概ね炭化物を含む灰色シルトである。P1031・P1033では柱が腐食によって土壌化したとみられる土層が堆積する。遺物は出土していない。

SB1136 (図版12・26・27・31・97)

7B・8Bに位置する。桁行3間(6.8~6.9m)×梁間1間(4.1~4.2m)の側柱構造の掘立柱建物である。方向はN-83°-W、面積は28.0㎡を測る。桁行の柱間寸法は2.1~2.5mを測り、ばらつきがみられる。柱はP1122以外で遺存する。柱穴は確認面からの深さ43~70cmを測り、底面標高は4.25~4.45mと概ね揃う。P1122からは薄い板状木材を2重にした礎板、P1123は薄い板状木材が3枚ほど並ぶ礎板状のものが検出された。P1124は柱に近接して径5cmほどの打ち込み式の杭が検出されている。柱穴の平面形は径30~50cmの円形または楕円形、断面形は漏斗状を呈する。柱穴の覆土は、柱の上部が土壌化した土層およびSX1109の3層に近似した灰色シルトが堆積するものが多い。SB1037と重複するが新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

SB1137 (図版12・26・27・31)

7B・8Bに位置する。桁行1間(4.5~4.7m)×梁間1間(3.3~3.4m)の掘立柱建物である。方向はN-85°-W、面積は15.2㎡を測る。柱間寸法は桁行で4.5mを超える。柱が遺存するのはP1133のみで、径は8.8cmを測る。柱穴は確認面からの深さ20~59cm、底面標高は4.33~4.61mとばらつきがみられ、特にP1221は浅い。柱穴の規模は、重複するSB1036に比して小さい。覆土はP1121・P1125・P1127がSX1109の3層に似た単層堆積であることから、柱が抜き取られた可能性も考えられる。SB1036と重複するが新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

SX1109 (図版12・26・27・31・96・97)

7Bに位置する。炭化物と焼土が薄く堆積する遺構である。Xa層で確認した。南側はSD1113によって切られる。北側の範囲は不明である。覆土は周囲の土質(基本土層Xa層)とは異なり、全体的に固くしまる。また、粘性はなく砂質が強い。1層は炭化物を多量に含む褐色焼土で、南北2.4m、東西1.9mの範囲で検出された。わずかな掘り込みが確認できる。2層は径1mm程から1cm大の多量の炭化物と、若干の焼土

を含む灰色シルトで、Xa層とはほぼ同レベルである。3層は炭化物、砂利、灰色砂、透明なガラス状の粒子を多く含む灰色シルトである。本址とSB1136・SB1137の柱穴とは確認面で約10～20cmの高低差があるが、焼土の範囲がこれらに重複することから、建物に伴う施設である可能性が考えられる。遺物は2・3層からの出土が多く、小片が多い。器種は壺(214・215)・鉢(216)がある。また本址の範囲全体から魚骨が検出されている。

Xa層上面で検出の遺構

Xa層上面で検出された遺構は、11・12B・C・D・Eに点在する。炭化物を多量に含む黒褐色土の上面に、土器がまぎらって出土するものが多い。これらは明確な掘り込みが確認できず、浅いくぼみに炭化物や小礫等を多量に含む土層が堆積するものである。なお川跡の南側に位置するSD1113はK層から掘り込まれることから、時期的には新しいと想定されるが、最下層から遺物が出土しているため図示・記述する。

性格不明遺構

SX1001・SX1004 (図版12・25・32・97)

13Cに位置する。炭化物を多量に含む黒褐色土の広がり、明確な掘り込みをもたない。平面形はSX1001が円形、SX1004が楕円形を呈する。SX1001は長径1.1m、短径95cmを測り、長軸方向はN-74°Eを指す。小礫・炭化物を多量に含む黒褐色シルトが薄く広がる。遺物は小片が散在する。SX1004は長径1.8m、短径1.2mを測り、長軸方向はN-78°Eを指す。炭化物を多量に含む黒褐色シルトの上面から、壺(217・218)が横位で出土している。

またSX1001に近接して壺が3個体(219～221)出土している。これらはSX1001・SX1004が検出されたXa層上面から出土し、標高もほぼ同じであることから、概ね同時期の所産と考える。土器の下面に掘り込み等は検出されていない。

SX1008 (図版12・25・32・97)

12Cに位置し、平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。長径3.7m、短径2.9m、深度16cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-28°Wを指す。覆土は1層が炭化物や小礫を多量に含む褐色灰色シルト、2・3層が堆山近似の灰色シルトである。平面プランは、遺物の取り上げ後に精査して確認できたが、覆土自体が堆山と近似し、断面ともに判然としない。自然の落ち込みである可能性も考えられる。また小範囲ではあるが焼土と思われる黄褐色土が検出されており、熱を受けている可能性が高い。窪み状のところで、何かを燃やして土器を壊した行為が想定される。1層及び2層上面では壺(222～228)が個体ごとにまぎらって出土している。

SX1019 (図版12・25・32・98)

11Dに位置し、黄褐色粘土ブロックや炭化物を少量含む黒褐色シルトの広がりである。明確な掘り込みをもたない。平面形は不整楕円形を呈する。長径67cm、短径50cmを測る。長軸方向はN-3°Wを指す。魚骨片が多量に検出された。遺物は出土していない。

SX1023 (図版12・25・32・98)

11D・12Dに位置し、平面形は不整楕円形、断面形は弧状を呈する。長径1.4m、短径81cm、深さ6cmを測る。長軸方向はN-3°Wを指す。覆土は2層に分かれ、1層は炭化物を少量含む黒褐色シルト、2層は黄褐色粘土や炭化物を少量含む黄褐色シルトである。遺物は出土していない。

SX1024 (図版12・25・32・98)

11D・12Dに位置し、平面形は円形を呈すると推定される。南側は開渠のために確認できなかった。深度は9cmを測る。覆土は2層に分かれ、1層は黄褐色粗砂粒を多量に含む黄灰色シルトである。遺物は出土していない。

SX1034 (図版12・25・32・98)

11D・12Dに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。長径1.4m、短径92cm、深度11cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-26°-Eを指す。覆土は単層で、炭化物や黄褐色粘土を多量に含む灰色シルトである。近接して窰 (229~233) が出土している。

溝状遺構

SD1113 (図版12・27・32・98)

7B・7Cに位置し、8Cより北東に伸びると推測される。Ⅸ層から掘り込まれ、時期的には新しいと考えられる。覆土に多量の灰色砂を含み、灰色シルトとの互層堆積が確認でき、底面は南西に傾斜することから、中央部を流れる川の支流の可能性もある。覆土は大きく3層に分かれ、1・2層は灰色砂を多量に含むが、3層にはほとんど含まれない。3層は植物遺体・炭化物を多量に含む褐灰色シルトである。遺物は3層底面近くから出土し、窰 (234~236)・壺 (237)・鉢 (238~240)・器台 (241)、鏡石 (493) が出土しているが、調査時の溝底面の認識が困難だったことから、これらの遺物は重複するSD1115に含まれるものの可能性が窺える。

Xb層で検出の遺構

土 坑

土坑は24基検出された。SB1042の東側、1号円形周溝状遺構の北及び西側、SD1115北側にまとまって分布する傾向にある。平面形は楕円形や不整形円形、断面形は弧状または台形状を呈し、覆土は自然堆積のものが多く、主軸方位は円形周溝状遺構、掘立柱建物に平行または直交に近く、多くの遺物や炭化物を伴うものが多数ある。

SK1002 (図版12・25・33・98)

12Dに位置し、平面形は不整形楕円形、断面形は台形状を呈する。長径4.0m、短径1.6m、深度17cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-89°-Wを指す。覆土は3層に分かれる。レンズ状堆積のため、遺構の中央にはⅨ層が落ち込む。1層は炭化物や小礫を多く含む黒褐色シルトで、炭化米が多く検出された。遺物はこの層から多く出土しており、土坑がある程度埋まった段階での廃棄行為が想定される。窰 (242・243)・壺 (244~246)・鉢 (247・248)・高坏 (249・250)・器台 (251) が出土している。

SK1005 (図版12・25・33・99)

13Eに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。長径3.1m、短径2.4m、深度25cmを測り、立ち上がりは緩やかである。長軸方向はN-16°-Wを指す。覆土は3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は炭化物を多く含む灰色シルト、3層は灰色粘土である。遺物は出土していない。

SK1007 (図版12・25・33・99)

12D・12Eに位置し、平面形は不整形楕円形、断面形は弧状を呈する。長径2.7m、短径1.7m、深度15cmを測り、立ち上がりは緩やかである。長軸方向はN-52°-Wを指す。覆土は2層に分かれ、1層は土器片や

炭化物を多く含む灰色シルトである。遺物は甕 (252~256)・鉢 (257)・器台 (258) が出土している。

SK1017 (図版12・25・33・99)

12Cに位置し、平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。長径2.5m、短径1.4m、深度25cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-85°-Wを指す。覆土は5層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は炭化物を多く含む黒褐色シルト、2・4層は炭化物を多く含む灰色シルトで、土器片や径2cm程の小礫を多く含む。4層からは炭化米が検出されている。遺物は壺 (259~261)・高坏 (262) が出土しており、細片が多い傾向にある。

SK1047 (図版12・26・33・100)

9C・9D・10C・10Dに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。長径3.5m、短径2.4m、深度21cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-14°-Wを指す。覆土は3層に分かれ、灰色シルトがレンズ状に堆積する。2層は炭化物を多く含む。遺物は出土していない。

SK1045 (図版12・26・34・99)

9B・10Bに位置し、平面形は不整形、断面形は弧状を呈する。長径4.9m、短径3.9m、深度25cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-84°-Eを指す。覆土は5層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1・2層は炭化物を多量に含む黒褐色シルト、3層は炭化物を特に多く含む黒色シルトである。この3層から多量の炭化米が検出された。遺物は1・2層中から多量に出土している。甕 (264~274)・壺 (275~284)・鉢 (285~290)・高坏 (291・292)・器台 (293~296)、土製品 (488~490) が出土している。

SK1048 (図版12・26・34・100)

10Bに位置し、平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。長径2.9m、短径1.4m、深度34cmを測る。長軸方向は緩やかに、短軸方向は急斜度に立ち上がる。長軸方向はN-20°-Eを指す。覆土は4層に分かれ、レンズ状堆積をなす。2・3層は土器片や炭化物を多量に含む黒褐色シルトである。甕 (297~299)・壺 (300・301)・鉢 (302~304)・器台 (305~310) が出土している。

SK1211 (図版12・26・34・100)

9Bに位置し、平面形は楕円形、断面形は半円状を呈する。長径2.8m、短径1.5m、深度41cmを測り、急斜度に立ち上がる。長軸方向はN-11°-Eを指す。覆土は4層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層下部は径1cm大の炭化物を多く含み、遺物を多量に包含する。3・4層は灰色粘土で、3層は灰白色の粘土ブロックを含む。底面より樹皮椽の植物繊維が検出されており、いわゆる樹皮敷土の可能性も窺えるが、遺存状態が悪いことと、検出範囲がわずかであるため、詳細は不明である。遺物は甕 (311~314)・壺 (315)・鉢 (316)・高坏 (317)・器台 (318)、土製品 (483・487) が出土している。また、2層から骨片が検出されている。

SK1214 (図版12・26・27・35・100)

8Cに位置し、平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。長径1.1m、短径75cm、深度20cmを測り、南傾斜は急斜度、ほかは緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-50°-Wを指す。覆土は2層に分かれ、1層は炭化物を多量に含む灰色粘土、2層は灰色砂質土である。遺物は甕 (319・320) が出土している。

SK1223 (図版12・26・35)

8B・9Bに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。XⅡ層まで下げたところで確認した。長径1.3m、短径1.0m、深度5cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-72°-Eを指す。覆土は単層で、地山に近似するが、炭化物をわずかに含む。遺物は出土していない。

SK1208 (図版12・26・35・101)

8B・9Bに位置し、平面形は不整楕円形、断面形は弧状を呈する。SK1215に切られている。長径1.3m、短径1.1m、深度25cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-13°-Wを指す。覆土は3層に分かれ、いずれも灰色粘土である。1・2層の境に薄い炭化物層が認められる。完掘後に底面から柱が検出された。遺物は壺(337)が出土している。

SK1215 (図版12・26・35)

8B・9Bに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。SK1208を切っている。長径1.2m、短径88cm、深度16cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-50°-Eを指す。覆土は単層で、炭化物をわずかに含む灰色シルトである。遺物は出土していない。

SK1216 (図版12・26・35・101)

8Bに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。長径2.0m、短径1.4m、深度31cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-53°-Wを指す。覆土は3層に分かれ、いずれも灰色粘土である。1・2層は5~10mmと径の大きい炭化物を少量含む。3層は遺構の最下部にわずかに堆積するだけである。遺物は東側に集中し、2層から多数出土した。壺(321~329)・壺(330~332)・鉢(333)・高坏・器台(335・336)、土製品(492)が出土している。

SK1225 (図版12・26・28・92)

8Cに位置し、1号円形周溝状遺構の周溝を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。長径2.5m、短径1.6m、深度30cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-88°-Wを指す。覆土は3層に分かれ、1・2層は炭化物を含む灰色粘土である。2層は炭化物、遺物ともに多い。3層は炭化物を特に多量に含む褐灰色粘土である。遺物は壺(136~140)・壺(141・142)・鉢(143・144)・器台(145・146)が出土している。

SK1227 (図版12・26・35)

9Eに位置し、平面形は不整形、断面形は弧状を呈する。SD1226に切られている。短径1.4m、深度10cmを測り、緩やかに立ち上がる。覆土は2層に分かれ、1層は炭化物を多量に含む褐灰色粘土、2層は灰色シルトである。遺物は壺・壺・高坏が出土している。

SK1219 (図版12・26・35・101)

8Eに位置し、平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。長径1.4m、短径1.2m、深度27cmを測り、急斜度に立ち上がる。長軸方向はN-76°-Wを指す。覆土は3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は有機質に富む灰色砂質土、2・3層は炭化物をわずかに含む灰色シルトである。遺物は出土していない。

SK1228 (図版12・26・35・102)

8Dに位置し、平面形は不整楕円形、断面形は弧状を呈する。長径2.4m、短径1.7m・深度18cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-81°-Wを指す。覆土は2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は炭化物を多量に含む褐灰色シルト、2層は灰色粘土である。遺物は器台(338)、土製品(491)が出土している。

SK1242 (図版12・27・35・102)

7C・8Cに位置し、平面形は不整楕円形、断面形は弧状を呈する。長径2.3m、短径1.9m、深度25cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-28°-Wを指す。覆土は3層に分かれ、灰色または褐灰色の粘土である。2層は炭化物を多量に含む。遺物は3層から出土し、壺(339・340)、箆石(494)が出土している。

SK1102 (図版12・27・36・102)

6Cに位置し、平面形は不整楕円形、断面形は弧状を呈する。立木に接して検出された。長径1.5m、短

径1.1m、深度23cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-90°-Wを指す。覆土は4層に分かれ、レンズ状堆積をなす。2層は3cm大のものが混在する微粒子状の炭化物層である。遺物の多くは2層の直上から出土し、甕(341)が出土している。

SK1111 (図版12・27・36)

7Dに位置し、平面形は不整楕円形、断面形は弧状を呈する。SK1110に隣接する。長径1.7m、短径1.2m、深度12cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-63°-Eを指す。覆土は単層で、炭化物や灰色細砂を含む灰色シルトである。遺物は壺(342)が出土している。

SK1116 (図版12・27・36)

7Bに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。SB1136、SD1115に長軸を合わせて隣接する。長径1.4m、短径62cm、深度13cmを測る。西側は若干深く掘り込まれ、急斜度で立ち上がるのに対し、東側は浅く緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-88°-Wを指す。覆土はSX1109の3層に近似し、径1cm程の炭化物や透明粒子を多く含む。遺物は甕(343・344)が出土している。

SK1107 (図版12・27・36・102・103)

7Cに位置し、平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。SK1108を切る。長径3.1m、短径1.8m、深度45cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-78°-Wを指す。覆土は4層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層はⅨ層近似の黒褐色シルト。2~4層は灰色シルトで2層と3層の境に植物遺体のごく薄い層が堆積する。4層は径の大きい炭化物や植物遺体を多量に含む。遺物は4層の下面近くからの出土が大半を占めており、比較的大型の破片が多く、完形品の甕(351)が横位で出土している。このほかに甕(345~350)・壺(352~354)・高坏(355・356)・器台(357~360)が出土している。

SK1108 (図版12・27・36)

7Cに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。SK1107に切られている。長径1.4m、短径75cm、深度7cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-83°-Wを指す。覆土は単層でSK1107の4層に似る。遺物は器台(361)が出土している。

SK1117 (図版12・27・36・103)

7Bに位置し、平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。SD1115の1層を掘削した段階で平面プランを確認した。長径1.7m、短径1.3m、深度48cmを測り、急斜度で立ち上がる。長軸方向はN-80°-Wを指す。覆土は5層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1~4層は炭化物や植物遺体を多く含む。2層は褐灰色粘土で、土器・植物遺体を多量に包含する。3層は2層近似の黒褐色粘性シルトで土器や木製品などが多く出土している。また2~4層ではメロン類の種子、3~5層では炭化米が多量に検出された。遺物は壺(362~364)・鉢(365・366)・器台(367)、木製品(438・439)が出土している。

SK1110 (図版12・27・37・103)

7Dに位置し、平面形は円形、断面形はU字状を呈する。径1.5m、深度1.0mを測り、急斜度で立ち上がる。覆土は21層に分かれ、レンズ状堆積をなす。いずれも灰色もしくは褐灰色シルトで、1~17層は粘性が弱いに対して、18~21層は粘性が強くなる。1~3層はⅨ層に似る。7・11層は炭化物を特に多量に含む。18層は若干の炭化物と多量の植物遺体を含む褐灰色粘性シルトである。確認面から深度60cm程でこの層を貫き、遺構外へ続く自然木が2本検出されている。この自然木より下位で木製品が出土している。最下層の21層は灰色粘性シルトでごくわずかに灰色砂を含む。この層より下位は粗砂層となり、湧水量が著しい。遺物は高坏(368)、木製品(440~451)が出土している。また遺構底面から甕の体部片が1点出

土している。

溝状遺構

溝は自然流路と考えられるSD1113も含めると、8条検出された。多くは円形周溝状遺構と同軸か、直交に近い方向を示す。

SD1011 (図版12・25・37・103)

11E・12Eに位置し、断面形は半円状を呈する。全長9.4m、最大幅1.2m、深度40cmを測り、急斜度になり立ち上がる。長軸方向はN-15°-Wを指す。覆土は北側で4層、南側で9層に分かれる。覆土の中位に、炭化物を多量に含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は壺(369・370)が出土している。

SD1018 (図版12・25・37・104)

12B、12Cに位置し、断面形は弧状を呈する。全長7.3m、最大幅49cm、深度19cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-78°-Wを指す。覆土は単層で、炭化物を少量含む灰色シルトである。遺物は壺(162)が出土している。SD1218出土のものと接合した。

SD1226 (図版12・26・35)

8E・9Eに位置し、東側は暗渠のために確認できなかった。断面形は弧状を呈する。SK1227を切る。全長8.8m、最大幅99cm、深度16cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-22°-Wを指す。覆土は3層に分かれ、1層は炭化物を多く含む灰色粘土。2層は黄褐色砂粒を少量含む灰色シルトである。遺物は出土していない。

SD1245 (図版12・26・37)

8Eに位置し、東側は調査区外へ続く。断面形は弧状を呈する。最大幅78cm、深度10cmを測り、緩やかに立ち上がる。覆土は単層で、炭化物を少量含む灰色シルトである。遺物は鉢(372)が出土している。

SD1220 (図版12・26・37・104)

9Dに位置し、川跡に合流する。2号円形周溝状遺構のSD1218を切っている。全長5.9m、最大幅92cm、深度31cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-8°-Wで、2号円形周溝状遺構とほぼ同軸を示す。覆土は炭化物を含む灰色シルトで、2層は炭化物、遺物とも多量に含む。遺物は壺(373~375)・壺(376~378)・鉢(379・380)・器台(381~383)、砥石(496)が出土している。

SD1114 (図版12・27・37)

6Bに位置し、南側は確認調査トレンチ77Tによって壊されているため不明である。断面形は弧状を呈する。最大幅33cm、深度9cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-37°-Wを指す。西側底面は凹凸がみられる。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は高坏(371)が出土している。

SD1115 (図版12・27・37・104)

7B・7C・7Dに位置し、立木の間をぬうように東西にのび、西側は調査区外へ続く。7Dで北側に屈曲することから2号円形周溝状遺構の排水路としての機能を想定したが、平面及びトレンチによる断面観察からはこれにつながることを確認できなかった。最大幅は3.8m、深度42cmを測り、緩やかに立ち上がる。7Bの南側立ち上がりは特に緩い。長軸方向はN-77°-Wを指す。覆土は3層に分かれる。2・3層は炭化物を多量に含む灰色シルトで、2層は灰色砂や小礫を含む。3層は7C3~5の西側で確認でき、底面には微粒子状の炭化物層がごく薄く堆積する。遺物は1~3層で多く出土し、7B・7Cは特に多い。7C7・8南側の立ち上がり部分では、壺4個体、壺1個体、鉢2個体(387~390・396・402・404)が正位の状態でも出土している。

これらは溝の軸にあわせて整然と並んでいること、この辺りの炭化物は周囲と比較してもとりわけ濃いことから、意図的に並べ置かれたと推測する。遺物はほかに甕(384~386・391~394)・壺(395・397~399)・鉢(400・401・403)・器台(405・406)、木製品(451)、勾玉(498)が出土している。

性格不明遺構

性格不明遺構にはXa層上面で検出されたもの7基、円形周溝状遺構に伴うもの3基、SB1136・SB1137下面の炭化物と焼土の広がりであるSX1109のほかにXb層で検出されたもの3基がある。これらはいずれも覆土が明確でなく、掘り込みも浅かったため、性格不明遺構とした。

SX1243 (図版12・26・37)

9Eに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。長径82cm、短径58cm、深度11cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-22°Eを指す。覆土は2層に分かれ、1層は炭化物を多量に含む褐色シルト、2層は炭化物をわずかに含む灰色シルトである。遺物は出土していない。

SX1112 (図版12・27・37)

6Cに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。長径1.1m、短径63cm、深度10cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-21°Wを指す。覆土は単層で、炭化物を少量含む灰色粘土である。遺物は出土していない。

SX1106 (図版12・27・37)

6Bに位置し、平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。長径2.2m、短径1.2m、深度8cmを測り、緩やかに立ち上がる。長軸方向はN-40°Eを測る。覆土は単層で、炭化物を多量に含む灰色シルトである。遺物は甕が出土している。

B 遺物

下層から出土した遺物には、土器・木製品・土製品・石製品・金属製品がある。土器は遺構が分布する7~13ラインの包含層中および遺構の覆土中から多量に出土した。遺構の分布が希薄な2~6ライン、および14~18ラインは、遺物の出土量は少なかった。木製品・土製品の出土傾向は土器と同様である。石製品・金属製品は出土点数は少ないものの、出土地点はおおむね川跡以南の7~9ラインに分布する。

遺物の出土量は、土器123箱、木製品66点、土製品12点、石製品6点、金属製品1点である。

1) 土器

a) 分類 (第23・24図)

土器の記述にあたり、土器の分類を行う。器種は甕・壺・鉢・高坏・器台に識別でき、器種ごとに分類する。大分類にはアルファベットの英文字を、さらに細分する場合には算用数字を用いて表現した。以下、器種ごとに概要を述べる。

甕

甕は出土量が最も多い。本遺跡出土資料に中条町の反貫目遺跡〔寺崎¹⁾2004〕・船戸川崎遺跡〔水澤2002〕・大塚遺跡〔吉村2002〕出土の資料を合わせて法量分布図を作成した(第22図)。この分布図から、大型：器高30cm以上・胴部最大径25cm以上、中型：器高20~30cm程・胴部最大径20~25cm程、小型：器高10~20cm程・胴部最大径12~20cm程に分類できる。この分類は法量を確認できる資料に限られてしま

うため、個々の分類には口縁部形態による分類を行い、完形資料には法量による分類も合わせて記述する。

甕A類：有段口縁の甕。出土量は少ない(第23図348)。

甕B類：「く」の字状または「コ」の字状口縁の甕。明確に「く」の字と「コ」の字の口縁形態に区分できるものもあるが、両者の中間的な形態のものが相当数存在することから、ここでは一括して甕B類とした。口縁端部の形状により3細分できる。

甕B1類：口縁端部が丸いもの(第23図221・223・230)。

甕B2類：口縁端部が面をもつもの(第23図415・408・256)。

甕B3類：口縁端部をつまみ上げるもの(第23図229)。

甕C類：近江系の受け口口縁の甕(第23図414)。

甕D類：布留甕傾向の甕。出土量は少ない(第23図344)。

壺

壺A類：細口の有段口縁壺(第23図167)。

壺B類：畿内系の二重口縁壺。頸部の形態により2細分できる。出土量は最も多い。

壺B1類：頸部が筒状に直立するもの(第23図278)。

壺B2類：頸部が外傾するもの。口縁端部や口縁部下端に刻み目や円形竹管文を施すものが多い(第23図162)。

壺C類：東海系の二重口縁壺。口縁部の形態により2細分できる。

壺C1類：頸部が直立し、口縁部が内湾するもの(第23図211)。

壺C2類：外反する頸部に短い口縁部が付くもの(第23図164)。

壺D類：広口壺。頸部の形状により2細分できる。

壺D1類：頸部が長いもの(第23図170)。

壺D2類：頸部が短いもの(第23図339)。

壺E類：直口口縁壺。体部の形状により2細分できる。

壺E1類：長胴形の体部をもつもの(第24図352)。

壺E2類：球形の体部をもつもの(第24図423)。

壺F類：東海系のひさご壺の影響を受けたもので、内湾する長い口縁部をもつ。出土量は多い(第24図330)。

壺G類：畿内系の長頸壺(第24図424)。

壺H類：有段口縁をもつ小型の壺(第24図169)。

壺I類：球形の体部に短い口縁が付くもの(第24図214)。

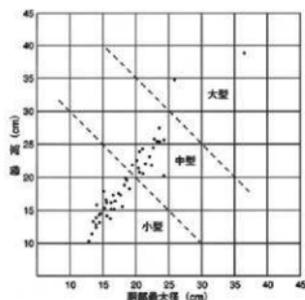
壺J類：無頸壺。底部の形態により2細分できる。

壺J1類：脚部が付かないもの(第24図429)。

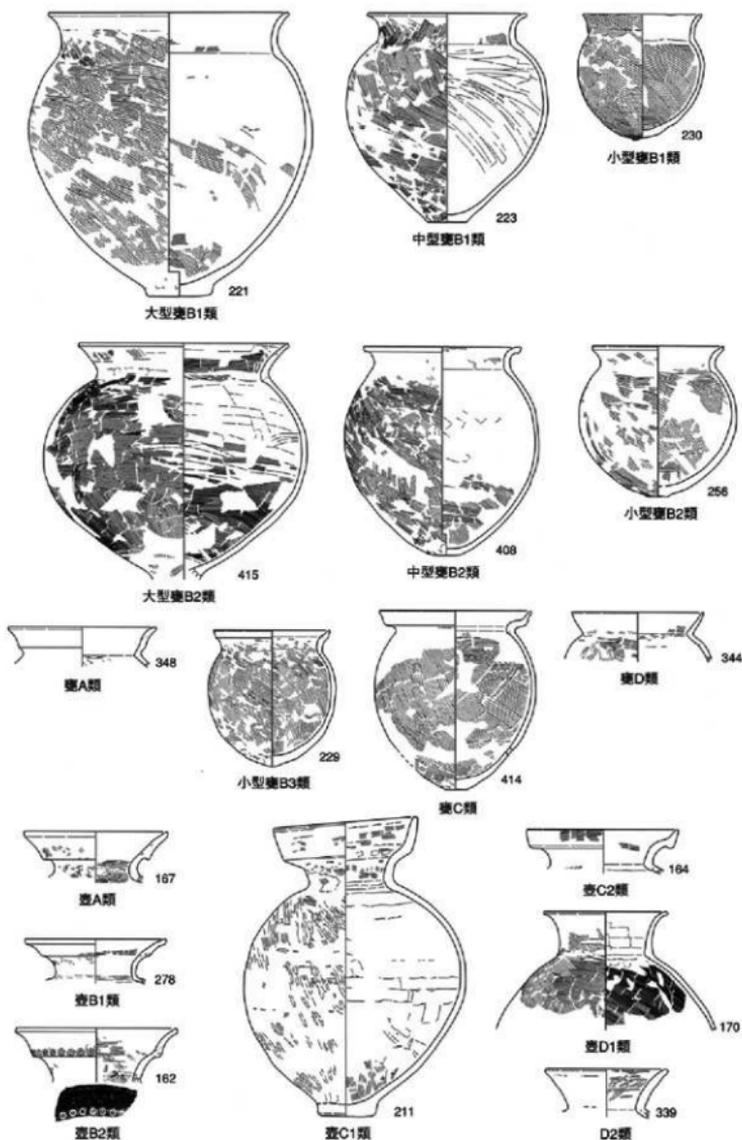
壺J2類：脚部が付くもの(第24図284)。

壺K類：畿内系小型壺。底部は平底である(第24図126)。

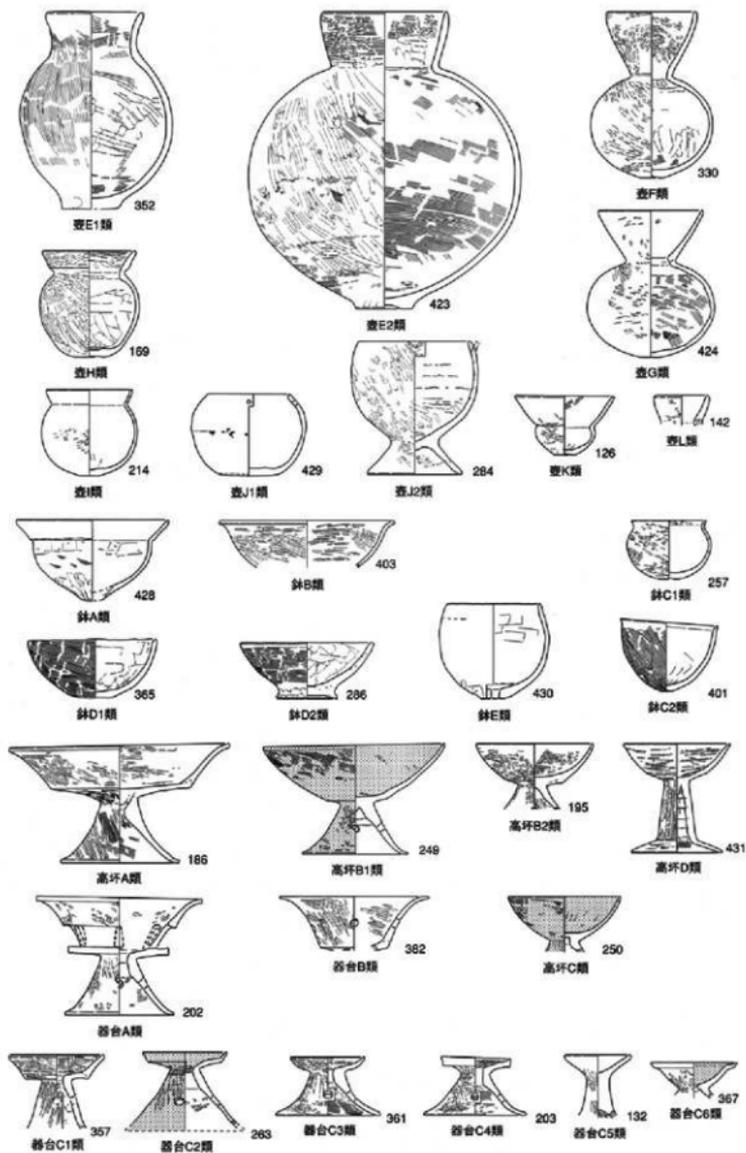
壺L類：小型の壺。1点のみの出土である(第24図142)。



第22図 甕の法量分布図



第23図 土器分類図1 (S=1/6)



第24図 土器分類図 2 (S=1/6)

鉢

鉢A類：有段口縁の鉢（第24図428）。

鉢B類：口縁部がゆるやかに外反するもの（第24図403）。

鉢C類：口縁部が短く外反するもの。体部の形態から2細分した。

鉢C1類：球胴形の体部をもつもの（第24図257）。

鉢C2類：口径が最大径となるもの（第24図401）。

鉢D類：碗形の鉢。底部の形態により2細分した。

鉢D1類：平底のもの（第24図365）。

鉢D2類：低脚が付くもの（第24図286）。

鉢E類：底部穿孔の鉢（第24図430）。

高 坏

高坏A類：坏部が有段の在地系高坏（第24図186）。

高坏B類：東海系高坏。法量から2細分した。

高坏B1類：口径15.0cm以上のもの（第24図249）。

高坏B2類：口径15.0cm未満のもの（第24図195）。

高坏C類：碗形の坏部をもつもの（第24図250）。

高坏D類：畿内系の屈折脚高坏（第24図431）。

器 台

器台は大型と小型に2大別できる。以下に述べる器台A・B類は大型、器台C類は小型である。

器台A類：有段口縁をもつ裝飾器台（第24図202）。

器台B類：有段で深い受部をもつもの（第24図382）。

器台C類：小型器台。受部の形態から6細分した。

器台C1類：受部に明瞭な段をもつもの（第24図357）。

器台C2類：口縁部をつまみ上げるもの（第24図263）。

器台C3類：受部が内湾するもの（第24図361）。

器台C4類：受部が外反し、口縁端部に面をもつもの（第24図203）。

器台C5類：外反する受部に中実柱状脚のもの。1点のみ出土した（第24図132）。

器台C6類：受部は内湾し、口縁端部をつまみ上げるもの。1点のみ出土した（第24図367）。

b) 記述の方法

土器は遺構出土のものから記述し、その後には包含層出土のものを続ける。土器の胎土には石英等の砂粒のほかには雲母が含まれるものが多数認められる。また海綿骨針が含まれるものも少なくない。法量については観察表を参照されたい。調整技法については以下のように区分した。

ハ ケ：櫛歯状の工具で器面をなでる

ケズリ：板状の工具で器面を削る

ナ デ：指等で器面をなでる

板ナデ：板状の工具で器面をなでる

ミガキ：ヘラ状の工具で器面を磨く

c) 遺構出土土器各説

SD1201 (図版41-123~133・図版107)

甕 (123)・壺 (124~129・131)・鉢 (130)・器台 (132・133) がある。123は甕B1類である。124は大型の壺で口縁部を欠くが、壺B類かC類であろう。体部中位に煤・コゲが付着する。125は壺I類である。口縁部は厚く、粘土紐の接合痕が残り、やや粗雑な作りである。126~129は壺K類とした、畿内系小型型である。口縁部が残る126~128は、口径が胴部径を上回る。126・129は平底である。127~129の胎土はち密で海綿骨針を含む。130は鉢C2類、131は無頭壺で壺J類である。132は小型器台C5類としたもので、外反する受部に中実の棒状脚が付く。133は小型器台の脚部であり、裾部は内湾気味に広がる。

SX1221 (図版41-134・135・図版107)

134は甕B1類、135は壺D2類で口縁部は丸く、やや突出する。

SK1225 (図版41-136~146・図版107)

甕 (136~140)・壺 (141・142)・鉢 (143・144)・器台 (145・146) がある。136・138~140は甕B2類、137は甕B3類である。141は壺D2類であり、口縁部外面に煤・コゲが付着する。142は小型の壺L類である。143は鉢C1類、144は底部穿孔の鉢E類である。145は器台A類で有段口縁をもつ装飾器台である。逆三角形の透かしが2か所確認できる。146は器台A類またはB類の脚部である。脚部中位の内外面には煤が付着する。

SD1218 (図版42-147~156・図版43-157~171・図版44-172~194・図版45-195~206・図版107~109)

甕 (147~158)・壺 (159~182・185)・鉢 (183・184)・高坏 (186~196)・器台 (197~206) がある。151は有段口縁の甕A類である。口縁部下端がわずかにふくらみ、有段口縁の名残をとどめている。体部外面には目の粗いハケが残る。147・149・150・153・156・157は甕B1類、148・152・154・155は甕B2類、158は甕B3類である。147・148は底部を欠くものの、胴部最大径が30cm以上で大型に分類でき、口縁部は「コ」の字状に外反する。150の口縁部は短く屈曲し、154は体部の張りが弱い。156の口縁部は外反度が弱く直立気味で、底部は厚みのある丸底である。157は口縁部から体部下半にかけて、調理の際に内容物が吹きこぼれた痕跡が明瞭に残る。甕の体部外面の調整は153が横方向のハケ、150・154が縦方向のハケであるほかは斜方向のハケである。体部内面の調整はハケの後にケズリを施すもの (148)、ハケ調整のもの (150・154・156・157)、板ナデのもの (151・153・158) がある。159~163・165は壺B2類である。159・161・163は口径27~28cmと大型である。160は口縁部下端に2条の浅い沈線がめぐり、161の口縁部面および口縁部下端にはヘラ状工具による刻み目が入る。162・163の口縁部下端には円形の竹管文が押捺され、163には穿孔が1か所確認できる。164は東海系の壺C2類である。棒状浮文などの装飾はなく、器面にはハケが部分的に残る。また口縁部外面に煤が部分的に付着する。165は頸部と口縁部の接合痕が明瞭であり、頸部の上端面には接合面補強のためのヘラ状工具による刻み目がめぐり、166は壺B1類であり、口縁部上半が大きく外反する。167は内面に段がなく、口縁部が大きく外反する有段口縁壺A類、168は壺B1類である。169は小型の有段口縁壺H類である。最大径は体部上半にあり、口径よりもわずかに大きい。底部は平底である。口縁部~体部外面はミガキであるが、体部下半には煤・コゲが付着する。170・171は壺D1類である。170の口縁部は丸く、外方へやや突出し、171の口縁部は内側に面をもつ。172は口縁部と底部を欠くが、広口壺D類の体部と推測する。173は大型壺の底部で、外底面の中央がわずかにくぼむ。174・175は壺F類である。174の胎土はち密で、丁寧なミガキが施される。175は内外面とも赤彩される。176は壺F類またはG類の体部で、外面は赤彩される。177~181は壺I類である。

177・178・180・181の口縁部は内湾気味であり、177・178の口縁部は長く、181は短い。177の体部はあまり張らない。178は体部上方に穿孔が1か所確認できる。177～181の胎土はち密で焼成も良好であり、外面は丁寧なミガキが施される。182は小型の有段口縁壺H類で、口縁部内外面は赤彩される。183は鉢B類、184は鉢C1類である。183の胎土はやや粗く、外面には煤・コゲが付着する。185は無頸壺J2類の脚部である。186は大型で身が浅い在地系の高坏A類である。坏底部は平坦で口縁部は大きく外反し、脚部はハの字に開く。坏底部と口縁部の接合痕は明瞭であり、接合面にはへら状工具による刻みが入る。脚部外面には煤が付着する。187～190・195・196は東海系の高坏B類である。187・190はB1類、188はB2類である。187は口縁部内面から坏部外面にかけて赤彩される。187～189は坏部内外面ともミガキであるが、190は内外面ともハケである。191～193は高坏B類の脚部である。191の外面はケズリ、192・193の外面はミガキである。193の坏底部内面と脚部外面は赤彩される。194は透かしが入らないもので、在地系高坏の脚部と考える。195の坏部と脚部の外面はケズリの後にミガキが行われる。197は器台A類またはB類の脚部である。198～201・203は小型器台C類である。198～200は受部上半をつまみ上げるC2類、201は受部に明瞭な段をもつC1類、203は口縁増部に面をもつC4類である。198は受部内外面とも赤彩される。202は器台A類で有段口縁をもつ有造装飾器台である。口縁部は大きく外反し、受部下半には三角形の透かしが6か所入る。透かしは上下逆に交互に配されるところと、同一方向に配されるところがあり、規則性が認められない。脚部はハの字に開き、円形の透かしが3か所入る。204は小型器台C類の脚部であり、脚部内面には煤が付着する。205・206は器台A類の受部である。205・206の透かしは三角形と推測する。205は内外面に煤・コゲが付着し、206の外面は赤彩される。

SK1240 (図版45-207-212・図版109・110)

壺(207-209)・壺(210・211)・器台(212)がある。207・208・211は本遺構の上面から3個体まともって出土した。207は壺B2類、208・209は壺B1類である。208の体部外面は斜方向のハケの後、下半のみ横方向のハケが加えられる。210は壺F類、211は壺C1類である。211の頸部外面はケズリ、体部外面はハケの後ミガキが施される。胎土はち密で焼成も良好である。212は大型の器台であるが、器台A類または有段口縁をもたない装飾器台と考える。

SK1246 (図版45-213・図版110)

213は壺F類であり、口縁部はわずかに内湾する。胎土はち密で焼成も良好である。

SX1109 (図版46-214-216・図版110)

214・215は壺I類である。214は球形の体部に短い口縁部がつづき、体部外面の下半には煤・コゲが付着する。215の口縁部は内湾し、口縁部から体部外面には煤・コゲが付着する。216は鉢A類で、しっかりとした平底をもち、内外面ともに丁寧なミガキが施される。

SX1004 (図版46-217・218・図版110)

217は壺B2類、218は口縁部と底部を欠く壺の体部である。217は出土資料中最も量法が大きい。体部外面および口縁部内面はミガキである。218は壺B類の体部と推測する。

12C25一括 (図版46-219-221・図版110・111)

219～221の壺は12C25グリッドのXa層上面からまともって出土した。このグリッドの西側にはXa層上面で検出されたSX1004が近接する。219・220は壺B2類、221は壺B1類である。219の体部外面はミガキである。220の口縁増面はわずかにくぼむ。221は大型の壺で、口縁部はハの字に外反し、底部はしっかりとした平底である。

SX1008 (図版47-222-228・図版111)

図化できたものは甕のみである。口縁部を欠く226以外は全て甕B1類である。223は中型甕で、くの字状口縁に平底である。底部は欠損するが、222・225は中型、228は小型に分類可能である。227の口縁部はやや短く、底部は平底である。222-228の体部内面の調整は、底部付近ではハケであるが、それ以外では板ナデあるいはナデである。226は体部下半の底部付近に穿孔が4か所確認できる。

SX1034 (図版47-229-231・図版48-232・233・図版111・112)

SX1034に近接して229-231の甕がまとまって出土した。229は小型甕B3類、230・231は小型甕B1類、232は小型甕A類、233は甕B1類である。229・230は丸底、231・232は平底である。230・231・233の口縁部外面はハケ目がナデ消されることなく残る。232は全体的に粘土紐の接合痕が残る、やや粗雑な作りである。口縁部はゆるやかな段をもつ。

SD1113 (図版48-234-241・図版112)

甕(234-236)・壺(237)・鉢(238-240)・器台(241)がある。234・236は甕B1類、235は甕B2類である。237は壺I類で、内外面ともナデ調整である。238は鉢D1類、240は鉢C1類である。239は大型の有段口縁鉢A類であり、口縁部外面はハケの後ミガキが施される。241は小型器台の脚部であり、ハの字に開く。脚部内外面ともにハケ目が残る。

SK1002 (図版48-242-251・図版112)

甕(242・243)・壺(244-246)・鉢(247・248)・高坏(249・250)・器台(251)がある。242は甕B3類で、体部外面は縦方向のハケである。243は甕の底部で平底である。244は内湾する口縁部をもつ壺F類である。器壁は薄く、丁寧な作りである。245は広口壺D1類であり、先細りの口縁部は外方へ開く。内外面とも丁寧なミガキが施され、赤彩される。246は脚付きの無頸壺で壺J2類である。口縁部と脚部を欠損する。外面には丁寧なミガキが施される。247は鉢C2類、248は鉢C1類である。247の体部外面はケズリ、247・248の体部内面はナデである。249は内湾する口縁部をもつ東海系高坏B1類である。脚部はハの字に開き、裾端部は丸い。250は輪形の坏部をもつ高坏C類である。249・250は坏部内外面にハケの後ミガキが行われるが、摩擦のためミガキの単位は不明瞭である。また坏部内外面から脚部外面は赤彩される。251は器台A類で有段有透装飾器台である。円形の透かしが4か所確認できるが、5単位と推定できる。内外面ともハケをナデ消すが、ハケ目が広い範囲に残存し、やや粗雑な作りである。口縁部内面に煤が部分的に付着する。242-251は本遺構の同一層位内から一括出土した。

SK1007 (図版48-252・253・図版49-254-258・図版112・113)

甕(252-256)・鉢(257)・器台(258)がある。252・253は甕B1類である。254は近江系の受け口口縁甕C類で、体部外面は斜方向、体部内面は横方向の粗いハケである。255は甕B3類、256は甕B2類であり、256は球胴形の体部に小さな平底が付く。257は鉢C1類で、外面は丁寧なミガキが行われる。258は大型の器台脚部であり、円形の透かしが4か所入る。

SK1017 (図版49-259-262・図版113)

259は有段口縁の壺H類で、体部外面はミガキが行われる。260は壺I類で、先細りの口縁端部はやや内傾する。261は壺B2類である。262は有段の在土系高坏A類である。坏底部は外傾し、内外面ともハケの後ミガキが行われる。

SK1015 (図版49-263・図版113)

263は小型器台C2類である。受部はつまみ上げにより上方へ屈曲し、脚部はハの字状に大きく開く。円

形の透かしは3単位である。胎土はち密で焼成は良好、ミガキが施されて丁寧なつくりである。受部内外面および脚部外面は赤彩される。

SK1045 (図版49-264-273・図版50-274-296・図版113)

甕 (264-274)・壺 (275-284)・鉢 (285-290)・高坏 (291-292)・器台 (293-296) がある。264・267・271は甕B2類である。264の口縁端面はやや幅広であり、体部外面は目の粗いハケ、体部内面は板ナデである。265・269は甕B3類であり、265はコの字状口縁、269はくの字状口縁である。266・268・270・272-274は甕B1類である。272は口縁部が特に短い。275・276は壺B2類である。275は円形浮文2個と穿孔が1か所確認できる。276の口縁部下端には円形竹管文がめぐる。277は壺F類かと思われるが判然としない。278は筒状の頸部をもつ壺B1類である。279は壺A類で、有段部は粘土紐の接合痕がナデ消されずに残る。口縁部外面に煤・コゲが付着する。280は壺F類で、内外面とも丁寧なミガキが行われる。281・283は壺H類で、283は内外面とも赤彩される。282は壺I類で、口縁端部はわずかに内傾する。内外面とも煤・コゲが付着する。284は脚部と片口が付く無頸壺J2類である。体部外面はミガキであるが、内面には粘土紐の接合痕が残る。285は碗形の鉢D1類、286は低脚をもつ鉢D2類である。287-290は鉢C1類である。288は内外面とも赤彩され、290はしっかりとした平底をもつ。291・292は大型の東海系高坏B1類である。坏部内外面はミガキが行われ、赤彩される。293は内湾する受部をもつ小型器台C3類である。294は大型の器台脚部で、外面は赤彩される。295・296は装飾器台の受部であり、粘土紐の接合面にはヘラ状工具による刻み目が入る。296は円形の透かしが1か所確認でき、内外面とも赤彩される。

SK1048 (図版51-297-310・図版114)

甕 (297-299)・壺 (300-301)・鉢 (302-304)・高坏 (305-306)・器台 (307-310) がある。297は甕B1類、298・299は甕B2類である。297は口径が35.7cmと大きく、大型甕と推定できる。298は強いヨコナデにより口縁部内面がくぼむ。300は広口壺D2類で、口縁端部はつまみ上げる。301は壺F類で、内外面ともミガキである。302は鉢C2類である。外面は目の粗いハケ、内面はナデである。底部は尖底で自立しない。303は鉢A類で、ゆるやかな有段口縁をもつ。304は鉢C1類である。305は大型の東海系高坏B1類、306は口縁部を欠くが高坏B類である。305・306は坏部内外面とも赤彩される。307は大型の器台で、器台A類または有段口縁をもたない装飾器台と推定する。受部内外面は赤彩される。308・309は小型器台C3類である。310は器台の脚部と推定するが、高坏脚部の可能性もある。

SK1211 (図版51-311-318・図版114)

甕 (311-314)・壺 (315)・鉢 (316)・高坏 (317)・器台 (318) がある。311・313は甕B1類、312は甕B2類である。311の口縁部はコの字状に外反する。314の甕底部は平底である。315は広口壺D2類で、口縁端面には1条の浅い沈線が入る。316は碗形の鉢D1類である。317は大型の東海系高坏B1類で、坏部内外面は赤彩される。318は小型器台の脚部であり、透かしが3か所入る。

SK1214 (図版51-319-320・図版114)

319は甕B2類、320は口縁部が若干内湾し、口縁端部が丸いことから甕D類とした。

SK1216 (図版52-321-336・図版114・115)

甕 (321-328)・壺 (329-332)・鉢 (333)・高坏 (334)・器台 (335-336) がある。321は甕B2類で、口縁端面は幅広である。体部はあまり張らず、体部内外面とも板ナデである。322・328は甕B1類、323は甕B3類である。324-327は甕B2類で、326は倒卵形の体部をもつ。325・327・328は口縁部の外反度が弱い。329・331は壺I類で、331の体部外面はハケの後ミガキが行われる。330は壺F類で、内湾する口縁部

3 下層の調査

に球胴形の体部が付く。底部は内側に若干くぼむ平底であるが、自立しない。胎土はち密で焼成も良好、ミガキが施される丁寧な作りである。332は壺の底部で、外底面の中央はドーナツ状にくぼむ。333は鉢C類で、口縁部は面をもつ。口縁部内外面と体部外面は赤彩される。334は高坏の脚部で、外面はケズリが施される。335は有段口縁をもたない裝飾器台、または深い受部をもつ器台B類と推定する。受部内外面は赤彩される。336は器台A類の受部で、円形の透かしがゆか所入る。内外面とも赤彩される。

SK1208 (図版53-337・図版115)

337は壺F類で、内外面ともミガキが施され、赤彩される。

SK1228 (図版53-338・図版115)

338は器台の脚部で、円形の透かしが1か所確認できる。外面はミガキ、内面はハケである。

SK1242 (図版53-339・340・図版115)

339は広口壺D2類で、口縁部外面には煤が付着する。340は口縁部を欠損するが、壺D類と推定する。

SK1102 (図版53-341・図版115)

341は壺B3類である。胎土には海綿骨針が含まれる。

SK1111 (図版53-342・図版115)

342は壺B2類である。口縁部面にはヘラ状工具による刻み目がめぐる。

SK1116 (図版53-343・344・図版115)

343は壺B1類で、口縁部の外反度は弱い。344は口縁部が内湾気味の布留傾向の壺D類である。

SK1107 (図版53-345~360・図版115)

壺 (345~351)・壺 (352~354)・高坏 (355・356)・器台 (357~360) がある。345は受け口口縁壺C類である。346・347は壺B2類で、コの字状口縁をもつ。348は有段口縁壺A類、349は壺B2類、350は壺B1類である。351は小型壺B1類である。球胴形の体部に丸底が付く、自立しない。352は壺E1類である。頸部は直立し、長胴形の体部をもつ。底部はしっかりとした平底である。口縁部と体部内外面には煤・コゲが付着する。353は壺C1類で、縦方向の丁寧なミガキが施される。354は壺の底部で、内面には煤・コゲが付着する。355は東海系の高坏B2類で、坏部内外面は赤彩される。356は小型の高坏脚部で、外面にはハケ目が残る。357は受部に明瞭な段をもつ小型器台C1類で、358は小型器台C3類である。359は小型器台の脚部で、透かしは4個以上入ると推定する。外面は赤彩される。360は有段口縁をもたない裝飾器台、または深い受部をもつ器台B類と推定する。受部内外面は赤彩される。

SK1108 (図版53-361・図版115)

361は小型器台C3類である。内湾する受部に裾部が大きく広がる脚部が付く。脚部に円形の透かしが3か所入る。

SK1117 (図版54-362~367・図版115・116)

壺 (362~364)・鉢 (365・366)・器台 (367) がある。362は壺B1類で、口縁部面には1条の浅い沈線が入る。体部外面には煤・コゲが付着する。363も口縁部を欠くが、壺B1類と推定できる。頸部上端が一見すると平口縁のように見える。頸部から体部内外面には煤・コゲが付着する。364は壺F類であり、頸部はやや短い。365・366は楕形の鉢D1類である。365は平底をもち、内面は板ナデである。366の胎土は粗く、粘土紐接合痕が残存する粗雑な作りである。367は小型器台C6類で、やや深い受部は内湾し、口縁部はつまみ上げる。受部内面は赤彩され、口縁部内面に煤・コゲが付着する。

SK1110 (図版54-368・図版116)

368は東海系の高坏B2類である。坏部内外面はミガキが施され、赤彩される。

SD1011 (図版54-369・370・図版116)

369は甕B1類で、コの字状口縁をもつ。370は鉢B類で、外面は赤彩される。

SD1114 (図版54-371・図版116)

371は高坏の脚部であり、B1類と推測する。坏部内外面と脚部外面は赤彩される。

SD1245 (図版54-372・図版116)

372は鉢C1類である。球形の体部にごく小さな平底が付く。

SD1220 (図版54-373-383・図版116)

甕(373-375)・壺(376-379)・鉢(380)・高坏(381)・器台(382-383)がある。373は甕B1類、374・375は甕B2類である。376・377は壺B2類である。376は口縁部下端に円形竹管文が押捺される。377は丁寧なミガキが施される。378は壺F類で、頸部はやや短い。379は壺I類、380は鉢C2類である。381は高坏の脚部であり、円形の透かしが4か所入る。382は深い受部をもつ器台B類であり、円形の透かしが入る。383は小型器台C2類である。

SD1115 (図版55-384-392・図版56-393-406・図版116・117)

甕(384-394)・壺(395-399)・鉢(400-404)・器台(405・406)がある。384・393は甕B3類、385・389・391・394は甕B1類、386-388・390・392は甕B2類である。386の口縁端面は幅広であり、外側へわずかに突出する。最大径が口径であり、体部は張り弱い。体部外面は目の粗いハケ、内面はケズリである。390は体部上半が大きく張り出す。392は斜方向のハケの後、体部下半のみ横方向のハケである。393は口縁部の外反度が弱い。395は大型の壺の体部上半部である。肩部には粘土紐貼り付けによる突起が1条めぐり、396は壺B1類、397は壺F類、398は壺I類である。399は壺の底部で、外底面の中央がドーナツ状にくぼむ。400は有段口縁鉢A類で、口径30cmと大型である。401・404は鉢C2類である。401はごく小さな平底が付くが自立しない。402-403は鉢B類で、口縁端部は402が丸く、403は面をもつ。403は内外面とも丁寧なミガキが施される。405は大型の器台脚部であり、外面は赤彩される。406は小型器台の脚部である。

d) 包含層出土土器各説

甕 (図版56-407-411・図版57-412-419・図版117・118)

407・408は中型甕B2類である。コの字状の口縁部に長胴形の体部がつづき、平底が付く。409・414は受口口縁壺C類である。410は甕B1類、411は甕B3類である。412は甕B3類で、口縁端部は幅広の面をもつ。413は甕B2類で、コの字状口縁をもつ。415は大型甕B2類で、体部中位が大きくみくらむ。416は小型甕B1類で、底部は平底である。417・418は甕B1類で、口縁部はくの字に外反する。419は長胴で口縁部がほぼ直立するもので、古墳時代前期よりも新しい可能性がある。

壺 (図版57-420・421・図版58-422-426・429・図版118・119)

420は壺I類で、直立気味の口縁部に球形の体部がつづく。体部外面はケズリである。421は甕B1類で、内外面ともミガキが施される。422は大型の壺C1類で、最大径は体部中位にある。423は壺E2類で、直立気味の口縁部に球形の体部がつづく。口縁部から体部外面はハケの後ミガキである。424は壺G類で、球形の体部に直線的にのびる口縁部がつく畿内系長頸壺である。425は壺F類またはG類の体部で、外面は丁寧なミガキである。426は壺K類で、畿内系の小型壺である。最大径は口径で、底部は小さな平

3 下層の調査

底である。429は竪J1類で、無類壺である。口縁部に穿孔が1か所確認できる。

鉢 (図版58-427・428・430・図版119)

427は鉢C1類で、外面は赤彩される。428は有段口縁の鉢A類で、体部内外面はケズリである。430は鉢E類で、底部穿孔の鉢である。

高 坏 (図版58-431・432・図版119)

431・432は高坏D類で、畿内系の屈折脚高坏である。431の坏部はゆるい稜をもち、坏部内外面は横方向のミガキである。棟持の脚部には縦方向のミガキ、脚部には横方向のミガキが行われる。

器 台 (図版58-433-435・図版119)

433・434は器台A類で、有段口縁をもつ装飾器台である。433の受部には円形の透かしが8か所入り、脚部の透かしは3か所と推定できる。434の受部には円形の透かしが9か所入り。433・434は内外面とも丁寧なミガキが行われ、赤彩される。435は小型器台の脚部で、外面にはミガキが施される。

2) 木 製 品

下層では漆・土坑・柱穴などから総数66点の木製品が出土しており、主なものに脚付盤・舟形木製品・又鉞もしくは鋤・曲物部材・建茶部材がある。

SD1201 (図版59-436・図版120)

436は1号円形周溝状遺構から出土した舟形木製品である。船首は船尾よりも鋭角を呈し、底部はやや平坦に作成されている。柁目を使用している。一部欠損しているが、船首に別の部材をはめ込む長さ4cm、深さ1.2cmの切欠(図版59-436)が認められる。この部分は波切り板の装着が想定され、準備造船を模したものと考えられる。

SD1115 (図版60-451・図版120)

枕状木製品が1点出土している。割材を方形に削り加工されており、先端部は比較的鋭角に加工されている。

SK1117 (図版59-438・439・図版120)

2点の木製品が出土している。438は又鉞もしくは鋤の刃先と考えられる部材で、両面から削って刃部を形成している。439は曲物の部材で、両面に削り加工痕が認められる。

SK1110 (図版59-60-440-450・図版120)

木製品7点と未製品4点が出土している。440~444は垂木である。441はほぼ完形品で長さ63.4cmを測り、軒用の垂木と考えられる。440・441は端部近くの3面に結束用の凹みが施されている。442・443は幅・厚さ及び角材として加工されているなど440・441に類似し、垂木の一部と考えられる。444は半割材で加工法が他の木製品と異なるが、大きさから垂木の一部と考えられる。445は曲物の底板と推定される。両面は板状に削られ端部には孔が穿たれている。446~449は玉木取りの段階と考えられる。加工前の水漬けのまま放置された物であろう。どれも全体に樹皮が残り、両端に鈍角の切断面が認められる。法量は、長さ19.1~22.9cm、平均21.2cm、直径7.7~8.9cm、平均は8.3cmである。450は丸材を利用した枕状木製品で、先端部がやや鋭角に削られている。

SB1042 (図版60-453-458・図版121)

棟持柱建物で8基の柱穴から6点の丸材の柱が検出されている。棟持柱の直径9.2cm、その他の直径は12.9~18.1cm、平均15.9cmで、455の棟持柱と比べ太い木材を用いている。柱先端部の切断面は、453~456・458の鈍角を呈するもの、457のやや鋭角を呈するものがある。

SB1136 (図版61-466-471・480・図版121)

8基の柱穴から7点の柱と礎板が1点出土している。丸材は1点のみで、残りの6点は割材である。467は丸材で、直径は15.2cmを測る。割材は幅8.8~21.9cm、平均16.1cm、厚さ5.5~16.2cm、平均12.3cmである。先端部の切断面は、466・470・471の鈍角を呈するもの、467・468の鋭角を呈するもの、469のはは水平に切断されているものがある。480は礎板でP1122から柱を伴わず立った状態で出土した。

SB1137 (図版61-472・図版121)

4基の柱穴のうちP1133から柱が出土している。丸材で直径8.8cmを測る。柱の先端部切断面は鋭角である。

SB1256 (図版60-459・図版121-459)

P1202から柱が1点出土している。遺存状態が悪い丸材で、直径7.2cmを測る。先端部は鈍角に削られている。

SB1259 (図版61-461-465・473-479・図版121)

6基の柱穴から丸材1点、割材4点の柱が出土し、割材の柱には礎板が存在していた。割材の量は、幅17.3~20.2cm、平均18.5cm、厚さ11.9~18.7cm、平均15.1cmである。461の丸材は直径20.9cmでP1250から出土しており、礎板は存在しない。柱の先端部切断面はやや鈍角を呈する。462はP1249出土の柱で、柱の先端部切断面はやや水平に切断されている。463はP1251出土の柱で、柱の先端部切断面はやや鈍角に切断されている。464はP1254出土の柱で、柱の切断面はやや鈍角を呈する。465はP1261出土の柱で柱の先端部切断面はやや水平に切断されている。礎板は5基の柱穴から9点出土しており、すべて他の建築部材から転用されたものである。P1254からは礎板が4点出土している。476・477は同一部材で、477には一端に切欠が認められることから敷居か鴨居の転用と考えられる。478・479はP1261からの出土で礎板の2点は柱材を転用しており、接合(図版121)する。473はP1249から、474はP1251からの出土である。475はP1252から柱を伴わずに出土している。

その他の柱 (図版60-460・図版121)

建物としては確認できなかったが、丸材2点・割材3点の柱が出土している。460は先端部切断面を鋭角に切断している丸材で、SD1201内のP1258から出土している。

川 跡 (図版59-437・60-452・図版120)

川跡から脚付盤と建築部材の梁が出土している。437は脚付盤で割材が使用されており、横木取りの柱目で作られている。口縁部は木目直行方向にやや厚く、木目平行方向はやや薄めに作られている。底部には木目に平行に四脚が作られている。内面に円形の焦げあとが認められる。

452は建築部材で梁の端部である。丸材を使用しており、端部中央に切欠が認められることから、2つの木を固定させる「チキリ」の細工と考えられる。側面には桁材を固定するための切欠がある。転用のために切断後廃棄されたと考えられる。

3) 土 製 品 (図版62-481-492・図版122)

土製品には有孔土製品と紡錘車がある。有孔土製品には形態が球状を呈するものと、管状を呈するものがある。これらを「土鍾」とする報告が多いが、機能を断定できないため、形態から有孔土製品とした。

有孔土製品や紡錘車の製作方法は、棒状工具に粘土紐を巻きつけて成形し、粘土が柔らかいうちに棒状工具を引き抜く。引き抜き方は、①そのまま引き抜く方法(孔面には長軸方向に細かな条痕が残る)と、②回転させながら引き抜く方法(孔面には短軸方向に細かな条痕が残る)の2者があり、本遺跡の資料では長軸方向に条痕が認められるものが多い。

球状有孔土製品(481~485)の分量は、長さ4.0~4.5cm、平均4.3cm、直径4.4~4.8cm、平均4.5cm重量60.5~94.0g、平均78.1gを測る。全てに黒斑が認められことから、焼成方法は、野焼きの火床に直接置いた状態で焼成されたものと推測される。483は黒斑のほかには煤が付着している。485は敲打痕が2か所認められる。

管状有孔土製品(486~491)の分量は、計測できる個体で見ると、長さ4.9~5.1cm、直径4.1~4.5cm・重量は100g前後のものが多い。488・489には煤の付着が認められる。

紡錘車(492)は製作技法と形態は管状有孔土製品に似るが、長さ3.0cm、直径4.8cmと軸長より直径の方が大きい。紡錘車としてはやや小振りな作りである。

4) 石製品(図版62-493~498・図版122)

石製品は敲石、砥石、勾玉があり、遺構外のもの全てはXa層から出土した。敲石(493~495)は楕円形や円形の自然礫を素材とし、敲打痕が認められるものである。493はSD1113、494はSK1242、495は9C2グリッドから出土した。石材は493・495がドレライト、494は花崗閃緑ひん岩である。いずれも側縁部、または長軸上の両端部を使用する。また、493は左右側縁部に敲打によるものとは異なる、金属器で削り取られたような面が認められる。

砥石(496・497)は2点出土した。496はSD1220から出土し、形状は扁平で上端は欠損している。497は12E3グリッドから出土し、直方体状を呈する。496・497の石材は流紋岩質凝灰岩である。共に表裏、左右側面を使用しており擦痕や線状の溝が認められ、片方の側面は他の面よりも摩滅が著しい。

勾玉(498)はSD1115から出土した。軟玉製で頂部の穿孔は片側から行われる。断面は楕円形を呈し、尾部は欠損する。

5) 金属製品(図版62-499・図版122)

金属製品は小型銅鏡が1面出土した。出土地点は8B19グリッド、出土層位はXa層で、1号円形周溝状遺構とその西側に位置するSK1216とのほぼ中間にあたる。一部欠損するもののほぼ完形品である。青銅製で、直径は2.75cmを測る。鏡面はやや反り、鈕は半球形を呈する。鏡背の文様は鈕をめぐる1重の圏線のみであり、簡略化された重圏文鏡、あるいは素文鏡として分類されるものである。

4 自然科学分析

はじめに

西川内南遺跡は、新潟県中条町大字西川内に所在し、胎内川扇状地末端の沖積地に形成された自然堤防上に立地する。発掘調査の結果、奈良・平安時代(上層)及び古墳時代前期(下層)の文化層が確認されている。上層からは、川跡と川跡に伴う枕列や道路状遺構、下層からは、掘立柱建物、円形周溝状遺構、炭化物を多量に含む土坑等が検出されている。

本報告では、本遺跡で確認された奈良・平安時代及び古墳時代前期の遺構・遺物、さらに、これらの遺構・遺物が確認された土層を対象に、1) 遺構の年代観、2) 古植生、3) 動・植物資源利用、4) 遺物分析、の4点の課題を明らかにするため、自然科学的手法を用いて検討する。

A 試 料

1) 上 層

試料は、川跡2に伴う杭列の杭から採取した木片3試料（杭列1：杭186・杭列2：杭403・杭列3：杭197）である。なお、木片の採取は、丸木材で樹皮、あるいは、樹皮状の痕跡が認められる場合は最終形成年輪に相当する部分を、割材の場合も観察範囲内での最も外側の年輪を対象としている。ただし、該当箇所に加工痕が認められる場合や破損部が認められない場合は、これらの箇所に近い破損部を選択している。これらの試料を対象に樹種同定・放射性炭素年代測定を行う。

2) 下 層

遺構の年代観

試料は、掘立柱建物に伴う柱より採取した木片6試料（SB1256：P1202、SB1259：P1250・P1251・P1261、SB1042：P1036・P1039）である。試料の採取は上述した方法と同様である。これらの試料を対象に樹種同定・放射性炭素年代測定を行う。

古 植 生

試料は、発掘調査区内に設定されたセクションベルト3か所から採取された土壌試料9点（東西ベルト南壁セクション9B25グリッド（以下、9B25）：Xa・Xb・XII層、南北ベルト西壁13C21グリッド（以下、13C21）：Xa・Xb・XI層、南7C21グリッド（以下、7C21）：Xa・Xb・XI層）である。いずれの試料も、下層の文化層及び文化層より下位の土層から採取されている。発掘調査所見では、X層は遺物包含層（遺構も検出される）、XI層は遺構検出面とされている。なお、XII層は9B25・13C21地点ではX層直下の土層となる。これらの試料を対象に花粉分析・植物遺体分析を行う。

植物資源利用

試料は、種実遺体及び木製品や柱等53試料からなる。種実遺体は6遺構（SK1002・SK1017・SK1045・SK1117・SK1240・SD1201）の覆土中より水洗選別法で抽出された計26試料である。各試料中には、複数点の種実遺体が認められる。一方、木製品や柱は、木製品2点、土坑から出土した木製品8点、川跡に伴う杭や掘立柱建物に伴う柱17点の計27試料である。これらの試料のうち、種実遺体については種実遺体同定、木製品等については樹種同定を行う。

動物資源利用

試料は、8遺構（SK1002・SK1211・SK1216・SX1019・SX1034・SX1109・SX1229・SD1218）の覆土中から水洗選別法で抽出、あるいは、土壌ごと採取された計11試料の動物遺存体である。水洗選別法により抽出された試料中には、微細な動物遺存体が多量に認められる。これらの試料を対象に動物遺存体分析を行う。

遺 物 分 析

試料は、8B19グリッドXa層から出土した小型銅鏡1点と1号円形周溝状遺構（SD1201）内及びSK1116・

SD1201より検出された赤色物質2点である。小型顕鏡は外径約27.5mm、厚さ約4mmを測り一部欠損するがほぼ完形である。小型顕鏡については金属成分分析、赤色物質についてはX線回折分析を行う。

B 分析方法

1) 放射性炭素年代測定

第Ⅲ章4B1)に準ずる。

2) 花粉分析

第Ⅲ章4B2)に準ずる。

3) 植物珪酸体分析

第Ⅲ章4B4)に準ずる。

4) 種実同定

1試料中には複数の種類・個数が含まれることから、試料を4・2・1・0.5mm目の各ふるいに通し、粒径別にシャーレに移した後、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実を抽出する。種実の形態的特徴を、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑 [石川1994]、日本植物種子図鑑 [中山¹⁹⁹⁰2000] 等と比較し、種類を同定し個数を求めた。分析後の種実遺体は、種類毎にビンに入れ、70%程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施す。

5) 樹種同定

第Ⅲ章4B5)に準ずる。

6) 動物遺存体分析

前処理は、SK1211・SK1216・SX1034の土壌ごと取上げられた試料は、抽出時に形状を崩す可能性があったことから、土壌の一部を崩し露出させる。SX1019は、土壌を崩し試料を抽出する。また、試料の扱合は、一般工作用接着剤を用いて行う。これら前処理を行った後、形状を肉眼及びルーペで観察し、その形態的特徴から種類及び部位の同定を行う。なお、同定・解析は、金子浩昌氏の協力を得ている。

7) 金属成分分析

分析は、株式会社日鐵テクノリサーチの協力を得て、EPMA分析（非破壊分析）を行う。試料は、簡易的なクリーニングにより付着物が除去されている状態である。ただし、外観観察の結果、錆や付着物が認められたことから、これらの該当部分は避け、比較的遺存状況が良好と判断された鏡面を分析対象としている。以下に、測定条件を示す。

分析装置：X線マイクロアナライザー（EPMA） JXA-8100型（日本電子製）

加速電圧：20 kV A

照射電流：1.0×10⁻⁷A

8) X線回折分析

試料より分離した赤色物質を105℃で乾燥し、メノウ乳鉢で微粉砕した後、アセトンを用いて無反射試料板に塗布し、測定試料とする。X線回折測定試料は、以下の条件で測定を行う。また、検出された物質の同定解析は、Materials Data, Inc. のX線回折パターン処理プログラムJADEを用い、該当する化合物または鉱物を検索する。

装置：理学電気製

Target：Cu (K α)

Monochrometer：Graphite湾曲

Voltage：40KV

Current：40Ma

Detector：SC

Calculation Mode：cps

MultiFlexDivergency Slit：1°

Scattering Slit：1°

Receiving Slit：0.3mm

Scanning Speed：2~/min

Scanning Mode：連続法

Sampling Range：0.02°

Scanning Range：2~45°

C 結 果

1) 放射性炭素年代測定

結果を第8表に、暦年較正結果を第9表に示す。試料の測定年代(補正年代)は、杭186は2250BP、杭403は1570BP、杭197は1590BP、P1036は1840BP、P1039は1670BP、P1202は1760BP、P1250は1660BP、P1251は1920BP、P1261は1800BPを示す。また、これらの暦年較正年代のうち、確からしさを示す相対比の大きい年代範囲に注目すると、杭186は295-230calBC、杭403は458-534calAD、杭197は480-531calAD、P1036は130-223calAD、P1039は341-419calAD、P1202は236-341calAD、P1250は379-426calAD、P1251は54-128calAD、P1261は207-255calADを示す。

遺構名	試料名	試料の質	種類	補正年代	δ 13 C	測定年代	Code No.
				BP*	(‰)	BP	
川跡2	杭列1 杭 186	木片	エゴノキ属	2250 ± 40	-23.52 ± 0.86	2220 ± 40	IAAA-41748
川跡2	杭列2 杭 403	木片	クリ	1570 ± 40	-25.62 ± 0.93	1580 ± 40	IAAA-41749
川跡2	杭列3 杭 197	木片	コナラ属コナラ亜属コナラ節	1590 ± 40	-24.29 ± 0.90	1580 ± 30	IAAA-41750
SB1042	P1036	木片	コナラ属コナラ亜属コナラ節	1840 ± 40	-27.98 ± 0.92	1890 ± 40	IAAA-41751
SB1042	P1039	木片	トネリコ属	1670 ± 40	-30.67 ± 0.88	1770 ± 30	IAAA-41752
SB1256	P1202	木片	ヤナギ属	1760 ± 40	-30.11 ± 0.92	1840 ± 40	IAAA-41753
SB1259	P1250	木片	クリ	1660 ± 30	-27.70 ± 0.74	1700 ± 30	IAAA-41754
SB1259	P1251	木片	スギ	1920 ± 40	-22.79 ± 0.96	1880 ± 40	IAAA-41755
SB1259	P1261	木片	スギ	1800 ± 40	-25.74 ± 0.81	1820 ± 40	IAAA-41756

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第8表 西川内南遺跡 放射性炭素年代測定結果

遺跡名	試料名	埋没年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)						相対比	Code No.
川跡 2	試料 1 試 186	2245 ± 38	cal BC 383 - cal BC 352	cal BP 2,333 - 2,302	0.211	IAAA-41748				
			cal BC 295 - cal BC 230	cal BP 2,245 - 2,180	0.630					
			cal BC 219 - cal BC 210	cal BP 2,169 - 2,160	0.069					
川跡 2	試料 2 試 403	1569 ± 39	cal AD 437 - cal AD 454	cal BP 1,513 - 1,496	0.183	IAAA-41749				
			cal AD 458 - cal AD 534	cal BP 1,492 - 1,416	0.817					
川跡 2	試料 3 試 197	1590 ± 36	cal AD 427 - cal AD 443	cal BP 1,523 - 1,507	0.184	IAAA-41750				
			cal AD 447 - cal AD 470	cal BP 1,503 - 1,480	0.249					
			cal AD 480 - cal AD 531	cal BP 1,470 - 1,419	0.567					
SB1042	P1036	1841 ± 37	cal AD 130 - cal AD 222	cal BP 1,820 - 1,727	1.000	IAAA-41751				
SB1042	P1039	1673 ± 37	cal AD 264 - cal AD 268	cal BP 1,686 - 1,682	0.027	IAAA-41752				
			cal AD 341 - cal AD 419	cal BP 1,609 - 1,531	0.073					
SB1256	P1202	1759 ± 39	cal AD 236 - cal AD 341	cal BP 1,714 - 1,609	0.095	IAAA-41753				
			cal AD 374 - cal AD 375	cal BP 1,578 - 1,575	0.005					
SB1259	P1250	1668 ± 33	cal AD 344 - cal AD 370	cal BP 1,606 - 1,580	0.275	IAAA-41754				
			cal AD 379 - cal AD 426	cal BP 1,571 - 1,524	0.725					
SB1259	P1254	1919 ± 38	cal AD 32 - cal AD 38	cal BP 1,918 - 1,912	0.003	IAAA-41756				
			cal AD 54 - cal AD 128	cal BP 1,896 - 1,822	0.947					
SB1259	P1284	1840 ± 43	cal AD 134 - cal AD 162	cal BP 1,816 - 1,788	0.238	IAAA-41756				
			cal AD 168 - cal AD 200	cal BP 1,782 - 1,750	0.256					
			cal AD 207 - cal AD 255	cal BP 1,743 - 1,695	0.425					
			cal AD 304 - cal AD 316	cal BP 1,646 - 1,634	0.091					

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を使用

計算には誤差に示した九乗の値を使用している。

付記した誤差は、測定誤差 (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

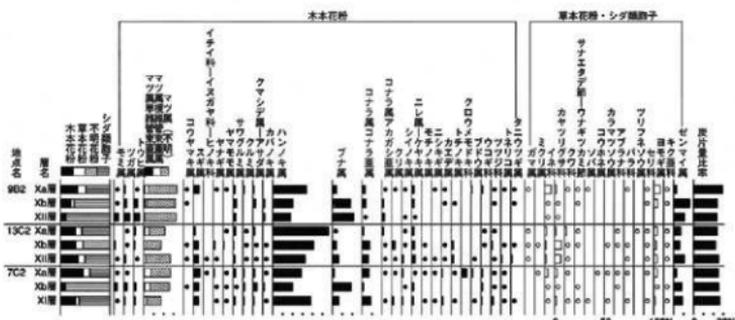
第9表 西川内南遺跡 暦年較正結果

2) 花粉分析

結果を第10表、第25図に示す。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。全体的に花粉化石の産出状況は良好で、保存状態も比較的良好である。いずれの試料においてもゼンマイ属をはじめとするシダ類胞子が多産し、草本花粉と比較して木本花粉が多産する傾向が認められる。以下、各地点の産状を述べる。

9B25

いずれの試料も産出傾向は類似し、木本花粉ではマツ属、ハンノキ属、ブナ属が多産する。ただし、最



出題例は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基盤として百分率で算出した。なお、●○は1列未満を示す。また、炭片量比率は植物遺体の総数を基盤として、百分率で算出した。

第25図 西川内南遺跡 主要花粉化石群集の層位分布

種 類	試料番号	H625			13C21			7C21		
		Xa層	Xb層	XI層	Xa層	Xb層	XI層	Xa層	Xb層	XI層
木本花粉										
モミ属	1	1	5	-	5	3	3	4	4	4
ツグ属	5	3	6	1	1	8	1	4	5	5
トウヒ属	2	4	6	2	4	2	-	3	6	6
マツ属毛葉松亜属属	3	1	-	1	1	-	2	1	1	1
マツ属短葉松亜属属	14	2	1	5	9	8	29	7	12	12
マツ属(不明)	99	30	32	17	55	90	84	23	64	64
コウヤマキ属	1	1	-	-	1	-	1	-	1	-
スギ属	21	-	-	2	19	20	28	7	24	24
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-
ヤナギ属	1	-	-	-	6	1	5	1	3	3
ヤマモミ属	1	-	-	1	4	-	3	1	1	1
サワグルミ属	7	4	3	3	4	7	11	1	9	9
クルミ属	5	-	-	1	3	2	6	2	6	6
クマシラギ属-アサダ属	5	3	-	2	3	3	8	5	6	6
カバノキ属	-	2	2	-	1	2	3	2	3	3
ハンノキ属	119	21	18	61	152	123	124	24	169	169
ブナ属	16	19	22	1	16	25	10	23	30	30
コナラ属コナラ属属	11	4	1	2	29	24	31	2	39	39
コナラ属アカガシ亜属属	2	2	3	2	2	1	3	-	3	3
クリ属	1	-	-	-	13	2	2	-	9	9
シイノキ属	1	-	1	1	1	7	6	1	5	5
ニレ属-ケヤキ属	10	3	1	3	12	14	3	3	9	9
キハダ属	1	-	-	-	-	-	4	1	-	-
ウルシ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
モナノキ属	-	-	-	-	3	1	2	-	2	2
ニシキギ属	2	-	-	-	-	1	1	-	1	1
カエデ属	1	1	-	-	3	3	5	-	7	7
トナリノキ属	-	1	-	-	8	9	2	-	2	2
クロモミモドキ科	-	-	-	-	-	-	25	-	-	-
ブドウ属	4	-	-	-	-	1	7	-	1	1
ウコギ科	6	-	-	1	2	-	7	2	8	8
ミズキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
ツツジ科	2	1	-	1	6	3	3	1	10	10
トネリコ属	3	-	-	-	3	5	1	1	1	1
オヤマズミ属	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-
クニツツコ属	3	1	-	-	1	6	-	-	3	3
草本花粉										
ゴマ属	1	-	-	1	10	1	-	-	-	-
ミドリ属	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
イネ科	67	3	3	7	16	16	29	6	15	15
オキアザミダサ科	18	3	1	4	60	64	20	1	27	27
クワ科	1	-	-	7	3	4	4	-	7	7
サナエダ節-ウナギツカミ節	1	1	-	1	1	-	-	2	1	1
タデ属	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1
ソバ属	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1
アザギ科	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-
ナアシコ科	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
コウホネ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
カラマツソウ属	-	-	-	-	3	-	2	-	2	2
アブナ科	-	-	-	1	1	-	2	1	-	-
バラ科	1	-	-	-	1	4	7	-	7	7
マメ科	1	-	-	1	-	-	-	-	1	1
ツリアネソウ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
アリノトウグサ属	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
セリ科	4	1	-	2	3	3	6	-	3	3
ツルニンジン属	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
ヨモギ属	65	19	-	13	29	26	33	3	22	22
キク亜科	1	1	-	1	1	4	-	3	3	3
タンポポ草科	-	-	-	1	-	1	-	-	1	1
不明花粉	14	2	-	4	15	14	24	7	15	15
シダ類孢子										
ヒカゲノカズラ属	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-
ゼンマイ属	30	78	97	25	75	113	28	114	129	129
他のシダ類孢子	448	264	665	170	541	397	325	1008	743	743
合 計										
木本花粉	348	104	101	108	367	377	426	120	441	441
草本花粉	163	28	5	41	151	134	112	16	289	289
不明花粉	14	2	0	4	15	14	24	7	15	15
シダ類孢子	478	342	762	195	618	511	353	1213	872	872
合計(不明を除く)	989	474	868	344	1136	1022	891	1349	1402	1402
炭片量比率(%)	29.48	24.18	23.83	24.34	22.47	26.42	25.23	25.48	26.76	26.76

第10表 西川内南遺跡 花粉分析結果

上位のXa層ではブナ属の割合が減少し、ハンノキ属とスギ属の割合が増加する。その他ではモミ属、ツガ属、トウヒ属、サワグルミ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科、ヨモギ属などが多く認められる。Xa層では、水湿地生植物のガマ属や、栽培種のソバ属なども検出される。炭片量比率は、Ⅻ層は23.8%、Xb層は24.2%、Xa層は29.5%である。

13C21

3試料はいずれも産出傾向は類似し、木本花粉ではマツ属、ハンノキ属が多産する。特に、ハンノキ属は上位層に向かって増加する傾向が認められる。その他の種類では、スギ属、ブナ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属トチノキ属などを伴う。草本花粉ではカヤツリグサ科、ヨモギ属、イネ科などが多く、ガマ属、ミクリ属、ツリフネソウ属などの水湿地生植物も認められる。炭片量比率は、Ⅻ層は25.4%、Xb層は22.5%、Xa層は24.2%である。

7C21

3試料はいずれも産出傾向は類似し、木本花粉ではマツ属、ハンノキ属が多産し、Xb層ではブナ属の割合も高い。その他ではスギ属、クマシデ属-アサダ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが検出され、水生植物のミクリ属、コウホネ属、栽培植物のソバ属も認められる。炭片量比率は、Ⅻ層は26.8%、Xb層は25.5%、Xa層は25.2%である。

3) 植物珪酸体分析

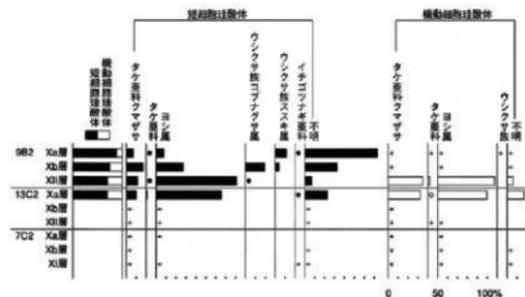
結果を第11表、第26図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、保存状態は不良であり、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。以下、各地点の産状を述べる。

9B25

Ⅻ層は、ヨシ属の産出が目立ち、クマザサ属を含むタケ亜科などが認められる。Xb層では、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、コバナグサ属やススキ属などが認められる。Xa層では、不明キビ型の検出個数が顕著に多く、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属などが認められる。

13C21

Ⅻ・Xb層は、クマザサ属やヨシ属等が僅かに認められるのみで、9B25の試料と産状が異なる。Xa層で



出現率は、イネ科とヨシ属の珪酸体、イネ科属身ヨシ属の珪酸体の総数を基準として百分率で算出した。
なま、●○は1試料未満、+は100%未満の試料で検出された種類を示す。

第26図 西川内南遺跡 植物珪酸体群集の層位分布

種 類	試料番号	9B25			13C21			7C21		
		Xa層	Xb層	XII層	Xa層	Xb層	XII層	Xa層	Xb層	XI層
イネ科栽培植物類群総体										
タケ亜科クマザサ属	29	26	29	24	1	4	2	7	24	
タケ亜科	1	-	1	3	-	-	-	-	-	
ヨシ属	32	42	203	164	2	1	2	-	3	
ウシクサ属コブナダサ属	-	30	1	-	-	-	-	-	-	
ウシクサ属ススキ属	48	6	-	-	-	-	-	-	-	
イネゴツナギ亜科	3	-	-	1	-	-	-	-	1	
不明ヒゲシハ類	283	35	6	39	1	-	-	2	5	
不明ヒゲシハ類	11	3	7	11	-	1	-	1	-	
不明ナンタク類	15	12	4	6	-	2	-	3	3	
イネ科野生植物類群総体										
タケ亜科クマザサ属	38	35	37	34	1	5	3	4	18	
タケ亜科	1	-	2	1	-	1	-	-	-	
ヨシ属	7	15	61	52	-	2	2	5	1	
ウシクサ属	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明	10	1	6	18	-	-	-	3	1	
合 計										
イネ科栽培植物類群総体	422	154	251	245	4	8	4	13	36	
イネ科野生植物類群総体	58	51	106	105	1	8	5	12	20	
総 計	480	205	357	350	5	16	9	25	56	

第11表 西川内南遺跡 植物遺体分析結果

は、9B25のXa層よりもI層と産状が類似し、ヨシ属の産出が目立ち、クマザサ属を含むタケ亜科等が認められる。

7C21

XI・Xb・Xa層の産状は、いずれも類似し、クマザサ属やヨシ属などがわずかに認められるのみである。

4) 種実同定

結果を第12表、出土種実分類群一覧を第13表、遺構別種実出土状況を第14表に示す。栽培植物のスモモ、モモ、イネ、アサ、シソ属、メロン類、トウガン、ヒョウタン類を含む木本17分類群321個、草本12分類群1457個、計1778個の種実が検出された。その他に、炭化材、昆虫遺骸の破片なども確認された。以下に、各遺構の種実検出状況を記す。

SK1002

黒色土層(1層)から、木本10分類群(オニグルミ、マタタビ属、モモ、アカメガシワ、サンショウ属、カラスザンショウ、ブドウ属、ノブドウ、ブドウ科、エゴノキ属)33個、草本4分類群(イネ、カナムグラ、アサ、トウガン)80個が検出された。栽培植物は、モモ3個、イネ50個、アサ23個、トウガン4個が確認された。

SK1017

木本12分類群(オニグルミ、コブシ、マタタビ属、モモ、サンショウ属、カラスザンショウ、ブドウ属、ノブドウ、ブドウ科、エゴノキ属、クサギ、ニワトコ)95個、草本6分類群(イネ、カナムグラ、アサ、タデ属、シソ属、ウリ科)90個が検出された。栽培植物は、モモは1個(4層)、イネは計43個(1・4層)、アサは計40個(1・4層)、シソ属は2個(4層)が確認された。

SK1045

3層から、木本4分類群(マタタビ属、サンショウ属、カラスザンショウ、ブドウ属)5個、草本は栽培植物のイネ741個、アサ2個が検出された。

SK1117

木本13分類群(オニグルミ、ヤマグリ、マタタビ属、スモモ、モモ、アカメガシワ、カラスザンショウ、ウルシ属、ブドウ属、ブドウ科、クワノキ、エゴノキ属、ニワトコ)129個、草本8分類群(ミクリ属、イネ、カヤツリグ

分類群	木本													草本											
	○オニグルミ	○ヤマガワ	○マタタビ	●スモモ	●モモ	●アカメガシワ	○サンショウウ属	○カラムシ属	○カラスツバキ属	○ブドウ属	○ノドトウ	○ブドウ科	○タラコ科	○エゴノ木属	○ニワトコ	●イネ	●カタアブリダヤ科	●カナムグラ	●アサ	●メロン類	●シソ類	●トウモロコシ	●ヒヨウタン類	ウリ科	
SK1002 黒色土層(1層)	9	-	-	1	-	3	2	7	1	-	6	1	1	-	2	-	-	50	-	3	23	-	-	4	-
SK1017 1層	10	-	2	1	-	-	-	-	-	5	1	5	-	1	1	-	1	-	2	16	-	-	-	-	-
SK1017 4層	-	-	-	-	-	1	-	9	5	-	24	-	24	-	1	-	5	-	42	-	1	24	1	2	-
SK1045 3層	-	-	-	1	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	741	-	-	2	-	-	-	-
SK1117 1層	-	1	-	2	13	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-	2	-	20	3	-	-	18	-	-
SK1117 2層	-	4	-	6	-	1	-	-	1	-	3	-	-	3	-	21	1	-	29	2	-	-	18	-	-
SK1117 3層	4	-	-	-	-	1	-	1	-	4	-	1	-	4	-	-	2	-	1	133	13	-	173	1	-
SK1117 4層	5	-	-	1	-	-	-	1	-	3	-	2	-	-	-	-	1	1	58	2	-	-	13	2	-
SK1117 5層	2	-	-	-	1	-	-	-	-	8	-	1	-	-	36	-	6	-	18	2	-	-	3	-	-
赤土遺物内サンプル	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
SK1240 10層	2	-	-	1	-	1	1	-	-	4	1	-	-	-	-	-	8	-	6	-	-	2	-	-	-
SK1240 10層下	-	-	-	-	-	-	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
SD1201 2層	1	-	-	-	10	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-

(注) ●は検出された栽培植物を示す。○は検出が長期可能な分類群を示す。

第14表 西川内南遺跡 遺構別種実出土状況

サ料、カラムシ属、カナムグラ、アサ、メロン類、ヒヨウタン類) 524個が検出された。栽培植物は、スモモは13個(1層)、モモは2個(2-5層)、イネは計11個(2層を除いた各層)、アサは計22個(各層)、メロン類は計223個(1-4層、遺物内)、ヒヨウタン類は計6個(3-5層)が確認された。

SK1240

10層から、木本7分類群(オニグルミ、マタタビ属、モモ、アカメガシワ、サンショウウ属、ブドウ属、ブドウ科)52個、草本3分類群(イネ、カナムグラ、メロン類)20個がされた。栽培植物は、モモ1個、イネ8個、メロン類2個が確認された。

SD1201

2層から、木本のオニグルミ1個と、栽培植物のスモモ10個が検出された。

本分析で検出された種実の遺存状態は、栽培植物のイネは炭化した状態であった。この他は比較的良好で、オニグルミ、スモモには、菌菌類(ネズミなど)による食害痕がある個体がみられる。以下に、同定された種実の形態的特徴等を、木本、草本の順に記す。

<木本>

オニグルミ(*Juglans mandshurica Maxim. subsp. sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

核の完形、半分以下の破片が検出された。灰褐色、広卵形で頂部がやや尖る。径3cm程度。1本の明瞭な縦の縫合線があり、縫合線に沿って半分に割れた個体(8D19 SK1240 10層など)や、縫合線上に菌菌類(ネズミなど)によると考えられる食害痕が認められる個体(12C17 SK1017 1層)がみられる。核は硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。

ヤマガワ(*Morus australis Poirét*) クワ科クワ属

種子が検出された。黄褐色で三角状広倒卵形。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になりやや薄い。長さ2mm、径1.8mm程度。一辺が鋭利で、基部に爪状の突起を持つ。表面には微細な網目模様がありざらつく。

コブシ(*Magnolia kobus DC.*) モクレン科モクレン属

種子の破片が検出された。黒褐色、腎臓形でやや扁平。長さ7-9mm、幅10mm、厚さ5mm程度。凸状に影らむ背面を欠損する。腹面は正中線上に幅広い縦溝がある。頂部はやや尖り、基部には臍がある。種皮は

薄く硬く、表面は平滑。

マタタビ属 (*Actinidia*) マタタビ科

種子が検出された。茶褐色、両凸レンズ状楕円体。長さ2.8mm、幅1.7mm程度。基部はやや突出し、切形。種皮は硬く、表面には円形・楕円形などの凹点が密布し網目模様をなす。

スモモ (*Prunus salicina* Lindley) バラ科サクラ属

核 (内果皮) が検出された。レンズ状の広楕円体でやや偏平。径1.5cm、厚さ1cm程度。基部は丸く臍点がある。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線上に蓄菌類 (ネズミなど) によると考えられる食害痕が認められる個体 (8C20 SD1201 2冊) がある。内果皮は厚く硬く、表面にはごく浅い凹みที่ไม่規則にみられる。

モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核 (内果皮) の完形、半分以下の破片が検出された。灰褐色、広楕円体でやや偏平。先端部はやや尖る。基部は切形で中央部に湾入した臍がある。長さ2~2.5cm、幅2cm、厚さ1.5cm程度。1本の明瞭な縦の縫合線があり、縫合線に沿って半分に割れた個体 (12D2 SK1002 黒色土層1層) がみられる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。表面が磨耗した個体 (12C23 SK1017 4層) もみられる。

アカメガシワ (*Mallotus japonicus* (Thunb.) Mueller-Arg.) トウダイグサ科アカメガシワ属
種子が検出された。灰~黒褐色、重なる球体で径4mm程度。基部にはY字形の稜があり、稜に沿って3裂した個体 (12C22 SK1002 黒色土層1層など) がみられる。種皮は硬く、表面に瘤状突起を密布しゴツゴツしている。種皮断面には内側に湾曲する櫛状構造がみられる。

サンショウ属 (*Zanthoxylum*) ミカン科

核 (内果皮) が検出された。黒褐色、倒卵形体で、長さ4mm、径3mm程度。基部に斜切形の臍がみられる。内果皮は厚く硬く、表面には浅く細かな網目模様がみられる。

カラスザンショウ (*Fagara ailanthoides* (Sieb. et Zucc.) Engler) ミカン科イヌザンショウ属
核 (内果皮) が検出された。黒褐色、非対称広倒卵体、やや偏平で、片方の側面に核の長さの半分以上に達する深く広い臍がある。長さ4~4.5mm、幅3.5mm、厚さ2.5mm程度。内果皮は厚く硬く、表面には深く大きな網目模様がみられる。

ウルシ属 (*Rhus*) ウルシ科

核 (内果皮) が検出された。淡灰褐色、菌状横長楕円体でやや偏平。長さ2.5mm、幅3.5mm、厚さ1mm程度。背腹両面の中央は凹む。腹面基部の中央に臍がある。内果皮は厚く柔らかく、表面はやや平滑。

ブドウ属 (*Vitis*) ブドウ科

種子が検出された。黒褐色、広倒卵体、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、喙状に尖る。長さ4mm、径3.2mm程度。背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は薄く硬く、断面は櫛状。

ノブドウ (*Ampelopsis brevipedunculata* (Maxim.) Trautv.) ブドウ科ノブドウ属

種子が検出された。灰褐色、広倒卵形、側面観は半広倒卵形で丸みがあり、基部はやや尖る。径4mm程度。背面にはU字状に開いたさじ状の模様がある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は薄く硬く、断面は櫛状。なお、ブドウ属と区別する根拠となる背面が欠損した破損個体を、ブドウ科 (Vitaceae) と同定するととどめた。

タラノキ (*Aralia elata* (Miq.) Seemann) ウコギ科タラノキ属

核 (内果皮) が検出された。淡褐色、半円形でやや偏平。長さ2.2mm、幅1.3mm程度。腹面にはほぼ直線状で、片端に突起が見られる。背面には数本の浅い溝が走る。表面はざらつく。

エゴノキ属 (*Styrax*) エゴノキ科

種子が検出された。黒褐色、卵形で頂部がやや尖る。長さ9~10mm、径6~7mm程度。表面には3本程度の縦溝が走る。基部には灰褐色でざらつく着点がある。種皮は厚く硬く、種子表面は微細な網目模様があり、ざらつく。

クサギ (*Clerodendron trichotomum* Thunb.) クマツヅラ科クサギ属

核 (内果皮) が検出された。灰褐色で広卵形、側面観は三日月形。長さ5mm、幅4mm、厚さ3mm程度。背面は丸みがあり、腹面は平らで腹面方向にやや湾曲する。腹面の一端には裂け目状の発芽口がある。内果皮は厚く硬い。背面には大きな網目模様があり、腹面表面は平滑である。

ニフトコ (*Sambucus racemosa* L. subsp. *sieboldiana* (Miq.) Hara) スイカズラ科ニフトコ属

核 (内果皮) が検出された。淡~黄褐色、広例卵形でやや偏平。基部はやや尖る。長さ2.8mm、幅1.5mm程度。背面は丸みがあり、腹面の中央は縦方向の鈍稜をなす。腹面下端には小さな孔がある。内果皮はやや硬く、表面には横皺状模様が発達する。

<草本>

ミクリ属 (*Sparganium*) ミクリ科

果実が検出された。淡褐色、倒卵形。長さ3mm、径2mm程度。頂部はやや尖り、基部は切形。果皮はスポンジ状で、表面には数本の鋭い稜が縦列する。

イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。長楕円形でやや偏平。長さ4~7mm、幅2.5~3mm、厚さ1.5mm程度。基部の一端には胚が脱落した凹部がある。表面はやや平滑で、2~3本の縦溝が確認される。また、表面に殻 (果) が付着する個体がみられる。殻 (果) は基部に円柱状の特徴的な果実序柄がある。果皮は薄く、表面には顆粒状突起が規則的に縦列する。

カヤツリグサ科 (Cyperaceae)

果実が検出された。形態上差異のある複数の種を一括した。淡~茶褐色。三稜またはレンズ状倒卵形。径1~1.5mm程度。頂部の柱頭部分がわずかに伸びる。表面には微細な網目模様がありざらつく。スゲ属 (*Carex*) と思われる個体を含む。

カラムシ属 (*Boehmeria*) イラクサ科

果実が検出された。淡黄褐色、非対称な広倒卵形で偏平。径1.2mm程度。先端部や基部は尖り、中央部は両凸レンズ形。果皮は薄く表面はざらつく。

カナムグラ (*Humulus japonicus* Sieb. et Zucc.) クワ科カラハナソウ属

種子が検出された。灰褐色、側面観は円形、上面観は両凸レンズ形。径4mm、厚さ1mm程度。頂部はやや尖り、縦方向に一周する稜に沿って半分に割れた個体がみられる。基部には淡黄褐色でハート形の臍点がある。種皮は薄く、表面には種子を包む果皮が残る。

アサ (*Cannabis sativa* L.) クワ科アサ属

種子が検出された。灰褐色、三角状広倒卵形。長さ3.5~4mm、幅3mm、厚さ2.5mm程度。縦方向に一周する稜に沿って半分に割れた個体がみられる。基部には大きな淡褐色、楕円形の臍点がある。種皮表面には

素脈状網目模様がある。

タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実が検出された。黒褐色、三稜状広卵体。長さ3mm、径2mm程度。頂部はやや尖り、花柱が残る。基部果皮表面には微細な網目模様が発達しざらつく。

シソ属 (*Perilla*) シソ科

果実が検出された。淡～黒褐色、倒広卵体。径1.9～2.3mm程度。基部には大きな臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面には浅く大きく不規則な網目模様がある。

メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

種子が検出された。淡灰褐色、狭倒皮針形で偏平。長さ5.6～7mm、幅3～4mm程度。[藤下1984]の基準によると、マクワ・シロウリ型の中粒種子(6.1～8.0mm)に該当する個体が多く、雑草メロン型の小粒種子(6.0mm以下)もみられる。基部には倒「ハ」の字形の凹みがあり、臍がある。表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

トウガン (*Benincasa hispida* (Thunb. ex Murray) Cogn.) ウリ科トウガン属

種子の破片が検出された。淡灰褐色、完形ならば長さ10～12mm、幅5～5.5mm、厚さ2mm程度の倒卵形でやや偏平。破片の大きさ8mm程度。基部は切形で楕円形の臍がある。種子表面はやや平滑で、種子両面の全縁には段差があり薄くなる。種皮は厚くやや堅い。

ヒョウタン類 (*Lagenaria siceraria* Standl.) ウリ科ヒョウタン属

種子が検出された。淡灰褐色、倒広皮針形でやや偏平。長さ11～14mm、幅5～6mm、厚さ2mm程度。頂部は角張り、基部には明瞭な臍と発芽口がある。種子表面はやや平滑で、両面外縁部の幅広く低い稜にある2本の縦線が明瞭な完熟種子である。

ウリ科 (*Cucurbitaceae*)

種子が検出された。灰褐色、倒皮針形で偏平。長さ10mm、幅5mm、厚さ1mm程度。種皮表面は粗面で、両面の全縁には段差があり薄くなる。

5) 樹種同定

結果を第15表、遺構別器種別樹種構成を第16表、各木材の物理的性質を第17表に示す。木製品及び柱は、針葉樹1種類(スギ)と広葉樹8種類(ヤナギ属、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、ヤマグワ、モクレン属、エゴノキ属、トネリコ属、ガズミ属)に同定された。また、第17表に示した気乾比重および強度の数値は、[成澤1975]等を参考とし、属で同定した種類は現在の本地域に生育している種類を代表種とした。ただし、ヤナギ属については、気乾比重の数値がいくつかあるのみで、強度の数値は外来種とされるシダレヤナギのみであったことから、バッコヤナギとカワヤナギの気乾比重とシダレヤナギの強度の両方を表記している。ガズミ属も、木材組織や現在の植生から落葉性の種類と考えられるが、強度等の数値は常緑性のサンゴジュのみであったことから、参考としてサンゴジュの数値を表記している。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は束細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

エゴノキ属 (*Styrax*) エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または2~4個が複合して、年輪界に向かって径を漸減させながら散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1~3細胞幅、1~20細胞高。

トネリコ属 (*Praxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は2~3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独または2個が放射方向に複合し、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1~3細胞幅、1~30細胞高。

ガズミ属 (*Viburnum*) スイカズラ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では円形~やや角張った楕円形、ほぼ単独で散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状~階段状に配列する。放射組織は異性、1~4細胞幅、1~40細胞高。

6) 動物遺存体分析

検出された分類群一覧を第18表、同定結果を第19表に示す。確認された種類は、魚類2種類(サケ・マス類および種類不明)、鳥類1種類(スズメ目)、獣類1種類(イノシシ)である。対象とした試料中では魚類が多く認められ、これらはいずれも小破片で白~白黒色を呈し、焼骨の特徴を示す。

種類別傾向

魚 類

サケ・マス類は、大半の試料で椎骨の破片が確認された。ただし、試料は細片化しており、大きさを確認できるものは僅かであり、破片から推定される椎体は径10.0mm前後と推測される。また、椎骨では、種類不明の椎骨が1点確認される。破損しているため椎体の形態を確認することはできないが淡水魚の可能性がある。この他に、鰓蓋骨/鰓棘片等が検出されるが、これら試料中にはサケ・マス類や別の淡水魚のものも多く含まれていると考えられる。

グリッド	遺構	層位等	種類	部位	左右	部分	数量	備考	
7B	SX1109	出土奥中部分周辺1層	硬骨魚類	サケ・マス類	椎骨		破片	5	
			魚類	鰓蓋骨/鰓棘		破片	12		
			脊椎動物門	不明	不明	破片	11		
7B3	SX1109	3層	硬骨魚類	サケ・マス類	椎骨		破片	21	
			魚類	椎骨		破片	1		
			鳥類	スズメ目	椎骨		破片	3	
			脊椎動物門	不明	不明	破片	11		
7B8	SX1109	3層	硬骨魚類	サケ・マス類	椎骨		破片	1	
			魚類	鰓蓋骨/鰓棘		破片	4		
			脊椎動物門	不明	不明	破片	4		
7B15・19・20	SX1109	3層	硬骨魚類	サケ・マス類	椎骨		破片	1	
			魚類	鰓蓋骨/鰓棘		破片	6		
			脊椎動物門	不明	不明	破片	4		
8B15	SK1216		脊椎動物門	魚類等含	鰓蓋骨/鰓棘等		破片	1	土境状
9B2	SK1211		脊椎動物門	魚類等含	鰓蓋骨/鰓棘等		破片	1	土境状
9C6	SX1229	炭層	硬骨魚類	サケ・マス類	椎骨		破片	9	
			魚類	鰓棘		破片	15		
			脊椎動物門	不明	不明	破片	10		
9E4	SD1218	2層	哺乳類	イノシシ	下顎歯牙	右	第3臼歯	1	磨合、磨練片3
11D5	SX1034	1層	硬骨魚類	魚類	鰓蓋骨/鰓棘		破片	1	土境状
11D8	SX1019	1層	硬骨魚類	サケ・マス類	椎骨		破片	2	
			魚類	鰓蓋骨/鰓棘		破片	多	0.5g	
			脊椎動物門	不明	不明	破片	18		
12D2	SK1002	黒色土層	硬骨魚類	サケ・マス類	椎骨		破片	1	
			魚類	鰓蓋骨/鰓棘		破片	3		
			脊椎動物門	不明	不明	破片	17		

第19表 西川内南遺跡 動物遺存体分析結果

鳥 類

スズメ目とみられる股骨片が3片検出される。

獣 骨

イノシシの右下顎第3後臼歯が確認される。近心端を欠損する。咬頭に咬耗が全く見られないことから未萌出歯と判断される。また、萌出の僅かに前という時期と考えられることから、3歳前後と推定される。

そ の 他

緻密質の微小骨片があるが、骨の原形を保つ試料は検出されない。魚骨、小型の鳥骨、獣骨の破片などが含まれると考えられる。

7) 金属成分分析

結果を第27・28図に示す。図中の写真は分析領域の電子像及び分析箇所を示す。調査試料は均一層ではなく、一部に白色の結晶物（分析箇所①）、灰色（分析箇所②）および暗灰色（分析箇所③）を呈する組織からなる。それぞれの箇所の測定結果を第20表に示す。

図中の二次電子像と上記の成分構成から、①組織は鉛-錫主体の相、②組織は錫-鉛、③は当試料の平均的な相と見られ、本調査試料は銅-錫-鉛の3主要成分から構成（銅約68%、錫約27%・鉛約5%）されることから、青銅製品と判断される。なお、不純物、特に鉄分等が多く含まれることや、組織が不均一であることが特徴として指摘される。

8) X線回折分析

X線回折図を第29図に示す。SK1116 1層 顔料からは赤鉄鉱 (hematite)、石英 (quartz)、曹長石 (albite)、雲母鉱物 (muscovite) の4鉱物、SD1201 赤色顔料からは赤鉄鉱 (hematite)、石英 (quartz)、曹長石 (albite)、雲母鉱物 (muscovite)、緑泥石 (clinochlore) の5鉱物が確認される。

D 考 察

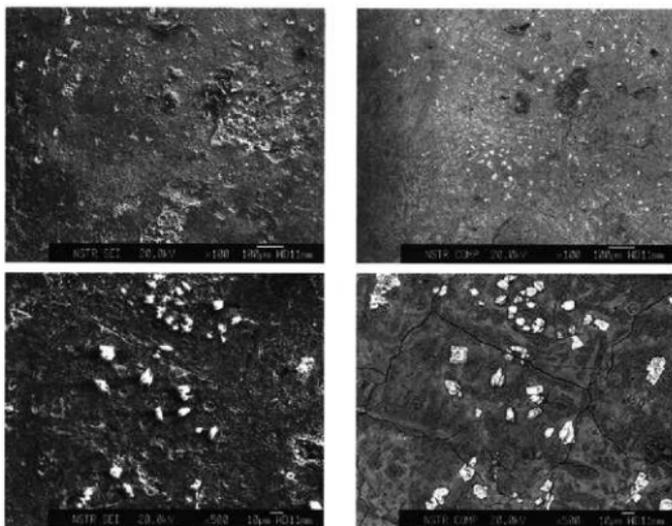
1) 遺構の年代観

a) 上 層

川跡2に各杭列の杭の年代（暦年較正年代）は、紀元前3世紀頃（杭列1 杭186）と5～6世紀頃（杭列2 杭403・杭列3 杭197）を示した。これらの試料は、いずれも芯持丸木であり、杭列2・3の杭には樹皮と考えられる痕跡も認められたことから、木材の伐採年代を反映している可能性がある。一方、杭列1の杭は、極めて古い年代値を示すことから古材の利用等の可能性も考えられるが、現時点では古い年代を示した要因については言及することはできない。

b) 下 層

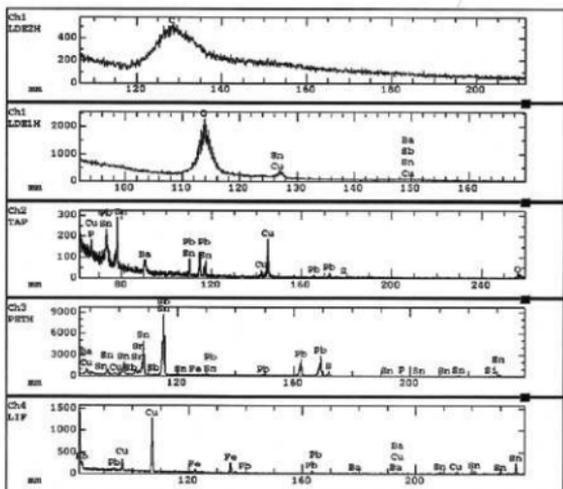
古墳時代前期の文化層とされる下層から検出された遺構の年代（暦年較正年代）は、1号円形周溝状遺構内SB1256の柱（P1202）は3～4世紀頃、2号円形周溝状遺構内SB1259の柱（P1250・P1251・P1261）は1～5世紀頃、掘立柱遺物（SB1042）の柱（P1036・P1039）は、2～5世紀頃を示した。このうち、SB1259の柱は割材であり、その木材は比較的大径木となるクリとスギであることが認められている。したがって、試



二次電子像

反射電子組成像

写真中の数字は定性分析位置を示す。



分析箇所①

加速電圧 20.0 kV
照射電流 1.094E-67A

CH-1 LBE2H

CH-1 LBE1H

CH-2 TAP

CH-3 PETH

CH-4 LIF

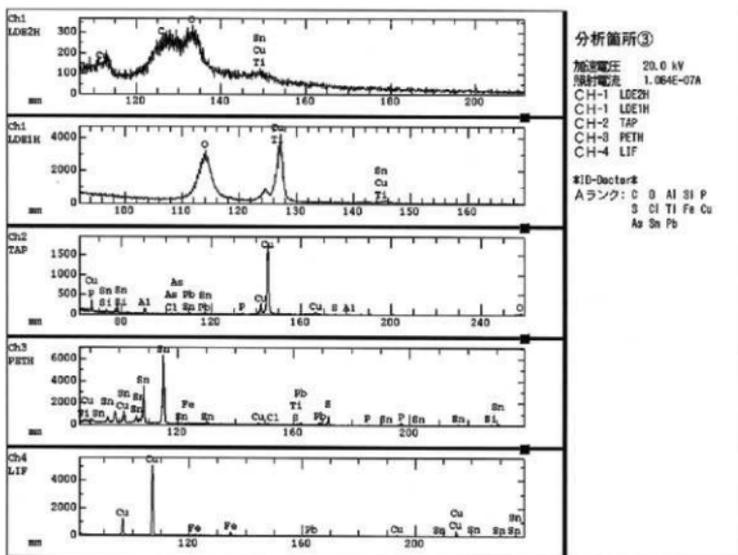
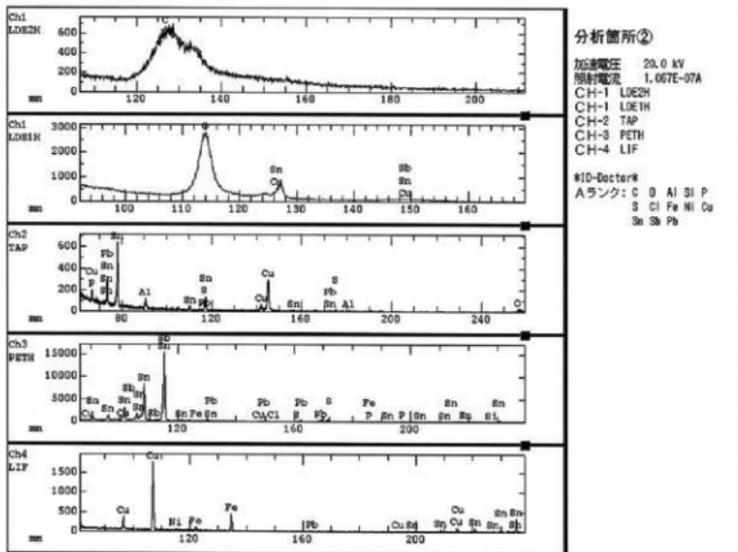
#1D-Doctor*

A ランプ: C O Si P S

Fe Cu Sn Zn Ba

Pb

第27図 西川内南遺跡 金属成分分析結果 (1)

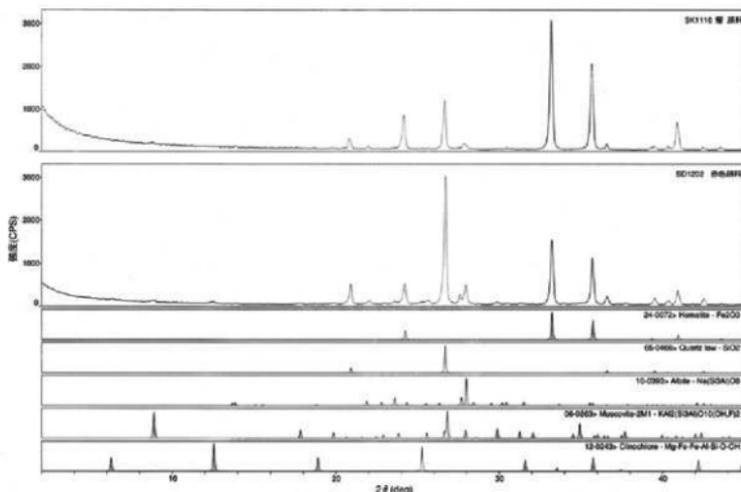


第28図 西川内南遺跡 金属成分分析結果 (2)

分析箇所	Cu	Sn	Pb	Fe	Sb	As	Tl	P	S	Cl	Ni
①	13.1	34.8	44.3	301	0.57	-	-	0.32	1.65	-	-
②	20.5	61.4	6.13	5.96	0.82	-	-	0.46	3.12	0.30	0.46
③	61.1	24.6	4.23	3.35	-	0.65	0.22	1.39	2.72	0.25	-
古銭	66.4	4.5	27.6	0.30	0.19	0.43					0.03
JIS	77	8	15								

Cu: 銅 Sn: 錫 Pb: 鉛 Fe: 鉄 Sb: アンチモン As: 砒素 Tl: ナタシ P: 燐 S: 硫黄 Cl: 塩素 Ni: ニッケル
 出典: 古銭: 政和通宝(中国) JIS: 鉛青銅4種

第20表 西川内南遺跡 EPMA半定量分析結果



第29図 西川内南遺跡 X線回折図

料採取位置は、必ずしも最終形成年輪に相当しないと考えられ、年代値のばらつき要因の一つと推測される。また、SB1042に帰属する2点の柱も異なる年代値を示した。特に、2~3世紀頃の年代値を示したP1036は樹皮と考えられる痕跡も認められており、上述した古材の利用や伐採年代が異なる可能性があるが、いずれの要因に由来するか不明であり、この点については今後の課題としたい。

2) 古植生

下層及びその下位の土層に相当するⅡb~Ⅱa層の花粉化石群集は、いずれも木本花粉・シダ類孢子の割合が高い傾向を示した。木本花粉では、マツ属、ハンノキ属、ブナ属が多産し、スギ属、サワグルミ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う傾向を示した。このうち、ハンノキ属は河畔や低湿地などの適湿地を好む種を含む分類群であることから、当時の遺跡周辺の河川沿いや低湿地にハンノキ属を主体としヤナギ属、サワグルミ属、クルミ属、クマシヤ属-アサダ属、ニレ属-ケヤキ属などが生育していたと推測される。ブナ属やコナラ亜属は冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成要素であることから、後背の丘陵や山地はこれらの落葉広葉樹林を主体とし、部分的にマツ属、スギ属などの針葉樹、コナラ属アカガシ亜属、シノキ属などの常緑広葉樹が分布していたと考えられる。

同様の花粉化石群集は、北側に隣接する西川内北遺跡や反貫目遺跡でも認められている [バリノ・サー

ヴェイ株式会社2004] ことから、本分析結果で認められた花粉化石群集は、当時の広域植生や周辺植生を反映していると推測され、古墳時代前期～古代は基本的に同様の植生であった可能性がある。

草本類では、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属等の花粉化石が多産し、植物珪酸体ではヨシ属、クマザサ属などが多く認められた。これらのうち、ヨシ属等のイネ科やカヤツリグサ科の一部は河畔や湿地などの湿潤な環境に生育する種を含むことから、ガマ属、ミクリ属、コウホネ属、ツリフネソウ属とともに、周辺河川沿いや低湿地に生育していたと考えられる。また、イネ科の一部、カヤツリグサ科の一部、ヨモギ属などは、開けた明るい場所を好む人里植物を含む分類群であることから、クワ科、サナエタテ節・ウナギツカミ節、アブラナ科、キク亜科等とともに、遺跡内や周囲に草地を形成していたと考えられる。なお、クマザサ属はブナ林の林床や、何らかの要因で失われたブナ林の一部(ギャップという)に先駆的に進入してササ草原を作ることも多い。また、他の種類に比べ生産量が多く、溶解に対する抵抗性も高いといった特徴もあるため、後背の落葉樹林の林床や林縁部のササ草原に由来するものが、砕屑物と共に運搬・堆積した可能性もある。

ところで、栽培種であるソバ属の花粉化石が、XI層(7C21)とXa層(9B25)から検出された。このことから、これらの土層形成時に周辺でソバ栽培が行われていた可能性がある。一方、種実遺体分析で多量に認められた栽培植物のイネは、植物珪酸体分析結果では全く検出されなかった。反貫目遺跡においても、古墳時代前期とされる炭化物集中範囲や性格不明遺構からイネ属の植物珪酸体やイネの胚乳等が確認されたのみであり[バリノ・サーヴェイ株式会社2004]、当該期におけるイネの利用が窺われるが、稲作については言及するに至らない。

なお、炭片量比率については、Ⅻ～Xa層で大きな変化は認められなかった。炭片は人間活動と密接に関係しているとされ、鳥浜貝塚(福井県)では6000年前から炭片量が増加することから、山野を焼き払っていたことが推測されている[安田1987]。また、このような炭片は黒ボク土中にも多量に含まれており[山野井1996;井上^{us}2002]、黒ボク土の成因の一つとして、火入れによるイネ科草本類を主とする草原の維持が推定されている[松井・近藤1992]。

3) 植物資源利用

下層から検出された炭化物層を含む土坑や性格不明遺構からは、スモモ、モモ、イネ、アサ、シソ属、メロン類、トウガン、ヒョウタン類等の種実遺体が検出された。これらは、古くから栽培のために渡来した植物であり[南木1991]、スモモやモモは、観賞用の他、果実や核の中にある仁(種子)などが食用、薬用等に広く利用される。穀類のイネは、胚乳が食用とされる。全て炭化した状態であったが、明瞭に胚乳の形をとどめていることや、表面に殻が残存する個体が検出されることから、脱殻前の果実の状態で被熱を受けたことが推測される。アサは、種子が食用や油料に、繊維が衣料や縄用に利用され、シソ属は果実が食用や油料に、メロン類やトウガンは、果実が食用に利用される。ヒョウタン類は、果実が食用や容器等に利用される。

上述の栽培植物は、イネが最も検出され、次いでメロン類、アサの順に多い傾向を示した。これらの検出状況を見ると、スモモやイネ、メロン類のように偏在的な検出(量)状況を示す種類や、アサのように偏在性が認められない種類がある。分析対象としたSD1201を除く土坑5基は、平面・断面形は一定でなく多様であり、覆土土層の堆積状況もそれぞれ異なるが、検出される栽培植物の種類や偏在性との関連を言及するには至らない。なお、SK1002では、後述するように動物遺存体分析でサケ・マス類の椎骨や

魚類の鱗蓋骨・鱗片も検出されている。このことから、栽培植物の可食部である種実が遺構覆土中より検出される状況や動物遺存体も伴うといった事例から、利用後の残渣の廃棄跡といった状況が窺われる。また、本分析試料では栽培植物のイネのみが炭化した状態で検出され、利用の状況や用途が目される。

本遺跡周辺における古墳時代の栽培植物の検出例では、反貫目遺跡では栽培植物のモモヤイネ〔パリノ・サーヴェイ株式会社2004〕が、六斗母遺跡ではスモモヤモモ、イネ、アワーヒエ、ハス〔パリノ・サーヴェイ株式会社未公表〕が検出されている。

一方、栽培植物以外の有用植物を含む分類群では、オニグルミは堅果が生食・長期保存が可能で収量も多いことから、古くから里山で保護されてきた植物である。また、ヤマグワ、マタタビ属、ブドウ属、ニワトコは種実が食用可能な植物であり、サンショウ属、ウルシ属、クラノキ、エゴノキ属、クサギ、カラムシ属、ウリ科等には、野生品の採取、在来種の栽培、渡来種の栽培など、種実や種実以外の部位の利用形態が考えられる〔青葉1991など〕が、現時点の細分化による利用の判断は困難であり、今後の課題である。

木製品や柱材等の樹種同定の結果、針葉樹1種類（スギ）と広葉樹8種類（ヤナギ属、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、ヤマグワ、モクレン属、エゴノキ属、トネリコ属、ガマズミ属）が認められた。

柱材は、4棟の掘立柱建物（SB1042・SB1136・SB1256・SB1259）に帰属する17点からなり、ほぼ同じ試料数のSB1042・SB1136・SB1259の樹種構成（第16表）をみると、SB1042はコナラ節・トネリコ属・クリ・ヤマグワの4種類からなり、SB1136はヤナギ属・トネリコ属、SB1259はスギ・クリと、それぞれ異なる傾向を示す。柱材として重要と考えられる圧縮強度をみると、スギは広葉樹と比較して中程度であるが、木理が通直で割裂性が高く、加工が容易である。クリは、強度が高いことに加え、耐朽性も高い。コナラ節、ヤマグワ、トネリコ属も比較的強度が高い部類に入る。一方、ヤナギ属は広葉樹としては軟軟な部類に入り、強度・保存性が低い。これらの樹種は、花粉分析結果からいずれも周辺に生育したと推測され、さらに、本遺跡の立地を考慮すると、スギは低湿地でも林分を形成し、扇状地上でも湧水点などの個に生育する場合があります。本遺跡周辺や近傍の丘陵などにスギが生育していた可能性がある。このことから、いずれの樹種も周辺域より入手可能であり、柱材として適当な強度を有する種類を利用したと推測される。

上述した本遺跡周辺の古墳時代前期～古代の掘立柱建物に伴う柱材の調査事例では、第三章で前述した西川内北遺跡の掘立柱建物で柱材にトネリコ属の利用が認められ、柱材全点がトネリコ属からなる事例も認められた。反貫目遺跡〔寺崎¹⁰2004〕では、径6.0cm以上の柱材はコナラ節とトネリコ属が主体であり、径4.0～6.0cmの柱材ではアカメガシワやヌルデ等が認められ、柱材の径により利用される樹種が異なる状況が示唆されている〔パリノ・サーヴェイ株式会社2004〕。本遺跡のSB1136の樹種構成は、柱材の径を含めた検討は課題であるが、少なくとも、西川内北遺跡や反貫目遺跡の木材利用と調和する傾向と言える。一方、SB1259のスギ材を主体とする樹種構成は、当該期における柱材の木材利用の傾向と異なり、柱材の大部分が割材であり、礎板を伴うといった状況は特筆される。SB1256ではヤナギ属が認められた。ヤナギ属は、材質的には柱材として不適と考えられるが、時期の異なる蔵ノ坪遺跡〔飯坂¹¹2002〕で利用例が認められており〔パリノ・サーヴェイ株式会社2002〕、当地域の木材利用の特徴である可能性がある。

木製品は、SK1110、川跡、SD1201から出土している。遺構及び器種別の樹種構成では、SK1110から出土した垂木及び曲物底板と推定される木製品はスギ、杭状木製品はモクレン属、未製品はガマズミ属からなり、川跡から出土した脚付盤、SD1201から出土した舟形木製品はいずれもスギであった。モクレン属やガマズミ属は、花粉分析結果から遺跡周辺に生育していた可能性があることから、上述したスギと同様に遺跡周辺で入手可能な木材が利用されていたと考えられる。また、曲物底板と推定される木製品や脚

付盤はスギの加工性を考慮した木材利用の可能性があり、ガマズミ属は比較的強度が高いことから、強度を必要とする製品の可能性がある。

4) 動物資源利用

性格不明遺構や土坑等の覆土中に認められた炭化物層からは、被熱により石灰化し、細片化した動物遺存体が検出され、これらは魚骨及びそれ以外の試料に大別された。

魚骨では、複数の遺構（SK1002・SX1019・SX1109・SX1229）からサケ科の椎体片が検出され、サイズ等から川を遡上する鮭が推定される。この他の種類の椎骨が試料中に認められない点は、内水面漁業の一端を示している可能性がある。ところで、隣接する反貫目遺跡では、小型のトゲウオ科やコイ科が多く、大型のサケ科が少ない傾向が認められており〔沖田2004〕、牛道遺跡〔立木²⁰⁰⁹1999〕でもサケ科が少ない傾向〔松井1999〕が認められている。一方、青田遺跡〔荒川²⁰⁰⁴2004〕では、縄文時代晩期の遺構における出土骨の分析調査では、コイ科のフナが最も多く検出されており、この他にサケ類やタイ類も検出されている〔西本・小林2004〕。本遺跡周辺の調査事例は少ないが、立地や地域、時代等で出現傾向が異なることが窺われ、時代や立地等が同様と考えられる反貫目遺跡と傾向が異なる点は注目される。

鳥類の小骨片は、骨質から小さい鳥類のスズメ目と推定される。ただし、試料から得られる情報は少なく、現時点では断定できない。大型獣では、イノシシの臼歯片が1点確認される。3歳程度のイノシシと推測され、捕獲年齢の例としては多い年齢である。

以上の結果から、サケ科（おそらく鮭）を漁獲、或は、利用の中心となっていたと推測され、鳥類や大型獣のイノシシ等も認められることから、これらも捕獲・利用されたと考えられる。また、検出された試料の多くは石灰化していることから被熱の影響が窺われ、食用として利用されていた可能性がある。

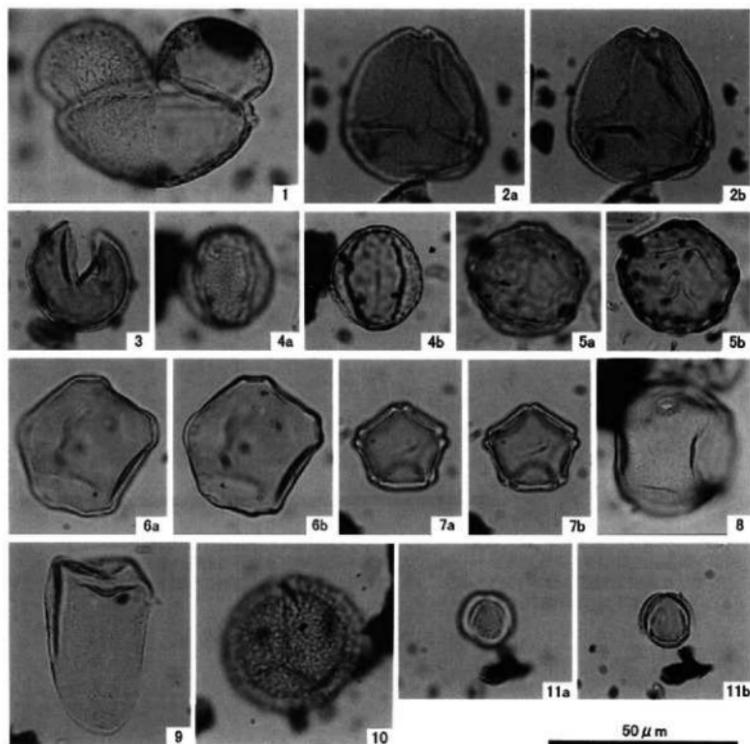
5) 赤色顔料

一般的に、遺跡等で検出される代表的な赤色顔料は、ベンガラ（赤鉄鉱；hematite [α -Fe₂O₃]）や水銀朱（辰砂；cinnabar [HgS]）、鉛丹（鉛丹；minium [Pb₃O₄]）等が挙げられる。本分析結果では、2試料とも赤鉄鉱が検出されたことから、赤色顔料はベンガラと推測される。なお、同時に検出された他の鉱物は、土壌や岩石中に見られる一般的な造岩鉱物であることから、試料採取時に混入した土壌鉱物に由来すると考えられる。

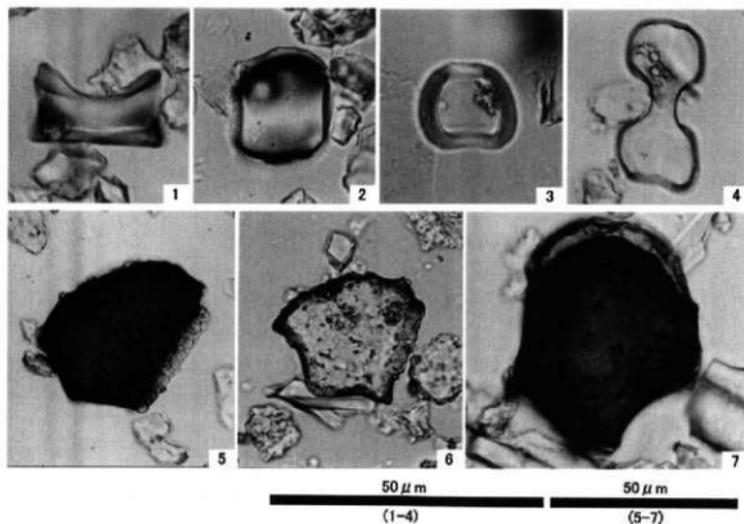
ところで、ベンガラには天然の赤鉄鉱を利用する場合や、含水水酸化鉄を焼成して得られる赤鉄鉱を利用する場合がある。また、赤鉄鉱にはパイプ状構造と非パイプ状構造のものがあり、前者は沼沢地等で鉄細菌が生成する含水水酸化鉄（いわゆる高師小僧）が発見物質であることが明らかとされており、一遺跡において同一時期に使用されるベンガラはパイプ状もしくは非パイプ状のどちらかが支配的な傾向にある〔成瀬1998〕とされている。本分析結果では発見物質の検討はできないが、電子顕微鏡を用いた構造観察により検討することが可能と考えられる。

引用文献

- 青葉 高 1991 『野菜の日本史』八坂書房 p317
- 飯坂盛幸²⁾ 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第115集 蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 井上 淳・吉川周作・千々和一豊 2002 『琵琶湖周辺域に分布する黒ボク土中の黒色木片について』『日本第四紀学会講演要旨集』p32,74-75
- 石川茂雄 1994 『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会 p328
- 沖田絵麻 2004 『動物遺存体』『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第135集 反貫日遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 p61-66
- 近藤謙三・佐藤 隆 1986 『植物珪酸体分析,その特性と応用』第四紀研究 p25,31-64
(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・(株)吉田建設 2004 『西川内南遺跡 現地説明会資料』
- 立木由理子²⁾ 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第91集 牛道遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 寺崎裕助²⁾ 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第135集 反貫日遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 『日本植物種子図鑑』東北大学出版会 p642
- 成澤深水 1975 『木材 - その特性と巧用』パワー社 p160
- 成瀬正和 1998 『縄文時代の赤色顔料 I』『考古学ジャーナル』438 p10-14
- 西本豊弘・小林圃子 2004 『青田遺跡出土の動物遺体』『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡 関連語科学・写真図版編』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 p91-96
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2002 『蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種』『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第115集 蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 p45-59
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2004 『自然科学分析』『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第135集 反貫日遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 p30-60
- 藤下典之 1984 『出土遺体よりみたり科植物の種類と変遷とその利用法』古文化財の自然科学的研究,古文化財編集委員会編』同朋舎 p638-654
- 松井 健・近藤鳴雄 1992 『土の地理学-世界の土-日本の土-』朝倉書店 p122
- 松井 章 1999 『牛道遺跡出土の動物遺存体』『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第91集 牛道遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 p121-123
- 南木睦彦 1991 『栽培植物』『古墳時代の研究 4 生産と流通 I』石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太郎編』雄山閣 p165-174
- 山野井徹 1996 『黒土の成因に関する地質学的検討』『地質学雑誌』102 p526-544
- 安田喜憲 1987 『文明は緑を食べる』読売新聞社 p227

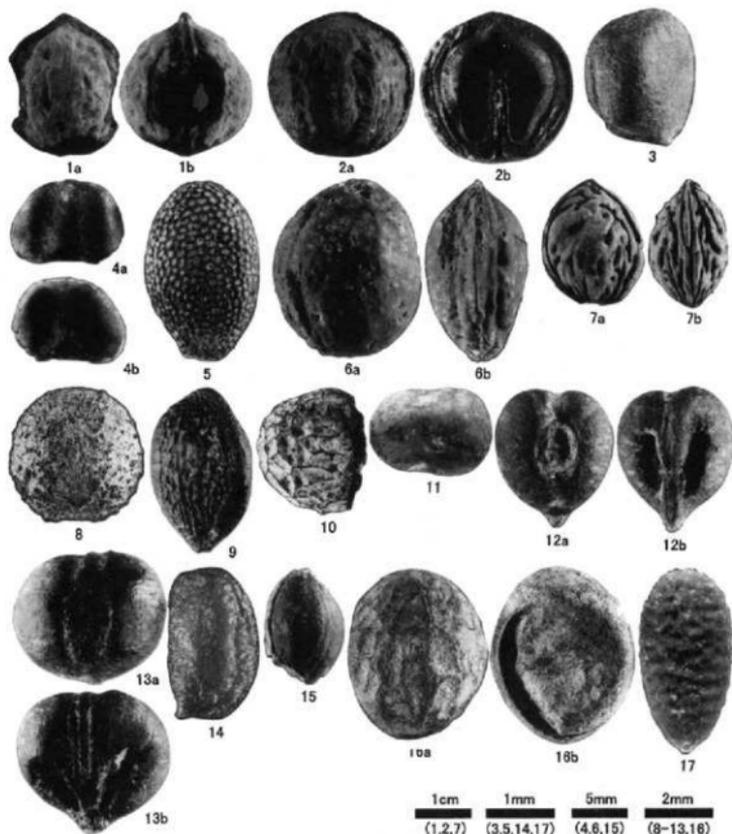


- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. マツ属(13C21;Xb層) | 2. ブナ属(13C21;XI層) |
| 3. スギ属(13C21;Xb層) | 4. コナラ属コナラ亜属(13C21;Xb層) |
| 5. ニレ属ーケヤキ属(13C21;Xb層) | 6. サワグルミ属(7C21;XI層) |
| 7. ハンノキ属(13C21;Xb層) | 8. イネ科(13C21;Xb層) |
| 9. カヤツリグサ科(9B25;Xa層) | 10. ゼンマイ属(13C21;Xb層) |
| 11. ヨモギ属(13C21;Xb層) | |



- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. クマザサ属短細胞珪酸体(9B25;Xa層) | 2. クマザサ属短細胞珪酸体(7C21;XI層) |
| 3. ヨシ属短細胞珪酸体(9B25;XII層) | 4. ススキ属短細胞珪酸体(9B25;Xa層) |
| 5. クマザサ属機動細胞珪酸体(9B25;Xa層) | 6. クマザサ属機動細胞珪酸体(7C21;XI層) |
| 7. ヨシ属機動細胞珪酸体(9B25;XII層) | |

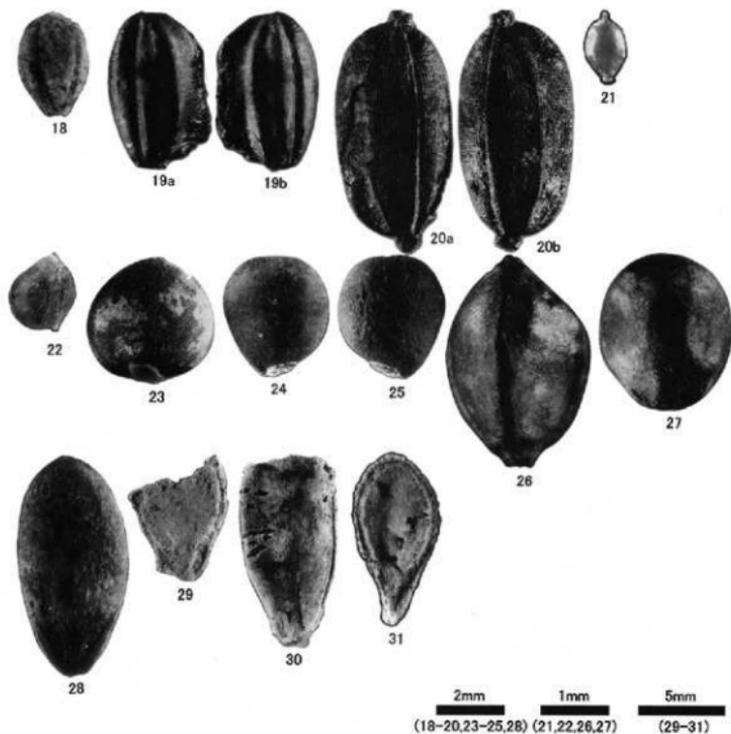
第31図 西川内南遺跡 植物珪酸体



1. オニグルミ 核(食害痕)(SK1017;1層)
3. ヤマガワ 種子(SK1117;2層)
5. マタタビ属 種子(SK1117;2層)
7. モモ 核(SK1117;2層)
9. サルシヨウ属 核(SK1045;3層)
11. ウルシ属 核(SK1117;2層)
13. ノブドウ 種子(SK1017;1層)
15. エゴノキ属 種子(SK1117;3層)
17. ニフトコ 核(SK1117;5層)

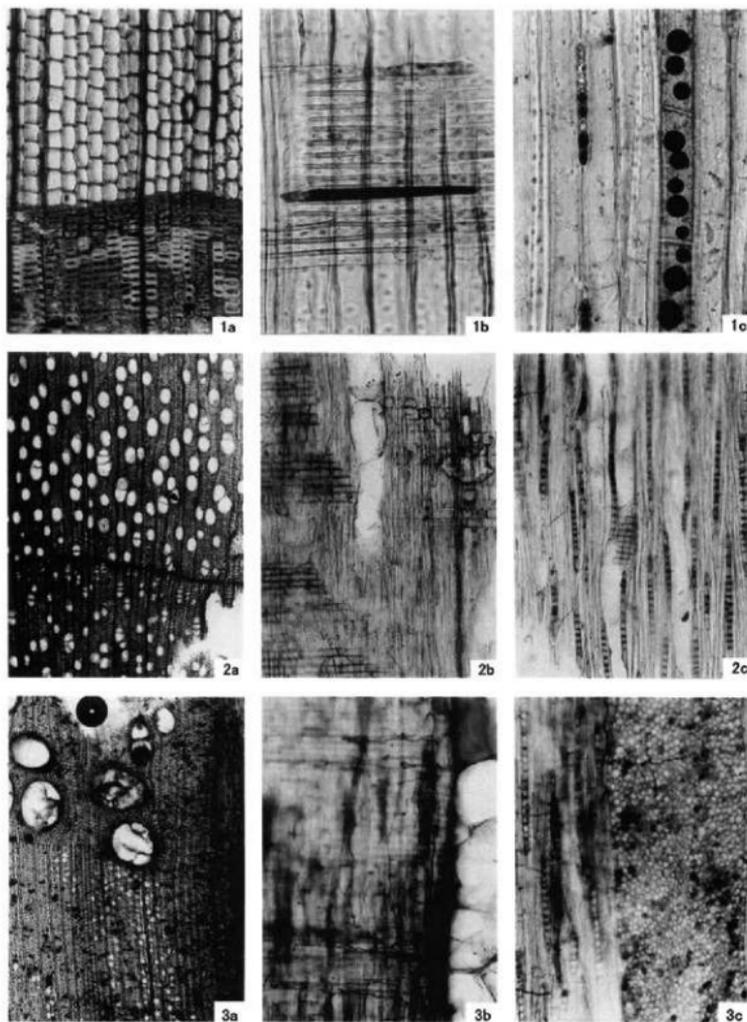
2. オニグルミ 核(SK1240;10層)
4. コブシ 種子(SK1017;1層)
6. スモモ 核(SD1201;2層)
8. アカメガシワ 種子(SK1117;3層)
10. カラスザンショウ 核(SK1017;4層)
12. ブドウ属 種子(SK1017;4層)
14. タラノキ 核(SK1117;2層)
16. クサギ 核(SK1017;1層)

第32図 西川内南遺跡 種実遺体 (1)



- 18. ミクリ属 果実(SK1117;2層)
- 20. イネ 穎(SK1045;3層)
- 22. カラムシ属 果実(SK1117;3層)
- 24. アサ 種子(SK1017;1層)
- 26. タデ属 果実(SK1017;4層)
- 28. メロン顔 種子(SK1117;3層)
- 30. ヒョウタン類 種子(SK1117;5層)

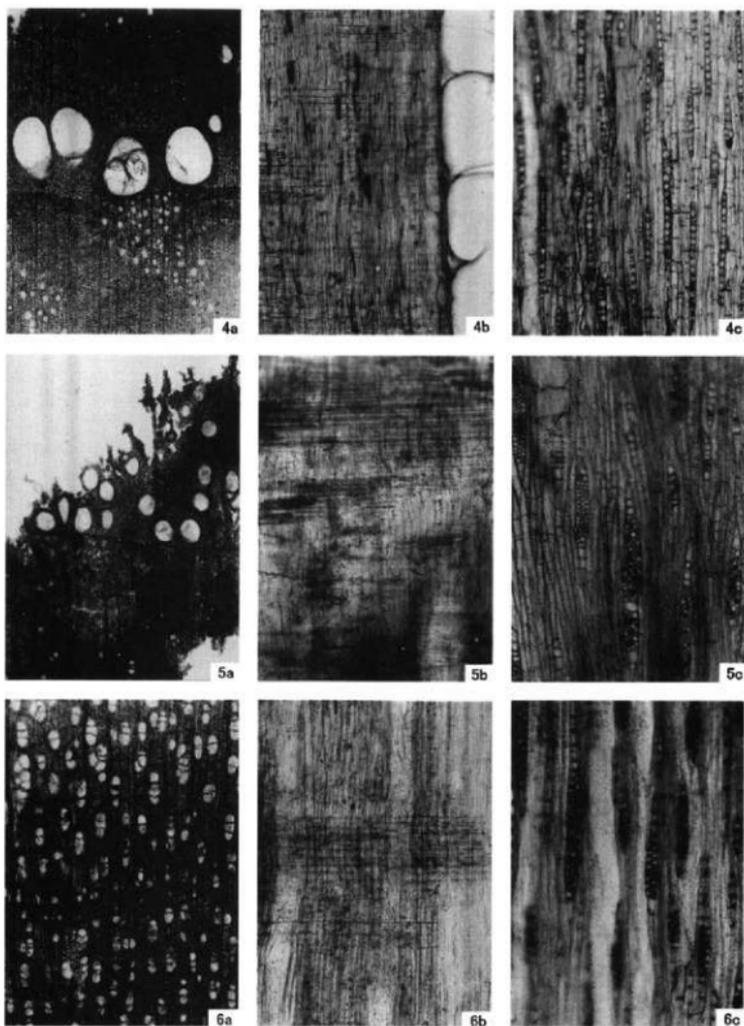
- 19. イネ 胚乳(SK1045;3層)
- 21. カヤツリグサ科 果実(SK1117;4層)
- 23. カナムグラ 種子(SK1117;3層)
- 25. アサ 種子(SK1017;1層)
- 27. シソ属 果実(SK1017;4層)
- 29. トウガン 種子(SK1002;黒色土層(1層))
- 31. ウリ科 種子(SK1017;4層)



1. スギ(SB1259:P1261)
 2. ヤナギ属(SB1136:P1132)
 3. コナラ属コナラ亜属コナラ節(SB1042:P1036)
 a: 木口, b: 柎目, c: 板目

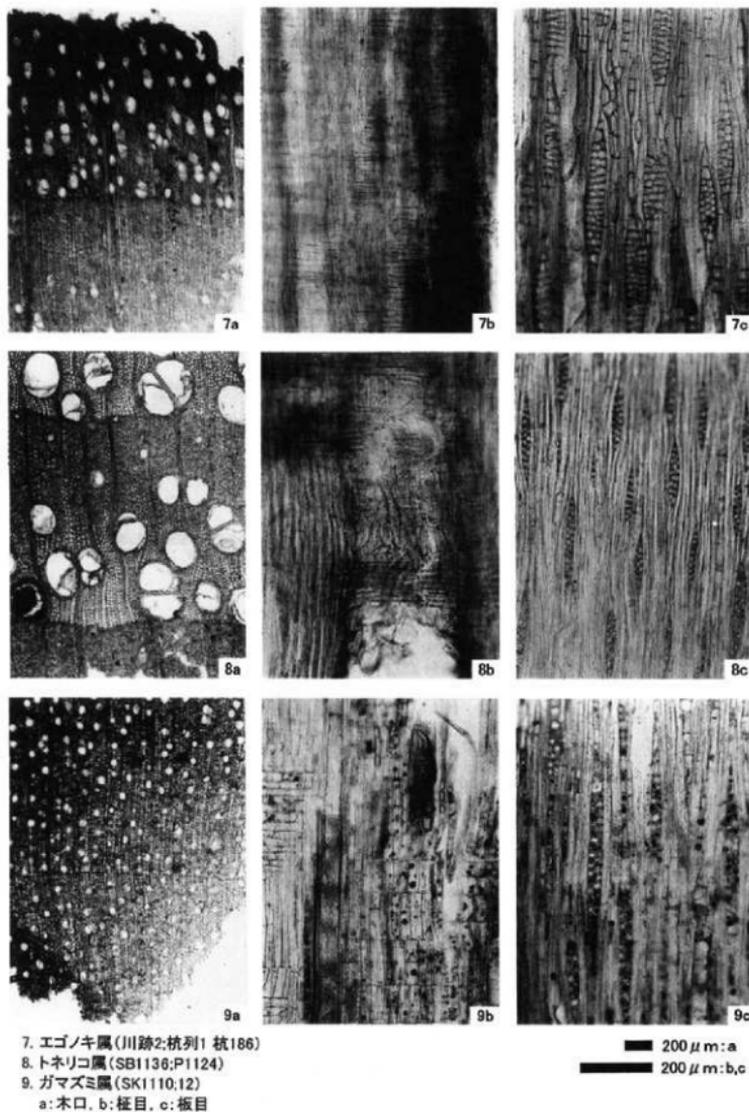
200 μ m: 2-3a
 200 μ m: 1a, 2-3b, c
 100 μ m: 1b, c

第34回 西川内南遺跡 木材 (1)

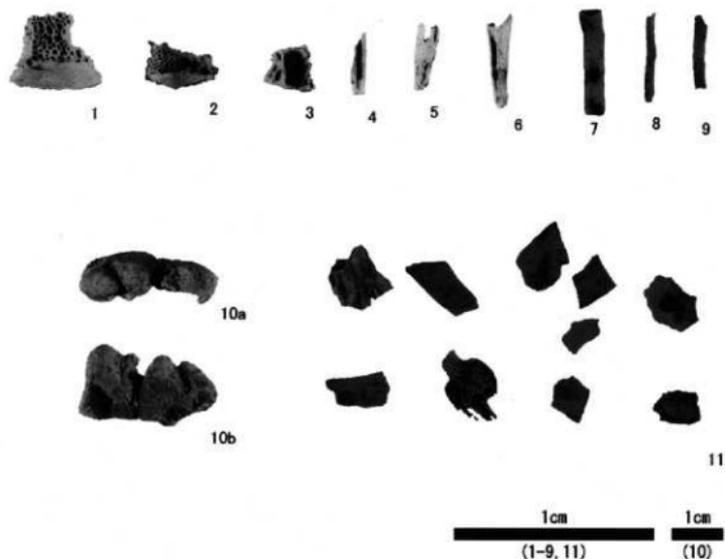


4. クリ(SB1259:P1250)
 5. ヤマグワ(SB1042:P1040)
 6. モクレン属(SK1110:1)
 a: 木口, b: 径目, c: 板目

200 μ m : a
 200 μ m : b,c



第36図 西川内南遺跡 木材(3)



1. サケ・マス類椎体 (SX1109:3層)
2. サケ・マス類椎体 (SX1109:3層)
3. 魚類椎骨 (SX1109:3層)
4. 魚類鰓蓋骨 / 鰓棘 (SX1109: 焼土集申部分周辺1層)
5. 魚類鰓蓋骨 / 鰓棘 (SX1109: 焼土集申部分周辺1層)
6. 魚類鰓蓋骨 / 鰓棘 (SX1109: 焼土集申部分周辺1層)
7. スズメ目肢骨 (SX1109:3層)
8. スズメ目肢骨 (SX1109:3層)
9. スズメ目肢骨 (SX1109:3層)
10. イノシシ下顎右第3後臼歯 (SD1218:2層)
11. 脊椎動物門 (SX1109:3層)

第37図 西川内南遺跡 出土骨

5 まとめ

A 上層の調査

1) 遺 構

上層で検出された遺構は溝と川、それに道路といったものであり、居住空間が近隣に存在する可能性は希薄である。全体に遺構はまばらであり、空閑地の性格を耕作地と捉えたいところであるが、その痕跡は認められなかった。

川の北側で検出された遺構のうち、SD9・10は川跡1との関連から水路であろうと思われる。SD2・181についても同様の性格が考えられよう。一方、SD6・8・53などはその形態から見て何らかの区画を目的としたものと思われる。また、SX51とSD4は遺構配置の上では、一見、対になるように見受けられるが、断面形態や覆土の相違から別個のものとする。SX51には遺構面に足跡(踵か)のような細かい凹凸が無数に見られ、通路の可能性が考えられる。これらの時期については、SD9・10からは古墳時代の土師器が出土しており、かかる時期の所産であるということがわかるものの、ほかの遺構から遺物の出土はなく、時期不詳とせざるを得ないが、Ⅱ層を基本とした黒褐色シルトを覆土とするSX51は中・近世、これ以外のⅢ層を基本とした褐灰色シルトを覆土とする溝や土坑に関しては、古代の所産である可能性が高い。

川については、検出された3本の土層観察から川跡1→2→3の順に新旧関係が確認できる。すなわち、川跡3が流路変更か塞き止められて川跡2となり、川跡1に収束するという変遷が窺える。川跡1・2の覆土最上層はⅡ層を基本とする黒褐色シルトであり、中・近世の段階では共に埋没を終えたことがわかるが、覆土の切り合い関係からみて川跡2の方が先に埋没したようである。川跡1は下層においてもほぼ同位置に川が流れていることからみて、古墳時代から継続して水流があった可能性が高い。上層調査時の断面観察では古代の河床が確認できることから、川跡1は周囲の土層堆積と関連して河床を上昇させていったものとみられる。

川跡2で検出された3つの枕列は橋脚と考えられる。橋脚を平面方形に組み上げる工法は、恐らく橋脚にかかる加重を均一化して不同沈下を防ぐものと推察され、官道クラスに架けられた橋とされる滋賀県瀬田唐橋遺跡で発見された橋脚は、この構造に加え、基礎として丸太を敷いた上に井桁に角材を組み合わせ、そこから橋脚を立ち上げるという構造を採る。その際、構造物の浮上を防ぐため、基礎部分を人頭大の捨て石によって固めている [大沼1994]。これと比較すれば、本址は比較的単純な構造ともみられるが、少なくとも、橋脚の組み方に関しては類似する形態をもつ可能性がある。橋脚の幅は2.0m~2.5mを測り、取り付く道路の幅員は1~1.5m程度のものではないかと推測する。橋脚構造や推測される道路幅などからみて、これらは単体で機能するものと考えられ、また、わずか2m程度の間隔で橋が3本平行するという状況も考え難い。よって、断定できないものの、橋は3度にわたる架け替えが行われたものと推察する。なお、橋に取り付く道路については残念ながらその痕跡を確認することはできなかった。

道路に関しては、川の南側にまとまって3本検出された。出土遺物や覆土の特徴からみて、道路状遺構1・2は古代(8世紀後半~9世紀前半)、道路状遺構3は中・近世の所産と考えられる。

道路状遺構1はおおよその方向が西北西-東南東を向いた道路と考えられ、道路状遺構2とは直接交差しないものの、ほぼ直交する関係にある。本址の特徴は、その指向性にある。延長部分についてはソイル・マークや地境といった手がかりもなく、不明な点が多いが、少なくとも調査で検出された40mに関し

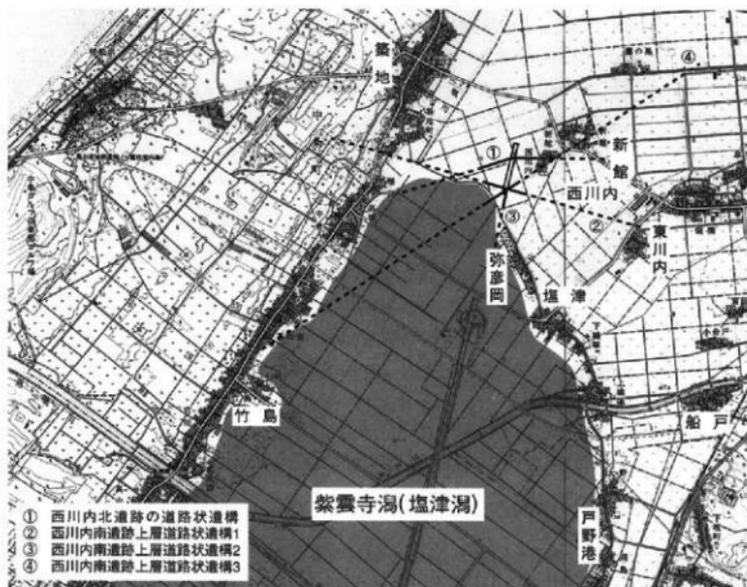
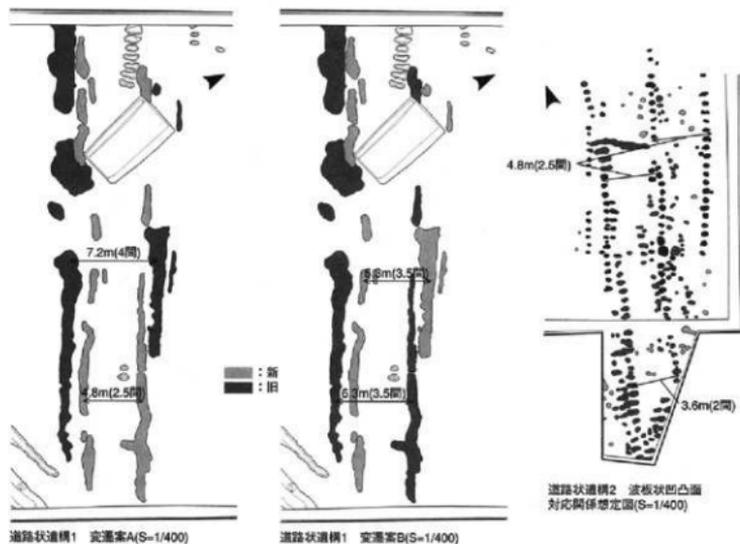
て言えば、きわめて直進性が高いといえる。道路の形態は両側溝を有するもので、作り替えが行われたと見え、合計4本の溝列が検出された。本書に併載した西川内北遺跡の道路状遺構もそうであったが、側溝は断続的に設けられている。古代道路に伴う側溝は排水のための機能というよりも幅員を規制するための意味が強いとの見解があるが〔近江1997〕、かかる側溝はまさにそうした機能をもつものと言えよう。ともあれ、道路状遺構1の側溝は少なくとも1度作り替えが行われているわけであるが、その対応関係については2通りの可能性が考えられる。すなわち、単純に溝の形態や規模で分けるなら、両端のものと同側のものがそれぞれ対応関係をもつ事となり、その場合、道路幅は側溝の心々で7.2m（4間）、4.5m（2.5間）ということになる（第38図変遷案A）¹⁾。また、SK30とSD29の切り合いから、作り替えに伴って道路が縮小する様が見える。あと一つは側溝が両側で異なった形態をもつと仮定した場合、その場合の道路幅はいずれも側溝心々で約6.3m（3.5間）となり、作り替えに伴う道路規格の変更はなし、ということになる（第38図変遷案B）²⁾。また、上述遺構の切り合いから、その位置は若干北寄りに移動する様が見える。いずれにせよ、直進性の高い道路という特徴に変化はなく、道路状遺構1は官道あるいはそれに準ずる特徴を具備する道路と位置付けてよいと思う³⁾。当該道路の方向や性格については、地理的に安定し古代の遺跡も数多く存在する西側の砂丘にその関連は今のところ見えず、また、周辺の遺跡にも官衙あるいは拠点的な集落といった道路の方向を決定するに足る対象は見いだせないことなどから不明とせざるを得ない。

道路状遺構2は波板状凹凸面のみで構成される遺構で、延長約30mが調査された。遺構を構成する円形もしくは長円形（小溝状）の掘り込みは、調査区南端部に行くほど大型で、遺構密度も増加する。反対に北側部分は掘り込みの規模も小さく、遺構密度も低くなる。上面が削平により失われている可能性を考慮する必要があるが、遺構密度や周辺の遺構の残存状態などからみて、本址は恐らく4グリッド列あたりで消滅するものとする。掘り込みは5-15基程度を一単位とする小列を基本として、微妙に方向を変えながら断続的に連なり、更にその列は東西方向に2列で一組になるものと考えられる（第38図）。その幅は3.6m（2間）、4.5m（2.5間）と規格性が窺えるものであるが、これがそのまま道路の幅員を示すものであるのか、あるいはコロや丸太を敷いたと仮定してその間隔を示すものであるのかは、道路面が完全に失われていることや、順例が乏しいことなどから判別できなかった。波板状凹凸面については道路の基礎構造とする説〔飯田1993〕や、軟弱地盤における重量物運搬の際にコロや丸太を敷いた跡であるという説〔早川1997〕などがあり、その性格については活発な議論が展開されているが、未だ解決をみていないというのが現状である。本遺跡の南側直近には享保年間（1716-1736）に干拓された紫雲寺岡（塩津海→以後、紫雲寺岡）の北端がせまっていたと考えられる。その位置関係からみて、道路状遺構2は紫雲寺岡と陸上の施設、更に言えば、同時代の道路と考えられる道路状遺構1を結ぶ道路であった可能性が考えられる。同時に、波板状凹凸面が南側に行くほど規模や密度を増加させるという事実は、かかる遺構が、岡の直近であることに起因する地理的要因から設けられた可能性を示唆するものと言えよう。

道路状遺構3は中・近世の所産と考えられ、前代の道路とはまったく異なる方向性をもつ。遺構は側溝と考えられる2本の溝（SD151・159）で構成され、その幅は、側溝心々で約3m（1.5間）を測る。SD151

1)・2) 古川知明氏（富山県埋蔵文化財センター）のご教示による。なお、同氏には道路状遺構について様々なご教示・ご意見を頂戴した。記して深く感謝する。

3) 中野城郡中郷町の郷治水遺跡で検出された溝状遺構1・2（とこれらに区画された範囲）について、報告者は埼玉県東の上遺跡で検出された官道の規格に基づくものとされる幅12mの道路遺構との類似性を指摘する〔立木（土橋）1999〕。また、遺構の時期については、5世紀後半には整備されていたと考えられている奈良県橿原遺跡で検出された道路状遺構との類似性や遺構の切り合い関係、周辺で出土した遺物の時期などを勘案して、報告者は「郷治水遺跡の道路状遺構の構築時期が古墳時代に遡る可能性は十分ありうる。」と結論付ける〔立木（土橋）1999〕。



第38図 西川内南(北)遺跡 検出道路方向想定図
(国土地理院「稲荷岡」(中巻) 1:25,000原図 平成14年発行)

は側面が溝が消滅し、液板状凹凸面のような掘り込み列に変化するが、これについては本来的な構造、上部の削平により溝底が断続的に残されたもの、と、2通りの可能性が考えられる。SD151は溝形態を呈する部分でも溝底に円形の掘り込みが連続して設けられている。この用途あるいは機能については、雨水などを帯水させることで急流が生じることを防ぎ、浸食崩壊を未然に食い止めるという役目を果たしていたという説〔飯田1994〕があり、新潟県内では中頸城郡中郷村の郷清水遺跡で同様の溝（溝状遺構1・2）が検出されている〔立木（土橋）_{aa}1999〕。道路の方向については西川内北遺跡で検出された古代の道路状遺構とはほぼ同じ方向を指しており、西側砂丘列から東側の新館方向を目指したものであろうと思われる。

2) 遺 物

第IV章2Bで記したように上層の遺物は総じて少ない。出土遺物の内訳は、古代の須恵器と土師器が大半を占め、古墳時代中期の土師器、近世の陶磁器、木製品が若干含まれる。遺構からの出土遺物はわずかであることから、遺構の時期決定の指標となりうる遺物については恵まれないが、これらの中から遺存状況が比較的良好なものを抽出した。本項では須恵器の幅年が確立されている他遺跡の出土遺物との対比から、本遺跡上層出土遺物の時期について検討してみたい。

道路状遺構の時期決定となりうる遺物は72の須恵器横取である。72は道路状遺構1を構成するSD21～24で出土した。外傾する口縁部に外側へ突出する端部をもち、両面閉塞である。両面閉塞をもつ横取については、8世紀初頭を初視とし、同後半に集中する〔北野1993〕。阿賀北地方では山三賀Ⅲ期（8世紀第4四半期）に比定される樹形山脈西麓の貝屋窟跡〔川上1982〕で100個体以上確認され、大量生産を行っていることが指摘されており、72も同時期に対応するものと考えられる。

川跡1～3は、全体の器形がわかる遺存状態の良好な須恵器無台杯が出土している。川跡1出土の須恵器無台杯（77・78）は器高が高く、底部が厚めである。77は直線的に立ち上がる体部、78は尖り気味の口縁端部をもつ。また川跡3出土の須恵器無台杯（92）は器高がやや高い。底部が水平に近く、体部は直線的に立ち上がる。これらは山三賀Ⅱ遺跡〔坂井_{aa}1989〕SI14出土土器に近似した特徴をもつことからⅡ2期、すなわち8世紀第2四半期から第3四半期に比定される。これらと類似する資料が出土している中条町周辺の遺跡は中倉遺跡〔水澤1999a〕、船戸川崎遺跡〔水澤2002〕、四ツ持遺跡〔水澤1998〕がある。

川跡2出土の須恵器無台杯（80・82）は身が浅く、体部が外側に大きく開くことから、川跡1・3出土の須恵器無台杯よりも新しい要素をもつと考えられる。この形態は、今池遺跡〔坂井_{aa}1984〕SK21B出土土器、山三賀遺跡SI4・6出土土器で確認でき、山三賀Ⅲ期、すなわち8世紀第4四半期から9世紀第1四半期に比定される。また81・83は白色小粒子を多量に含む胎土から佐渡小泊産と考えられる。佐渡小泊産須恵器は山三賀Ⅳ期から流通するとされる〔坂井_{aa}1989〕。本遺跡出土の佐渡小泊産須恵器はこの2点のみである。

以上の点から、本遺跡上層で出土した遺物は、山三賀幅年のⅡ2～Ⅳ1期、春日幅年〔春日1999〕のⅣ1～Ⅴ1期に比定でき、8世紀後半～9世紀前半という時間幅におさまるといえる。

3) 奈良・平安時代の西川内南遺跡

上層の発掘調査により、橋脚と推定される杭列や道路状遺構などが見つかった。その他の遺構はごく浅い溝が数条あり、川跡に関連する水路や通路などの機能が想定できる。遺物の出土量は少ないものの、8世紀後半から9世紀前半の時期幅におさまるものである。

本遺跡の上層遺構の特徴としては、居住施設が検出されず、道路や橋といった交通に関連する施設の痕跡が検出されていることが挙げられる。

道路状遺構1のように側溝と波板状凹凸面をもつ規格的な道路跡は、第III章で前述した西川内北遺跡でも見ついている。西川内北遺跡の道路状遺構は側溝から出土した遺物から8世紀前半頃のものと考えられる。一方、本遺跡の道路状遺構1は側溝から8世紀後半の須恵器横瓶が出土しており、8世紀後半が遺構の年代の上限と推定できる。西川内北遺跡と本遺跡の2つの道路が同時に存在したか、あるいは西川内北遺跡の道路が廃絶した後本遺跡の道路が機能していたのか、これは少ない出土遺物からでは判断できないことである。

道路状遺構2は側溝がなく、波板状凹凸面のみで構成されるもので、道路状遺構1とは90°方向が違う。この道路跡は旧紫雲寺湯の方角を向いており、旧紫雲寺湯と道路状遺構1を結ぶ道路であった可能性が想定できる。

本遺跡では道路状遺構2基と、橋の橋脚と推定される杭列があり、人の往来が多かったと推定される。遺跡内部に居住施設が存在しないことから、本遺跡は一般的な集落ではなく、集落と集落を結ぶ交通の要衝であったことが推測される。

B 下層の調査

1) 遺 構

a) 円形周溝状遺構（周溝を有する建物）

下層の調査では、円形（圓丸方形）の周溝をもつ建物が2棟検出された。このような遺構は北陸地方では「周溝を有する建物」「周溝をもつ建物」「周溝をもつ平地式建物」「周壁盛土式堅穴系建物」「建物を圍繞する周溝」などといった名称を付されているものである [及川1998]。

周溝を有する建物は、北陸地方では以前から低地における住居の一形態として認知されており、その検出数の多さもさることながら、周溝をもつ建物の研究が最も進んだ地域とされている [及川1998]。一方、関東地方では、これまで低地における本格的な調査例が乏しかったこともあり、周溝が巡る遺構は漠然と、方形周溝墓である（であろう）という認識で捉えられてきた [及川1998、2004]。こうした背景もあって、周溝内に建物をもつ遺構に関しては、「方台部に建物跡をもつ周溝墓」「4本柱建物跡をもつ周溝墓」といった呼称が用いられ、埋葬や殯といった用途に供される遺構ではないかとの評価がなされてきた¹⁾。ここでは、1・2号円形周溝状遺構について、県内外の類似との比較からその性格について所見を述べる。

県内の検出例

北陸他地域と比べ、新潟県内ではこれまでのところ、執筆者の知る限り、本遺跡を除く7遺跡で合計17基の周溝をもつ建物が検出されているに過ぎない。以下にその概略を述べる。

柏崎市下谷内遺跡

柏崎平野北方の沖積低地に位置する周溝をもつ平地建物5棟のほか、周溝をもたない平地建物1棟、掘立柱建物13棟、方形周溝墓4基、土坑161基、ピット多数が検出されている。およそ30～40mの間隔で円形周溝が構築され、空閑地に方形周溝墓、掘立柱建物、土坑、ピットなどが構築される。方形周溝墓、掘

1) こうした従来の評価に対し、近年は関東地方においても低地部の調査の伸展により、かかる遺構の検出例が増加した結果、建物との解釈が妥当ではないかとの提議が出されるに至っている [及川1998・2001・2004；福田2000]。

立柱建物、土坑などは数か所にまとまる。報告者は建物群と方形周溝墓は時期差があるとする。時期は弥生時代中期後半 [高橋・斉藤1979]。

長岡市五斗田遺跡

丘陵南部、沖積低地に位置する集落址。周溝をもつ堅穴住居1棟のほか、掘立柱建物2棟、土器溜まり1か所などが検出されている。ただし、建物群の時期及び同時性については、不明であるとされる [鳥居・駒形2000]。

豊栄市正尺C遺跡

沖積低地に位置する集落址。周溝をもつ掘立柱建物1棟のほか、周溝をもたない堅穴建物4棟、掘立柱建物9棟、方形周溝墓1基、土坑52基などが空閑地に設けられている。周溝近辺には土坑や溝が点在する。また、方形周溝墓も1基検出されている。時期は古墳時代前期 [加藤2001b]。

上越市津倉田遺跡

飯田川という小河川の南岸、沖積低地に位置する集落址。周溝を有する平地建物2棟が検出されている。周溝をもたない建物としては掘立柱建物3棟、平地建物7棟、堅穴住居3棟があるほか、方形周溝墓1基、土坑、溝、井戸などがある。周溝をもつ建物の近辺には平地式建物がみられ、特に住居1とされた周溝をもつ建物の周囲には平地式建物、掘立柱建物、方形周溝墓、土坑といった遺構が密集する。時期は古墳時代前期 [品田・川村・木島2003]。

荒川町道端遺跡

河川の南岸、沖積低地に位置する集落址。周溝をもつ掘立柱建物2棟のほか、堅穴建物6軒、掘立柱建物13棟、枕列2列、土坑50基、溝10条などが検出されている。掘立柱建物のなかに榑持柱をもつ掘立柱建物が2棟ある。時期は古墳時代前期 [前川2005]。

三桑市吉津川遺跡

沖積低地に位置する集落址。3時期にわたる遺構面が形成され、周溝をもつ平地建物は各期を通じて同じ位置に構築されるという特徴をもつ。周溝をもつ建物の周辺からは掘立柱建物、平地式建物などが検出されている。時期は古墳時代前期 [宮田2005]。

佐渡市平田遺跡

沖積低地に位置する集落址で、環壕をもつ点が特徴である。検出された建物はすべて周溝をもつ平地式建物であり、3棟が検出されている。このうちSB110では周堀や炭化材が検出されている。炭化材は屋根材と床材とみられるものが上下2枚にわたり検出され、下面の床材について報告者は「周堀に沿って内側に丸木がめぐり、そこから中心に向かって、薄い板状のものが敷かれている。」と説明する。また、住居や周溝からは玉作関連の遺物が多く出土しており、遺跡が玉作（細形管玉を主体とする）を盛んに行っていたことが窺える¹⁾。周溝をもつ建物の時期は弥生時代中期後半であるが、遺跡としては弥生時代後期後半

1) 隣接する蔵王遺跡では、ガラス玉や管玉のほかに、内行花文鏡・珠文鏡・銅鏡などが出土している。また、周溝を有する建物も検出されており、調査を担当された佐渡市教育委員会の山口 忠明氏に伺ったところ、柱穴の直径が約1mと大型で周囲には板葺か葎の建物をもつ、柱穴からはガラス小玉が出土するなど、通常の住居とは考え難い遺構であるとの事である。建物はほかに、大型の礎石をもつものや、枕木をもつもの（いずれも掘立柱建物）が検出されている。後者は枕木と共に、建物の内側に傾斜する形で柱も検出され、布面建物の構造を解明する上で貴重な発見といえよう。このほかにも、弥生時代中期から古墳時代前期にわたる集落の出現から廃絶まで継続して設けられていた環壕からは、舟形木製品も出土しているという（舟形木製品の項参照）。蔵王遺跡については、本格的な報告書が未刊行ということであり今回詳しくは紹介しなかったが、既発表資料としては新潟県考古学会第10回大会における報告がある [小川1998]。

まで継続する〔高橋・坂上2000〕。

これらの遺跡を通観すると、周溝を有する建物の周囲には、ほかの建物や遺構がまとまる傾向が取次される。特に三条市の吉津川遺跡では3面ある遺構面すべてで周溝を有する建物が検出され、それがほぼ同位置に構築され続けるという特異ともいえるあり方を呈しており、当該集落における中核的な施設と考えられている〔宮田2005〕。また、津倉田遺跡では、周溝を有する建物1を中心としてその直近に掘立柱建物、堅穴建物、土坑、方形周溝墓などが建ち並ぶといった遺構配置がみられる。建物群と方形周溝墓の有機的関連が窺える点が興味深い。本遺跡の場合も基本的に同様の遺構配置がみられるが、ほかの遺跡と違い、2基の円形周溝状遺構が接近して構築されている点が特徴的である。両者は出土遺物の年代観から2号の方がやや古く位置づけられることからみて、2号→1号の順に作り替えが行われた可能性が考えられる。また、円形周溝状遺構と掘立柱建物以外の建物が検出されていないが、これが当該集落の実体を反映するの否かについては調査範囲が狭小であったため、不明とせざるを得ない。

建物について

1号円形周溝状遺構

検出された建物の規模は1間×1間、柱間1.85～2.2mを測る。柱穴の深さは北側のものが40～50cmの深さをもつに対し、南側のものは深さ10～18cmと約半分の深さしかない点が特徴的である。西側の柱間及びその南西脇には炭化物が検出されており（SX1221・SX1229）、SX1229では確認面が被熱している部分のみみられることから、燃焼施設であった可能性が高い。床面や盤溝は検出されなかったが、諸特徴からみて平地式建物とみられる。石川・富山両県を対象とした周溝を有する建物の集成データによれば〔岡本2003〕、古墳時代前期段階では4本主柱のものが主体、柱間は2～4mの間に大半が納まるようである。また、他地域においても、例えば東京都豊島馬場遺跡、埼玉県戸田市鍛冶谷・新田口遺跡、同 行田市小敷田遺跡、同 北埼玉郡小沼緑地遺跡などで検出された周溝内の建物は同様の形態や規模をもっており〔及川1998；福田2000〕、これらの点からみれば、当該建物は古墳時代前期の周溝を有する建物（平地式）としては典型的なものと見える。建物の西側で検出されたP1262～P1264は周溝や建物と軸線が一致することから、本趾に伴うものと考えられる。建物背後の目隠しや周堤の土留めに関わる柱と想定されよう。

一方、入口部分では、南北方向に2本あるいは4本1組の柱穴が検出された（P1258・P1260・P1266・P1267）。柱穴の間隔は南北約340cm、4本1組と考えた場合、東西は150～180cmとなる。周溝内で検出された2本はいずれも周溝覆土の下で検出されていることから、出入口に伴う何らかの施設であることは間違いない。

出土遺物は壺・甕が主体をなすが、供献土器がやや目に付く。また、特徴的な出土遺物としては、出入口部分の周溝底から出土した舟形木製品があげられる。周溝からの出土例としては稀少な遺物と思われ、筆者の知る限りでは東京都豊島馬場遺跡〔中島・嶋村・長瀬1999〕SH124周溝内からの出土例があるのみである。なお、舟形木製品については別稿に詳述する。

2号円形周溝状遺構

検出された建物は南北（桁行）1間、東西（梁間）2間の掘立柱建物である。梁中央に位置するP1250・P1252はP1252の配置からみて棟持柱の可能性が窺われるものである¹⁾。また、P1250を除く柱穴から礎板が検出されていること、また、東柱の可能性が考えられるP1253の存在から高床式の建物構造の可能性

1) 東北芸術工科大学の宮本長二郎氏のご教示によれば、P1250はほかの柱穴より15cmほど深いこと、P1252は側柱筋の内側に立つことからみて棟持柱と想定され、北側を核心棟持柱、南側を近接棟持柱とする切妻造屋根形式に復元できるのではないかとのことである。

が考えられる¹⁾。石川・富山両県を対象とした周溝を有する建物の集成データによれば〔宮本2003〕、掘立柱建物が周溝を有する例は弥生時代後期から古墳時代前期にかけてみられるが、検出例は僅少である。さらに、榑持柱付建物だとすれば、周溝を有する例は更に稀少といえよう。榑持柱付建物については、現存する伊勢神宮社殿に代表される神明造形式として知られる。この遺構の弥生・古墳時代における稀少性や銅鐸・土器に挿かれる機会の多さなどから祭式儀礼に関わる建物であった可能性を指摘する向きもある〔宮本1995〕。このことから、かかる建物についても同様の可能性をもつことが考えられるが²⁾、執筆者は寡聞にして類例を知らず、判断し得なかった。

出土遺物の大半は周溝東側に集中し、明らかに内側から廃棄された形跡が断面の観察で確認できた。中間に堆積する炭化物を多量に含む土層（6・7層）によって、調査時には大きく2段階に分けて土器が廃棄されたものと考えていたが、整理段階でこの土層の上下で接合される個体が相次いで確認され、土器が廃棄物となる際、一定の時間を経た後に溝中に廃棄される様子が明らかとなっている。なお、器種組成は甕・壺が主体をなし、それに供獻土器類が続く。

建物の性格

以上のように、本遺跡で検出された2基の円形周溝状遺構については、北陸をはじめとする諸地域で、低地に即した住居形態（周溝を有する建物）という認識で捉えられているものと多くの点が合致することがわかった。周溝を有する建物を伴う集落における遺構配置からみて、かかる遺構の求心的な性格が看取され、「集落における中核的な施設」との評価は（本例も含めて）妥当であると考えられる。2号円形周溝状遺構については、さらに踏み込んだ、祭式儀礼との直接的な関連をも示唆する可能性が考えられるが、この点については（筆者が浅学であることもあって）、類例をまて検討すべき問題と考える。

円形周溝状遺構2基の関係については、出土した土器の年代観から若干の時期差が認められる。詳しくは出土遺物の項を参照されたいが、2号の遺物には1号よりも若干、古相を呈するものが存在する。また、2基が近接して設けられているという点も他遺跡ではみられない特徴である。出入口は1号が東側、2号は遺物が大量に廃棄された側を裏手と考えれば出入口は西側となり、両者が向かい合う配置となる。単純に遺物の年代観からみれば2号→1号の順に構築されたとみることができるが、特徴的な遺構配置を重視して、両円形周溝状遺構は併存し、1号円形周溝状遺構の方がより長い期間機能したと考えたい。

b) 土 坑

下層の調査では、24基の土坑が検出された。土坑は川跡の北側約15m、川跡の南側約35mに分布する。この川跡兩岸の自然堤防上に分布する状況は、本遺跡下層の遺構分布状況と重なる。

土坑の平面形は楕円形または不整形円形、断面形は弧状を呈するものが多いが、SK1245のように不整形で大型の土坑もある。長軸が2m以下の土坑は単層で掘り込みの浅いものが多く、出土遺物も少ない。

遺構の覆土は、概ね灰色シルト、灰色粘土で構成される。堆積状況は自然堆積と思われるレンズ状のものが大半を占めており、明らかに人為堆積と考えられる土坑は存在しない。覆土には薄い炭化物層、また

1) 宮本氏のご指摘。

2) 宮本長二郎氏に寄せていただいたコメントを紹介する（抜粋）。「周溝を伴う祭壇の類例には福岡県平原遺跡（弥生末期、平屋）、京都府中瀬遺跡（弥生末期、平屋）、群馬県鳥羽遺跡（6世紀終、平屋）の3例が1棟のみの祭壇で、いずれも平屋建物とする点で当遺跡の高床形式とは異なる。平原遺跡例は円形周溝蓋の墓壇廻り方と掘立柱建物の柱廻り方が重複して後者が古いことから、その祭壇は被葬者の墳墓と想定され、その平面形式から近接榑持柱付き切妻連屋根の平屋祭壇で、当遺構とは高床と平屋及び墓壇の有無の違いはあるが、他の2例より類似した形式を示す。」

は炭化物を多量に含む土層が厚く堆積するものが多く、遺物はこれらの層に含まれるか、層の直上で出土する場合が多く見受けられる。SK1002・SK1017・SK1045・SK1211・SK1214・SK1216・SK1240・SK1102・SK1107・SK1117において、この覆土の土壌サンプルを水洗選別したところ、炭化米・種子・被熱した魚骨などが検出された。また、SK1045・SK1107では、遺物が円形溝状遺構に近い位置で出土することが確認されている。これらの点から、本遺跡の土坑は、食物残渣などの廃棄坑という性格づけが妥当のように思われる。

遺物が多量に出土している土坑は、川跡北側でSK1002・SK1007・SK1017、川跡の南側でSK1045・SK1048・SK1211・SK1216・SK1107・SK1117がある。

川跡の北側に位置する、SK1002はSK1045に次いで多量の遺物が出土した土坑である。出土遺物は土坑埋没過程のものと考えられる。1層からの出土がほとんどで、完形率の高い遺物が多数含まれる。器種構成比率は甕の占める率が低い。また高坏・器台が2割弱を占め、ほかの土坑と比較して若干高い傾向にある。SK1002の西側に位置する、SB1042は「独立棟持柱付き梁間1間型高床築造建築」との宮本長二郎氏の指摘もあり、これらは何らかの関連を持つ可能性が考えられる。

SK1045は本遺跡の土坑の中では平面規模が最大で、遺物量がとりわけ多い。SK1045は覆土中位に薄い炭化物層が堆積している。遺物はこの上層で多く出土しており、遺構内の南側に偏りがみられた。出土遺物は、甕の個体数が最も多く、次いで鉢、壺、高坏、器台といった順で出土している。またほかの土坑と比較しても炭化米が非常に多く検出されている。

1号円形溝状遺構西側に位置するSK1211は、土坑の大半が東西に主軸をもつものに対して南北に主軸をもち、断面形態についても半円状を呈するなどの相違がみられる。これに加え、本址では底面の一部に樹皮のような繊維質が薄く堆積していることも確認されている。遺物は1層と3層の境に堆積した薄い炭層の直上から出土し、種類は不明であるが骨片も検出されている。これらのことからSK1211はほかの土坑とは異なる性格を有する可能性がある。

SD1115の北側に位置するSK1107は、最下層に炭化物を多く含んだ層が厚く堆積している。出土遺物のほとんどはこの層から出土しており、土坑の北側壁面部分にある程度集中する傾向がみられる。また、底面直近から出土しているものも少なくない。

2) 遺物

a) 出土土器の編年的位置付け

ここでは本遺跡下層から出土した土器の編年的位置付けについて検討する。本遺跡の土器群を県内の既存の編年案に照らし合わせると、坂井・川村編年 [坂井・川村1993] のⅡ-2期から山三賀編年 [坂井1989a] の古墳Ⅰ期の範囲におさまると考える(第21表)。

本遺跡の土器の変遷は、各器種の消長や形態の変化等に着目し、Ⅰ～Ⅳの4期に区分した。以下では4期をそれぞれ西川内Ⅰ～Ⅳ期とし、概要を述べる。各期の規準となる資料は以下のとおりである。

西川内Ⅰ期：SK1107・SK1045・SD1218

西川内Ⅱ期：SK1002

西川内Ⅲ期：SD1115

西川内Ⅳ期：SD1201・SX1221

西川内南Ⅰ期 (第39図)

2号円形周溝状遺構の周溝SD1218と、土器が多量に出土したSK1107とSK1045を指標とする。壺には有段口縁壺A類が存在する(151・348)。有段口縁壺は弥生時代後期から続く壺で、西川内南Ⅰ期の有段口縁壺は、有段部がわずかにふくらむ程度の形骸化が進んだものである。壺B類には様々なものがあるが、法量では大型・中型・小型に分かれるようである。壺では在地のA類のほか、畿内系のB類、東海系のC類がある。壺A類は月影式から続く有段口縁壺であるが(167・279)、口縁部内面の段は省略され、調整も全体的に粗く、退化傾向にある。壺B2類は本遺跡では最も出土数が多いが、口縁部に円形浮文(275)や刻み目(161)、円形竹管文(162・163・276)、沈線(160)などの装飾を加えるものが目立つ。小型の壺では丁寧なミガキが行われるI類が多く、また有段口縁のH類(169・182・283)も存在する。高坏は在地系のA類(186)と東海系のB類がある。B類は法量により大型のB1類、小型のB2類に分かれるが、B1類・B2類ともに坏部外面に稜がはっきりとしており、全体的に丁寧なミガキが施される。器台は有段有透の装飾器台A類がある。透かしは三角形のものや丸いものがある。装飾器台は北陸南西部では全体が楕長から縦長形態へと変遷することが明らかとなっているが[楠2003]、202の装飾器台は口縁部が大きく外反しており、縦長形態とはいえない様相である。県内の装飾器台に関しては北陸南西部とは異なる変遷をたどる可能性が指摘されている[滝沢2003]。小型器台は受部に明瞭な段をもつC1類、口縁部をつまみ上げるC2類、受部が内湾するC3類、口縁端面に面をもつC4類がある。

西川内南Ⅰ期と同時期の資料としては、旧黒崎町緒立遺跡[春日1998]4号住居出土土器がある。壺は有段口縁のものとのく字状口縁のものがある。壺は有段口縁のものど二重口縁のものがある。高坏は在地系と東海系とがあり、両者の折衷のものもある。器台は有段有透の装飾器台と小型器台がある。

西川内南Ⅰ期は、弥生時代後期以来の在地系の器種と、東海地方や畿内地方等の外来系要素をもつ器種が同時に存在する段階である。

西川内南Ⅱ期 (第40図)

SK1002を規準とする。資料数が少ないため、欠落する器種に関しては当該期とほぼ同時期の旧黒崎町緒立遺跡[春日1998]2号住居出土資料を参考にして概要を述べる。壺は1点のみであるため緒立遺跡2号住居の様相を見ると、有段口縁壺は少量が確認できるのみで、主体となるのはく字状口縁である。壺は有段口縁のものは少量あるが、東海系や畿内系のものが多い。高坏では在地系のものが姿を消し、東海系のものが主体となる。装飾器台A類は西川内南Ⅰ期に比べて調整が雑になり、退化傾向にある(251)。小型器台は本遺跡では資料に恵まれないが、緒立遺跡2号住居では多用な形態のものが出土している。

西川内南Ⅲ期 (第40図)

SD1115を規準とするが器種の欠落が多い。当該期の参考資料としては、聖籠町山三賀Ⅱ遺跡[坂井^{aa}1989]SII480があるが壺と壺のみの出土である。壺は口縁端部をつまみ上げるものは少なくなり、口縁端部に面をもつものや端部が丸いものが主体となる。当該期は、「北陸北東部系土器を残しつつ畿内系土

遺跡遺跡 田嶋 1980	山三賀Ⅱ遺跡 坂井 1989a	坂井・川村編年 坂井・川村1993	新居シンが編年 日本考古学協会1993	一之口遺跡東地区 春日1999b	川村 2000	西川内南遺跡
6 群		Ⅱ-2 期	6 期		2段階	西川内南Ⅰ期
7 群		Ⅱ-3 期	7 期	Ⅰ 期	3段階	西川内南Ⅱ期
8 群	Ⅰ 期	Ⅱ 期	8 期	Ⅱ 期	4段階	西川内南Ⅲ期
9 群		Ⅲ 期	9 期	Ⅲ a 期	5段階	西川内南Ⅳ期

第21表 編年対照表

器を相当に受容する段階」[川村1993]であり、400のように有段口縁をもつ器種が少数ながらも残存し、畿内系土器が主体となる段階である。

西川内南Ⅲ期 (第40図)

SD1201・SX1221を規準とする。当該期は壺K類とした畿内系小型壺が出現する段階である。同時期の資料としては山三賀Ⅱ遺跡[坂井²⁰1989]SI502A出土土器が挙げられる。壺は2個体しか確認できないが、いずれも口縁端部が丸い口の字口縁である。山三賀Ⅱ遺跡SI502Aの壺(報告番号29・30)は体部がやや球胴形を呈し、小さな平底が付く。本遺跡のXa層上面で検出されたSX1008出土土器は、図化できたものが壺のみであるが、222・225などは体部が球胴形に近く、口縁部はくの字に外反して端部は丸い。SD1201もXa層上面で検出されていることから、SX1008出土の壺も当該期の特徴をもつ土器として挙げることができると考える。壺K類は胴部径よりも口径が大きく、底部は小さな平底となるものである。山三賀Ⅱ遺跡SI502A出土の小型丸底壺は、関東地方北部との関連が強いとされており[春日1994a]、本遺跡の壺K類も関東地方の影響を受けていることが窺える。132のような中実柱状脚の小型器台は茂茂市丸海遺跡[伊藤²¹2000]でも類例が出土しており、東北地方の影響を受けたものである。

以上のように西川内南Ⅰ～Ⅳ期についてその概要を述べてきた。本遺跡において主体となる時期は西川内南Ⅰ期・Ⅱ期であろう。遺構出土の土器群のうち、器種がそろっていないために決め手に欠けるが、SK1216やSD1220などはⅠ～Ⅱ期に位置付けられるであろう。また包含層資料ではあるが、433・434の装飾器台もⅠ～Ⅱ期のものと考えられる。西川内南Ⅲ期は不明な点が多いものの、西川内南Ⅳ期は壺K類が新たに出現する段階である。当該期の遺構は少なく、包含層資料中では426の壺が挙げられるのみである。431・432の畿内系屈折脚高坏は、当該期またはもう1段階新しいものである。

b) 器種構成比率

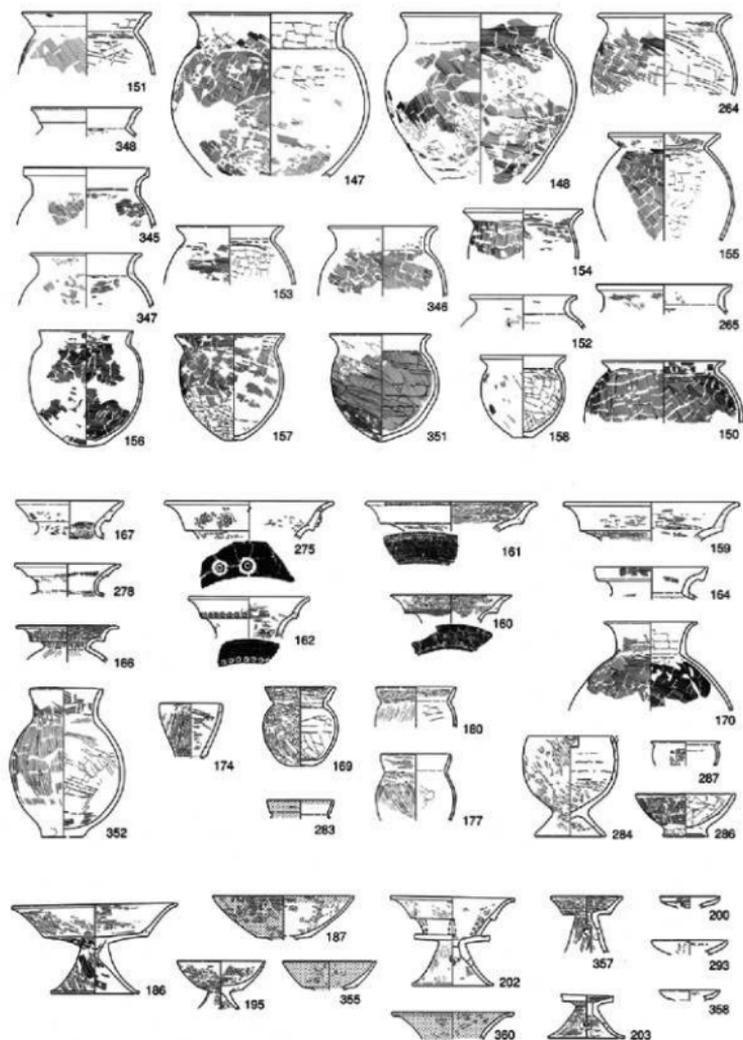
西川内南Ⅰ～Ⅳ期の主要遺構出土別の器種構成比率をみていくこととする。一之口遺跡東地区の計測方法[春日1994b]にならい、土器を高坏、器台、小型壺・鉢、壺、甕の5種に大別し、遺構別に器種構成比率を検討する(第41図)。土器は口縁部残存率計測法[宇野1992]を用いて計測した。

西川内南Ⅰ期のSK1045とSD1218は、壺が60%前後で、高坏・器台の比率は共通性がみられないが、壺は共に5%前後である。西川内南Ⅱ期のSK1002では、壺が46%とⅠ期よりもやや減少し、壺は11%と増加する。西川内南Ⅲ期のSD1115は、壺が30%と特に少なく、高坏の比率が22%と高い。西川内南Ⅳ期のSD1201では、高坏・器台の比率が減少する一方で、壺の比率が63%と高くなり、小型壺・鉢も31%とやや増加している。

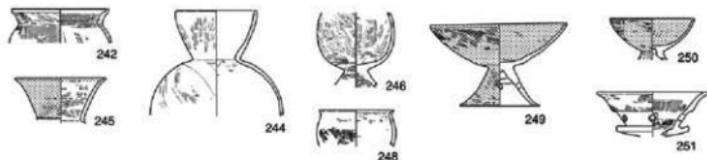
各期全体を通して、壺や壺・高坏・器台の比率は遺構ごとのバラツキが大きく、傾向をつかむことはできない。しかし西川内南Ⅰ期からⅣ期にかけて小型壺・鉢が増加する現象は一つの傾向として捉えることができるであろう。

c) 壺の底部形態

他地域との比較材料のひとつとして、壺の底部形態について分類・計測を行った。計測方法は一之口遺跡東地区[春日1994b]にならい、壺の底部を①丸底、②底径3cm未満の平底、③3cm以上6cm未満の平底、④6cm以上のものの4種類に分け、その構成比率について検討する。ただし、底部が半分以上残存しているもののみを計測対象とした。



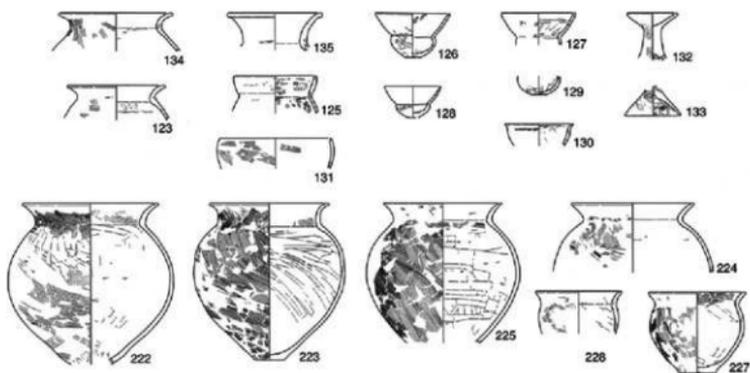
第39図 西川内南I期の土器 (S=1/8)



西川内南Ⅱ期の土器



西川内南Ⅲ期の土器

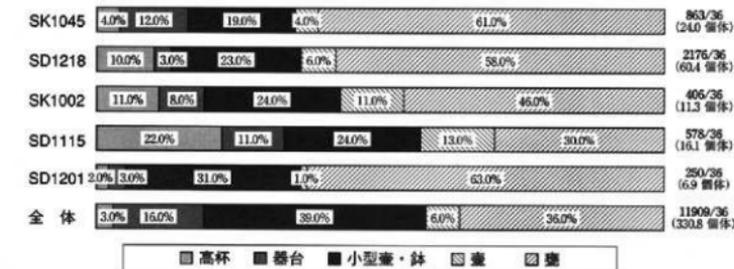


西川内南Ⅳ期の土器

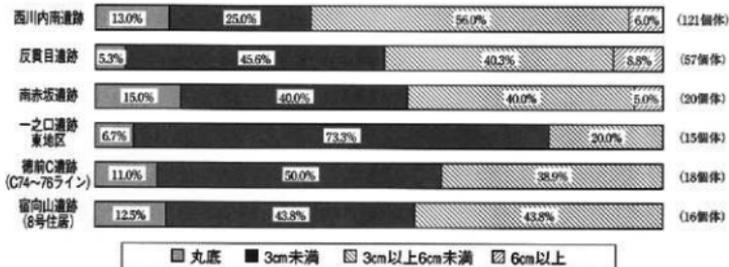
第40図 西川内南Ⅱ～Ⅳ期の土器 (S=1/8)

計測結果を一之口遺跡東地区の成果と、巻町南赤坂遺跡〔相田2002〕の成果、中朱町反貫目遺跡〔寺崎⁴⁴ 2004〕報告書記載の数値と合わせて図示した（第42図）。各遺跡の時期は、新潟シンボ編年で南赤坂遺跡・一之口遺跡東地区、徳前C遺跡・宿向山遺跡が7～8期、反貫目遺跡が6～7期、西川内南遺跡が6～9期である。反貫目遺跡・西川内南遺跡が他の遺跡よりも若干古い時期を含み、また西川内南遺跡の時期幅が広いことに問題はあろうか、おおまかな傾向はとらえ得ると考える。

結果をみると、本遺跡は丸底が13%、3cm未満の平底が25%、3～6cmの平底が56%、6cm以上の平底が6%である。丸底の割合は、反貫目遺跡と一之口遺跡東地区で10%以下であるが、その他の遺跡は15%程である。6cm以上の平底は徳前C遺跡・宿向山遺跡では存在せず、一之口遺跡東地区では20%と高い割合である。西川内南遺跡・反貫目遺跡・南赤坂遺跡では6cm以上の平底は5～6%と少数である。3cm未満の平底と3～6cmの平底の割合は各遺跡によって差があり、西川内南遺跡では3～6cmの平底の割合が56%と最も高い。



第41図 器種構成比率



第42図 壺の底部形態

d) 舟形木製品

はじめに

1号円形周溝状遺構入口部分の南側周溝底から、舟形木製品が1点出土した。周溝を有する建物からの出土例としては、筆者の知る限り東京都豊島馬場遺跡〔中島・嶋村・長瀬1999〕SH124出土の1点があるのみで、出土位置（遺構）としては稀少例といえる。

出土した舟形木製品は、船尾や船首の一部が欠損するなど完形品ではないものの、全体的に良好な遺存

状態を呈している。材質はスギである。本文中に記したように船首には別の部材をはめ込むような造作が見られる。この造作は本資料ではあまり明瞭ではないが、明確にこの切り込みが設けられた例も存在する(第43図)。切り込みの位置から、組み合わせられる部材は縦板状の波切り板である可能性が窺われることから、準構造造船(二体成形船—以後、準構造船)を模したものでないかと考えられている[奈良国立文化財研究所1993]。

準構造船(第44図)は、板材を組み合わせる構造船よりも簡素な構造、すなわち、胴舟(丸木舟・独木舟)を船底材にして上に舷側板を接ぎ足した構造を有し、舷を高くして耐波性や積載量の増大をはかったものである[石井1957]。古墳時代の準構造船に関し、置田雅昭は舟形埴輪などを材料に、船底部が胴舟で、これに舷側板を付加したのが明白な1類と、船底部と舷側板が一体をなす2類とに大別し、前者はすでに弥生時代後期には出現しており、後者は古墳時代中期に盛行したと考える[置田1988]。また、一瀬和夫は前者を二体成形船、後者を一体成形船と呼んで、大型船の構造的発展と捉えている[一瀬1987]。

このような準構造船を模したと思われる舟形は、畿内弥生V期から5世紀にかけてみられるとされており、本遺跡出土例のような準構造船を模した可能性があるもののほかに、明らかにそれとわかる形で表現されたものが存在する[奈良国立文化財研究所1993]¹⁾。いずれも出土例は僅少であり、舟形木製品の主体は胴舟のようである。

県内における出土例

古墳時代前期の舟形木製品としては、新潟県内ではこれまでこのところ本例を含め5遺跡5例²⁾があるに過ぎない。

佐渡市金井町千種遺跡(第45図)

海岸線から約4km程入った沖積低地に立地する弥生時代終末から古墳時代初期の遺跡である。調査では井戸・溝、小貝塚などが検出されているほか、多量の矢筈列、柱・杭などの痕跡も確認されている。舟形木製品は独木舟を模したと考えられ、多量の木材や木器と共に出土した。現存長約50cm、最大幅7cmを測り、一方の上端(船首)は尖って垂直に小孔が穿たれる。材質はスギである[大場・小出ms1953; 滝沢1993]。



第43図 船首に切り込みのある舟形木製品
大府府西石田遺跡出土品
(木器集成図録 近藤原貞雄より転載)

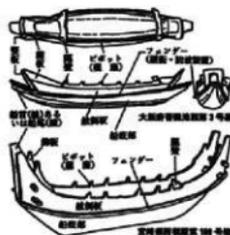


Fig. 102 古墳時代の埴輪にみる準構造船
上: 置田分類1類(二体成形船)
下: 同 2類(一体成形船)
[置田1988a, 一瀬1987などによる]
木器集成図録 近藤原貞雄より転載

第44図 準構造船の形態

1) 木器集成図録[奈良国立文化財研究所1993]には京都府古殿遺跡(古墳時代前期)、奈良県平城京下層(同 中期)出土品などが紹介されている。

2) 本文に紹介したもののほかに、佐渡市蔵王遺跡で古墳時代前期の舟形木製品が1点出土している(未報告)。調査者の山口(小川)忠明氏に伺ったところ、舟形木製品は環塚から出土し、全長15cmと小型で、材質はスギであるとのこと。山口氏の話から察して、形態は恐らく胴舟を模したと思われる。なお、蔵王遺跡に関する既発表資料としては新潟県考古学会第10回大会における報告がある[小川1998]。

佐渡市金井町泉遺跡 (第45図)

国仲平野中の低湿地帯で、耕地整理中に水田から発見されたという。舟形木製品は刳舟を模したと考えられ、矢板列、自然木、木片などと共に出土した。全長約55cm、最大幅9cmを測る。材質はスギである[本岡・椎名1966; 滝沢1993]。

加茂市丸瀬遺跡 (第45図)

信濃川、加茂川、下条川に囲まれた沖積低地に位置する遺跡である。調査では溝、櫛列、土坑、小穴などが検出されている。舟形木製品は1号溝中より、供獻土器類を主体とする多量の土器や木器、

木製建築部材などと共に出土した。船尾を欠いており、遺存状態は良好ではない。現存長35.2cm、最大幅5.1cmを測る。材質はスギである [伊藤ら2000]。

舟形木製品の出土傾向

最近 (2005年2月)、静岡県考古学会の主催で開催された弥生時代から平安時代の木製祭祀具を対象としたシンポジウムでは、静岡県内における木製祭祀具が集成された [静岡県考古学会2005]。県内全域の資料を網羅したという点で評価でき、舟形木製品の出土傾向を知る上で有効な援用資料になると思われるので、少し触れてみよう。

静岡県内で弥生時代後期、または弥生時代後期から古墳時代前期にかかる遺跡から出土した舟形木製品 (すべて刳舟) は8遺跡32点にのぼり、そのすべてが沖積低地に立地する遺跡 (集落7、水田1) から出土している。また、出土地点は水田や河川 (ほかに区画溝1) で、建物や土坑といった「水」との直接的な関連のない遺構からの出土はみられない。また、直接供伴するものは少ないながら、鳥形をはじめ、剣形・刀形・琴形・鏃形といった木製祭祀具を持ち合わせる遺跡が比較的多いなどの傾向が看取される。

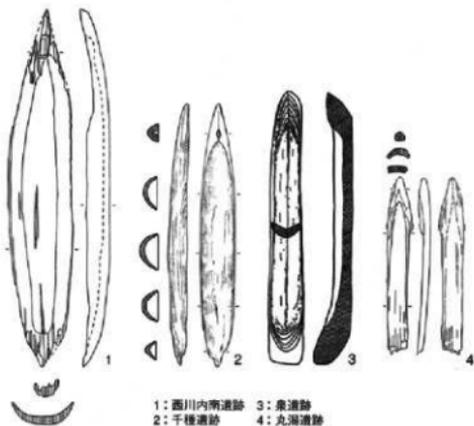
小 結

以上の点から、本遺跡で出土した舟形木製品は恐らく準構造船を模したものであり、刳舟以外の舟形木製品として県内初例であると同時に、全国的にも出土例の稀少な遺物であるということがわかった。本遺跡で製作されたものと仮定すれば、当然、準構造船に関する知識あるいは情報を持ち得た個人や集団が想定できるわけで、そういった見地からみて、かかる遺物は円形周溝状遺構のみならず、本遺跡の性格や役割を考える上で重要な示唆を与える遺物と位置づけられよう。

e) 小型銅鏡

本遺跡から出土した小型銅鏡は直径2.75cmを測り、ほぼ完形品である。鏡背の文様は半球形の鈕をめぐり1重の圏線のみであり、遺構には伴わず鏡面を上にした状態で包含層から出土した。

このような面径の小さな鏡は、弥生時代終末から古墳時代にかけて出土することが多いことが知られて



1: 西川内南遺跡 3: 泉遺跡
2: 千穂遺跡 4: 丸瀬遺跡

第45図 県内出土の舟形木製品

いる。また、祭祀遺構、住居や溝、包含層からの出土例が多いことから、古墳副葬鏡とは性格の異なるものと考えられている¹⁾。儀鏡とも呼ばれるこのような鏡は、弥生時代小形仿製鏡である重圓文日光鏡系仿製鏡第Ⅲ型b類に系譜をもち、その退化型式と考えられている【高倉1985】。重圓文鏡には面径の縮小、文様の簡素化に向かうものと、珠文鏡などの古墳時代小形仿製鏡に連なるものの2つの方向性がある【森岡1989】。高倉氏は、重圓文鏡から素文鏡に至る儀鏡としての成立過程を面径と文様の変化から3段階に分け、第1段階を重圓文鏡段階、第2段階を櫛歯文鏡段階、第3段階を素文鏡段階と設定した【高倉1999】。

祭祀遺跡として全国的に著名な福島県西白河郡建井山遺跡【戸田¹⁹⁹⁸】や福岡県宗像郡沖ノ島遺跡【宗像神社復興期成会1958】では、多くの祭祀遺物の中に小型鏡が含まれていることで知られる。古墳時代前期の出土例では、香川県高松市居石遺跡【山元¹⁹⁹⁵】、同前期から中期と考えられている兵庫県明石市藤江別所遺跡【稲原1999】等が挙げられる。居石遺跡では、自然流路から分岐する溝の取水口近くから珠文鏡（面径5.35cm）、重圓文鏡（3.55cm）、素文鏡（2.75cm）の3面が、40cm程の間隔をもって並べられた状況で出土している。藤江別所遺跡では、弥生時代後期から江戸時代までの遺物を含む井戸から9面出土している。鏡は珠文鏡2面、櫛歯文鏡3面、重圓文鏡2面、素文鏡2面である。面径は2.9cm～6.5cmの間にあり、文様が簡素なものほど面径は小さい。両遺跡とも、出土状況から水にまつわる祭祀が考えられている。

新潟県内で集落遺跡から鏡が出土した例は、佐渡市蔵王遺跡【小川1998】が挙げられる。蔵王遺跡から出土した鏡は完形の内行花文鏡（面径10.5cm）と破片の珠文鏡がある。2面とも同じ掘立柱建物付近からの出土で、この建物は枕木が設置されており、周辺から鏡や銅鏝が出土していることから祭祀的な性格をもつものと考えられている。北陸では、石川県で比較的多くの例がみられる。弥生時代の終末から古墳時代前期に、金沢平野という一定地域の中で平均2.5～3kmの距離を置く複数の集落遺跡から鏡が出土しており、楠正勝氏により出土状況や遺構、鏡式等の比較とその変遷が検討されている【楠¹⁹⁹⁶】。出土遺構は住居と溝があり、ほかには包含層である。それらの鏡については、藤岡孝司氏による重圓文鏡の分類【藤岡1991】に基づき、それぞれの位置づけを示した。金沢平野において出土し、全容のわかるものは石川県金沢市西念・南新保遺跡【楠¹⁹⁹⁶】（面径6.45cm）、岡市田中A遺跡【増山1992】（6.8cm）の重圓文鏡と、岡市下安原遺跡【増山¹⁹⁹⁰】の珠文鏡（7.8cm）がある。これらの重圓文鏡は「櫛歯文帯-円圈」で藤岡氏分類のⅠ型である。このⅠ型は、「櫛歯文帯-円圈-櫛歯文帯-円圈」で最古例のあるⅢ型が簡素化したもので、さらに簡素化が進めば「円圈」のみのⅡ型となる。珠文鏡はⅢ型から派生した別型式に連なるものである。これらの鏡は集落における祭祀に用いられたものと考えられ、それをもち得た遺跡について楠氏は、発掘調査の精査の問題を念頭に置きながら、「現段階ではそれぞれが小地域内の中核的集落として評価しておきたい」としている。

本遺跡から出土した小型銅鏡は面径や文様から、西念・南新保遺跡や田中A遺跡出土鏡よりも簡素化が進んだものと考えられ、重圓文鏡の退化過程においてはほぼ最終形態といえる。また、周辺遺跡に類例のない小型鏡の出土は、城の山遺跡【水澤1999b】等との関連を考える上でも示唆的なものと言え注目される。

3) 古墳時代前期の西川内南遺跡

今回の発掘調査によって本遺跡下層からは、古墳時代前期の円形周溝状遺構2基・掘立柱建物3棟・土坑・溝などが検出された。土器は123箱と多数出土し、時期は新潟シンボ編年【日本考古学協会1993】の6～9期におさまるものである。遺物は土器のほかに木製品も多数出土した。祭祀具の舟形木製品他、

1) 林原利明氏のご教示による。

農耕具や建築部材等がある。このほか注目される遺物として、小型銅鏡が1面出土した。

1号円形周溝状遺構は、低地に即した住居形態の一つで、周溝をもつ平地式住居として性格付けることが可能である。2号円形周溝状遺構は、周溝内部の建物が高床式の構造をもつと推定されることから、祭祀儀礼に関する建物の可能性も考えられ、この遺構の性格については判断しかねるところである。

出土土器の編年的な所見からは、西川内南Ⅰ～Ⅱ期（新潟シンボ編年6～7期）が主体となる時期で、2号円形周溝状遺構の周溝SD1218はこの時期（西川内南Ⅰ期）である。鏡内系小型丸底甕などの新たな器種が加わる段階の西川内南Ⅳ期（9期）には1号円形周溝状遺構の周溝SD1201がある。西川内南Ⅳ期の遺構は数が少なく、包含層中の遺物では9期以降の遺物は散見できる程度で、9期を過ぎてから本遺跡は廃絶してしまつたと推定できる。

土器以外の遺物で注目されるものは、祭祀遺物である舟形木製品と小型銅鏡がある。舟形木製品は1号円形周溝状遺構の周溝内から出土し、この遺構において水に関わる祭祀がとり行われていたと推測される。面径がきわめて小さい小型銅鏡が集落から出土することは県内においては極めて稀である。小型銅鏡が出土する他県の例をみると、祭祀に関連する遺構から多く出土するようである。本遺跡の小型銅鏡は遺構出土ではなく包含層からの出土であるが、本遺跡において小型銅鏡を用いた祭祀行為が行われたことが推測できる。

本遺跡の南東には、古墳の可能性が高いとされている城の山遺跡〔水澤1999b〕が位置している。この城の山遺跡の周辺には、大塚遺跡〔吉村2002・2003〕、天野遺跡〔水澤1999b〕、野付遺跡〔水澤1999b〕、屋敷遺跡〔水澤・吉村2004〕などの古墳時代遺跡が密集している。大塚遺跡は新潟シンボ編年6～7期、屋敷遺跡は新潟シンボ編年9～11期である。これらの遺跡は大規模な面的調査が行われておらず、不明な点が多いものの、本遺跡で検出された円形周溝状遺構等は見つかっていない。また祭祀遺物である舟形木製品や小型銅鏡は県内でも類例が少なく、こうした遺物を所持することのできた本遺跡は、城の山遺跡周辺の遺跡群の中でも中心的な存在であったのではないだろうか。

要 約

西川内北遺跡

- 1 西川内北遺跡は、北蒲原郡中条町大字西川内字家ノ浦148ほかに所在し、標高は約6.6mを測る。
- 2 発掘調査は、日本海東北自動車道の建設に伴い、平成15年度および平成16年度に実施した。調査面積は4,620㎡（H15年度2,600㎡、H16年度2,020㎡）である。
- 3 遺跡は、胎内川扇状地の末端付近に位置しており、海岸砂丘背後の沖積地に形成された自然堤防上に立地する。
- 4 調査の結果、奈良時代の集落跡が検出された。なお、遺物包含層は後世の耕地整理等により削平され、残存していなかった。
- 5 検出された遺構には、道路状遺構・掘立柱建物5棟・畝状遺構・川跡などがある。
- 6 掘立柱建物は川跡に沿って建ち並び、川跡の中からは多数の土師器・須恵器が出土した。建物から川へ向かって、不要となった遺物が廃棄されたと推測できる。
- 7 道路状遺構は側溝と波板状凹凸面で構成される規格的な道路跡である。波板状凹凸面のみで道路が構成される部分もあるが、これは一時的な迂回路と考えられる。
- 8 出土した遺物は8世紀初頭に位置付けられるもので、土師器は大多数が非口ロ成形である。中には東北地方北部で盛行する沈線文土師器に類似する特徴をもつ遺物がある。
- 9 古代の阿賀北地域では広大な内水面が網の目のように発達しており、この内水面を交通路として利用した結果、小河川沿いに集落が発展していったと推定できる。

西川内南遺跡

- 1 西川内南遺跡は、北蒲原郡中条町大字西川内字中曾根22ほかに所在し、標高は約5.7mを測る。
- 2 発掘調査は、日本海東北自動車道の建設に伴い、平成16年度に実施した。調査面積は12,940㎡（上層6,470㎡、下層6,470㎡）である。
- 3 遺跡は、西川内北遺跡の南300m付近に位置している。
- 4 本調査では、試掘確認調査の結果通り、上層（奈良・平安時代）と下層（古墳時代前期）という2枚の遺物包含層が厚さ約70cmの無遺物間層を挟んで確認された。
- 5 上層では中・近世の道路状遺構1基・奈良・平安時代の道路状遺構2基・杭列3か所・土坑・溝等が検出された。
- 6 奈良・平安時代の道路状遺構は、側溝と波板状凹凸面で構成されるものと、波板状凹凸面のみで構成されるものがある。杭列は打ち込みの杭で構成されるもので、橋脚の痕跡と推定できる。
- 7 上層で出土した遺物は平箱で3箱と少数であり、須恵器は8世紀後半～9世紀前半の年代が与えられる。木製品は杭列の杭材のほか、田下駄が1点出土している。
- 8 上層では居住施設が検出されていないことから、一般的集落というよりも、橋や道路といった交通施設が集まる、交通の要衝であったと推測する。
- 9 下層では古墳時代前期の円形周溝状遺構2基、掘立柱建物3棟、土坑24基、溝8条などが検出された。
- 10 1号円形周溝状遺構は平地式住居であろうが、2号円形周溝状遺構は周溝内の建物が高床構造であり、住居であるかどうかは判断しかねる。

- 11 土坑内の覆土からはイネなどの栽培植物のほかに、鮭と推定される魚類の骨片が出土している。
- 12 遺物は土器が平箱で123箱、木製品66点、土製品12点、石製品6点、金属製品1点が出土した。
- 13 土器は新潟シンボロ年表で6～9期に比定でき、中心となる時期は6～7期である。
- 14 木製品は柱や礎板等の建築部材の他に、祭祀具の舟形木製品や農耕具の又鉞または鋤がある。
- 15 小型銅鏡は面径が2.75cmと非常に小さいもので、鏡背には鈕のまわりに一重の圏線がめぐる。小型銅鏡は古墳に副葬されることは稀で、多くの場合祭祀に関連する遺跡から出土する。本遺跡の小型銅鏡は包含層出土ではあるが、本遺跡において小型銅鏡を用いた祭祀が行われていたと推測できる。

引用・参考文献

- 相田泰臣 2002 「土器の位置付け」『南赤坂遺跡－縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査－』巻町教育委員会
- 荒川隆史⁴⁴ 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 和泉A遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史⁴⁵ 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰⁴⁶ 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第115集 蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯田光晴 1993 「道路築造方法について」『古代交通研究』第6号 古代交通研究会
- 飯田光晴 1994 「埼玉県の古道跡の道路遺構」『季刊 考古学』第46号 雄山閣
- 一瀬和夫 1987 「倭人船－久宝寺遺跡出土船材をめぐって－」『横田健一先生古希記念文化史論叢』(上)
- 伊藤秀和⁴⁷ 2000 『加茂市文化財調査報告 (10) 丸湯遺跡・新通遺跡』加茂市教育委員会・山武考古学研究所
- 稲原昭高 1999 「藤江別所遺跡の祭祀井戸と儀鏡」『考古学ジャーナル』446 ニュー・サイエンス社
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館 研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- 宇部則保 1997 「7・8世紀の沈線文土師器－青森県－」『蝦夷・律令国家・日本海－シンポジウムⅡ－資料集』日本考古学協会1997年度秋田大会実行委員会
- 宇部則保 2000 「古代東北地方北部の沈線文のある土師器」『考古学ジャーナル』462 ニュー・サイエンス社
- 及川 司 1994 「静岡県静岡市由命北遺跡の古代道路遺構について」『古代交通研究』第5号 古代交通研究会
- 近江俊秀 1997 「古代道路遺構の形態からみたその性格」『古代交通研究』第7号 古代交通研究会
- 近江俊秀 2001 「道路遺構の変遷」『古代道路研究』第10号 古代交通研究会
- 大沼芳幸 1994 「道路と交通施設」『季刊 考古学』第46号 雄山閣出版
- 大場鶴雄・小出義治⁴⁸ 1953 『新潟県文化財調査報告書 第一集 (考古編) 千種』新潟県教育委員会
- 近江俊秀 1997 「古代道路遺構の形態からみたその性格」『古代交通研究』第7号 古代交通研究会
- 岡本淳一郎 2003 「『周溝をもつ建物』の基礎的研究」『富山大学考古学研究会論叢 櫻枝楼 秋山進午先生古希記念』六一出版
- 小川忠明 1998 「新徳村遺王古墳集落遺跡」『新潟県考古学会第10回大会 研究発表・調査報告等要旨』新潟県考古学会
- 置田雅昭 1988 「船形埴輪」『京都府弥栄町文化財調査報告 第5集 ニゴレ古墳』京都府弥栄町教育委員会
- 小野真一 1982 『考古学ライブラリー 10 祭祀遺跡』ニューサイエンス社
- 及川良彦 1998 「関東地方の低地遺跡の再検討－弥生時代から古墳時代前半の「周溝を有する建物跡」を中心に－」『青山考古』第15号 青山考古学会
- 及川良彦 2001 「低地遺跡の再検討－周溝を有する建物跡－の再検討」『青山考古』第18号 青山考古学会
- 及川良彦 2004 「7 関東地方の低地遺跡の再検討 (5) -墓と住居の展開」『宇津木向原遺跡発掘40周年記念「方形周溝墓研究の今」Ⅱ』発表要旨
- 春日真美 1994a 「山三賀Ⅱ遺跡出土の古墳時代前期土師器について」『新潟県考古学談話会会報』第14号 新潟県考古学談話会
- 春日真美 1994b 「古墳時代前期の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第60集 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真美 1998 「竊土遺跡 弥生時代末～古墳時代の遺物」『黒埴町史料編』1 原始・古代・中世 黒埴町
- 春日真美 1999 「土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
- 加藤 学 2001a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第106集 松影A遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学 2001b 「WRC遺跡」『平成12年度 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学 2004 「新潟県域における北方系の土師器類－事例紹介と問題提起－」『越後阿賀北地域の古代土器探掘』新潟古代土器研究会

- 川上貞夫 1982 『貝屋須恵器産地』加治川村教育委員会
- 川村浩司 1993 「北陸北東部の古墳出現前後の様相」『日本考古学協会1993年度新潟大会 東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学協会新潟大会実行委員会
- 川村浩司 2000 「上越市の古墳時代の土器様相-関川右岸を中心に-」『上越市史研究』第5号 上越市
- 北野博司 1993 「横俵あれこれ」『北陸古代土器研究』第3号 北陸土器研究会
- 木下 良 2000 「古代道路研究の現状」『古代交通研究』第10号 古代交通研究会
- 楠 正勝³⁰⁾ 1996 『金沢市文化財要119 西念・南新保遺跡』Ⅳ 金沢市教育委員会
- 楠 正勝 2003 『鏡鏡器台の成立と展開』『庄内式土器研究会』26 庄内式土器研究会
- 工藤竹久³¹⁾ 1988 『八戸市埋蔵文化財調査報告書 第20集 八戸新都市区域内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ-田面木平(1)遺跡』青森県八戸市教育委員会
- 後藤 孝 2003 「周知1(福田遺跡)確認調査」『平成14年度 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林三郎・中島広嗣・小林高・小林理恵 1995 「北区文化財調査報告 第16集 豊島馬場遺跡」東京都北区教育委員会
- 小林芳宏 2002 「稲定地1(六斗薨遺跡・一坏田遺跡)」『平成13年度 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 駒形敏朗・鳥居見栄 2001 「五斗田遺跡」長岡市教育委員会
- 小松正夫³²⁾ 1978 「後城遺跡発掘調査報告書」秋田市教育委員会
- 坂井秀弥 1982 『栗原遺跡 第4次・第5次発掘調査概報』新潟県教育委員会・新井市教育委員会
- 坂井秀弥³³⁾ 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集 今池・下新町・子安遺跡』新潟県教育委員会
- 坂井秀弥³⁴⁾ 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第53集 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1989a 「古墳時代の土器と遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第53集 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1989b 「奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第53集 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥・川村浩司 1993 「古墳出現前後における越後の土器様相」『磐城地方における古墳文化形成過程の研究』磐城地方における古墳文化形成過程の研究 研究者グループ
- 坂井秀弥 1996 「水辺の古代官衙遺跡-越後平野の内水面・舟運・漁業-」『越と古代の北陸 古代王権と交流』3 名著出版
- 櫻田 隆 1997 「底面に砂を付着させる土師器とその分布範囲について」『蝦夷・律令国家・日本海-シンポジウムⅡ-資料集』日本考古学協会秋田大会実行委員会
- 静岡県考古学会 2005 『シンポジウム 静岡県における歴史・古代の木製祭祀具』
- 品田高志・川村浩司・木島勉 2003 『津倉田遺跡』『上越市史』資料編2 考古 第4章第2節5。
- 高田昌幸³⁵⁾ 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第95集 野林遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 岡 雅之 2001 「新潟県新発田市馬見坂遺跡出土の土師器-阿賀北地域の7世紀の土器様相とその意義-」『北陸考古学』第12号 北陸考古学研究会
- 高倉洋彰 1985 「弥生時代小型仿製鏡について(承前)」『考古学雑誌』70-3 日本考古学会
- 高倉洋彰 1999 「鏡鏡の誕生」『考古学ジャーナル』446 ニュー・サイエンス社
- 高橋 保・斉藤基生³⁶⁾ 1979 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第19集 下谷地遺跡』新潟県教育委員会
- 高橋 保・坂上友紀 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第98集 平田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋 学 1997 「口縁部に沈線文をもつ土師器-秋田県域での事例-」『蝦夷・律令国家・日本海-シンポジウムⅡ-資料集』日本考古学協会秋田大会実行委員会
- 滝沢規朗 1993 「新潟県における古墳時代の祭祀遺物」『古墳時代の祭祀-祭祀関係の遺跡と遺物-』第Ⅰ分冊 東日本埋蔵文化財研究会
- 滝沢規朗 2003 「弥生時代末~古墳時代前期の(仮)北陸北東部終極器台について」『新潟県考古学会発表資料』
- 田嶋明人 1986 「浪町遺跡出土土器の編年の考察」『浪町遺跡』Ⅰ 石川県立埋蔵文化財センター

- 立木(土橋) 由理子^{na} 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第94集 郡清水遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 寺崎裕助^{na} 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第135集 反頁目遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 戸田有二^{na} 1998 『古代祭祀遺跡山遺跡』吉川弘文館
- 中島広頼・橋村一志・長瀬 出 1999 『北区文化財調査報告 第25集 豊島馬場遺跡Ⅱ』東京都北区教育委員会
- 奈良国立文化財研究所 1993 『木器集成図録』近畿原稿館
- 日本考古学協会新潟大会実行委員会 1993 『日本考古学協会1993年度新潟大会 東日本における古墳出現過程の再検討』
- 早川 泉 1991 『古代道路遺構に残された圧痕』『東京考古』第9号
- 早川 泉 1997 『道路遺構の虚像と実像』『古代交通研究』第6号 古代交通研究会
- 福田 聖 2000 『ものが語る歴史3 方形周溝墓の再発見』阿成社
- 藤岡孝司 1991 『重閣文(仿製)鏡小考-3~4世紀における一小型仿製鏡の様相-』『君津郡市文化財センター研究紀要-君津郡市文化財センター設立10年記念論集』(財)君津郡市埋蔵文化財センター
- 藤田光一・宇部則保 1989 『八戸市埋蔵文化財調査報告書 第34集 八戸新都市域内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ-田面木平(1)遺跡』青森県八戸市教育委員会
- 本間嘉晴・椎名仙草 1956 『佐渡泉遺跡出土の土器』『考古学雑誌』41-1 日本考古学会
- 前川雅夫 2005 『遺蹟遺跡』『第12回遺跡発掘調査報告会』発表要旨 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 増山 仁^{na} 1990 『金沢市文化財紀要80 金沢市下安原遺跡』金沢市教育委員会
- 増山 仁 1992 『金沢市文化財紀要 101 金沢市下田中A遺跡』金沢市教育委員会
- 三浦圭介 1994 『古代東北地方北部の生業にみる地域差』『北日本の考古学』吉川弘文館
- 水澤幸一 1998 『中条町文化財調査報告書 第15集 兵衛遺跡-四ツ持遺跡』中条町教育委員会
- 水澤幸一 1999a 『中条町文化財調査報告書 第16集 中倉遺跡3次』中条町教育委員会
- 水澤幸一 1999b 『中条町文化財調査報告書 第17集 町内遺跡V』中条町教育委員会
- 水澤幸一 2001 『中条町埋蔵文化財調査報告 第21集 下町・坊城遺跡V』中条町教育委員会
- 水澤幸一 2002 『中条町文化財調査報告書 第24集 船戸川崎遺跡4次』中条町教育委員会
- 水澤幸一 2003 『塩津海に流れ込む河川沿いの遺跡群-草野遺跡を中心に-』『新潟県考古学会第15回大会研究発表要旨』新潟県考古学会
- 水澤幸一 2004a 『中条町埋蔵文化財調査報告 第28集 下名倉遺跡4次』中条町教育委員会
- 水澤幸一 2004b 『中条町埋蔵文化財調査報告 第30集 草野遺跡2次』中条町教育委員会
- 水澤幸一・吉村光彦 2001 『中条町埋蔵文化財調査報告 第22集 船戸松田遺跡2次』中条町教育委員会
- 水澤幸一・吉村光彦 2004 『中条町埋蔵文化財調査報告 第31集 屋敷遺跡2次』中条町教育委員会
- 宮田志保 2005 『吉津川遺跡』『第12回遺跡発掘調査報告会』発表要旨 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 宮本長二郎 1995 『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版
- 宗像神社復興期成会 1958 『神ノ島』
- 盛岡秀人 1989 『銅鏡』『季刊考古学』第27号 雄山閣
- 安 英樹 1997 『弥生・古墳時代堅穴建物・平地建物の研究史 [北陸編]』『第14回村井遺跡研究会報告資料編』
- 安井 賢^{na} 2002 『越後平野北部の沖積低地における汽水湖沼の成立過程とその変遷』『第四紀研究』41-3日本第四紀学会
- 山元敏祐^{na} 1995 『高松市埋蔵文化財調査報告 第30集 居石遺跡』高松市教育委員会
- 吉井雅勇 1993 『荒川町埋蔵文化財調査報告 第1 坂町宮ノ腰B遺跡』新潟県荒川町教育委員会
- 吉岡康勝 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 吉村光彦 2002 『中条町埋蔵文化財調査報告 第23集 大塚遺跡第2次』中条町教育委員会
- 吉村光彦 2003 『中条町埋蔵文化財調査報告 第29集 大塚遺跡第3次』中条町教育委員会

西川内北道跡 遺構計測表 (獨立柱建物)

遺構No.	方位(併行)	構造		床面積	併行		並列
SB1001	S-1'-E	2間×2間、側柱式		10.8㎡	北350cm、南320cm	東350cm、西310cm	
構成(°)	位置	柱	平面形	平面規模	断面形	深さ	底面積
P1002	11E1	残存	内形	52×34cm	漏斗状	40cm	6.28㎡
P1005	11E7	ナシ	内形	35cm	U字状	52cm	6.40㎡
P1008	11E12	ナシ	内形	52×44cm	漏斗状	52cm	6.28㎡
P1007	11E11	残存	内形	40cm	漏斗状	50cm	6.14㎡
P1006	10E20	残存	内形	46×38cm	漏斗状	52cm	6.15㎡
P1013	10E10	残存	内形	40×38cm	漏斗状	48cm	6.24㎡
P1002	10E10	残存	内形	42×38cm	漏斗状	44cm	6.18㎡
柱 1004	10E15	残存	—	—	打ち込み	12cm	6.06㎡
柱 1009	11E11	残存	—	—	打ち込み	32cm	6.44㎡

遺構No.	方位(併行)	構造		床面積	併行		並列
SB1014	S-67'-W	3間×2間、側柱式		15.3㎡	北470cm、南400cm	東315cm、西300cm	
構成(°)	位置	柱	平面形	平面規模	断面形	深さ	底面積
P1024	8E20	ナシ	内形	32cm	台形状	36cm	6.20㎡
P1021	8E23	ナシ	内形	30cm	台形状	27cm	6.32㎡
P1019	8C5	ナシ	内形	40×34cm	半円形	22cm	6.40㎡
P1017	8C5	ナシ	内形	35cm	半円形	17cm	6.42㎡
P1016	8C4	ナシ	内形	45×35cm	半円形	22cm	6.40㎡
P1015	8C3	ナシ	内形	50×35cm	半円形	20cm	6.42㎡
P1018	8C3	ナシ	内形	45×50cm	半円形	17cm	6.45㎡
P1020	8E23	ナシ	内形	42×36cm	半円形	25cm	6.42㎡
P1022	8E18	ナシ	内形	40×35cm	半円形	15cm	6.44㎡
P1023	8E19	ナシ	内形	34cm	半円形	20cm	6.40㎡

遺構No.	方位(併行)	構造		床面積	併行		並列
SB1060	S-46'-E	3間×2間、側柱式		21㎡	北825cm、南495cm	東400cm、西425cm	
構成(°)	位置	柱	平面形	平面規模	断面形	深さ	底面積
P1039	10C16	残存	内形	30cm	漏斗状	67cm	5.96㎡
P1064	9C25	残存	内形	33cm	漏斗状	67cm	5.96㎡
P1061	9C25	残存	内形	40cm	漏斗状	66cm	6.00㎡
P1050	9C24	残存	内形	40cm	漏斗状	70cm	6.00㎡
P1049	9C23	残存	内形	48cm	漏斗状	75cm	5.94㎡
P1082	9C18	残存	内形	38×28cm	漏斗状	65cm	6.02㎡
P1083	9C13	残存	内形	32cm	漏斗状	65cm	6.02㎡
P1064	9C8	残存	内形	35cm	漏斗状	55cm	6.13㎡
P1038	9C14	残存	内形	45×34cm	漏斗状	90cm	5.74㎡
P1036	9C16	残存	内形	47cm	漏斗状	84cm	5.78㎡
P1045	9C9	無	内形	10cm	U字状	16cm	6.44㎡
P1031	9C13	無	内形	44cm	U字状	36cm	6.32㎡
P1048	9C22	無	内形	48×40cm	半円形	22cm	6.48㎡
P1055	10C11	無	内形	32×20cm	U字状	20cm	6.45㎡
P1037	9C16	残存	内形	12cm	U字状	26cm	6.56㎡

遺構No.	方位(併行)	構造		床面積	併行		並列
SB1070	S-25'-E	2間×2間、側柱式		14.4㎡	北465cm、南470cm	東310cm、西305cm	
構成(°)	位置	柱	平面形	平面規模	断面形	深さ	底面積
P1044	9C11	残存	内形	40×34cm	漏斗状	34cm	6.32㎡
P1065	9C11	残存	内形	20cm	漏斗状	32cm	6.30㎡
P1066	9C16	残存	内形	20cm	漏斗状	47cm	6.15㎡
P1067	9C20	残存	内形	38cm	漏斗状	60cm	6.06㎡
P1068	8C12	残存	内形	35×30cm	漏斗状	46cm	6.15㎡
P1071	9C18	残存	内形	30×22cm	漏斗状	36cm	6.25㎡
P1042	8C9	残存	内形	22cm	漏斗状	36cm	6.30㎡
P1043	8C15	残存	内形	25×20cm	漏斗状	46cm	6.15㎡

遺構No.	方位(併行)	構造		床面積	併行		並列
SB1085	S-45'-E	1間×1間、側柱式		3.6㎡	北205cm、南200cm	東165cm、西190cm	
構成(°)	位置	柱	平面形	平面規模	断面形	深さ	底面積
P1078	9025	残存	—	—	打ち込み	30cm	6.24㎡
P1040	9C4	残存	—	—	打ち込み	36cm	6.24㎡
P1041	9023	残存	—	—	打ち込み	38cm	6.22㎡
P1076	9024	残存	—	—	打ち込み	30cm	6.15㎡

西川内北道路 遺構計測表 (欹伏小溝)

遺構No.	位置	方位	全長	幅	断面形	深さ	底面傾斜
SD1027	9C8近辺	N-8°-W	270cm	23cm	弧状	6cm	6.56-6.5m
SD1028	9C9-13	N-8°-W	220cm*	23cm	弧状	6cm	6.6-6.62m
SD1029	9C17-14	N-20°-W	346cm*	25cm	弧状	3cm	6.6-6.62m
SD1030	9C14	N-12°-W	120cm*	25cm	弧状	2cm	6.62m
SD1035	9C19-20	N-12°-W	146cm*	23cm	弧状	2cm	6.62-6.65m

※西向き最大値

※東向き12cm・m併用

西川内北道路 遺構計測表 (道路伏遺構・川跡-1)

遺構No.	位置	方位	全長	幅	断面形	深さ	底面傾斜	流下方向
SD09	2B12-9	N-78°-E	596cm+	100cm	台形状	25cm	6.11-6.22m	東→西
SD25	2B5-2C2	N-92°-E	260cm	114cm	弧状	10cm	6.23-6.28m	不明
SD26	2B16-2B23	N-78°-E	40m*	200-346cm	台形状	40cm	6.98-6.36m	東→西
SD67	2B1-9C8	N-80°-E	16m*	150cm	台形状	50cm	6.15-6.25m	東→西
SD68	3C19-4D7	N-78°-E	663cm	60cm	弧状	25cm	6.13-6.32m	不明
SD62	3B24-25	N-58°-W	295cm	15cm	弧状	2cm	6.40-6.43m	東→西
SD69	3B1-4B10	N-98°-E	15.2m*	80cm	弧状	15cm	6.34-6.41m	東→西
SD69	4B20-21	N-96°-E	10.4m*	125cm	弧状	30cm	6.3-6.43m	東→西
SD30	2B7	N-59°-E	100cm	28cm	弧状	1cm	6.33-6.37m	不明
SD31	2B7		208cm	27cm	弧状	5cm	6.35-6.38m	不明
SD32	2B7		19cm	33cm	弧状	3cm	6.36m	不明
SD33	2B2-8		180cm	32cm	弧状	1cm	6.36-6.39m	不明
SD34	2B3		115cm	39cm	弧状	3cm	6.39-6.41m	不明
SD35	2B3		152cm	49cm	弧状	6cm	6.3-6.38m	不明
SD36	2B29-2B4		112cm	14cm	弧状	3cm	6.33-6.38m	不明
SD37	2B24		125cm	41cm	弧状	6cm	6.34-6.37m	不明
SD38	2B24		145cm	28cm	弧状	3cm	6.36m	不明
SD39	2B25		167cm	46cm	弧状	2cm	6.32m	不明
SD40	2B25	167cm	26cm	弧状	3cm	6.29m	不明	
SD41	2B25	128cm	24cm	弧状	8cm	6.26-6.31m	不明	
SD42	2B20-2C11	N-85°-E	135cm	28cm	弧状	3cm	6.3-6.35m	不明
P43	2C16		55cm	55cm	弧状	12cm	6.22m	不明
SD44	2C16-17		175cm	43cm	弧状	2cm	6.21-6.32m	不明
SD45	2C12-17		121cm	43cm	弧状	2cm	6.3m	不明
SD46	2C13-17		103cm	48cm	弧状	1cm	6.21-6.23m	不明
SD43	2C13-18		9cm	32cm	弧状	1cm	6.3-6.37m	不明
SD46	2C13		122cm	49cm	弧状	8cm	6.25-6.32m	不明
SD53	2B19		117cm	32cm	弧状	4cm	6.35-6.38m	不明
SD54	2B19		95cm	54cm	弧状	4cm	6.35-6.38m	不明
SD55	2B18-23		115cm	23cm	弧状	4cm	6.34-6.38m	不明
SD52	2C3-9	N-75°-E	151cm	63cm	弧状	8cm	6.27-6.29m	不明
SD51	2C3-4		73cm	48cm	弧状	3cm	6.34-6.38m	不明
SD49	2C4		73cm	41cm	弧状	3cm	6.32m	不明
SD48	2C4		70cm	25cm	弧状	2cm	6.32m	不明
SD47	2C5		56cm	40cm	弧状	9cm	6.29m	不明
SD50	2C4		68cm	58cm	弧状	3cm	6.37m	不明
SD28	2B9-14		373cm	30cm	弧状	5cm	6.37m	不明
SD26	2B9-14		352cm	43cm	弧状	4cm	6.30-6.38m	不明
SD24	2B9-15		224cm	70cm	弧状	8cm	6.33-6.38m	不明
SD23	2B4-15		414cm	82cm	弧状	5cm	6.35-6.39m	不明
SD27	2C11	388cm	130cm	弧状	5cm	6.33-6.4m	不明	
SD19	2C6-11	N-94°-E	292cm	28cm	弧状	3cm	6.32-6.38m	不明
SD20	2C6-12		240cm	39cm	弧状	10cm	6.32-6.38m	不明
SD21	2C7-12		256cm	40cm	弧状	10cm	6.33-6.39m	不明
SD11	2C6-2C7		245cm	43cm	弧状	4cm	6.35-6.38m	不明
SD66	2C12		99cm	48cm	弧状	7cm	6.3-6.37m	不明
SD13	2C8		137cm	83cm	弧状	10cm	6.28-6.36m	不明
P15	2C13		82cm	44cm	弧状	8cm	6.32m	不明
SD16	2C2-2C5		288cm	48cm	弧状	3cm	6.23-6.29m	不明
SD17	2C3		50cm	42cm	弧状	3cm	6.34m	不明
SD22	2C3-13		246cm	28cm	弧状	6cm	6.34-6.38m	不明
SD18	2C8	N-94°-E	131cm	26cm	弧状	3cm	6.36m	不明
SD65	2C3		40cm	46cm	弧状	6cm	6.32m	不明
SD62	2C3-9		175cm	38cm	弧状	2cm	6.38-6.38m	不明
SD63	2C4-9		172cm	43cm	弧状	4cm	6.31-6.36m	不明
SD64	2C4-9		231cm	43cm	弧状	7cm	6.35-6.38m	不明
SD69	2C5		90cm	29cm	弧状	6cm	6.35-6.28m	不明
SD60	2C5		85cm	25cm	弧状	5cm	6.37m	不明
SD61	2C5		70cm	26cm	弧状	5cm	6.37m	不明

西川内北道跡 遺構計測表 (道路状遺構・川跡-2)

遺構No.	位置	方位	全長	幅	断面形	深さ	底面標高	流下方向
S06	2800		142cm	33cm	陥状	9cm	6.3-6.32m	不明
S06	2820-2821		186cm	52cm	陥状	9cm	6.3-6.35m	不明
S09	2C16-21		183cm	38cm	陥状	9cm	6.30m	不明
SD4	2C16-21		232cm	33cm	陥状	7cm	6.33-6.38m	不明
S02	2C17-22		258cm	28cm	陥状	7cm	6.3-6.36m	不明
S01	2C17		148cm	28cm	陥状	3cm	6.25-6.28m	不明
SD12	2C17		83cm	29cm	陥状	3cm	6.33-6.38m	不明
S07	2C17		84cm	31cm	陥状	3cm	6.30m	不明
SD19	2C18		210cm	49cm	陥状	5cm	6.34-6.4m	不明
SD14	2C18		115cm	42cm	陥状	10cm	6.30m	不明
S06	2C18		113cm	37cm	陥状	3cm	6.38m	不明
S00	2C18		104cm	27cm	陥状	2cm	6.38m	不明
SD79	2C18	N-106°-E	93cm	49cm	陥状	13cm	6.3-6.37m	不明
SD78	2C13-19	~	103cm	35cm	陥状	7cm	6.32-6.38m	不明
SD80	2C19	N-91°-E	106cm	64cm	陥状	2cm	6.34-6.37m	不明
SD77	2C14-19		62cm	35cm	陥状	4cm	6.35m	不明
SD61	2C19		63cm	35cm	陥状	3cm	6.39m	不明
SD67	2C3-14		83cm	37cm	陥状	1cm	6.33m	不明
P70	2C9		46cm	46cm	陥状	13cm	6.29m	不明
SD74	2C14-15		44cm	28cm	陥状	6cm	6.33m	不明
P75	2C14		22cm	22cm	陥状	5cm	6.39m	不明
SD76	2C14-19		102cm	28cm	陥状	6cm	6.33m	不明
SD68	2C16		74cm	28cm	陥状	9cm	6.30m	不明
SD69	2C18		124cm	33cm	陥状	7cm	6.34-6.39m	不明
P73	2C15		42cm	43cm	陥状	5cm	6.34m	不明
P71	2C16		41cm	41cm	陥状	10cm	6.30m	不明
P72	2C16		38cm	38cm	陥状	6cm	6.34m	不明
S085					穴番			
S086					穴番			
SD91	7E2-10E14	N-66°-E	41m	800-900cm	陥状	110cm	5.9-6.4m	東→西

西川内北道跡 遺構計測表 (柱・柱穴)

遺構No.	位置	柱	平面形	平面規模	断面形	深さ	底面標高
柱 1012	11E9	残存	—	—	—	18cm	6.44m
柱 1047	8B13	残存	—	—	—	26cm	6.29m
柱 1072	9C18	残存	—	—	—	26cm	6.30m
柱 1080	8C16	残存	—	—	—	46cm	6.18m
柱 1084	8C17	残存	—	—	—	—	—
P1010	11C19	無	円形	36cm	陥状	12cm	6.42m
P1011	10C1	無	楕円形	46 × 34cm	半円形	16cm	6.42m
P1025	9C5	無	楕円形	64 × 44cm	陥状	10cm	6.54m
P1032	9C19	無	円形	25 × 20cm	U字状	20cm	6.26m
P1033	9C20	無	楕円形	52 × 40cm	半円形	22cm	6.44m
P1034	9C14	残存	楕円形	28 × 28cm	漏斗状	70cm	6.91m
P1046	8B12	残存	円形	16cm	陥状	16cm	6.26m
P1052	9C17	無	円形	28cm	U字状	25cm	6.49m
P1053	10C16	無	円形	30cm	陥状	6cm	6.55m
P1056	10C11	自然木残					
P1059	8B13	残存	楕円形	28 × 20cm	漏斗状	30cm	6.45m
P1063	9C12	無	円形	18cm	U字状	16cm	6.58m
P1073	8B13	無	円形	24cm	U字状	16cm	6.42m
P1074	8B13	無	円形	18cm	U字状	8cm	6.50m
P1075	8B8	無	円形	20cm	陥状	12cm	6.29m
P1079	9C16	残存	円形	14cm	U字状	24cm	6.29m
P1081	9C16	無	円形	18cm	U字状	16cm	6.46m

西川内北道跡 遺構計測表 (不明遺構 1)

遺構No.	方位 (西行)	構造	面積	面積	長径短径		
SK026	N-45°-E	細小凸点形	13.2 m ²		432cm × 223cm		
楕円(+) 位置	柱	平面形	平面規模	断面形	深さ	底面標高	
P1057	9B-14	無	楕円形	30 × 25cm	半円形	14cm	6.29m
P1058	9B-14	無	円形	16cm	半円形	8cm	6.44m
P1060	9B-12	無	円形	42cm	半円形	18cm	6.42m
P1061	9B-18	無	円形	24cm	陥状	8cm	6.50m
P1062	9B-18	無	円形	30cm	陥状	4cm	6.62m

西川内北道跡 遺構計測表 (不明遺構 2)

遺構No.	位置	方位	平面形	平面規模	深さ	底面標高	備考
SK07	4B-6B20	不明	不整形	230 × 200cm	20cm	6.17-6.29m	木積の可能性高い
SK00	7B-7E23	不明	不整形	900 × 740cm ²	11cm	6.5-6.7m	水田址か

西川内北遺跡 土器調査表 (1)

凡例

1. 色 調 『標準 経度土色集』(小山・竹田1994)による。

2. 焼 成 酸化処理成、還元処理成の区別を記した。

3. 胎 土 石:石灰、赤:赤石、黄:黄石、黒:黒石、青:青石、白:白土を要す。

4. 調製・経度方向 調製台の経度方向を示す。(ロタロズリの場合、胎以外の器種は土器を単位として記している)

5. 胎存率 口縁部・胎部の胎存率をX/Yの形で表した。

調査 №	シリアル No.	出土位置		種別	器種	器量 (cm)		胎土	胎色	胎質	胎文	胎形	胎寸	胎目	胎部	胎部 方位	胎部 面積	胎部 容積	備考	
		位置	層位			口径	高さ													
1	208, 423	S37, S36	1	須臾	須臾	11.0		赤	赤	赤	赤	須臾	須臾	赤	赤					
2	402, 411・5, 506	S356	1	須臾	須臾	26.0		赤	赤	赤	赤	須臾	須臾	赤	赤					
3	3018	S356	2	須臾	須臾	26.0		赤	赤	赤	赤	須臾	須臾	赤	赤					
4	303・8	S357	4	須臾	須臾	14.7	11.2	4.0	灰白色	酸化	赤	赤	須臾	須臾	赤					
5	302・3・8	S357	4	須臾	須臾	14.7	11.2	3.8	灰白色	酸化	赤	赤	須臾	須臾	赤					
6	303・8	S357	4	土師	小壺	14.0			褐色	酸化	赤	赤	須臾	須臾	赤					
7	4023	S357	1	須臾	須臾	13.0			明褐色	酸化	赤	赤	須臾	須臾	赤					
8	90	S3, 025	1	土師	須臾				灰褐色	酸化	赤	赤	須臾	須臾	赤					
9	9013	S3, 025	1	土師	須臾				灰褐色	酸化	赤	赤	須臾	須臾	赤					
10	901・12・17・20・23	S391	4	須臾	須臾	13.2	9.0		灰褐色	酸化	赤	赤	須臾	須臾	赤					
11	909・12・22・23, 30	S391	2・4	須臾	須臾	12.0	7.6	3.1	灰色	還元	赤	赤	須臾	須臾	赤					
12	9011・12	S391	4	須臾	須臾	12.0	8.9	4.4	灰褐色	還元	赤	赤	須臾	須臾	赤					
13	901・2	S391	4	須臾	須臾	10.6	8.3	4.9	灰色	還元	赤	赤	須臾	須臾	赤					
14	9024, 30	S391	4	須臾	須臾	16.4	11.2	4.7	灰色	還元	赤	赤	須臾	須臾	赤					
15	7011, 80	S391	4	須臾	須臾				灰色	還元	赤	赤	須臾	須臾	赤					
16	901・7, 902	S391	2~4	須臾	須臾	17.8			灰色	還元	赤	赤	須臾	須臾	赤					
17	907・13, 907a, 90	S391	2	須臾	須臾	11.0			3.1	褐色	還元	赤	赤	須臾	須臾	赤				
18	901	S391	4	須臾	須臾				21.6											
19	901	S391	4	土師	須臾				10.6											
20	901・8	S391	4	土師	須臾				22.0											
21	901	S391	2・4	土師	須臾	20.0														
22	9025, 905	S391	4	土師	須臾	24.0														
23	902	S391	4	土師	須臾	23.0														
24	907	S391	3	土師	須臾	20.0														
25	901・2	S391	2・4	土師	須臾	20.0														
26	9023	S391	4	土師	須臾	21.0														

西川内北遺跡 土器観察表 (2)

報告 №	グリッド	遺構No	層位	形状	器種	口徑	径長 (cm)		色調	焼成	胎土	外 面	内 面	口縁	底面	備考
							口徑	径長								
27	HC-03	S091	4	土師 長頸	18.0			灰黒褐色	酸化 石・灰・重		口：ナブ、体：ハナク			7		
28	HC-1, 805	S091	4	土師 長頸	19.0			灰黒褐色	酸化 石・灰・重		口：ナブ、体：ハナク			3		
29	805	S091	4	土師 長頸	18.0			黄褐色	酸化 石・灰		ナブ・ハナク			3		口縁部内面に黒行書
30	803	S091	4	土師 長頸	18.0			灰黒褐色	酸化 石・灰		ナブ・ハナク			3		口縁部内面に黒行書
31	803	S091	4	土師 長頸	18.0			黄褐色	酸化 石・灰		ナブ・ハナク			3		口縁部内面に黒行書
32	8012	S091	4	土師 長頸	16.0			淡黄褐色	酸化 石・灰		口：ナブ、体：ハナク			3		
33	805	S091	4	土師 長頸	14.0			灰黒褐色	酸化 石・灰・重		ナブ			3		口縁部内面に黒・コガ行書
34	8011	S091	2-4	土師 長頸	18.0			淡黄褐色	酸化 石・灰・重・燻		口：ナブ、体：ハナク			2		
35	8022	S091	4	土師 長頸	14.0			灰黒褐色	酸化 石・灰		口：ナブ、体：ハナク			1		後部外面に黒行書
37	805	S091	4	土師 長頸	8.0			黄褐色	酸化 石・灰・重		ハナク			21		
38	90	S091	2	土師 長頸	6.0			灰黒褐色	酸化 石・灰		ハナク			11		
39	807	S091	2	土師 長頸	6.0			灰黒褐色	酸化 石・灰		ハナク			5		
40	805	S091	2	土師 長頸	6.0			灰黒褐色	酸化 石・灰		ハナク			11		
41	805	S091	1-8	土師 長頸	9.0			灰黒褐色	酸化 石・灰・チヤ		ハナク			5		
42	901	S091	4	土師 長頸	9.0			灰黒褐色	酸化 石・灰		ハナク			26		
43	803	S091	2	土師 長頸	6.5			灰黒褐色	酸化 石・灰・チヤ					22		
44	801, 90	S091	1-8	土師 長頸	8.0			灰黒褐色	酸化 石・灰		ハナク			8		
45	805	S091	4	土師 長頸	5.0			淡黄褐色	酸化 石・灰・重		ハナク			36		
46	805	S091	4	土師 長頸	5.0			灰黒褐色	酸化 石・灰・重		ナブ			36		
47	801	S091	4	土師 長頸	15.0			灰黒褐色	酸化 石・灰		口：ナブ			3		
48	8012	S091	Ⅲ	須恵 餅台杯	10.2			灰色	還元 石・灰		口：ナブ			4		
49	8017	S091	Ⅲ	須恵 有台杯	10.0			灰色	還元 石・灰		口：ナブ			4		
50	801	S091	Ⅲ	須恵 餅台	10.2			黄褐色	還元 石・灰・チヤ		口：ナブ			12		
51	809・14, 4・80・C	S091	Ⅲ	須恵 餅台	10.2			灰色	還元 石・灰		口：ナブ			4		
52	809	S091	Ⅲ	須恵 餅台	12.0			灰色	還元 石・灰		口：ナブ			4		
53	8012	S091	Ⅲ	須恵 餅台	10.2			灰色	還元 石・灰		口：ナブ			12		
54	10013	S091	Ⅲ	土師 餅	22.3			灰白色	還元 石・灰		口：口ナブ			1		
55	111023	S091	Ⅲ	土師 餅	14.9			灰白色	還元 石・灰・重		口：口ナブ			4		
56	14094	S091	Ⅲ	土師 餅	33.0			灰色	還元 石・灰・重		口：口ナブ			2		
57	14021	S091	Ⅲ	土師 餅	33.0			灰色	還元 石・灰・重		口：口ナブ			2		

西川内北道跡 木製品観察表

報告 No.	グリップ	遺跡番号	層位	寸法 (cm)			細目	遺存状況	木取 り	材質	製作痕跡	備考
				長さ	幅	厚さ						
	10E10	SR1001	P1002	29.7	13.8	9.7	柱	上端部欠	新材	サクラ属		実測外
	11E11	SR1001	P1003	28.3	15.4	9.9	柱	上端部欠	新材	サクラ属		実測外
58	10E15	SR1001	P1006	56.2	15.5	13.4	柱	上端部欠	新材	サクラ属	端部片断削り	
	11E11	SR1001	P1007	33.5	13.9		柱	上端部欠	丸材	トネリコ属		実測外
59	10E10	SR1001	P1013	41.4	15.2	13.8	柱	上端部欠	新材	サクラ属	端部片断削り	
60	9C15	SR1009	P1036	66.1	15.5	11.2	柱	上端部欠	新材	トネリコ属	端部片断削り	
	9C14	SR1009	P1038	79.2	15.6	11.4	柱	上端部欠	新材	トネリコ属		実測外
61	10C16	SR1009	P1039	44.9	13.9	12.1	柱	上端部欠	新材	トネリコ属	端部片断削り	
62	9C23	SR1009	P1049	71.1	15.6	15.4	柱	上端部欠	新材	トネリコ属	端部片断削り	
63	9C24	SR1009	P1050	58.6	15.5	14.7	柱	上端部欠	新材	トネリコ属	端部片断削り	
64	9C25, 905	SR1009	P1051	44.6	14.6	14.8	柱	上端部欠	新材	トネリコ属	端部片断削り	
	9C8	SR1009	P1054	50.8	16.1	11.1	柱	上端部欠	新材	トネリコ属	端部片断削り	実測外
65	9C25, 905	SR1009	P1064	68.1	14.8	14.2	柱	上端部欠	新材	トネリコ属	端部片断削り	
	9C19・23	SR1009	P1082	37.0	7.0		柱	上端部欠	丸材	トネリコ属		実測外
66	9C13	SR1009	P1083	43.3	16.4	9.6	柱	上端部欠	新材	トネリコ属	端部削り痕	
	9C11	SR1070	P1044	18.5	5.7	5.2	柱	上端部欠	新材	トネリコ属		実測外
	9C18	SR1070	P1065	12.0	4.4	3.7	柱	上端部欠	新材	サクラ属		実測外
	9C16	SR1070	P1066	21.6	8.5	4.2	柱	上端部欠	新材	トネリコ属		実測外
	9C20	SR1070	P1067	26.0	8.2		柱	上端部欠	丸材			実測外
67	8C18	SR1070	P1068	44.1	10.3		柱	上端部欠	丸材	トネリコ属	端部片断削り	
	8C13	SR1070	P1071	14.9	7.1		柱	上端部欠	丸材	サクラ属		実測外
	8C8	SR1070	P1042	27.4	9.4		柱	上端部欠	丸材	ニゴノキ属		実測外
68	8C10	SR1070	P1043	48.5	11.9		柱	上端部欠	丸材	トネリコ属	端部削り痕	
69	8023	SR1085	P1041	31.4	9.2		柱	上端部欠	丸材	カエデ属		
70	9024	SR1085	P1075	30.2	8.1	6.4	柱	上端部欠	新材		端部両面削り	
	904	SR1085	P1040	18.7	5.3		柱	上端部欠	丸材			実測外
	8012		P1046	8.5	4.7	1.8	柱	上端部欠	新材			実測外
	8013		P1059	44.5	9.8	9.2	柱	上端部欠	新材	カエデ属		実測外
	808		P1047	29.7	6.2		柱	上端部欠	丸材			実測外
	8C15		P1060	18.2	3.8	2.7	柱	上端部欠	新材	トネリコ属		実測外
	8C17		P1064	33.2	8.4	5.6	柱	上端部欠	新材	ニゴノキ属		実測外
	9C13		P1031	52.8	18.5	11.3	柱	上端部欠	新材	トネリコ属		実測外
	9C15		P1037	20.7	7.4		柱	上端部欠	丸材			実測外
	9C16		P1079	12.7	3.7	2.8	柱	上端部欠	新材			実測外
	9C18		P1072	22.5	6.8		柱	上端部欠	丸材	ハンノキ属 ハンノキ亜 属		実測外
	10E15		P1004	12.2	5.4		柱	上端部欠	丸材		端部両面削り	実測外
	11E11		P1005	19.8	4.7		柱	上端部欠	丸材			実測外
	11E9		P1012	15.5	4.3		柱	上端部欠	丸材			実測外
	9C19		P1094	71.6	14.4	12.8	柱	上端部欠	新材	サクラ属	端部両面削り	実測外
	7C20		S091	4	81.5	20.6	3.2	板材	新材			実測外
	801		S091	4	78.6	9.7	3.1	板材	新材			実測外
71	801		S091	4	55.6	19.0	3.5	板状し?	右端部欠	新材	端部に虫込・炭化痕あり 漆塗部材	
	804		S091	4	20.4	2.3	1.4	木片			加工	実測外
	8C17		S091	4	10.8	3.3	2.1	板			加工・平截	実測外
	8C23		S091	4	16.6	1.7	0.7	木片			加工	実測外
	901		S091	4	41.4	3.7	2.6	木片			炭化痕あり	実測外
	909		S091	4	16.0	3.5	1.2	木片			加工	実測外

西川内南道路 上層 遺構計測表 (道路状遺構 1)

遺構No.	位置	方位	全長	断面形状	頂上	底面標高
S011	787	N-43°-W	72m	35m 溝状	5m	5.68m
S012	781		64m	35m 溝状	8m	5.64m
S013	781	N-59°-W	72m	35m 溝状	9m	5.63m
S020	781		60m*	30m* 溝状	8m	5.64m
S014	0820-0825	N-06°-W	250m	45m 溝状	8m	5.66m
S015	0812-0822	N-05°-W	290m	85m 溝状	9m	5.55m
S016	0812-0817	N-06°-W	240m	80m 台形状	14m	5.50m
S017	083-084		140m	70m 溝状	10cm	5.53m
S018	083-084		130m	70m 溝状	10cm	5.51m
S019	088-089		100m	85m 溝状	6m	5.56m
S021	088-089	N-59°-W	125m	45m 溝状	7cm	5.53m
S022	088-089		125m	90cm 溝状	8cm	5.52m
S023	0813-0814		130m	85m 溝状	9cm	5.48m
S024	0813-0814		125m	45cm 溝状	8cm	5.49m
S025	0C9-0C19	N-05°-W	230m	75cm 台形状	20cm	5.46m
S026	0C17	N-74°-W	220m	70cm 台形状	24cm	5.46m
S027	080-0819	N-06°-W	310m*	105cm 溝状	16m	5.50m
S028	0815	N-05°-W	100m	70cm 溝状	20cm	5.42m
S029	0802-0C2	N-08°-W	240m	80cm 台形状	25cm	5.35m
S030	0821-0C8	N-04°-W	440m	205cm 溝状	16cm	5.45m
S031	0821-0823	N-06°-W	180m	102cm 溝状	10cm	5.48m
S032	081-0816	N-05°-W	725cm*	220cm 溝状	15cm	5.45m
S033	0C11	N-05°-W	175cm	116cm 溝状	17cm	5.56m
S034	0023	N-07°-W	60cm	35cm 溝状	2cm	5.72m
S035	0023		90cm	85cm 溝状	2cm	5.73m
S036	007-002	N-61°-W	285cm	72cm 溝状	6cm	6.03m
S007	005	N-05°-W	120cm	32cm 溝状	10cm	5.60m
S038	0821-0816	N-05°-W	17.8m	200cm 溝状	15cm	5.58m
S039	084-004	N-05°-W	81cm	75cm 溝状	6cm	6.07m
S040	0C20-0C19	N-05°-W	10.9m	200cm 溝状	12cm	5.62m
S041	004	N-05°-W	40cm	30cm 溝状	6cm	6.06m
S042	007-002	N-05°-W	760cm	75cm 台形状	20cm	6.00m
S043	0C30-0C10	N-61°-W	250cm	45cm 溝状	8cm	6.00m
S044	007	N-05°-W	90cm	45cm 溝状	6cm	6.05m
S045	0824-004	N-05°-W	10.8m	90cm 台形状	8-20cm	6.7-6.70m
S047	087-0822	N-05°-W	470cm	185cm 溝状	20cm	6.52m

西川内南道路 上層 遺構計測表 (道路状遺構 2-1)

遺構No.	位置	方位	全長	断面形状	頂上	底面標高
S069	0311	N-5°-E	24m	24cm 溝状	12cm	6.71m
S070	0328	N-17°-E	74cm	32cm 溝状	7cm	6.06m
S071	0324	N-17°-E	63cm	34cm 溝状	8cm	6.07m
S072	0324	N-17°-E	70cm	28cm 溝状	4cm	6.70m
S073	0324	N-17°-E	45cm	20cm 溝状	6cm	6.68m
S074	0323	N-17°-E	60cm	29cm 溝状	6cm	6.65m
S075	0323	N-17°-E	70cm	28cm 溝状	8cm	6.52m
S076	0323	N-20°-E	60cm	40cm 溝状	8cm	6.62m
S077	0322	N-20°-E	60cm	34cm 溝状	6cm	6.62m
S078	0322	N-20°-E	40cm	28cm 溝状	9cm	6.60m
S079	0322	N-20°-E	55cm	37cm 溝状	4cm	6.53m
S080	0321	N-20°-E	48cm	36cm 溝状	6cm	6.63m
S081	0321	N-20°-E	50cm	38cm 溝状	6cm	6.62m
S082	0321	N-20°-E	85cm	45cm 溝状	6cm	6.62m
S083	0325	N-20°-E	54cm	43cm 溝状	12cm	6.55m
S084	0316	N-5°-E	48cm	30cm 溝状	4cm	6.64m
S085	0319	---	80cm	36cm 溝状	8cm	6.64m
S086	0319	---	32cm	28cm 溝状	4cm	6.67m
S087	0318	N-5°-E	44cm	34cm 溝状	8cm	6.66m
S088	0317	---	44cm	32cm 溝状	4cm	6.66m
S089	0312	N-5°-E	38cm	32cm 溝状	10cm	6.59m
S090	0312	N-5°-E	50cm	27cm 溝状	6cm	6.64m
S091	0312	N-8°-E	28cm	19cm 溝状	4cm	6.65m
S092	0311	N-5°-E	34cm	26cm 溝状	4cm	6.63m
S093	0312	N-5°-E	46cm	30cm 溝状	6cm	6.62m
S094	0311	N-5°-E	50cm	40cm 溝状	11cm	6.56m
S095	0312	N-17°-E	48cm	42cm 溝状	10cm	6.58m
S096	0311	N-17°-E	60cm	38cm 溝状	12cm	6.54m
S097	0311	N-20°-E	50cm	32cm 溝状	10cm	6.54m
S098	0311	N-20°-E	48cm	40cm 溝状	12cm	6.54m
S099	0318	N-20°-E	46cm	28cm 溝状	10cm	6.54m
S100	0318	N-20°-E	28cm	22cm 溝状	10cm	6.60m
S102	0320	---	32cm	26cm 溝状	7cm	6.60m

西川内南道路 上層 遺構計測表 (道路状遺構 2-2)

遺構No.	位置	方位	全長	断面形状	頂上	底面標高
SX103	0312	N-5°-E	38cm	34cm 溝状	10cm	6.56m
SX104	0311	---	30cm	20cm 溝状	5cm	6.63m
SX105	0312	N-5°-E	30cm	28cm 溝状	9cm	6.57m
SX106	0311	N-5°-E	30cm	26cm 溝状	4cm	6.72m
SX107	0311	N-5°-E	60cm	62cm 溝状	6cm	6.70m
SX108	0314	N-8°-E	62cm	34cm 溝状	4cm	6.71m
SX109	0319	N-17°-E	52cm	30cm 溝状	7cm	6.68m
SX110	0310	---	44cm	34cm 溝状	11cm	6.64m
SX111	0310	N-17°-E	84cm	46cm 溝状	8cm	6.69m
SX112	0310	N-17°-E	35cm	34cm 溝状	14cm	6.62m
SX113	0314	N-17°-E	50cm	35cm 溝状	6cm	6.66m
SX114	0313	N-17°-E	35cm	25cm 溝状	6cm	6.65m
SX115	0313	N-17°-E	42cm	38cm 溝状	6cm	6.62m
SX117	0319	N-40°-E	45cm	30cm 溝状	3cm	6.70m
SX118	0314	N-17°-E	22cm	22cm 溝状	4cm	6.67m
SX119	0314	N-8°-E	35cm	25cm 溝状	6cm	6.66m
SX120	0314	N-8°-E	30cm	25cm 溝状	7cm	6.66m
SX121	0314	N-17°-E	25cm	23cm 溝状	6cm	6.66m
SX122	0310	N-17°-E	26cm	24cm 溝状	4cm	6.70m
SX123	0314	N-8°-E	25cm	20cm 溝状	6cm	6.66m
SX124	0308-0323	N-8°-E	490cm	64cm 溝状	10cm	6.58m
SX125	0314	N-20°-E	44cm	34cm 溝状	5cm	6.62m
SX126	0314	N-20°-E	40cm	35cm 溝状	3cm	6.63m
SX127	0325	N-5°-E	50cm	32cm 溝状	5cm	6.61m
SX128	0304	N-8°-E	48cm	38cm 溝状	5cm	6.61m
SX129	0304	N-8°-E	50cm	28cm 溝状	6cm	6.67m
SX130	0304	N-8°-E	30cm	25cm 溝状	3cm	6.61m
SX131	0325	N-8°-E	52cm	46cm 溝状	8cm	6.60m
SX132	0323	N-20°-E	18cm	18cm 溝状	4cm	6.65m
SX133	0322	N-20°-E	52cm	28cm 溝状	3cm	6.61m
SX134	0322	N-20°-E	60cm	36cm 溝状	11cm	6.62m
SX135	0322	N-20°-E	38cm	25cm 溝状	3cm	6.61m
SX136	0301	N-20°-E	45cm	28cm 溝状	6cm	6.65m
SX137	0321	N-5°-E	112cm	54cm 溝状	12cm	6.62m
SX138	0321	N-5°-E	105cm	42cm 溝状	10cm	6.52m
SX139	0321	N-5°-E	100cm	38cm 溝状	3cm	6.57m
SX140	0321	N-20°-E	65cm	36cm 溝状	8cm	6.62m
SX141	0321	N-20°-E	45cm	36cm 溝状	7cm	6.55m
SX142	0321	N-20°-E	50cm	45cm 溝状	6cm	6.59m
SX143	0308	N-42°-E	50cm	32cm 溝状	6cm	6.55m
SX144	0306	---	23cm	17cm 溝状	6cm	6.54m
SX145	0306	---	25cm	24cm 溝状	3cm	6.54m
SX146	0313	---	33cm	24cm 溝状	12cm	6.48m
SX147	0307	---	42cm	18cm 溝状	6cm	6.54m
SX148	0312	---	35cm	18cm 溝状	6cm	6.62m
SX149	0317	---	20cm	20cm 溝状	6cm	6.54m
SX150	0311	N-43°-W	46cm	24cm 溝状	7cm	6.51m
SX201	0301	N-1°-W	42cm	38cm 溝状	6cm	6.52m
SX202	0301	N-06°-E	64cm	34cm 溝状	6cm	6.54m
SX204	0308	N-5°-E	66cm	50cm 溝状	4cm	6.64m
SX205	0328	N-20°-E	75cm	40cm 溝状	5cm	6.63m
SX206	0328	N-20°-E	48cm	42cm 溝状	14cm	6.55m
SX207	0324	N-20°-E	48cm	36cm 溝状	6cm	6.61m
SX208	0324	N-20°-E	56cm	42cm 溝状	7cm	6.59m
SX209	0324	N-20°-E	56cm	44cm 溝状	15cm	6.48m
SX210	0323	N-20°-E	48cm	32cm 溝状	8cm	6.56m
SX211	0322	N-20°-E	48cm	28cm 溝状	5cm	6.60m
SX212	0322	N-20°-E	26cm	26cm 溝状	12cm	6.51m
SX213	0321	N-20°-E	48cm	32cm 溝状	4cm	6.60m
SX214	0316	N-5°-E	26cm	18cm 溝状	4cm	6.67m
SX215	0316	N-5°-E	24cm	18cm 溝状	5cm	6.55m
SX216	0316	N-5°-E	24cm	26cm 溝状	3cm	6.57m
SX217	0316	N-5°-E	48cm	38cm 溝状	6cm	6.55m
SX218	0317	N-5°-E	58cm	28cm 溝状	7cm	6.56m
SX219	0317	N-5°-E	24cm	25cm 溝状	6cm	6.56m
SX220	0317	N-5°-E	35cm	22cm 溝状	5cm	6.58m
SX221	0319	N-10°-E	46cm	25cm 溝状	3cm	6.60m
SX222	0319	N-10°-E	30cm	25cm 溝状	4cm	6.58m
SX223	0318	N-10°-E	39cm	28cm 溝状	9cm	6.51m
SX224	0318	N-10°-E	39cm	25cm 溝状	3cm	6.58m
SX225	0313	N-20°-E	88cm	72cm 溝状	20cm	6.49m
SX226	0319	N-20°-E	34cm	28cm 溝状	6cm	6.58m

西川內南道路 上層 遺構計測表 (道路状遺構 2-3)

遺構No.	位置	方位	全長	断面形状	深さ	底面傾斜
SX227	2010	N-28°-W	82cm	28cm 階段	7cm	5.50%
SX228	206	N-5°-E	34cm	24cm 階段	5cm	6.80%
SX229	2010	N-5°-E	32cm	20cm 階段	4cm	6.60%
SX230	2010	N-5°-E	64cm	23cm 階段	10cm	5.50%
SX231	2010	N-5°-E	78cm	34cm 階段	9cm	5.50%
SX232	2015	N-20°-E	44cm	20cm 階段	5cm	6.87%
SX233	2018	N-20°-E	70cm	24cm 階段	3cm	8.80%
SX234	2014	N-20°-E	40cm	25cm 階段	6cm	6.80%
SX235	2019	N-20°-E	46cm	28cm 階段	7cm	5.90%
SX236	2014	N-20°-E	46cm	20cm 階段	3cm	6.90%
SX237	2014	N-20°-E	40cm	28cm 階段	8cm	5.80%
SX238	2013	N-20°-E	85cm	76cm 階段	6cm	6.50%
SX239	2012	N-20°-E	46cm	42cm 階段	6cm	5.90%
SX240	2012	N-20°-E	60cm	44cm 階段	6cm	5.90%
SX241	2012	N-20°-E	36cm	28cm 階段	3cm	6.60%
SX242	2013	N-5°-E	39cm	28cm 階段	6cm	6.80%
SX243	2013	N-5°-E	46cm	24cm 階段	4cm	5.60%
SX244	2012	N-5°-E	42cm	34cm 階段	8cm	5.50%
SX245	2013	N-12°-E	56cm	44cm 階段	9cm	5.50%
SX246	2012	N-12°-E	55cm	46cm 階段	6cm	5.50%
SX247	2012	N-12°-E	64cm	49cm 階段	10cm	5.50%
SX248	2012	N-12°-E	65cm	45cm 階段	8cm	5.50%
SX249	2011	N-12°-E	95cm	34cm 階段	3cm	8.80%
SX250	2011	N-12°-E	38cm	25cm 階段	8cm	8.80%
SX251	2011	N-12°-E	40cm	25cm 階段	4cm	5.60%
SX252	2011	N-12°-E	45cm	32cm 階段	4cm	5.60%
SX253	2016	N-8°-E	60cm	23cm 階段	7cm	5.60%
SX254	2012	N-14°-E	42cm	24cm 階段	2cm	6.60%
SX255	2012	N-14°-E	60cm	30cm 階段	4cm	5.60%
SX256	2012	N-14°-E	42cm	34cm 階段	6cm	5.90%
SX257	2011	N-14°-E	95cm	49cm 階段	8cm	5.60%
SX258	2011	N-14°-E	29cm	22cm 階段	6cm	6.20%
SX259	209	N-12°-E	18cm	23cm 階段	7cm	5.60%
SX260	209	N-12°-E	28cm	25cm 階段	3cm	5.60%
SX261	2014	N-20°-E	32cm	26cm 階段	5cm	5.70%
SX262	2013	N-20°-E	50cm	35cm 階段	8cm	5.70%
SX263	2013	N-20°-E	32cm	26cm 階段	2cm	6.60%
SX264	209	N-20°-E	82cm	35cm 階段	4cm	5.60%
SX265	208	N-14°-E	45cm	30cm 階段	8cm	5.40%
SX266	205	N-20°-E	43cm	26cm 階段	3cm	6.10%
SX267	205	N-20°-E	78cm	35cm 階段	2cm	6.10%
SX268	205	N-20°-E	68cm	26cm 階段	2cm	6.20%
SX269	204	N-20°-E	48cm	28cm 階段	6cm	6.70%
SX270	204	N-20°-E	44cm	26cm 階段	6cm	6.80%
SX271	203	N-14°-E	66cm	26cm 階段	6cm	5.60%
SX272	203	N-14°-E	40cm	26cm 階段	8cm	5.50%
SX273	203	N-14°-E	85cm	35cm 階段	4cm	6.80%
SX274	203	N-14°-E	68cm	40cm 階段	4cm	6.80%
SX275	203	N-14°-E	66cm	40cm 階段	7cm	5.50%
SX276	203	N-14°-E	86cm	33cm 階段	8cm	5.40%
SX277	201	N-14°-E	70cm	35cm 階段	7cm	6.80%
SX278	201	N-14°-E	72cm	50cm 階段	2cm	6.60%
SX279	201	N-20°-E	66cm	40cm 階段	6cm	6.30%
SX280	205	N-20°-E	83cm	36cm 階段	4cm	5.80%
SX281	205	N-20°-E	45cm	25cm 階段	6cm	6.60%
SX282	205	N-20°-E	43cm	24cm 階段	6cm	6.60%
SX283	204	N-20°-E	26cm	24cm 階段	6cm	6.50%
SX284	204	N-20°-E	47cm	26cm 階段	4cm	5.60%
SX285	204	N-20°-E	43cm	24cm 階段	6cm	6.80%
SX286	204	N-20°-E	30cm	26cm 階段	3cm	6.80%
SX287	203	N-20°-E	66cm	28cm 階段	3cm	6.70%
SX288	203	N-20°-E	44cm	34cm 階段	4cm	5.60%
SX289	203	N-20°-E	45cm	28cm 階段	4cm	6.80%
SX290	202	N-20°-E	55cm	39cm 階段	6cm	6.60%
SX291	202	N-20°-E	46cm	28cm 階段	6cm	5.60%
SX292	202	N-20°-E	43cm	23cm 階段	2cm	6.90%
SX293	202	N-20°-E	44cm	28cm 階段	2cm	6.80%
SX294	204	N-20°-E	42cm	30cm 階段	4cm	6.60%
SX295	204	N-20°-E	37cm	28cm 階段	3cm	5.90%
SX296	204	N-20°-E	34cm	25cm 階段	5cm	5.60%
SX297	204	-----	22cm	22cm 階段	8cm	6.80%
SX298	203	-----	34cm	34cm 階段	6cm	5.50%
SX299	2013	-----	32cm	30cm 階段	8cm	5.50%

遺構No.	位置	方位	全長	断面形状	深さ	底面傾斜	
SX300	2020	N-72°-E	104cm	18cm 階段	2cm	5.50%	
SX301	3015	-----	20cm	20cm 階段	6cm	5.70%	
SX302	3020	-----	22cm	17cm 階段	4cm	5.70%	
SX303	3018	N-6°-E	36cm	30cm 階段	10cm	5.60%	
SX304	2017	-----	36cm	34cm 階段	11cm	5.50%	
SX305	4021	N-17°-E	46cm	22cm 階段	3cm	6.70%	
SX306	3010	N-5°-E	35cm	34cm 階段	5cm	5.70%	
SX307	406	N-5°-E	38cm	24cm 階段	2cm	5.70%	
SX308	407	N-8°-E	35cm	22cm 階段	4cm	5.40%	
SX309	2014	N-20°-E	80cm	60cm 階段	7cm	6.50%	
SX310	203	N-14°-E	34cm	18cm 階段	6cm	6.50%	
SX311	203	N-20°-E	40cm	28cm 階段	4cm	6.60%	
SX312	3021	-----	36cm	28cm 階段	6cm	6.60%	
SX313	2017	N-5°-E	34cm	28cm 階段	2cm	6.60%	
SX314	1E	N-14°-E	50cm	30cm 階段	4cm	6.10%	
SX315	1E	N-14°-E	40cm	20cm 階段	10cm	6.50%	
SX316	1E	N-14°-E	70cm	34cm 階段	6cm	6.20%	
SX317	1E	N-14°-E	88cm	45cm 階段	6cm	6.10%	
SX318	1E	N-14°-E	140cm	50cm 階段	12cm	6.40%	
SX319	1E	N-14°-E	170cm	68cm 階段	14cm	6.40%	
SX320	1E	N-14°-E	180cm	85cm 階段	8cm	5.20%	
SX321	1E	N-14°-E	64cm	40cm 階段	4cm	6.50%	
SX322	1E	N-14°-E	36cm	30cm 階段	4cm	6.30%	
SX323	1E	N-72°-W	34cm	26cm 階段	4cm	6.40%	
SX324	1E	N-72°-W	22cm	26cm 階段	6cm	6.40%	
SX325	1E	N-14°-E	72cm	44cm 階段	5cm	6.50%	
SX326	1E	N-14°-E	106cm	62cm 階段	4cm	6.00%	
SX327	1E	N-14°-E	198cm	66cm 階段	4cm	6.50%	
SX328	1E	N-14°-E	48cm	24cm 階段	6cm	5.50%	
SX329	1E	N-1°-W	45cm	35cm 階段	10cm	6.40%	
SX330	1E	N-1°-W	85cm	40cm 階段	8cm	6.40%	
SX331	1E	N-14°-E	40cm	25cm 階段	6cm	6.50%	
SX332	1E	N-14°-E	60cm	26cm 階段	18cm	5.20%	
SX333	1E	N-1°-W	24cm	20cm 階段	4cm	6.10%	
SX334	1E	N-1°-W	7cm	44cm 階段	6cm	6.50%	
SX335	1E	-----	26cm	26cm 階段	6cm	6.50%	
SX336	1E	N-41°-W	32cm	28cm 階段	2cm	5.90%	
SX337	1E	N-41°-W	56cm	26cm 階段	10cm	6.40%	
SX338	1E	N-14°-E	29cm	20cm 階段	4cm	6.50%	
SX339	1E	N-14°-E	56cm	24cm 階段	4cm	6.50%	
SX340	1E	N-14°-E	42cm	26cm 階段	6cm	6.50%	
SX341	1E	N-12°-E	26cm	26cm 階段	4cm	6.50%	
SX342	1E	N-12°-E	29cm	18cm 階段	6cm	6.50%	
SX343	1E	N-12°-E	42cm	26cm 階段	10cm	6.50%	
SX344	1E	N-12°-E	46cm	48cm 階段	8cm	5.90%	
SX345	1E	N-12°-E	45cm	30cm 階段	9cm	5.50%	
SX346	1E	N-12°-E	25cm	29cm 階段	4cm	6.40%	
SX347	1E	N-12°-E	72cm	42cm 階段	10cm	5.50%	
SX348	1E	N-12°-E	46cm	28cm 階段	6cm	6.40%	
SX349	1E	N-5°-E	66cm	50cm 階段	10cm	6.40%	
SX350	1E	N-5°-E	42cm	20cm 階段	6cm	6.80%	
SX351	1E	-----	28cm	25cm 階段	6cm	6.50%	
SX352	1E	N-1°-W	80cm	38cm 階段	8cm	5.90%	
SX353	1E	N-14°-E	94cm	42cm 階段	18cm	5.40%	
SX354	1E	N-14°-E	35cm	25cm 階段	2cm	6.40%	
SX355	1E	N-1°-W	35cm	32cm 階段	5cm	6.50%	
SX356	1E	N-1°-W	80cm	30cm 階段	2cm	6.50%	
SX357	1E	N-14°-E	44cm	36cm 階段	6cm	6.50%	
SX358	0E	N-14°-E	35cm	30cm 階段	6cm	6.40%	
SX359	0E	N-14°-E	58cm	38cm 階段	4cm	6.50%	
SX360	0E	N-14°-E	80cm	25cm 階段	4cm	5.40%	
SX361	1E	N-1°-W	50cm	30cm 階段	15cm	6.50%	
SX362	1E	N-1°-W	49cm	18cm 階段	4cm	6.80%	
SX363	1E	N-20°-E	25cm	18cm 階段	6cm	6.10%	
SX364	1E	N-20°-E	105cm	28cm 階段	10cm	5.80%	
SX365	1E	-----	15cm	50cm	階段	16cm	6.40%
SX366	1E	N-14°-E	70cm	30cm 階段	4cm	6.60%	
SX367	1E	N-14°-E	122cm	44cm 階段	2cm	5.60%	
SX368	1E	N-14°-E	35cm	28cm 階段	4cm	6.50%	
SX369	1E	N-14°-E	55cm	40cm 階段	7cm	6.40%	
SX370	1E	N-14°-E	34cm	28cm 階段	7cm	6.60%	
SX371	1E	N-14°-E	48cm	28cm 階段	3cm	6.40%	
SX372	1E	N-1°-W	44cm	30cm 階段	2cm	6.50%	

西川内南道路 上層 遺構観察表

西川内南道路 上層 遺構計測表 (道路状遺構 2~4)

遺構No.	位置	方位	全長	幅	断面形	深さ	底面標高
S3373	0E	N-1°-W	40cm	35cm	陥伏	4cm	5.52m
S3374	0E	N-1°-W	86cm	35cm	陥伏	7cm	5.50m
S3375	0E	N-1°-W	90cm*	30cm*	陥伏	8cm	5.51m
S3376	1E	N-1°-W	68cm	30cm	陥伏	2cm	5.54m
S3377	0E	N-1°-W	84cm	42cm	陥伏	6cm	5.52m
S3378	0E	N-1°-W	70cm	32cm	陥伏	6cm	5.51m
S3379	1E	N-1°-W	44cm	30cm	陥伏	7cm	5.49m
S3380	1E	N-14°-E	36cm	34cm	陥伏	6cm	5.50m
S3381	1E	N-1°-W	40cm	36cm	陥伏	2cm	5.53m

西川内南道路 遺構計測表 (川跡 2 杭列 1)

遺構No.	位置	柱	掘方	間さ	杭底標高
杭 183	1002	有	無	32cm	5.12m
杭 184	1006	有	無	36cm	5.37m
杭 185	1001	有	無	16cm	5.32m
杭 186	906	有	無	40cm	5.20m
杭 187	1001	有	無	35cm	5.20m
杭 189	1001	有	無	35cm	6.08m
杭 198	1006	有	無	8cm	6.68m
杭 404	10C21	有	無	45cm	6.05m
杭 410	1002	有	無	8cm	6.20m
杭 411	10C23	有	無	15cm	6.23m

西川内南道路 上層 遺構計測表 (道路状遺構 3)

遺構No.	位置	方位	全長	幅	断面形	深さ	底面標高
S304	2C4-2C5		72cm	50cm	陥伏	9cm	5.34m
S308	2C3		86cm	35cm	陥伏	13cm	5.34m
S306	2C5-2C10		75cm	35cm	陥伏	7cm	5.41m
S307	2C10		85cm	35cm	陥伏	12cm	5.36m
S308	2C10		96cm	45cm	陥伏	12cm	5.34m
S309	2C10-2C3		75cm	50cm	陥伏	11cm	5.35m
S310	2B17	N-67°-E	56cm	45cm	陥伏	5cm	5.40m
S311	2B18		85cm	40cm	台形状	10cm	6.28m
S312	2B18-2B23		92cm	45cm	陥伏	9cm	6.25m
S313	2B23-2B24		106cm	55cm	半円形	17cm	5.30m
S314	2B24		79cm	50cm	半円形	22cm	5.22m
S315	2B24-2C4		85cm	60cm	陥伏	15cm	5.23m
S316	2C4		78cm	45cm	半円形	14cm	5.23m
S317	2B23-2C3	N-18°-E	476cm*	110cm	陥伏	16cm	5.30m
S318	2B23	N-67°-E	76cm	65cm	陥伏	17cm	6.30m
S319	2C3-2C7	N-18°-E	376cm*	100cm	陥伏	9cm	6.23m
S320	2C3-2C9	N-18°-E	358cm*	95cm	陥伏	5cm	5.34m
S311	2C11-4B16	N-62°-E	37.5m	75cm	台形状	10-20cm	6.22-6.76m
S312	2C6-2C11	N-18°-E	85cm	65cm	陥伏	10cm	6.27m
S314	2B17-2B19	N-12°-E	346cm	85cm	陥伏	10cm	6.33m
S315	2B11-2B12	N-12°-E	115cm	95cm	陥伏	3cm	5.28m
S316	2B12	N-67°-E	116cm	40cm	陥伏	6cm	5.25m
S317	2B17-2B18	N-18°-W	138cm	78cm	陥伏	12cm	6.25m
S318	2B17	N-67°-E	36cm	25cm	陥伏	7cm	6.25m
S319	1B25-2B25	N-62°-E	57m*	180-60cm	陥伏	20-40cm	5.25-5.36m

西川内南道路 遺構計測表 (川跡 2 杭列 2)

遺構No.	位置	柱	掘方	間さ	杭底標高
杭 188	909	有	無	40cm	5.03m
杭 189	904	有	無	18cm	6.03m
杭 191	904	有	無	40cm	4.87m
杭 192	903	有	無	5cm	6.33m
杭 403	909	有	無	32cm	5.02m
杭 406	909	有	無	30cm	5.02m
杭 407	909	有	無	25cm	6.05m
杭 408	909	有	無	25cm	6.12m
杭 409	909	有	無	0cm	5.12m
杭 409	903	有	無	48cm	4.65m

西川内南道路 遺構計測表 (川跡 2 杭列 3)

遺構No.	位置	柱	掘方	間さ	杭底標高
杭 193	9011	有	無	24cm	6.23m
杭 194	9016	有	無	28cm	5.10m
杭 195	9016	有	無	15cm	6.28m
杭 196	9015	有	無	36cm	6.10m
杭 197	9016	有	無	30cm	5.13m
杭 200	9011	有	無	40cm	5.10m
杭 401	9011	有	無	28cm	5.10m
杭 402	9017	有	無	45cm	6.02m

西川内南道路 上層 遺構計測表 (土坑)

遺構No.	位置	方位	平面形	平面規模	断面形	深さ	底面標高
S31	1B28-1B29	N-89°-E	不整形円形	120cm × 96cm	陥伏	9cm	5.71m
S32	1B23-17C1	N-64°-W	不整形方形	150cm × 115cm	台形状	22cm	5.63m
S33	1A216-1A217	N-28°-E	不整形円形	106cm × 60cm	台形状	10cm	5.68m

西川内南道路 上層 遺構計測表 (性格不明遺構)

遺構No.	位置	方位	平面形	平面規模	断面形	深さ	底面標高
S37	1B21-1B25	N-20°-E	不整形円形	7.4m × 2.55m	陥伏	2-16cm	5.55m
S38	1B06-1A219	N-28°-W	不整形円形	15.5m × 4.0m	陥伏	1-7cm	5.75m
S39	1A21-1B23	N-19°-E	不整形円形	6.0m × 1.7m	陥伏	5-12cm	6.80m

西川内南道路 上層 遺構計測表 (杭)

遺構No.	位置	柱	掘方	間さ	深さ	底面標高	
杭 199	9014	有	—	—	—	8cm	5.60m

西川内南道路 上層 遺構計測表 (溝)

遺構No.	位置	方位	全長	幅	断面形	深さ	底面標高	掘下方向
S32	1B21-1B23	N-78°-W N-104°-W	28.0m*	25cm	半円形	10-15cm	5.69-5.75cm	不明
S34	1A218-1A219	N-18°-E N-64°-E	35.0m*	165cm	陥伏	3-10cm	5.73-5.78cm	不明
S36	15C16-14C19	N-19°-E	3.2m	75cm	陥伏	4-9cm	5.46-5.53cm	不明
S38	15C1-15C11	N-65°-W	8.75m	50cm	陥伏	3-8cm	5.62-5.68cm	不明
S39	11C10-11B16	N-36°-E	10.6m	150cm	陥伏	20-50cm	5.23-5.65cm	不明
S310	11E21-11C3	N-66°-W	27.5m*	130-300cm	陥伏	5-10cm	5.67-5.78cm	不明
S323	9025-10D21	N-24°-E	3.2m	65cm	陥伏	5-10cm	5.73-5.75cm	不明
S3181	11C11-10C10	N-79°-E	3.4m*	40cm	陥伏	10cm	5.71-5.75cm	不明

西川内南道路 上層 遺構計測表 (川跡)

遺構No.	位置	方位	全長	幅	断面形	深さ	底面標高	掘下方向
川跡 1	10B4-10E23	N-64°-W	38.5m*	3.5-4.8m	陥伏	30cm	6.37-5.4cm	
川跡 2	10C18-7E23	N-18°-W	37.0m*	2.9-4.8m	陥伏	35-60cm	5.1-5.2cm	
川跡 3	9B13-8E23	N-18°-W	20.0m*	2.4-3.2m	陥伏	50-60cm	5.11-5.26cm	

西川内南遺跡 上層 土器観察表

凡例は西川内北遺跡の観察表に準ずる。

調査区	グリップ	遺物名	形状	線形	寸法			釉色	釉状	胎土	調整			備考	
					口径	底径	高さ				外周	内周	底面		口縁計
72	087・8・9・14	S231・22 S233・24 S266	1・型 深鉢 横底	12.4	36.1	40.0	着色灰色 灰色	還元 灰-石 還元 灰	ロタロコナ ロタロコナ ロタロコナ	内周 同心円で灰線 ロタロコナ ロタロコナ ロタロコナ	ロタロコナ ロタロコナ ロタロコナ	ロタロコナ ロタロコナ ロタロコナ	19	13	自然焼
73	0812	S2139	1 深鉢 横底付	11.4			灰色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	1		
74	0814	S2139	2 深鉢 横底付	11.2			灰色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	1	13	
75	0024	S2139	2 深鉢 横底付	18.0			灰色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	12		ロ→外周面磨付
76	1129・10	S209・10	1 土師 甕	21.2	7.1	24.1	淡黄褐色	還元 灰-石	ロ→ハケコナ 線：ハケ	ロ→ハケコナ 線：ハケ	ロタロコナ ロタロコナ	ロタロコナ ロタロコナ	36	36	底面磨面→平口部 1×1
77	1004	川跡1 2	深鉢 横底付	13.2	18.0	4.0	暗褐色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	36	36	底面磨面→平口部 1×1
78	1023	川跡1 2	深鉢 横底付	13.5	9.0	4.0	灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	36	36	内周面磨面→磨面への磨付
79	1022	川跡1 2	土師 長頸				にじみ黄緑	還元 灰-石	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	14		
80	0813	川跡2 1	深鉢 横底付	12.2	8.8	2.0	灰色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	24	26	
81	0813・12・13・E13	川跡2 1	深鉢 横底付		9.0		灰色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	17	17	
82	0819・12	川跡2 1	深鉢 横底付	12.0	8.0	2.0	灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	3	3	
83	0813	川跡2 1	深鉢 横底付	12.0			灰色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	2		
84	0813	川跡2 1	深鉢 横底付	11.4			灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	1		
85	0813	川跡2 2	土師 長頸		6.8		にじみ黄緑	還元 灰-石	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	36		
86	1031	川跡2 6	土師 甕				灰白色	還元 灰-石	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	8	28	
87	0812	川跡2 1	深鉢 横底付	12.2	8.0	3.0	灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	1	1	
88	0812	川跡2 1	深鉢 横底付	12.8	9.0	3.0	灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	1	1	
89	1003	川跡2 1	深鉢 横底付	12.8	9.0	3.0	灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	1	1	
90	1021	川跡2 1	深鉢 横底付	13.4	9.0	3.0	灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	5	19	
91	1786・8・18	川跡2 1	深鉢 横底付	13.4	7.6		灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	5	15	
92	3013・17	川跡2 1	深鉢 横底付	12.9	8.3	4.1	灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	7	2	
93	1481	川跡2 1	深鉢 横底付	12.4	8.0	2.8	灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	30	36	ハケ前後に似たもので磨いて調整?
94	0817	川跡2 1	深鉢 横底付	12.0			灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	1	36	底面→底面内周 自然焼
95	0813・13	川跡2 1	深鉢 横底付		7.0		暗褐色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	1	36	内周面 自然焼
96	7017	川跡2 1	深鉢 横底付				暗褐色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	1	36	内周面 自然焼
97	507	川跡2 1	深鉢 横底付	10.0			暗褐色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	4		底面→底面内周
98	608・7, 8, 9, 11	川跡2 1	深鉢 横底付	11.8			灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ 線：ハケ	ロタロコナ 線：ハケ	ロタロコナ 線：ハケ	ロタロコナ 線：ハケ	1		底面→底面内周 自然焼
99	395	川跡2 1	土師 甕				灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	3	27	同上
100	395	川跡2 1	土師 甕				灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	3	27	同上
101	12616	川跡2 1	土師 甕				灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	3	27	同上
102	14824	川跡2 1	土師 甕				灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	2	26	底面磨面→平口部 磨付?
103	1009	川跡2 1	土師 甕				灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	2		磨付?
104	15825	川跡2 1	土師 甕				灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	2		底面磨面→平口部 磨付?
105	18612	川跡2 1	土師 甕				灰白色	還元 灰-石	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	ロタロコナ	2		底面磨面→平口部 磨付?

西川内南遺跡 上層 遺物観察表

西川内南遺跡 上層 木製品観察表

発物 No.	グッド	遺物番号	層位	法量 (cm)		器種	遺存状況	木取り	樹種	製作痕跡	備考
				長さ	幅						
106	1002	板1 1 板 183		76.2	11.0	板	上端部欠	丸材		端部 2 面削り痕	
107	1001・6	板1 1 板 184		86.3	8.8	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	
		板1 1 板 185		43.2	8.2	4.8	板	上端部欠	割材		端部片面削り痕
108	1006	板1 1 板 186		65.6	8.4	板	上端部欠	丸材	エゴノキ属	端部片面削り痕	
		板1 1 板 187		81.2	8.4	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	実測外
109	1001	板1 1 板 189		73.6	11.4	板	上端部欠	丸材		端部 2 面削り痕	
		板1 1 板 188		36.0	4.5	板	上端部欠	丸材			実測外
110	10C21	板1 1 板 404		109.7	8.9	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	
		板1 1 板 410		25.3	7.5	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	実測外
	1002	板1 1 板 411		30.1	8.2	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	実測外
111	909	板1 2 板 188		90.4	12.2	板	上端部欠	丸材		端部 4 面削り痕	
112	904	板1 2 板 190		46.6	7.8	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	
113	904	板1 2 板 191		103.8	11.0	板	上端部欠	丸材		端部 4 面削り痕	
		板1 2 板 192		43.2	6.4	3.3	板	上端部欠	割材		丸材半割
114	908	板1 2 板 403		81.4	11.4	板	上端部欠	丸材	タリ	端部片面削り痕	
		板1 2 板 405		70.7	8.2	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	実測外
115	909	板1 2 板 406		90.9	12.8	板	上端部欠	丸材		端部 4 面削り痕	
		板1 2 板 407		43.4	7.7	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	実測外
	909	板1 2 板 408		20.6	4.3	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	実測外
	903	板1 2 板 409		75.6	8.1	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	実測外
116	9011	板1 3 板 193		55.3	7.1	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	
117	9016	板1 3 板 194		60.2	8.4	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	
		板1 3 板 195		55.0	8.7	板	上端部欠	丸材		端部 2 面削り痕	実測外
	8020	板1 3 板 196		61.3	8.6	板	上端部欠	丸材		端部 2 面削り痕	実測外
118	9016	板1 3 板 197		64.9	8.4	板	上端部欠	丸材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	端部 2 面削り痕	
		板1 3 板 200		46.6	7.6	板	上端部欠	丸材		端部 2 面削り痕	
120	9011	板1 3 板 401		56.6	7.2	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	
	9016・17	板1 3 板 402		59.5	8.0	板	上端部欠	丸材		端部片面削り痕	実測外
	602	板 98		36.9	3.8	板	上端部欠	丸材		端部 2 面削り痕	実測外
	9014	板 199		32.6	16.7	14.8	板	上端部欠	割材	端部 4 面削り痕	実測外
	1085	川締 1		22.7	2.7	1.7	加工木片	割材			実測外
	10E10	川締 1	1	口縁径 11.3	高さ 4.3	0.5	漆桶			高台径 5.3 全面半端	実測外
121	10E18	川締 1		28.9	10.8	5.3	皿下駄	平欠	割材板目		
	11021	509	1	15.2	1.5	0.6	板材	割材			実測外
	6014	S024	1	18.7	2.9	2.1	不明	割材		先端部炭化	実測外
122	6C1	S030	1	26.9	10.1	1.6	割物桶	割材板目			
	3C25	S0151	1	2.7	2.8	0.5	漆桶	割材		全面半端	実測外
	3D10	S0159	1	18.5	0.4	0.3	箸	割材			実測外
	4D19	S0159	1	21.1	0.4	0.3	箸	割材			実測外
	6013	■		22.4	7.8	0.8	板板	割材板目			実測外

1号円形周溝状遺構観察表

周溝 (S01201)										
位置	方位	平面形	断面形	規模	周溝内面積	周溝幅	深さ	備 考		
B・9・D・C	N-10°-E	隅丸方形	郭状	12.0 × 11.8m	68 m ²	0.8 ~ 2.1m	15 ~ 30cm	東側が途切れ、開口部となる		
SR1256										
方 位 (所行)		構 造		床面積	南北区画		東西区画			
N-16°-E		1間 × 1間		4.5 m ²	北 2.2m、南 1.6m		東 2.2m、西 2.3m			
構成(°)	位 置	柱	平面形	平面規模	断面形	深 さ	底面標高	ビット間隔		
P1200	9C2	ナシ	円形	25 cm	U字状	45 cm	4.50m	P1203-P1202	220 cm	
P1202	9C12	残存	楕円形	30 × 20(0) cm	漏斗状	45 cm	4.45m	P1202-P1244	215 cm	
P1244	9C11	ナシ	楕円形	(35) × 20 cm	U字状	20 cm	4.70m	P1244-P1248	185 cm	
P1248	9C6	ナシ	円形	20 cm	U字状	9 cm	4.82m	P1248-P1203	220 cm	
P1263	9B23	残存					4.40m		打ち込み式	
P1263	9B23	残存					4.46m		打ち込み式	
P1264	9C5	残存					4.44m			
P1258	9C17	残存	楕円形		半円状		4.20m	P1258-P1266	320 cm	
P1266	9C22	残存	(円形)		(U字状)		4.44m	P1266-P1267	170 cm	
P1267	9C21	残存	(円形)		(U字状)		4.42m	P1267-P1268	160 cm	
P1260	9C21	残存	円形		U字状		4.35m	P1260-P1258	320 cm	
P1265	9C17	残存	(円形)		(U字状)		4.44m	P1265-P1258	150 cm	
位置	方位	長軸	短軸	断面形	深さ	底面標高	備考			
SK1221	9C1	N-22°-W	111 cm	73 cm	郭状	20 cm	4.85 cm	炭化物層などで建物多量出土		
SK1229	9C1・2・6・7	N-79°-W	124 cm	108 cm	郭状	15 cm	4.89 cm	基部、流石により茶褐色化		
SK1230	9C6・11	N-80°-W	194 cm	49 cm	階状	31 cm	4.72 cm			

2号円形周溝状遺構観察表

周溝 (S01218)										
位置	方位	平面形	断面形	規模	周溝内面積	周溝幅	深さ	備 考		
B・9・D・E	N-8°-E	隅丸方形	郭状	15.4 × 14.8m	87 m ²	1.6 ~ 4.0m	20 ~ 45 cm	東側の幅が広い		
SR1259										
方 位 (所行)		構 造		床面積	前行 (2間)		后行 (1間)			
N-8°-E		2間 × 1間		10.2 m ²	東 3.3m、西 3.2m		北 3.1m、南 3.1m			
構成(°)	位 置	柱	平面形	平面規模	断面形	深 さ	底面標高	ビット間隔		
P1249	9D18	残存	円形	40 cm	漏斗状	56 cm	4.24m	P1249-P1251	310cm 礎板あり	
P1250	9D21	残存	円形	50 cm	漏斗状	66cm	4.15m		礎柱有	
P1251	9E1	残存	円形	30 cm	U字状	56cm	4.20m	P1251-P1254	330cm 礎板あり	
F1254・1257	8E5	残存	楕円形	60 × 60(0) cm	漏斗状	55cm	4.34m	P1254-P1261	310cm 礎板あり	
P1282	8D25	ナシ	円形	60cm	漏斗状	47cm	4.30m		礎柱有、礎板あり	
P1281	8D19	残存	円形	35cm	U字状	54cm	4.24m	P1281-P1283	170cm 礎板あり	
P1283	8D20	ナシ	円形	15cm	U字状	11cm	4.79m	P1283-P1249	150cm	
位置	方位	長軸	短軸	断面形	深さ	底面標高	備考			
SK1249	8D19・20		184 cm	110 cm	台形状	53 cm	4.23m			
SK1248	8E5・9D1	N-29°-W	159 cm	118 cm	郭状	25 cm	4.62m			

西川内南遺跡 下層 遺構計測表 (竪立柱建物)

遺構 No.	方位 (桁行)	構造	床面積	桁行	梁間				
S81042	N-69°-W	2間×2間 側柱式	12.9 m ²	北 335 南 325	東 330 西 320				
構成(°)	位置	柱	平面形状	平面規模	断面形	深さ	底面標高	ビット間隔	
P1033	12R21	残存	円形	30cm	漏斗状	60cm	4.21a	F1033-P1036	160cm
P1036	12C1	残存	円形	30cm	U字状	60cm	4.38a	F1036-P1041	175cm
P1041	12C6	残存	円形	30cm	漏斗状	58cm	4.23a	F1041-P1033	180cm
P1033	11C10	ナシ	円形	30cm	U字状	32cm	4.68a	F1033-P1039	215cm
P1039	11C9	残存	円形	30cm	U字状	44cm	4.48a	F1039-P1031	160cm
P1031	11C1	ナシ	円形	40cm	漏斗状	66cm	4.43a	F1031-P1049	165cm
P1040	11B24	残存	円形	25cm	漏斗状	51cm	4.43a	F1040-P1038	175cm
P1038	11B25	残存	円形	20cm	漏斗状	52cm	4.41a	F1038-P1035	160cm

遺構 No.	方位 (桁行)	構造	床面積	桁行	梁間				
S81136	N-83°-W	3間×1間 側柱式	24.0 m ²	北 685 南 699	東 695 西 615				
構成(°)	位置	柱	平面形状	平面規模	断面形	深さ	底面標高	ビット間隔	
P1135	9B1	残存	円形	(25cm)	漏斗状	29cm	4.21a	F1135-P1128	230cm
P1128	9B11	残存	円形	40cm	漏斗状	62cm	4.28a	F1128-P1119	245cm
P1119	9B16	ナシ	円形	30cm	漏斗状	34cm	4.69a	F1119-P1132	210cm
P1132	9B1	残存	円形	30cm	漏斗状	42cm	4.46a	F1132-P1122	405cm
P1122	8B24	残存	円形	30cm	漏斗状	45cm	4.32a	F1122-P1123	230cm
P1123	8B19	残存	円形	30cm	漏斗状	50cm	4.46a	F1123-P1124	230cm
P1124	8B14	残存	横円形	(50) × 35cm	漏斗状	70cm	4.20a	F1124-P1134	220cm
P1134	8B9	残存	円形		漏斗状	22cm	4.32a	F1134-P1135	415cm

遺構 No.	方位 (桁行)	構造	床面積	桁行	梁間				
S81137	N-83°-W	1間×1間 側柱式	16.2 m ²	北 650 南 666	東 315 西 325				
構成(°)	位置	柱	平面形状	平面規模	断面形	深さ	底面標高	ビット間隔	
P1127	9B6	ナシ	円形	35cm	漏斗状	50cm	4.46a	F1127-P1133	450cm
P1133	9B17	残存	円形	30cm	漏斗状	59cm	4.31a	F1133-P1121	335cm
P1121	8B25	ナシ	円形	25cm	漏斗状	29cm	4.52a	F1121-P1135	465cm
P1125	8B14	ナシ	横円形	(45) × 30cm	漏斗状	32cm	4.63a	F1125-P1127	325cm

遺構 No.	方位 (桁行)	構造	床面積	桁行	梁間				
S81259	N-9°-E	2間×2間 側柱式	10.2 m ²	東 335 西 325	北 315 南 320				
構成(°)	位置	柱	平面形状	平面規模	断面形	深さ	底面標高	ビット間隔	
P1249	10016	残存	円形	40cm	漏斗状	56cm	4.21a	F1249-P1250	145cm
P1250	10021	残存	円形	50cm	漏斗状	64cm	4.15a	F1250-P1251	170cm
P1251	10E1	残存	円形	30cm	U字状	56cm	4.25a	F1251-P1254	335cm
F1254・P1257	9E5	残存	横円形	60 × (40) cm	漏斗状	55cm	4.34a	F1254・F1257-P1252	180cm
P1252	9E28	ナシ	円形	40cm	漏斗状	47cm	4.38a	F1252-P1261	140cm
P1261	9E19	残存	円形	35cm	U字状	54cm	4.24a	F1261-P1253	180cm
P1253	9E20	ナシ	円形	15cm	U字状	11cm	4.73a	F1253-P1249	160cm

遺構 No.	方位 (桁行)	構造	床面積	桁行	梁間				
S81266	N-9°-E	1間×1間 側柱式	4.5 m ²	東 215 西 220	北 220 南 185				
構成(°)	位置	柱	平面形状	平面規模	断面形	深さ	底面標高	ビット間隔	
P1203	10C2	ナシ	円形	25cm	漏斗状	45cm	4.63a	F1203-P1202	220cm
P1202	10C12	残存	横円形	30 × (20) cm	漏斗状	49cm	4.40a	F1202-P1244	215cm
P1244	10C11	ナシ	横円形	(35) × 20cm	U字状	20cm	4.70a	F1244-P1248	185cm
P1248	10C5	ナシ	円形	20cm	U字状	9cm	4.82a	F1248-P1203	220cm

西川内南遺跡 下層 遺構計測表 (土坑)

遺構No.	図面No.	位置	方位	平面形	長軸	短軸	断面形	深さ	底面積高	備考
SK1214	26 35 100	8C3	N-50°-W	楕円形	114cm	75cm	台形状	20cm	4.57a	
SK1216	26 35	8B15・20, 8D11	N-35°-E	楕円形	124cm	88cm	弧状	16cm	4.71a	
SK1208	26 35 101	8B15, 9B11	N-41°-W	不整形楕円形	137cm	106cm	弧状	25cm	4.65a	
SK1223	26 35	8D18, 9B6	N-77°-E	楕円形	135cm	104cm	弧状	5cm	4.82a	
SK1227	26 35	8E17・22		不整形	137cm		弧状	10cm	4.85a	
SK1219	26 35 101	8E12・17	N-70°-W	楕円形	141cm	118cm	台形状	27cm	4.44a	
SK1108	27 36	7C13・18	N-83°-W	楕円形	141cm	75cm	弧状	7cm	4.68a	
SK1116	27 36	7B6・13	N-83°-W	楕円形	142cm	62cm	弧状	13cm	4.75a	
SK1102	27 36 101	8C29・25	N-75°-W	不整形楕円形	150cm	112cm	台形状	23cm	4.51a	
SK1110	27 37 101	7D11・12	N-86°-W	円形	150cm		U字状	100cm	3.66a	
SK1117	27 36 101	7B18・23	N-80°-W	楕円形	167cm	133cm	台形状	18cm	4.05a	
SK1111	27 36	7D10・11	N-86°-W	不整形楕円形	172cm	120cm	弧状	12cm	4.58a	
SK1216	26 35 101	8B9・18・14・15	N-53°-W	楕円形	204cm	135cm	弧状	31cm	4.59a	
SK1242	27 35 101	7C15・20 8C11・16	N-44°-W	不整形楕円形	232cm	165cm	弧状	25cm	4.38a	
SK1228	26 35 101	8D1・2・6・7	N-61°-E	不整形楕円形	244cm	169cm	弧状	18cm	4.62a	
SK1235	26 28 92	8C29・25	N-88°-E	楕円形	247cm	158cm	半円状	30cm	4.41a	
SK1017	25 33 99	12C17・19・22・23	N-87°-W	楕円形	249cm	143cm	台形状	25cm	4.55a	
SK1007	25 33 99	12D23, 12E3	N-86°-W	不整形楕円形	272cm	169cm	弧状	15cm	4.94a	
SK1211	26 34 100	9B1・2・3・6・7・8	N-11°-E	楕円形	276cm	148cm	半円状	41cm	4.44a	
SK1048	26 34 100	10E21・22	N-20°-E	楕円形	286cm	142cm	台形状	34cm	4.55a	
SK1005	25 33 99	13E11・12・16・17	N-2°-E	楕円形	312cm	236cm	弧状	25cm	4.54a	
SK107	27 36 101	7C14・19	N-78°-W	楕円形	312cm	176cm	台形状	45cm	4.33a	
SK1047	26 33 100	9B25, 9C5, 10E21, 10C1	N-14°-W	楕円形	355cm	238cm	(弧状)	21cm	4.65a	
SK1002	25 33 98	12D2・3・7・8	N-86°-W	不整形楕円形	399cm	157cm	台形状	17cm	4.70a	
SK1045	26 34 99	9B10・15 10B6・7・11 12・16・17	N-86°-E	不整形	488cm	387cm	弧状	25cm	4.52a	

西川内南遺跡 下層 遺構計測表 (溝)

遺構No.	図面No.	位置	方位	平面形	長軸	短軸	断面形	深さ	底面積高	備考
SD1011	25 37 103	11E20, 12E16・17・18・19・20	N-18°-E		94cm	120cm	半円状	40cm	4.71a	
SD1018	25 37 104	12B7・12・17・22 12C2	N-78°-W		72cm	49cm	半円状	19cm	4.73a	
SD1226	26 35	8E28 9E21・22・23・24	N-11°-E		83cm	99cm	弧状	16cm	4.73a	
SD1220	26 37 104	9B5・8・9・10・13	N-8°-W		88cm	92cm	(半円状)	31cm	4.61a	
SD1245	26 37	8E23・24	N-63°-E			78cm	弧状	10cm	4.68a	
SD1113	27 32 98	7B・C	N-87°-E			299cm	弧状	41cm		
SD1115	27 37 104	7B・C・D	N-81°-W			380cm	弧状	42cm	4.26a	
SD1114	27 37	8B16・20・25	N-37°-E			33cm	弧状	9cm	4.90a	

西川内南遺跡 下層 遺構計測表 (性格不明遺構)

遺構No.	図面No.	位置	方位	平面形	長軸	短軸	断面形	深さ	底面積高	備考
SK1001	25 32 97	13C16・21	N-74°-W	円形	197cm	96cm	弧状	4cm	4.89a	
SK1004	25 32 97	13C16・21	N-90°-E	楕円形	178cm	121cm	弧状	4cm	4.89a	
SK1008	25 32 97	12C14・15 18・19 20・24・25	N-23°-W	楕円形	366cm	285cm	台形状	16cm	4.94a	
SK1034	25 32 99	11D6, 12D1	N-26°-E	楕円形	139cm	92cm	弧状	11cm	5.11a	
SK1023	25 32 98	11D10, 12D6	N-3°-W	不整形楕円形	137cm	81cm	弧状	6cm	5.14a	
SK1024	25 32 98	11D15・20 12D11・16	N-73°-W	(円形)	156cm		弧状	9cm	5.12a	
SK1019	25 32 98	11D8	N-3°-W	不整形	67cm	58cm	弧状	2cm	5.17a	
SK1245	26 37	9E28	N-22°-E	楕円形	62cm	58cm	弧状	11cm	5.95a	
SK1109	27 31 96			(円形)			(弧状)			
SK1106	27 37	6B6・7	N-40°-E	楕円形	220cm	115cm	弧状	8cm	4.57a	
SK1112	27 37	6C18	N-21°-W	楕円形	113cm	63cm	弧状	10cm	4.87a	

西川内南遺跡 下層 土器観察表 (2)

調査 No.	報告 No.	出土位置 グランド	層位	総張	面積 (㎡)			色澤		胎土	装飾	口縁		備考
					口徑	底径	胎高	外周	内周			外面	内面	
151	9023	501218	1	葉	26.6			黒褐色	灰褐色	赤	石文・環	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁～体部外面に黒・コゲ付着	
152	9011	501218	12～15	葉	17.6			黒	黒	赤	石文・環	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部外面に黒付着	
153	9005・9	501218	8	葉	17.4			に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤・長直線	赤・長直線	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁～体部外面に黒・コゲ付着	
154	9023	501218	葉	19.6			に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤・長直線	赤・長直線	赤・長直線	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁～体部外面に黒・コゲ付着	
155	9014・15	501218	1～4	葉	18.9		22.1	に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤	石文	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
156	9011・12	501218	6	葉	15.2	19.9	18.4	に灰い黄	に灰い黄	赤	石文・環	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁～体部外面に黒・コゲ付着	
157	9018	501218	5	葉	17.5	2.7	16.7	に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤	石文・環	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	体下部～体部外面に黒・コゲ付着	
158	9018	501218	5	葉	18.6	3.4	18.6	に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤・長直線	赤・長直線	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁～体部外面に黒・コゲ付着	
159	9014	501218	5	葉	28.0			に灰い黄緑	灰褐色	赤	石文	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁～体部外面に黒・コゲ付着	
160	9015, 9017・12	501218	1～3	葉	19.6			に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤・長直線	赤・長直線	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
161	9012	501218	12～15	葉	27.2			に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤	石文	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
162	901, 1923	501218	1	葉	18.4			に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤	石文	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
163	9018	501218	14・15	葉	26.9			に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤	石文	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
164	9017, 9022, 9011	501218	X, 6	葉	18.2			に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤・長直線	赤・長直線	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
165	9011・15	501218	5～7	葉	18.6			に灰い黄	に灰い黄	赤	石文・環・赤	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
166	9015	501218	8	葉	18.2			に灰い黄	赤褐色	赤・長直線	赤・長直線	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
167	9012	501218	12～15	葉	17.5			に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤	石文・環	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
168	9012	501218	12～15	葉	18.0			に灰い黄緑	灰褐色	赤	石文・環	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
169	9023	501218	5・7	葉	11.2	3.4	12.9	に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤・長直線	赤・長直線	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
170	9012	501218	14・15	葉	15.0			に灰い黄	に灰い黄	赤・長直線	赤・長直線	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
171	909・14・15	501218	8・9・10	葉	13.8			灰褐色	黒灰	赤	石文・環	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
172	907・11・12	501218	9～12	葉			27.1	に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤	石文	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
173	902	501218	8	葉	7.2			に灰い黄緑	に灰い黄緑	赤	石文	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
174	902	501218	8	葉	16.0			に灰い黄緑	黒い黄緑	赤	石文	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
175	9012	501218	14・15	葉	9.6			黒褐色	黒褐色	赤	石文・環	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	
176	905・18	501218	X, 6, 5	葉	15.0		15.0	赤褐色	黒褐色	赤	石文	口：ハナノテ字 体：ハナノテ字	口縁部～体部外面に黒・コゲ付着	

西川内南遺跡 下層 土器観察表 (3)

観号	出土位置	位置			距離 (cm)			土質			胎土	彫刻	備考	
		グランド	層位	層厚	口徑	底径	最大径	外周	内面	底面				胎土
177	9E13	301218	7	11.2	13.0		外周	内面		赤		内面		
			1~4, 7											
178	9E12・15	301219	12~15	10.0						赤				15 体面下半に穿孔孔
			14・15											
179	9E11	301218	8	11.0			におい弱			赤				
			5	13.0			におい弱			赤				
181	9E18	301218	9・12	9.9			におい弱			赤				
			8	12.0			におい弱			赤				5 内外面赤
182	9E15	301218	1~4	13.8		12.4	におい弱			赤				6 口縁一部断面に赤・コゲ付着
			1~4	12.0			におい弱			赤				
185	9E23	301218	11	11.3			におい弱			赤				
			1~3											
186	9E14, 9E7	301218	5・7	26.6	14.6		におい弱			赤				301219 と結合 粘土組織合面に彫目
			14・15				におい弱			赤				14 断面外面に底付着
187	9E14, 15	301218	1~4	22.8			におい弱			赤				11 口縁部内面一部分断面赤
			5~7	15.0			におい弱			赤				
189	9E11・12	301218	12~15	16.0			におい弱			赤				
			14・15				におい弱			赤				
190	9E2・5・14・15	301218	1~4, 5	16.0			におい弱			赤				
			14・15				におい弱			赤				
191	9E8	301218	14・15	高坪			におい弱			赤				
			14・15	高坪			におい弱			赤				
192	9E18	301218	5	高坪			におい弱			赤				
			12	高坪			におい弱			赤				
193	9E7	301218	32	高坪	13.3		におい弱			赤				
			12~15	高坪			におい弱			赤				
194	9E6・11	301218	Xa	高坪	13.7		におい弱			赤				
			12~15	高坪			におい弱			赤				
195	9E15	301218	1~4, 7	高坪	14.2		におい弱			赤				
			14・15	高坪			におい弱			赤				
196	9E7・12	301218	14・15	高坪			におい弱			赤				
			8	高坪			におい弱			赤				
197	9E13	301218	8	高坪	12.7		におい弱			赤				
			Xa	高坪			におい弱			赤				
198	9E15, 9E7, 9E11	301218	1~4	高坪	10.3		明赤			赤				36 断面外面赤
			9~12	高坪			明赤			赤				
199	9E8	301218	14・15	高坪	10.0		赤			赤				
			14・15	高坪			赤			赤				
200	9E12	301218	12~15	高坪	9.0		におい弱			赤				

西川内南遺跡 下層 土器観察表 (4)

観号	No.	グランド	出土位置		層位	層様	容量 (cc)				口径	底径	底面最大径	色澤		形成	胎土	彫飾	外周	内面	底面	備考			
			遺物%	層位			口径	底径	底面最大径	外面				内面											
201	0023		083-14-18	SD1218	層台	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合		
202	0043		083-14-18	SD1218	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	
203	0044		083-7-8-10-13	SD1218	9~12	層台	9~12	層台	9~12	層台	9~12	層台	9~12	層台	9~12	層台	9~12	層台	9~12	層台	9~12	層台	9~12	層台	
204	007-8-11-12		087-8-11-12	SD1218	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	12~15	層台	
204	0E15			SD1218	6	層台	6	層台	6	層台	6	層台	6	層台	6	層台	6	層台	6	層台	6	層台	6	層台	
205	008-11-18			SD1218	5~7	層台	5~7	層台	5~7	層台	5~7	層台	5~7	層台	5~7	層台	5~7	層台	5~7	層台	5~7	層台	5~7	層台	
206	006			SD1218		層台		層台		層台		層台		層台		層台		層台		層台		層台		層台	
207	0019			SD1260	1	壺	19.2	4.3	22.2	21.0	壺	19.2	4.3	22.2	21.0	壺	19.2	4.3	22.2	21.0	壺	19.2	4.3	22.2	21.0
208	0019			SD1160		壺	16.0			21.0	壺	16.0			21.0	壺	16.0			21.0	壺	16.0			21.0
209	0019			SD1260		壺	20.0				壺	20.0				壺	20.0				壺	20.0			
210	0019			SD1260	1	壺	9.4				壺	9.4				壺	9.4				壺	9.4			
211	0019			SD1160	1	壺	17.2	6.0	37.0	26.7	壺	17.2	6.0	37.0	26.7	壺	17.2	6.0	37.0	26.7	壺	17.2	6.0	37.0	26.7
212	0019			SD1260		壺	24.6				壺	24.6				壺	24.6				壺	24.6			
213	0E1			SD1160	3	壺	10.0				壺	10.0				壺	10.0				壺	10.0			
214	010-15			SD1109	3	壺	10.4	2.0	10.6	11.7	壺	10.4	2.0	10.6	11.7	壺	10.4	2.0	10.6	11.7	壺	10.4	2.0	10.6	11.7
215	010-15			SD1109	3	壺	11.0			11.5	壺	11.0			11.5	壺	11.0			11.5	壺	11.0			11.5
216	002-25			SD1109	3	鉢	18.4	8.1	7.8	13.0	鉢	18.4	8.1	7.8	13.0	鉢	18.4	8.1	7.8	13.0	鉢	18.4	8.1	7.8	13.0
217	0035			SD1004	1	壺	18.8	9.0	60.8	41.1	壺	18.8	9.0	60.8	41.1	壺	18.8	9.0	60.8	41.1	壺	18.8	9.0	60.8	41.1
218	0035			SD1004	1	壺			37.4		壺			37.4		壺			37.4		壺				37.4
219	0025				Xa	壺	21.6			25.1	壺	21.6			25.1	壺	21.6			25.1	壺	21.6			25.1
220	0025			SD1206		壺	18.4			31.5	壺	18.4			31.5	壺	18.4			31.5	壺	18.4			31.5
221	0025			SD1214		壺	28.9	7.6	31.0	31.5	壺	28.9	7.6	31.0	31.5	壺	28.9	7.6	31.0	31.5	壺	28.9	7.6	31.0	31.5
222	0019			SD1006	2	壺	21.7			26.0	壺	21.7			26.0	壺	21.7			26.0	壺	21.7			26.0
223	0015			SD1006	2	壺	19.2	4.0	35.1	24.3	壺	19.2	4.0	35.1	24.3	壺	19.2	4.0	35.1	24.3	壺	19.2	4.0	35.1	24.3

番号	種別	形状	遺物 (cm)			色相		土質	部材	位置		備考
			口径	高さ	最大径	外周	内径			内面	外面	
224	グリッド	遺物%										
224	1237A	X 8, 2	要	10.6				焼	石灰・雲母	口：ナリ 体：ハク	口：ナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
229	1232B	X 8, 2	要	11.2	24.7			滑	石灰	口：ハナナリ 体：ハク	口：ナリ 体：ハク	口縁部外周面に施：コウ付着
230	1232B	X 8, 2	要	2.6				滑	石灰	ナリ	底面付着に準じ	
237	1237B	X 8	要	15.6	6.2	13.3		滑	石灰	口：ハナナリ 体：ハク	口：ハナナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
239	1237B・30	X 8, 2	要	14.0				滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
239	1230	X 8	要	14.0	16.7	15.5		滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
239	1125B, 1125I	X 8	要	14.4	15.5	15.3		滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
231	1230	X 8	要	14.6	2.5	14.6		滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
235	1230	X 8	要	15.0	6.5	16.0		滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
235	1230	X 8	要	18.2				滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
244	7017・18	30113	3	要	20.1			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
245	7023	30113	3	要	18.4			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
246	7023	30113	3	要	15.4			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
257	7018	30113	3	要	9.0			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
258	7023	30113	3	要	13.6			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
259	7012	30113	3	要	26.0			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
260	7017	30113	3	要	12.8			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
261	703・4	30113	3	要	10.7			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
262	1206	38102	1	要	18.6			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
262	1200	38102	1	要	3.5			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
264	1202・3	38102	1	要	12.8			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
264	1202・3	38102	1	要	14.6			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
246	1202	38102	1	要	14.6			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
247	1203	38102	1	要	11.8			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
249	1202・3	38102	1・2	要	12.0			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
249	1202・3	38102	1	要	21.9	12.9		滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
250	1202	38102	1	要	13.3			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
261	1202	38102	1	要	17.7			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
262	1203	38102	1	要	20.0			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
262	1203	38102	1	要	18.8			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着
264	1202	38102	1	要	15.8			滑	石灰	口：ナリ 体：ハナナリ	口：ナリ 体：ハナナリ	口縁部外周面に施：コウ付着

西川内南遺跡 下層 土器観察表 (6)

調査 №	遺物 No	グランド レベル	層位	位置 (m)		色相		形状	胎土	装飾	用途		備考
				口径	底径	最大径	外壁				内壁	外底	
285	1253	SK1007	1	質	15.4		にぶい黄褐色	普通	やや粗	石長・黒	ハタナナナ	ナナ	9
286	1253	SK1007	1-2	質	15.6	15.1	にぶい黄	普通	やや粗	石長・黒	口：ハタナナナ 体：ハナ	ナナ	10
287	1253, 1252	SK1007	1	鉢	9.0	7.2	10.2	にぶい黄褐色	良好	石長・黒	口：ヒガキ 体：ナナ	ハナ	8
288	1253, 1252	SK1007	1	鉢台	13.5		にぶい黄褐色	普通	粗	石長・黒	口：ナナ 体：ナナ	ナナ	7
289	1257-18	SK1017	4	皿	14.0		にぶい黄	普通	やや粗	石長・黒	口：ナナ 体：ハナ	ナナ	4
289	1252	SK1017	4	皿	15.0		にぶい黄褐色	良好	粗	石長・黒	口：ナナ 体：ナナ	ナナ	4
291	1252, 1257	SK1017	4	高外	19.2		にぶい黄	粗	粗	石長・黒	口：ハナナナ 体：ナナ	ナナ	9
292	1223	SK1015	4	高外	19.1	14.8 (外)	にぶい黄	粗	粗	石長・黒	口：ハナナナ 体：ナナ	ナナ	9
293	12315	SK1015	1	鉢台	15.1	14.8 (外)	にぶい黄褐色	粗	粗	石長・黒	口：ハナナナ 体：ナナ	ナナ	9
294	1081, 16	SK1045	1	質	21.0	22.4	褐色	明赤褐色	良好	石長・黒	受：ヒガキ 脚：ハタナナナ	ナナ	26
295	1081, 12	SK1045	1	質	21.0		褐色	明赤褐色	普通	石長・黒	口：ナナ 体：ハナ	ナナ	15
296	1081, 1	SK1045	1	質	20.6		褐色	明赤褐色	粗	石長・黒	口：ハナナナ 体：ナナ	ナナ	8
297	1086, 11	SK1045	1	質	20.0		にぶい黄	灰褐色	粗	石長・黒	口：ナナ	ナナ	7
298	1086	SK1045	1	質	21.0		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	良好	石長・黒	口：ハナナナ 体：ナナ	ナナ	4
299	1082	SK1045	1	質	18.8		粗	にぶい黄	普通	石長・黒	口：ナナ	ナナ	8
270	1082	SK1045	1	質	18.0		にぶい黄	にぶい黄	普通	石長・黒	口：ナナ 体：ハナ	ナナ	8
271	1082	SK1045	1	質	18.0		にぶい黄	粗	普通	石長・黒	口：ハナナナ 体：ハナ	ナナ	11
272	1081	SK1045	1	質	15.2		褐色	灰褐色	普通	石長・黒	口：ハナ 体：ナナ	ナナ	2
273	1081	SK1045	1	質	18.4		褐色	灰褐色	普通	石長・黒	口：ナナ 体：ハナ	ナナ	5
274	1082	SK1045	1	質	14.8		灰褐色	灰褐色	普通	石長・黒	口：ハナナナ 体：ハナ	ナナ	4
275	1081	SK1045	1	質	27.0		にぶい黄	にぶい黄	粗	石長・黒	口：ハナナナ 体：ナナ	ナナ	2
276	1081	SK1045	1	質	25.8		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	普通	石長・黒	口：ハナナナ 体：ナナ	ナナ	6
277	1082, 13	SK1045	1-4	質	17.0		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	良好	石長・黒	口：ハナナナ 体：ナナ	ナナ	16
279	1086, 12	SK1045	1	質	16.2		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	普通	石長・黒	口：ナナ 体：ハナナナ	ナナ	7
280	1081, 1	SK1045	1	質	10.8		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	良好	石長・黒	口：ハナナナ 体：ナナ	ナナ	20
281	1081, 12	SK1045	1	質	13.0		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	良好	石長・黒	口：ハナナナ 体：ナナ	ナナ	5
282	1081	SK1045	1	質	11.0		褐色	明褐色	粗	石長・黒	口：ナナ 体：ハナ	ナナ	9
283	1081	SK1045	1	質	10.7		赤	明褐色	粗	石長・黒	口：ナナ 体：ハナ	ナナ	2
284	1081	SK1045	1	鉢	16.2	16.3	にぶい黄	にぶい黄	普通	石長・黒	口：ナナ 体：ハナナナ	ナナ	5
285	1086-11, 12	SK1045	1	鉢	16.2		にぶい黄	にぶい黄	良好	石長・黒	口：ナナ 体：ハナナナ	ナナ	13

西川内南遺跡 下層 土器観察表 (7)

番号	器名	形状	法量 (cm)		色澤			用途		備考
			口径	高さ	外底	内底	胎土	胎面	胎底	
290	グリップ	壺	14.2	7.4	7.0	にぶい	にぶい	赤	ハク	10 3022並と結合
291	10E1.10E11	鉢	11.0			にぶい	赤	赤	口：ナブ 体：ミガキ	
292	10E11	鉢	9.6			赤	赤	赤	口：ナブ 体：ミガキ	2 内外面彩色
293	10E11	鉢	7.9			明黄	にぶい	赤	口：ナブ	
294	10E11	鉢	7.9			明黄	にぶい	赤	口：ナブ	
295	10E6	鉢	20.0			赤	赤	赤	体：ハク	14 内外面彩色
296	10E6	鉢	17.4			にぶい	赤	赤	体：ハク	6 内外面彩色
297	10E7	鉢	11.0			明赤	にぶい	赤	ハク	6
298	10E7	鉢	18.2			明赤	にぶい	赤	ナブ	脚部穿孔 1 並上、脚部外底彩色
299	10E12	鉢				にぶい	赤	赤	ナブ	5010並と結合 胎土磁器台面に彩色
300	10E7・7・11	鉢	35.7			にぶい	赤	赤	ナブ	受部内外面彩色 胎土磁器台面に彩色
301	10E22	鉢	35.0			赤	赤	赤	ナブ	17
302	10E22	鉢	18.0			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
303	10E22	鉢	17.6			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
304	10E22	鉢	9.7			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
305	10E22	鉢	25.7			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
306	10E22	鉢	35.8			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
307	10E22	鉢	24.0			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
308	10E23	鉢	10.6			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
309	10E21・22	鉢	9.9			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
310	10E22	鉢	14.0			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
311	10E21	壺	28.0			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
312	10E21	壺	23.4			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
313	10E21	壺	22.0			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
314	10E21	壺	2.4			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
315	10E21	壺	12.0			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着
316	10E21	壺	13.0			赤	赤	赤	ナブ	口縁一体部外面に赤・コグ付着

西川内南遺跡 下層 土器観察表(8)

報告 番号	出土位置		土層No.	層位	距離	位置 (m)		色調		胎土	装飾	数量		備考
	グランド	高さ				口径	底径	口縁	外底			内底	外底	
317	082		SK1211	1	溝外	19.0		にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: 赤褐色 底: ハクナナ	5	口縁部外面に赤褐色
318	062		SK1211	1	溝外	21.0		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: 赤褐色 底: ハクナナ	2	口縁部外面に赤褐色
319	062		SK1214	1	溝	16.0		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: 赤褐色 底: ハクナナ	3	口縁部外面に赤褐色
320	082		SK1214	1	溝	16.0		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: 赤褐色 底: ハクナナ	2	口縁部外面に赤褐色
321	0814・15		SK1215	1・2	溝	21.0		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	30	口縁部外面に赤褐色
322	0814		SK1215	2	溝	23.0		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	3	口縁部外面に赤褐色
323	0815		SK1215	2	溝	21.0		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	5	口縁部外面に赤褐色
324	0815		SK1215	2	溝	26.0		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	12	口縁部外面に赤褐色
325	0815		SK1215	2	溝	17.0		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	2	口縁部外面に赤褐色
326	0814		SK1216	2	溝	17.0		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	1	口縁部外面に赤褐色
327	0814		SK1216	2	溝	16.2		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	6	口縁部外面に赤褐色
328	0814・15		SK1216	2	溝	14.7		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	24	口縁部外面に赤褐色
329	0814・15		SK1216	2	溝	16.5		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	3	口縁部外面に赤褐色
330	0814・15		SK1216	1・2	溝	16.8	3.0	にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	32	口縁部外面に赤褐色
331	0814・15		SK1216	2	溝	12.2		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	25	口縁部外面に赤褐色
332	0815		SK1216	1・2	溝	7.5		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	24	口縁部外面に赤褐色
333	0814・15, 08210		SK1216	1・2	溝	20.8		にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	24	口縁部外面に赤褐色
334	0815		SK1216	2	溝外			にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	32	口縁部外面に赤褐色
335	0814・15, 08210		SK1216	X, 6, 2	溝台	19.0		明赤褐色	明赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	11	口縁部外面に赤褐色
336	7623, 0813・14・15		SK1216	X, 6	溝台			にぶい褐色	にぶい褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	2	口縁部外面に赤褐色
337	0811		SK1206	1	溝	12.4		にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	23	口縁部外面に赤褐色
338	0817		SK1206	1	溝台	16.0		にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	23	口縁部外面に赤褐色
339	0814・20		SK1242	3・4	溝	14.8		赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	21	口縁部外面に赤褐色
340	0821		SK1242	2	溝			にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	16	口縁部外面に赤褐色
341	0825		SK1111	1	溝	29.0		にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	1	口縁部外面に赤褐色
342	0812		SK1111	1	溝	29.0		にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	1	口縁部外面に赤褐色
343	0813		SK1116	1	溝	17.0		にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	1	口縁部外面に赤褐色
344	0813		SK1116	1	溝	16.0		にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	23	口縁部外面に赤褐色
345	0819		SK1187	4	溝	20.2		明赤褐色	明赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	4	口縁部外面に赤褐色
346	0814		SK1187	4	溝	17.2		にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	11	口縁部外面に赤褐色
347	0824		SK1187	4	溝	11.8		にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤褐色	赤褐色	口: ハクナナ 底: ハクナナ	16	口縁部外面に赤褐色

西川内南遺跡 下層 土器観察表 (9)

番号	グレイコード	土器種類	部位	寸法 (cm)			色澤			胎土	施土	家物	位置		備考
				口径	底径	高さ	外径	内径	内面				外面	内面	
340	7C14 - 19	SK1107	4 腹	17.0			にぶい黄緑	黄緑	黄緑	赤長・黒	石長・黒	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
340	7C19	SK1107	4 腹	17.0			にぶい黄緑	黄緑	黄緑	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
340	7C13	SK1107	4 腹	14.0			にぶい黄緑	黄緑	黄緑	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
351	7C19	SK1107	4 腹	16.6	11.7	17.4	赤黄	赤黄	赤黄	赤黄	赤黄	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
352	7C13 - 14	SK1107	4 底	11.3	8.7	24.2	灰黄	灰黄	灰黄	赤黄	赤黄	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
354	7C19	SK1107	4 腹	20.0			にぶい黄緑	黄緑	黄緑	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
358	7C19	SK1107	4 腹	18.0		6.5	にぶい黄緑	黄緑	黄緑	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
359	7C19	SK1107	4 腹	11.0		7.6	にぶい黄緑	黄緑	黄緑	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
359	7C13	SK1107	4 腹	9.6			にぶい黄緑	黄緑	黄緑	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
359	7C13 - 14	SK1107	4 腹	14.0			赤黄	赤黄	赤黄	赤黄	赤黄	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
360	7C19	SK1107	4 腹	18.4			明緑	明緑	明緑	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
361	7C13 - 15	SK1108	1 部分	9.0	12.7	7.2	にぶい黄緑	黄緑	黄緑	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
362	7B23	SK1117	3 底	18.0		20.7	黄黄	黄黄	黄黄	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
362	7B23	SK1117	3 底	18.0			にぶい黄緑	黄緑	黄緑	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
364	7B23 - 25	SK1117	1 - 2 底	11.9			にぶい黄緑	黄緑	黄緑	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
365	7B23	SK1117	2 林	15.6	4.9	7.2	灰黄	灰黄	灰黄	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
366	7B23 - 24	SK1117	1 林	13.8			明黄	明黄	明黄	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
367	7B23	SK1117	3 部分	18.4			明黄	明黄	明黄	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
369	7B6 - 12	SK1110	12 部分	14.8			にぶい赤黄	赤黄	赤黄	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
369	7B19	SK1110	1 腹	18.0			黄黄	黄黄	黄黄	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
370	7B16 - 17 - 18	SK1111	8, 2 - 8 林	17.6			灰黄	灰黄	灰黄	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
371	8B14 - 15	SK1114	1 部分	17.4		17.4	にぶい黄	赤黄	赤黄	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
372	8B23	SK1146	1 林	11.6	1.4	9.1	にぶい黄	赤黄	赤黄	赤長	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
373	8B9	SK1220	3 腹	20.0			にぶい黄	黄緑	黄緑	赤黄	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
374	10B1	SK1220	2 腹	18.4			にぶい黄	黄緑	黄緑	赤黄	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
375	10B1	SK1220	2 腹	18.4			にぶい黄	黄緑	黄緑	赤黄	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
375	8B9	SK1220	1 腹	20.4			にぶい黄	黄緑	黄緑	赤黄	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
377	10B1	SK1220	2 腹	25.4			にぶい黄	黄緑	黄緑	赤黄	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
378	8B9	SK1220	1 腹	11.0			にぶい黄	黄緑	黄緑	赤黄	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
379	9B9 - 9	SK1220	3 腹	8.0			にぶい黄	黄緑	黄緑	赤黄	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	
380	10B1	SK1220	2 林	14.0			にぶい黄	黄緑	黄緑	赤黄	石長	口：ナズ 体：ナズ	口：ナズ 体：ナズ	口縁部外面に黒・コグ付着	

西川内南遺跡下層 土器観察表 (10)

報告 No.	フリット No.	形状・厚さ	部位	直径 (cm)			色調			胎土	胎物	外周	内面	底面	備考
				口径	底径	最大径	外周	内面	底面						
381	50120	高杯	1	2.3	1.6		にぶい黄緑	にぶい黄緑	赤好	石・雲・濁	ハケム・ミガキ	ケズリ	ケズリ	胴部遺長4	
382	50120	1・2・3	器台	11.6			にぶい黄	にぶい黄	普通	石・赤・濁	ハケム・ミガキ	ナゲム・ミガキ	ナゲム・ミガキ	4 胴部遺長4以上	
383	50120	器台	8.4			灰黄緑	灰黄緑	普通	赤	石・濁	ミガキ	ミガキ	ミガキ	2	
384	50115	1	2.9	21.9	24.9	にぶい赤濁	にぶい黄	普通	赤・濁	石・長	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム・ケズリ	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム・ケズリ	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム・ケズリ	11 口縁～体部外周に黒・コゲ付着	
385	780・13	3	2.6	23.6		にぶい黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・赤・濁	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	12	
386	780・13	3	2.2	20.2	20.8	黄緑	黄緑	普通	赤	石・濁	口：ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	34 口縁～体部外周に黒・コゲ付着	
387	708	2	2.4	20.6	23.5	黄	黄	普通	赤・濁	石・赤・濁	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	35 体部外周に黒・コゲ付着	
388	708	1	2.4	16.6		にぶい黄緑	にぶい黄緑	普通	赤・濁	石・赤・濁	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	17 口縁～体部外周に黒・コゲ付着	
389	708	1	2.4	16.4	21.0	黄緑	黄緑	普通	赤・濁	石・長	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	17 口縁～体部外周に黒・コゲ付着	
390	708	2	2.4	16.0	23.4	黄赤色	黄赤色	普通	赤・濁	石・赤・濁	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	11 口縁～体部外周に黒・コゲ付着	
391	7803	1	2.4	14.4	18.6	にぶい黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・長	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	17 口縁～体部外周に黒・コゲ付着	
392	708	3	2.4	15.9	17.8	灰黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・赤・濁	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	26 口縁～体部外周に黒・コゲ付着	
393	780・8	1	2.4	16.0		にぶい黄	にぶい黄	普通	赤・濁	石・赤・濁	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	3	
394	787・8・12	2・3	2.4	16.0		にぶい黄緑	にぶい黄緑	普通	赤・濁	石・赤・濁	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	17 外周に黒・コゲ付着	
395	727	2	2.4	16.9		にぶい黄	にぶい黄	普通	赤	石・長	ハケム・ミガキ	ナゲム	ナゲム	胴部外周に黒・コゲ付着	
396	723	2	2.4	15.8		にぶい黄緑	にぶい黄緑	普通	赤	石・長・濁	口：ナゲム 体：ハケム・ナゲム	口：ハケム・ナゲム	口：ハケム・ナゲム	8	
397	7813	3	2.4	14.0		にぶい黄	にぶい黄	普通	赤・濁	石・赤・濁	ハケム・ミガキ	ナゲム	ナゲム	26	
398	7813	2	2.4	16.9		にぶい黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・長	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	5 口縁部外周に黒・コゲ付着	
399	7812	2	2.4	16.2	6.2	黄緑	黄緑	普通	赤	石・長	ハケム・ミガキ	ハケム・ナゲム	ハケム・ナゲム		
400	7815	3	2.4	20.0		にぶい黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・長	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	7	
401	703	3	2.4	11.7	11.4	にぶい黄	にぶい黄	普通	赤	石・長	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	15	
402	708	3	2.4	20.7	17.3	にぶい黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・赤・濁	ハケム・ミガキ	ナゲム	ナゲム	33	
403	787・8	3	2.4	20.8		にぶい黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・長	口：ミガキ 体：ハケム・ミガキ	口：ミガキ 体：ハケム	口：ミガキ 体：ハケム	11	
404	7817	1	2.4	12.1		にぶい黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・長	口：ナゲム 体：ミガキ	口：ナゲム 体：ミガキ	口：ナゲム 体：ミガキ	2	
405	7813	3	2.4	16.2		黄	黄	普通	赤	石・赤・濁	ミガキ	ミガキ	ミガキ	2 胴部外周に黒・コゲ付着	
406	703	3	2.4			にぶい黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・長	ミガキ	ミガキ	ミガキ	胴部外周に黒・コゲ付着	
407	1302	X.a	2.4	25.5	23.6	灰黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・長	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	11 口縁～体部外周に黒・コゲ付着	
408	13023	X.a	2.4	25.6	23.4	にぶい黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・赤・濁	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	33 胴部外周に黒・コゲ付着	
409	12002・23	X.a	2.4	16.7		にぶい黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・濁	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	口：ナゲム 体：ハケム	8 口縁～体部外周に黒・コゲ付着	
410	7032	X.a	2.4	14.3	13.8	灰黄緑	にぶい黄	普通	赤	石・濁	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	口：ハケム・ナゲム 体：ハケム	35 口縁～体部外周に黒・コゲ付着	

番号	種別	形状	質量 (g)			石質			形成	動土	産地	調査		備考
			長さ	高さ	最大径	外皮	内面	外面				内面		
411	タリッド	環状	13.6				縦	細かい層	砂	石・長・滑	口：ナマ 体：ハタ	口：ナマ 体：ハタ	34	日誌外部に属：コウ付着
412	タリッド	環状	20.2		26.6		縦	細かい層	砂	石・長・滑	口：ナマ 体：ハタ	口：ナマ 体：ハタ	32	体部外部に属：コウ付着
413	タリッド	環状	18.0		27.6		縦	細かい層	砂	石・長・滑	口：ナマ 体：ハタ	口：ナマ 体：ハタ	32	体部外部に属：コウ付着
414	タリッド	環状	18.4	2.6	28.0	16.5	細かい層	細かい層	良好	石・長・滑	口：ナマ 体：ハタ	口：ナマ 体：ハタ	31	体部外部、体部下部に属：コウ付着
415	タリッド	環状	20.2		31.8		細かい層	肌滑	普通	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	29	体部外部に属：コウ付着
416	タリッド	環状	18.2	4.0	18.6	16.9	肌滑	細かい層	普通	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	18	口部一体部内部、体部内部に属：コウ付着
417	タリッド	環状	18.0				細かい層	肌滑	普通	滑	口：ナマ 体：ハタ	口：ナマ 体：ハタ	8	口部一体部内部に属：コウ付着
418	タリッド	環状	17.6		21.1		細かい層	肌滑	普通	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	20	口部一体部内部に属：コウ付着
419	タリッド	環状	14.2		16.0	14.1	細かい層	細かい層	普通	石・長・滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	9	
420	タリッド	環状	13.2		14.2		細かい層	細かい層	普通	石・滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	13	
421	タリッド	環状	15.2				細かい層	細かい層	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	1	
422	タリッド	環状	18.0	7.2	41.1	36.4	細かい層	肌滑	普通	石・長・滑	口：ナマ 体：ナマ	口：ナマ 体：ナマ	29	体部外部下部に属：コウ付着
423	タリッド	環状	15.2	6.8	21.6	20.1	細かい層	細かい層	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	8	
424	タリッド	環状	12.6	15.0	18.1	15.5	細かい層	細かい層	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	8	
425	タリッド	環状	20.6		25.6		細かい層	肌滑	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	8	
426	タリッド	環状	11.2	2.8	7.7	7.8	細かい層	細かい層	普通	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	5	
427	タリッド	環状	6.7	2.2	6.1	8.1	細かい層	肌滑	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	20	外部に属
428	タリッド	環状	18.2	2.6	10.2	14.6	細かい層	細かい層	良好	滑	口：ナマ 体：ハタ	口：ナマ 体：ハタ	14	
429	タリッド	環状	10.0	7.4	10.0	14.0	細かい層	細かい層	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	9	口部外部に属
430	タリッド	環状	11.4	3.0	11.7	13.3	細かい層	肌滑	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	23	口部外部に属
431	タリッド	環状	13.0	11.0	13.2		細かい層	細かい層	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	26	口部外部に属
432	タリッド	環状	12.9				細かい層	肌滑	普通	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	26	
433	タリッド	環状	20.6				肌滑	肌滑	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	20	受取品は、別紙添付 27 受取品内面に属
434	タリッド	環状	18.2				肌滑	肌滑	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	21	受取品内面に属
435	タリッド	環状	10.4				細かい層	細かい層	良好	滑	口：ハタ 体：ハタ	口：ハタ 体：ハタ	21	受取品は、別紙添付 9 受取品内面に属

西川内南遺跡 下層 木製品観察表 (1)

報告 No.	グラフィッド	遺物番号	層位	法量 (cm)			器種	遺存状況	木取り	繊維	製作痕跡	備考
				長さ	幅	厚さ						
436	9C16	5S1201		72.2	12.9	1.2	舟形木製品		新材証目	スギ		
437	1007		川勝	22.3	(9.9)	0.9	脚付盤	半欠	新材証目	スギ		
438	7B23	5K1117		36.1	6.3	0.6	又線又は輪	尖端部欠				
439	7C29	5K1117		53.2	1.6	0.4	曲物?		新材証目			
440	7D11・12	5K1110	13	19.1	3.2	2.6	漆木		新材	スギ	両面削り痕	
441	7D11・12	5K1110	18	63.4	2.8	1.6	漆木		新材	スギ		
442	7D11・12	5K1110	8	20.0	1.9	2.1	漆木		新材	スギ	両面削り痕	
443	7D11・12	5K1110	13	25.7	1.3	1.4	漆木		新材	スギ	両面削り痕	
444	7D11・12	5K1110	18	20.7	2.7	1.6	漆木		新材			
445	7D11・12	5K1110		21.5	5.4	0.5	曲物底板?		新材証目	スギ	両面削り痕・ 踵部穿孔	
446	7D11・12	5K1110	12	20.6	6.2		木製品		丸材		両端部削り痕	
447	7D11・12	5K1110		22.9	8.5		木製品		丸材		両端部削り痕	
448	7D11・12	5K1110		19.1	8.9		木製品		丸材	ガマズミ属	両端部削り痕	
449	7D11・12	5K1110	18	22.2	7.7		木製品		丸材	ガマズミ属	両端部削り痕	
450	7D11・12	5K1110	8	45.3	8.1		杖状木製品		丸材	モクレン科	両端削り痕	
451	7B・C・D	5S1118		45.1	3.4	3.2	杖状木製品		新材			
452	10D1		川勝	13.9	12.8	8.1	梁材	下部欠	丸材			
453	13B21	5S1042	F1035	45.8	16.9		柱	上端部欠	丸材		トネリコ属	
454	13C1	5S1042	F1036	43.8	17.2		柱	上端部欠	丸材		コナラ属 コナラ属 コナラ属 コナラ属 コナラ属	
455	12B25	5S1042	F1038	37.6	9.2		柱	上端部欠	丸材		コナラ属 コナラ属	
456	13C8	5S1042	F1039	35.5	12.9			上端部欠	丸材		トネリコ属	
457	12B24	5S1042	F1040	50.5	18.1		柱	上端部欠	丸材		ヤマガタ	
458	12C10・1308	5S1042	F1041	45.0	14.2		柱	上端部欠	丸材		クリ	
459	9C12	5S1256	F1202	17.2	7.2		柱	上端部欠	丸材		ヤナギ属	
460	9C17	5S1281	F1288	35.8	16.6		柱	上端部欠	丸材			
461	9D21	5S1259	F1250	80.3	20.9		柱	上端部欠	丸材		グリ	
462	9D16	5S1259	F1249	47.6	17.8	11.9	柱	上端部欠	新材			
463	9E1	5S1259	F1251	37.4	18.7	13.5	柱	上端部欠	新材	スギ		
464	8E5	5S1259	F1254	45.1	17.3	15.7	柱	上端部欠	新材	スギ		
465	8D19	5S1259	F1261	53.4	20.2	16.4	柱	上端部欠	新材	スギ		
466	9B11	5S1136	F1128	33.4	21.9	16.2	柱	上端部欠	新材		トネリコ属	
467	9B16	5S1136	F1119	21.1	15.2		柱	上端部欠	丸材		トネリコ属	
468	8B14	5S1136	F1124	30.2	13.1	14.3	柱	上端部欠	新材		トネリコ属	
469	8B19	5S1136	F1123	11.1	20.0	10.1	柱	上端部欠	新材		トネリコ属	
470	9B21	5S1136	F1132	8.9	8.8	5.5	柱	上端部欠	新材		ヤナギ属	
471	9B1・2	5S1136	F1135	27.3	16.0	15.7	柱	上端部欠	新材			
472	13C3・12D4		F1046	12.5	8.6		柱	上端部欠	丸材			実測外
473	8B16	5S1137	F1133	22.9	8.8		柱	上端部欠	丸材			
474	10D21・10E1	5S1259	F1251	33.7	15.4	5.8	礎板		新材			
475	8D25	5S1259	F1252	27.7	12.3	8.7	礎板		新材			
476	8E5	5S1259	F1254	26.9	14.1	5.0	礎板		新材			
477	8E5	5S1259	F1254	38.8	14.4	4.4	礎板		新材		下部に切込みあり、 地盤用部材の転用か	
478	8D19	5S1259	F1261	33.3	15.3	6.4	礎板		新材			
479	8D19	5S1259	F1261	30.2	12.3	3.3	礎板		新材			
480	8E22	5S1136	F1122	15.3	11.2	2.9	礎板		新材			
481	7B8	5S1136	F1134	14.6	16.7	15.6	柱	上端部欠	新材			実測外
482	9D11	F1208		62.7	9.8		柱	上端部欠	丸材			実測外

西川内南遺跡 下層 木製品観察表 (2)

報告 No.	グラッド	遺物番号	層位	法量 (cm)			種類	遺存状況	水没り	特徴	製作痕跡	備考
				長さ	幅	厚さ						
9E5	SR1259	P1254		13.6	8.8	4.3	櫛板		新材			実測外
9E5	SR1259	P1254		9.7	4.7	3.2	櫛板		新材			実測外
9C21	1号円形周溝状遺構	P1260		16.0	2.7		板	上端部欠	丸材			実測外
9B33	1号円形周溝状遺構	P1263		29.8	7.6		柱	上端部欠	丸材			実測外
9B33	1号円形周溝状遺構	P1263		20.5	2.6		柱	上端部欠	丸材			実測外
9C3	1号円形周溝状遺構	P1264		10.4	7.3		板	上端部欠	丸材			実測外
9C16	1号円形周溝状遺構	P1265		8.2	4.8		板	上端部欠	丸材			実測外
9C21	1号円形周溝状遺構	P1266		5.2	6.0	3.5	柱	上端部欠	新材			実測外
9C21	1号円形周溝状遺構	P1267		28.5	14.3		柱	上端部欠	丸材			実測外
9E		P1268		22.2	16.1	12.2	柱	上端部欠	新材			実測外
9E11		SD1218		9.2	2.0	3.2	板材		新材径目		加工木材?外 面酸化	実測外
1001		SD1220		14.6	1.9	1.9	棒状丸材		新材径目			実測外
8D19		SK1240		11.4	5.3	1.2	板材		新材径目		炭化痕あり	実測外
3B11			XI	32.9	7.7		板	上端部欠	丸材			実測外
3D5			XI	8.6	4.8		板	上端部欠	丸材			実測外
3D9			XI	43.3	7.8		板	上端部欠	丸材			実測外
3D7			XI	15.4	8.7		板	上端部欠	丸材			実測外
3D17			XI	23.4	5.8		板	上端部欠	丸材			実測外

西川内南遺跡 下層 土製品観察表

石: 石筈 長: 長石 雲: 雲母 薄: 薄層 赤: 赤色粒子 単位はmm・g

報告 No.	グラッド	遺物番号	層位	種類	長さ	径	孔径	重量	色調	構成	胎土	備考
481	9E15	SD1218	5	有孔土製品	44.0	44.0	8.0	80.7	にぶい褐色	良 石・長・雲		球形, 光形, 黒斑
482	8E15	SD1218	7	有孔土製品	42.0	46.0	7.0	78.3	にぶい褐色	良 石・長・雲・赤		球形, 光形, 黒斑
483	9B3	SK1211	2	有孔土製品	42.0	44.0	7.0	77.0	にぶい褐色	良 石・長・雲・赤		環状, 光形, 黒斑
484	7C24		X a	有孔土製品	45.0	48.0	6.0	94.0	にぶい褐色	良 石・長・雲・赤		球形, 光形, 黒斑
485	7C7		X a	有孔土製品	40.0	45.0	7.0	60.5	褐色	良 石・長		環状, 光形, 黒斑
486	8D8	SD1218	5	有孔土製品	81.0	43.0	9.0	108.9	にぶい褐色	良 石・長・雲・赤		管状, 光形, 黒斑
487	9B2	SK1211	2	有孔土製品	51.0	41.0	9.0	95.5	にぶい黄褐色	良 石・長・雲・赤		管状, 光形, 黒斑
488	10B11	SK1045	1	有孔土製品	49.0	45.0	11.0	(92.3)	灰黄褐色	良 石・長・雲・赤		管状, 光形, 黒斑
489	10B11	SK1045	1	有孔土製品	(21.0)	43.0	10.0	(48.1)	灰黄褐色	良 石・長・雲		管状, 光形, 黒斑
490	10B18	SK1045	1	有孔土製品	(21.0)	(42.0)		(11.7)	にぶい黄褐色	良 石・長・雲・赤		管状, 光形, 黒斑
491	8D7	SK1228	1	有孔土製品	(21.0)	(37.0)		(15.9)	灰色	善 石・長・雲		管状, 光形, 黒斑
492	8D15	SD1226	1	胎土	30.0	(48.0)	8.0	(61.3)	にぶい黄褐色	良 石・長・雲・赤		管状, 光形, 黒斑

西川内南遺跡 下層 石製品観察表

報告No.	種別	出土地点		法量 (cm・g)			材質	遺存状況	使用部位・痕	備考		
		グラッド	遺構	長さ	径	厚さ					重量	
493	磨石	7C3	SD1113	3	10.3	8.2	6.8	855.7	フレライト	完形	側縁部・磨打	
494	磨石	8C11	SK1242	3	33	8.1	5.9	928.6	花崗閃緑ひん岩	完形	両縁部・磨打	
495	磨石	9C 2		X a	8.7	8.1	7.1	683.1	フレライト	完形	側縁部・磨打	
496	砥石	9D13	SD1020	1	4.3	2.4	1.3	14.9	両状岩質緑閃石	上端欠損		磨面・縁状溝あり
497	砥石	12E3		X a	4.05	2.6	2.1	16.1	両状岩質緑閃石	完形	表面両側面・磨	磨面・縁状溝あり
498	勾玉	7B17	SD1118	1	1.8	1.1	0.4	0.8	軟玉	下端欠損		孔径 1.5mm

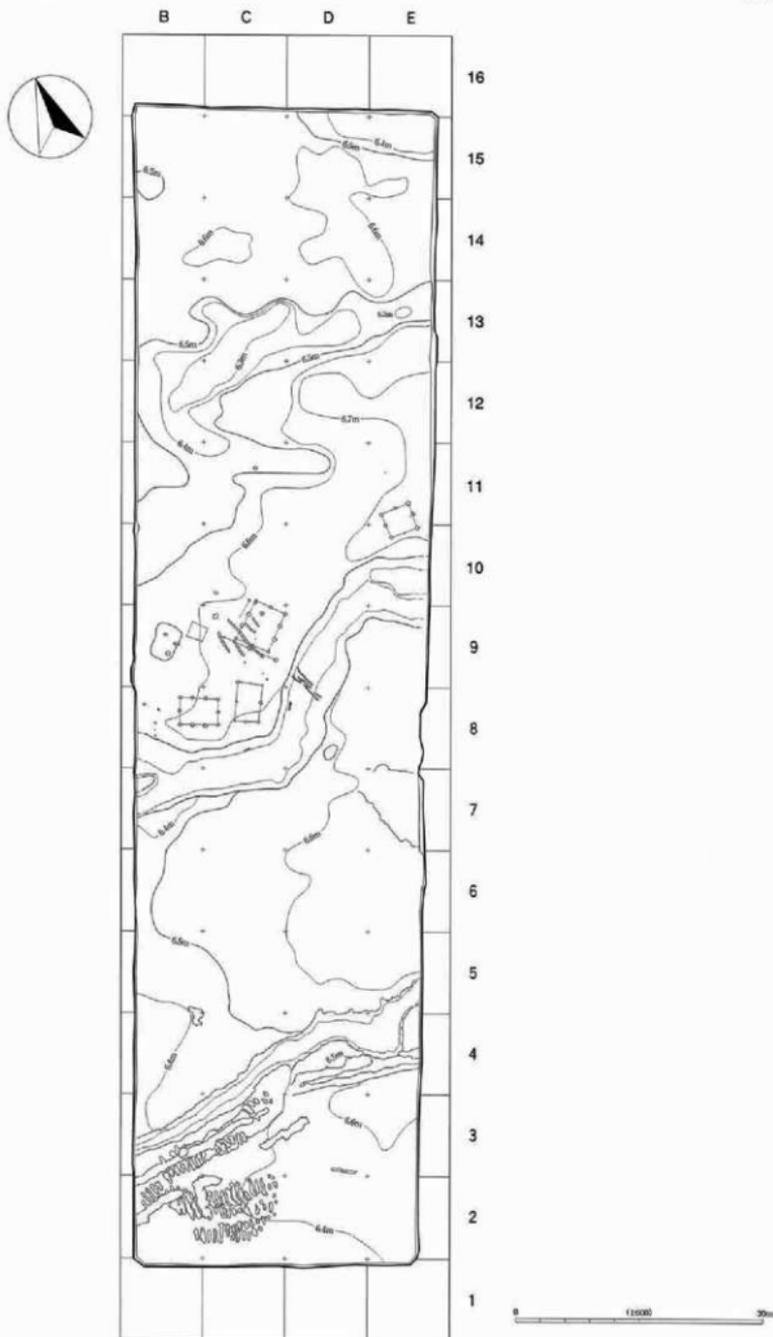
西川内南遺跡 下層 金属製品観察表

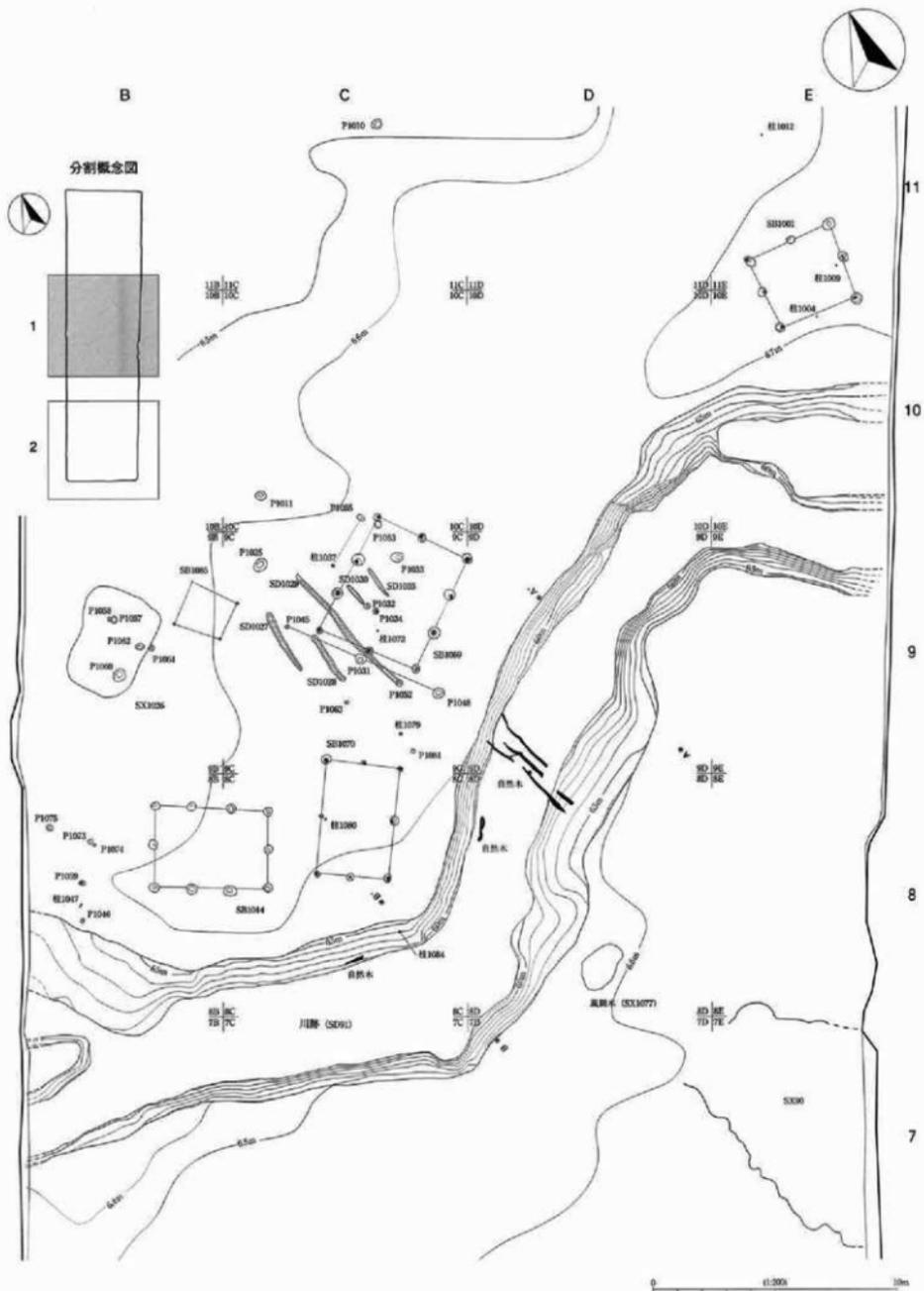
報告No.	種別	出土地点		法量 (cm・g)				材質	遺存状況	備考	
		グラッド	遺構	長さ	径	高さ	重量				
499	小型銅鏡	8B19		X a	2.75	8.9	0.4	2.9	青銅	完形	文様は1重の垂飾

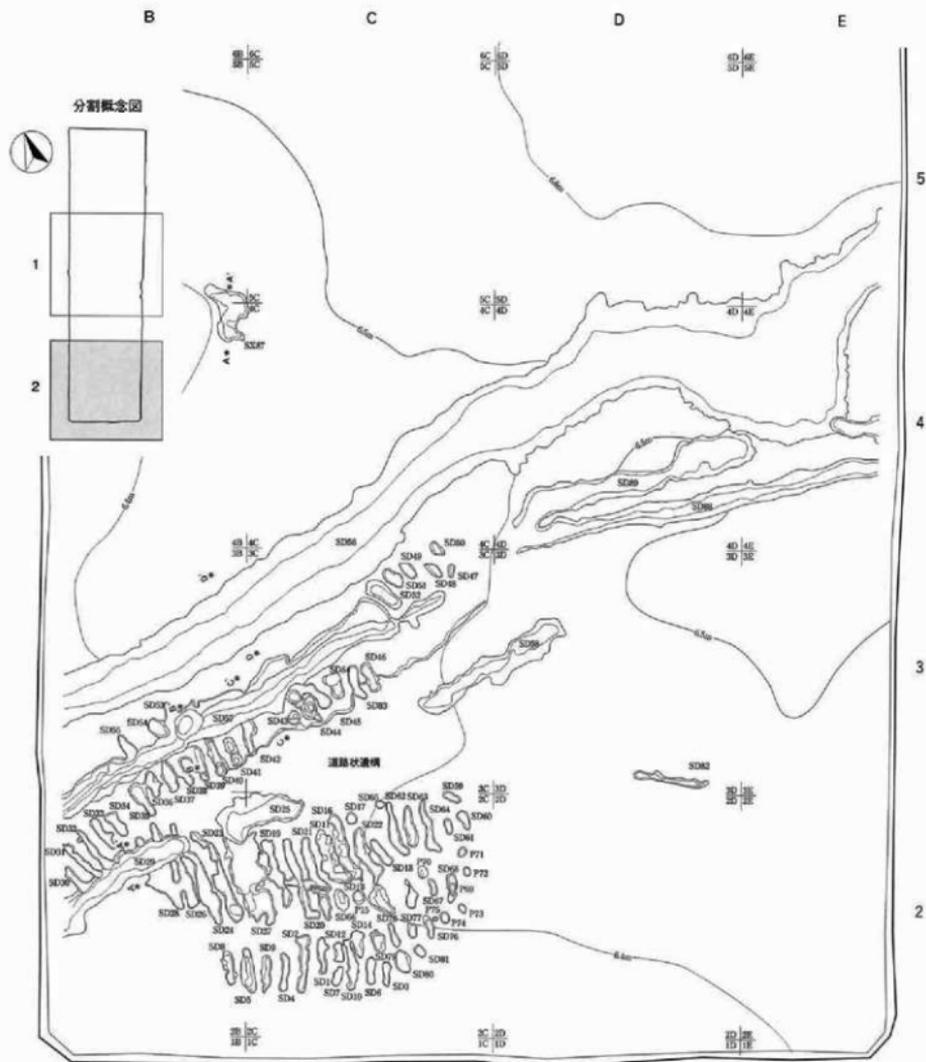
図 版

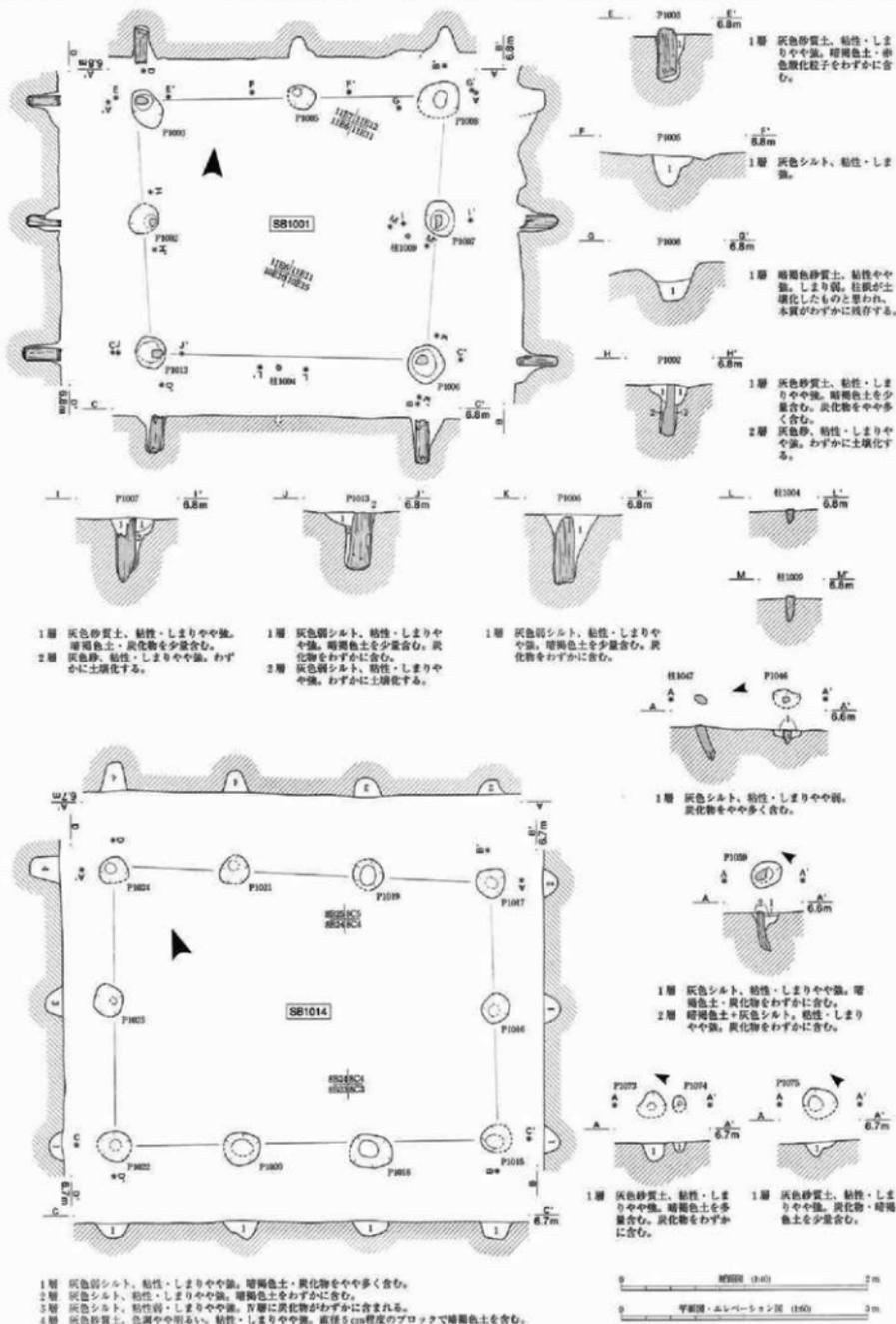
凡 例

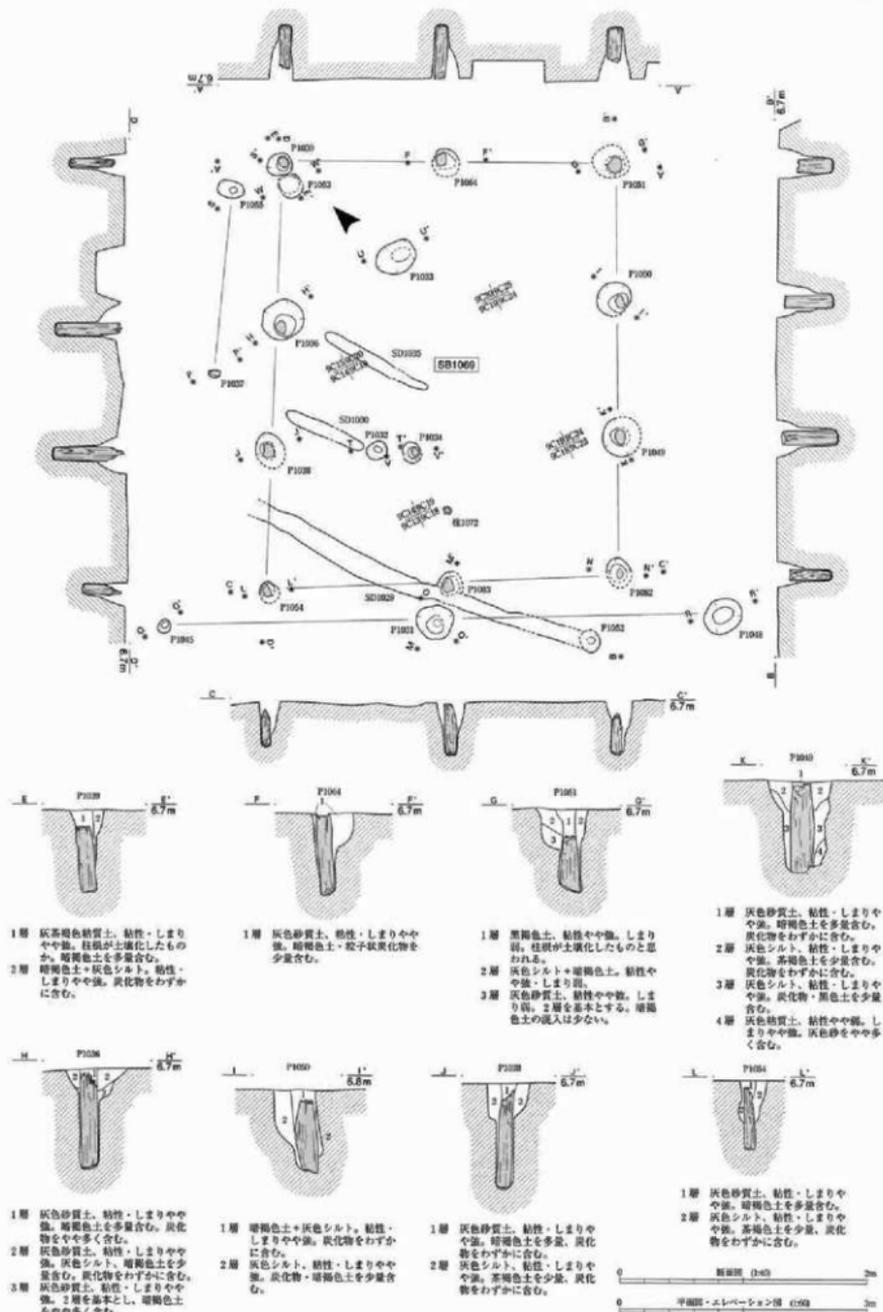
- 1 遺構図は、柱・礎盤、炭化物や焼土の範囲をスクリーントーンで示した。
- 2 土器は、須志器断面塗りつぶし、土師器断面白抜きとして区別した。土師器赤彩部分はスクリーントーンで区別した。
- 3 木製品の実測図については、基本面のほか、必要に応じて側面、裏面も実測した。
- 4 木製品の炭化部分はスクリーントーンで示した。
- 5 木製品の木目は、木取部位表示を目的としているため、年輪幅は実際を示していない。
- 6 敲石の敲打痕は、スクリーントーンで示した。
- 7 遺物写真の縮尺は、図面図版と同じである。

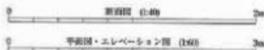
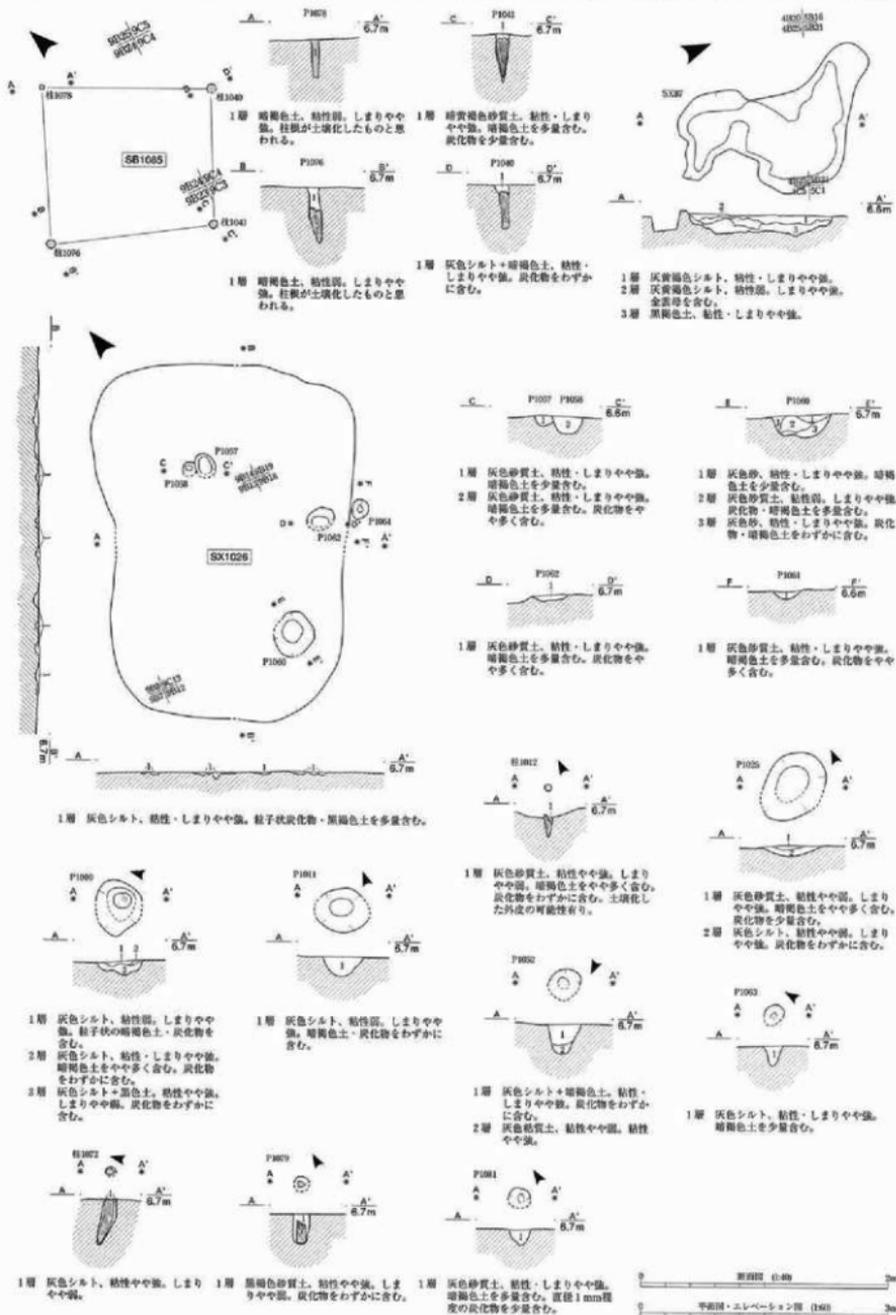


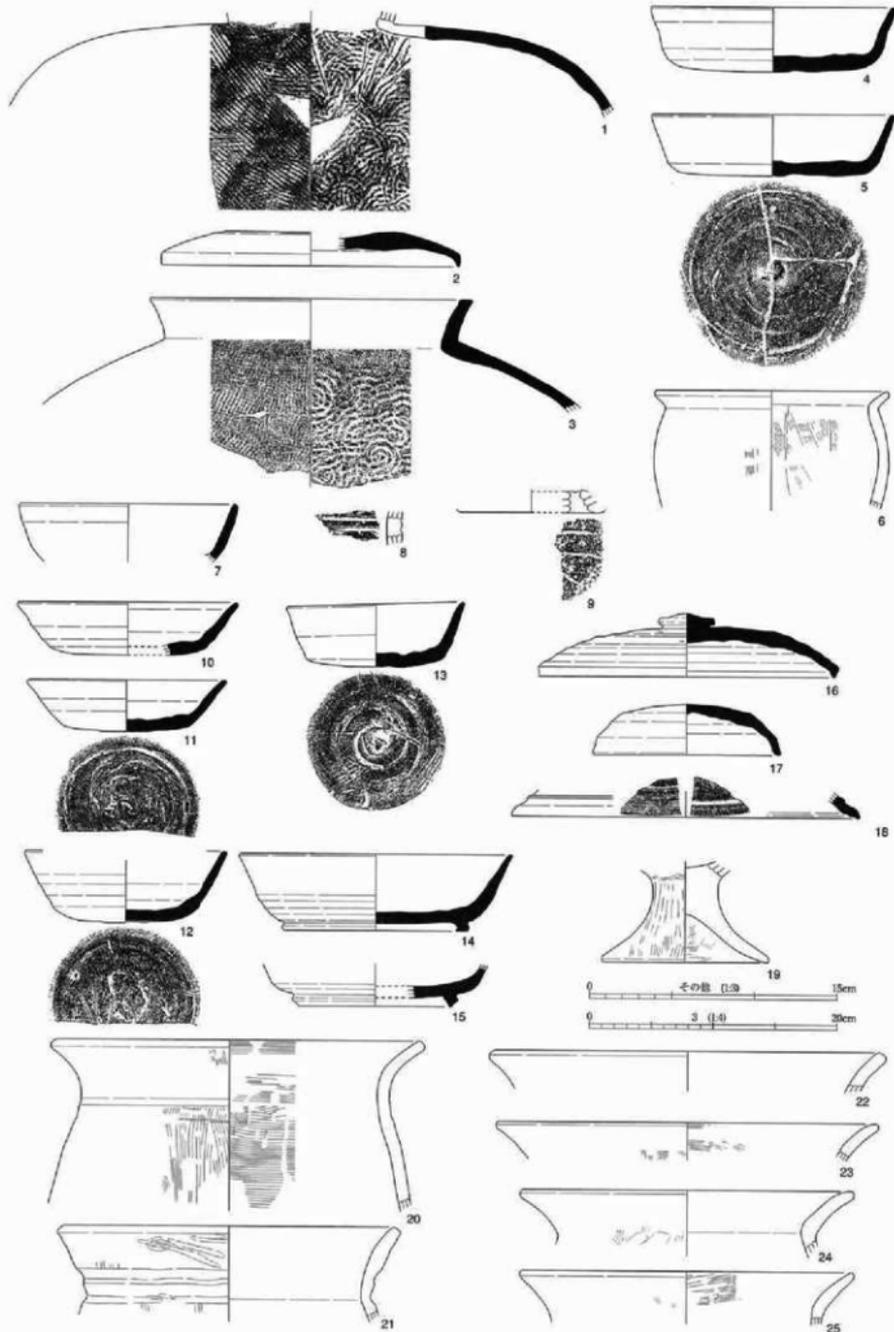


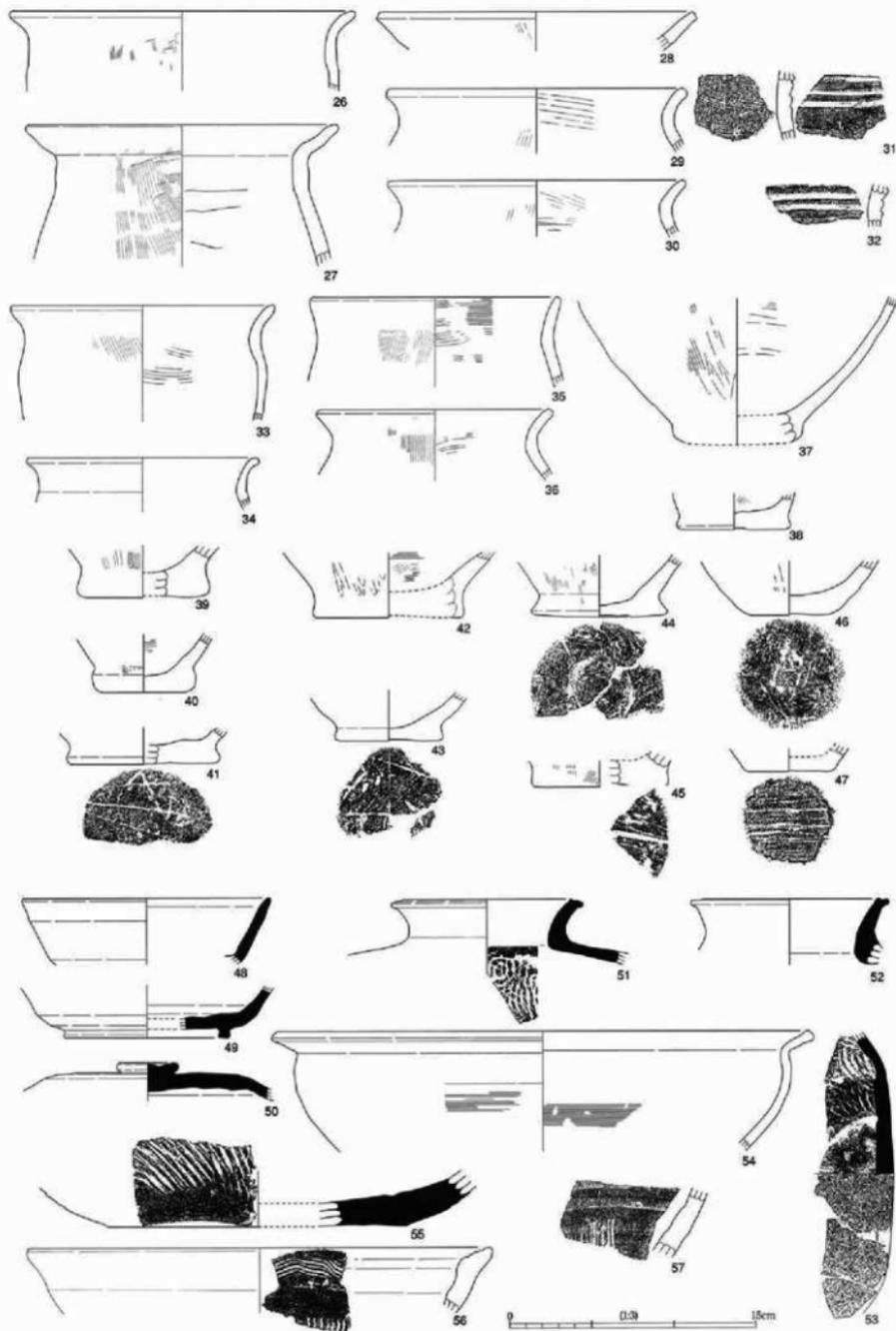


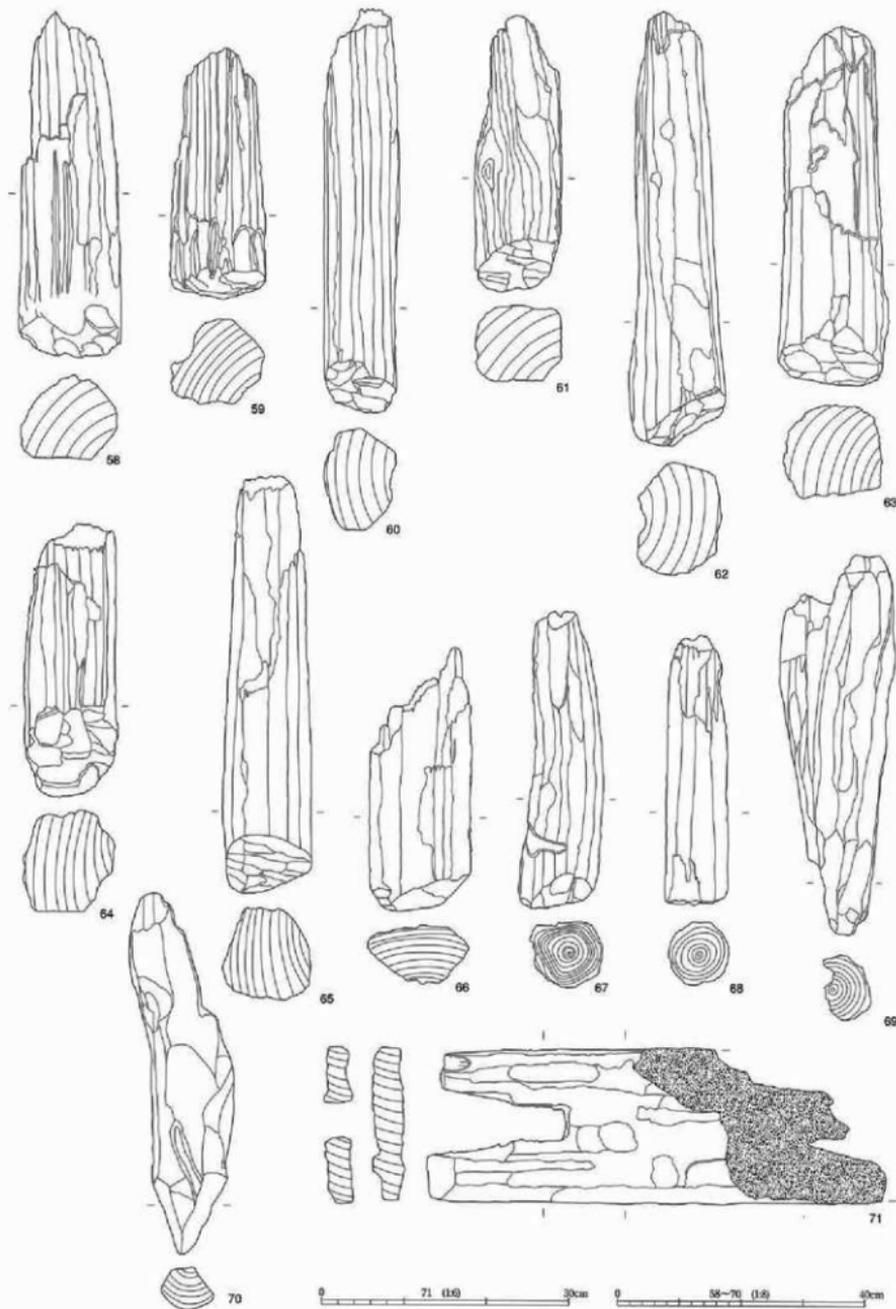










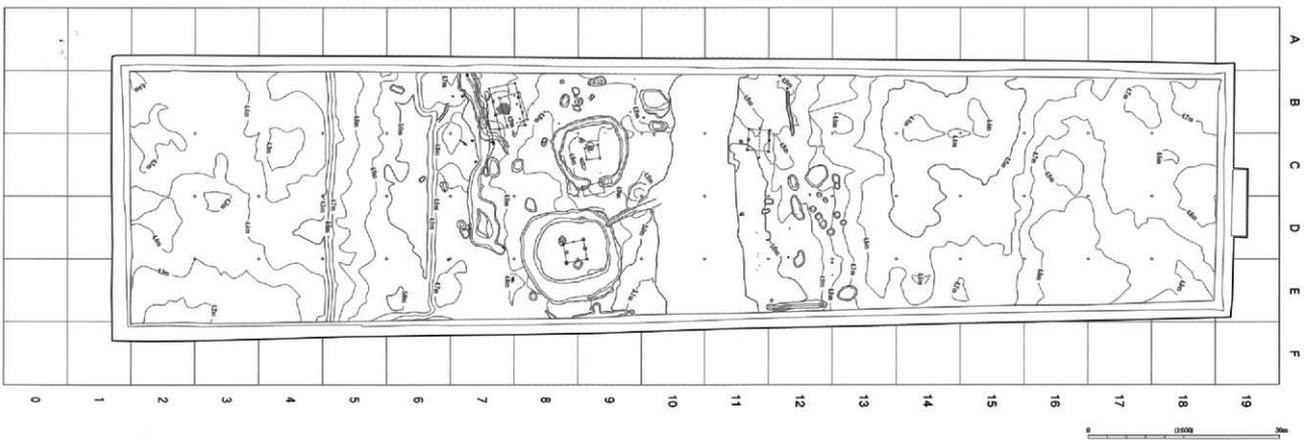


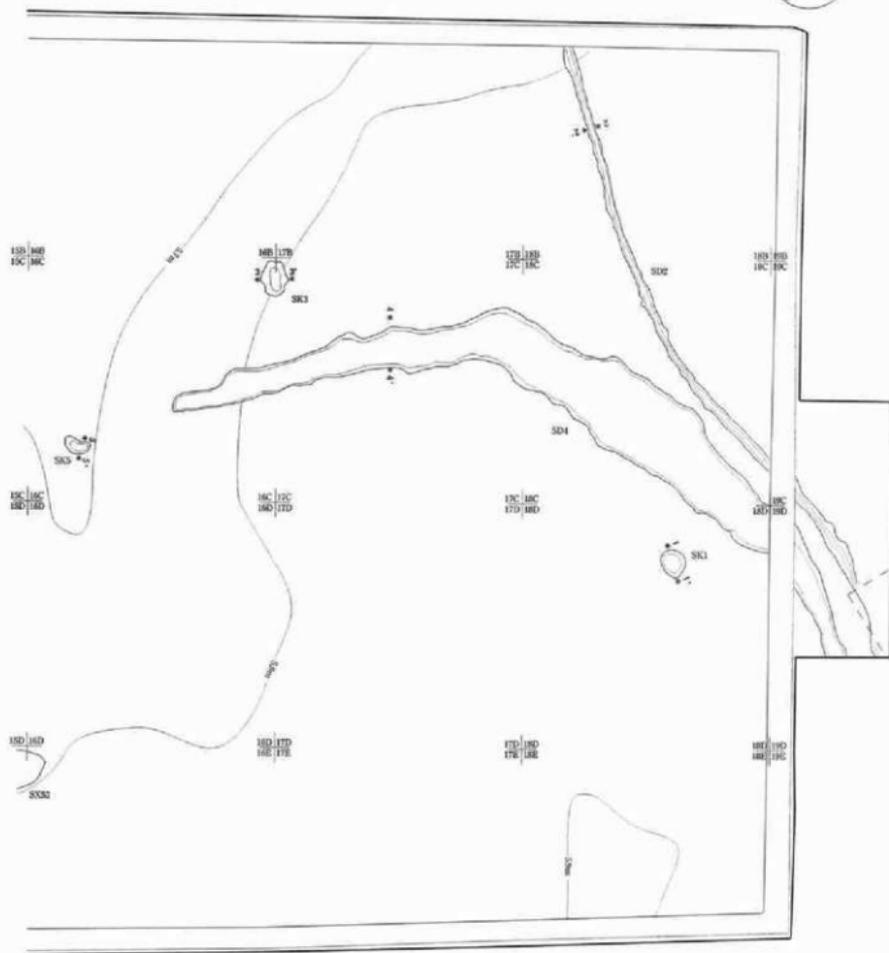


遺構全体図（上層）

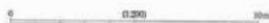
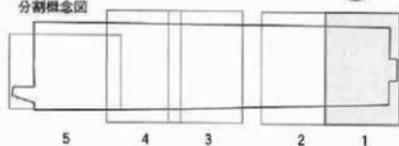


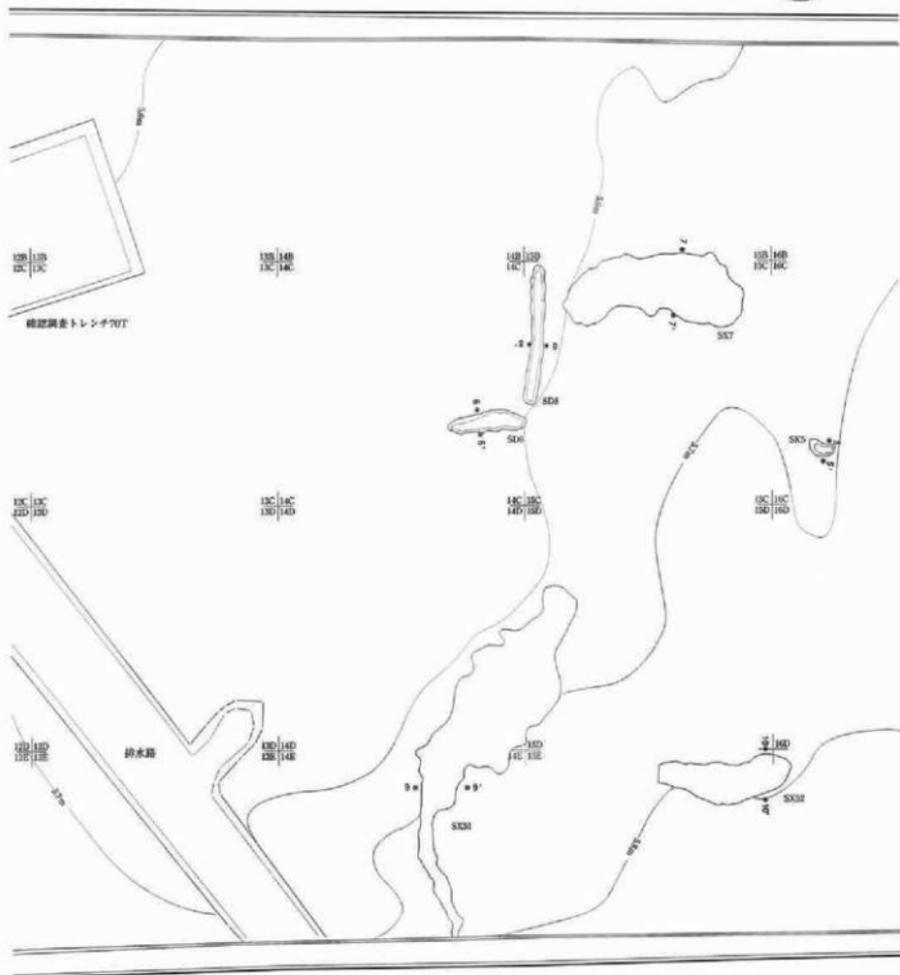
遺構全体図（下層）



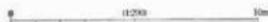
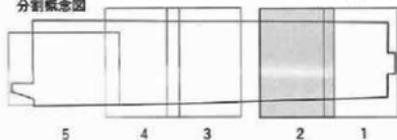


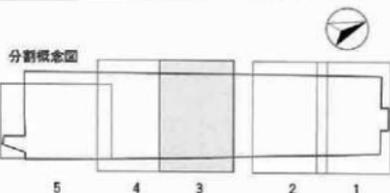
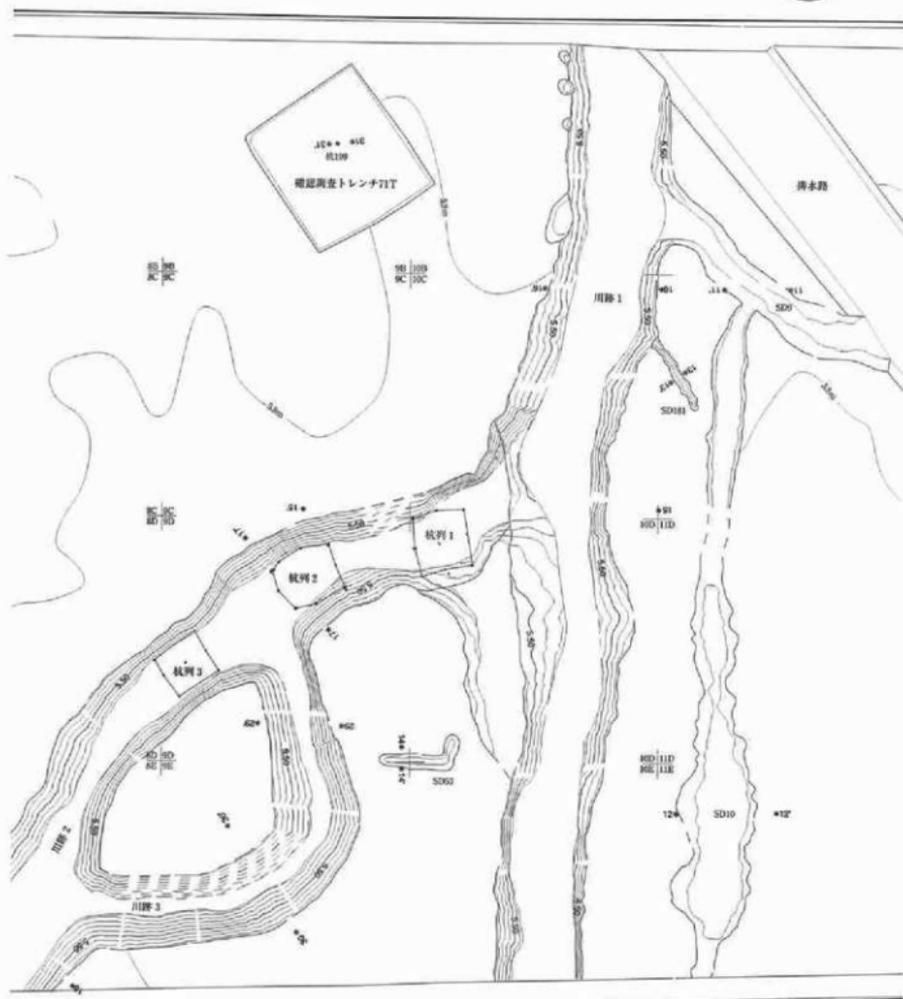
分割概念図

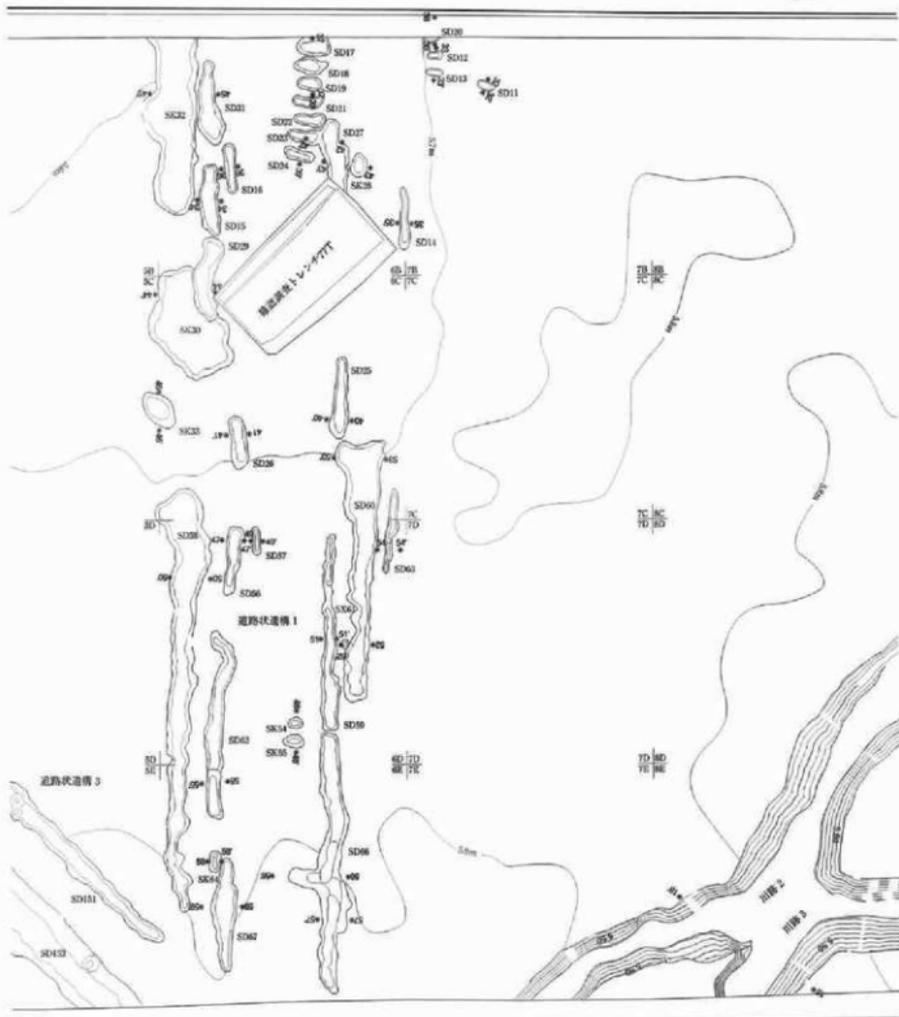




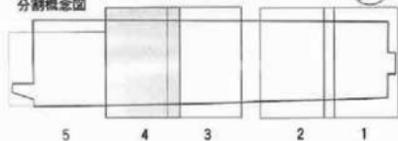
分割概念図

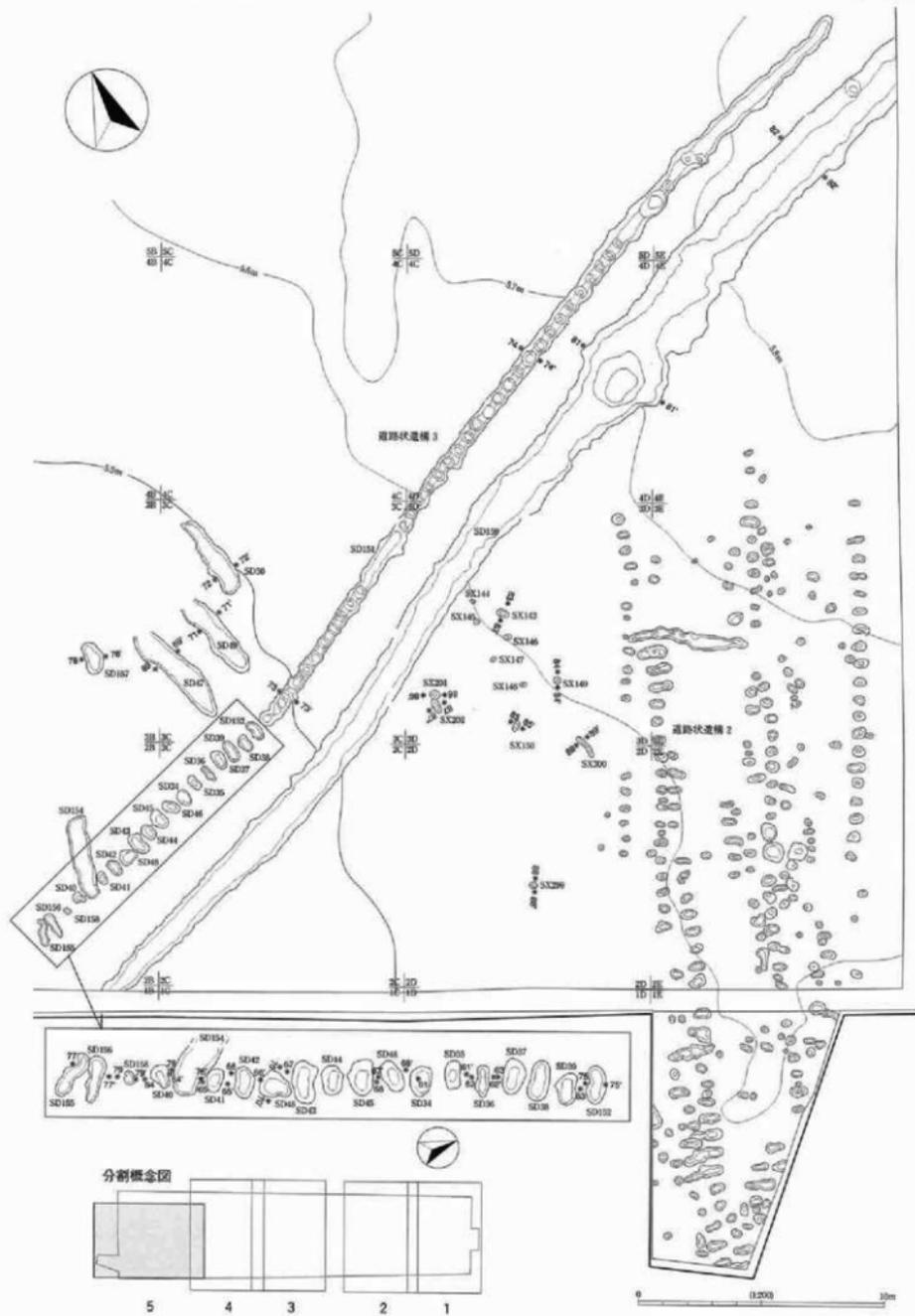


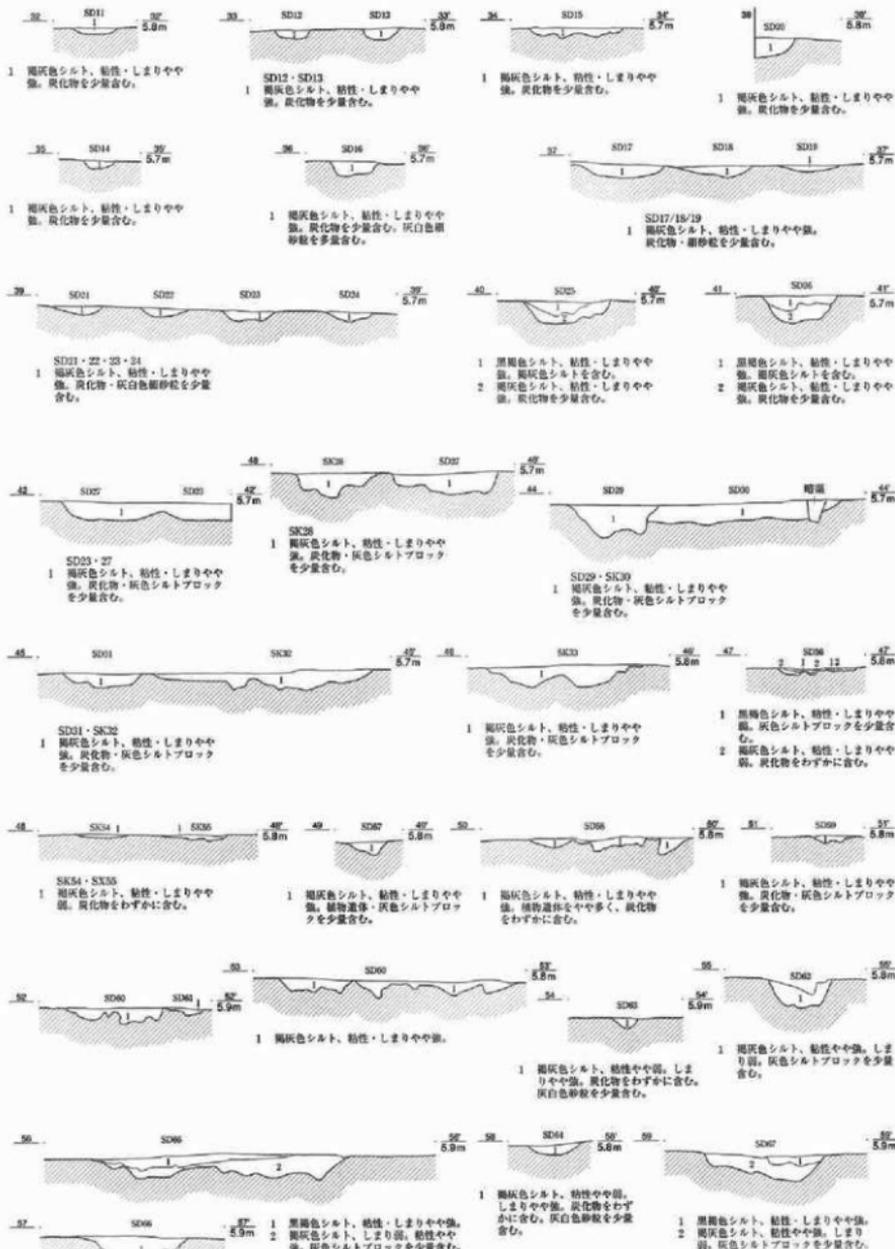


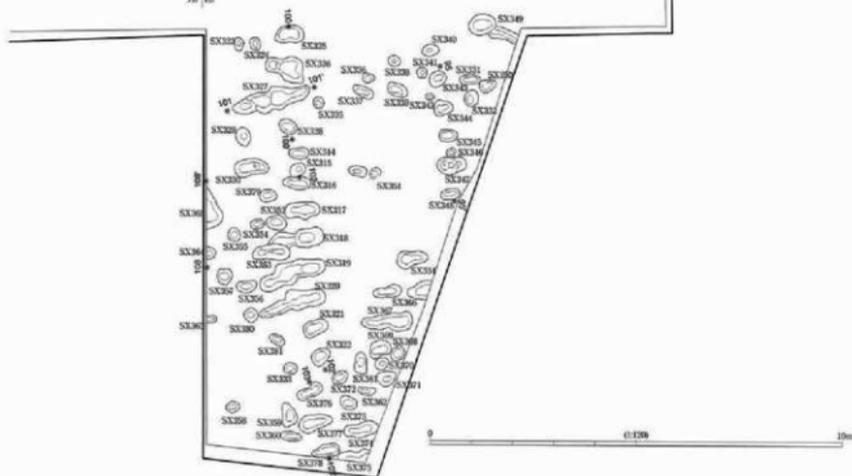
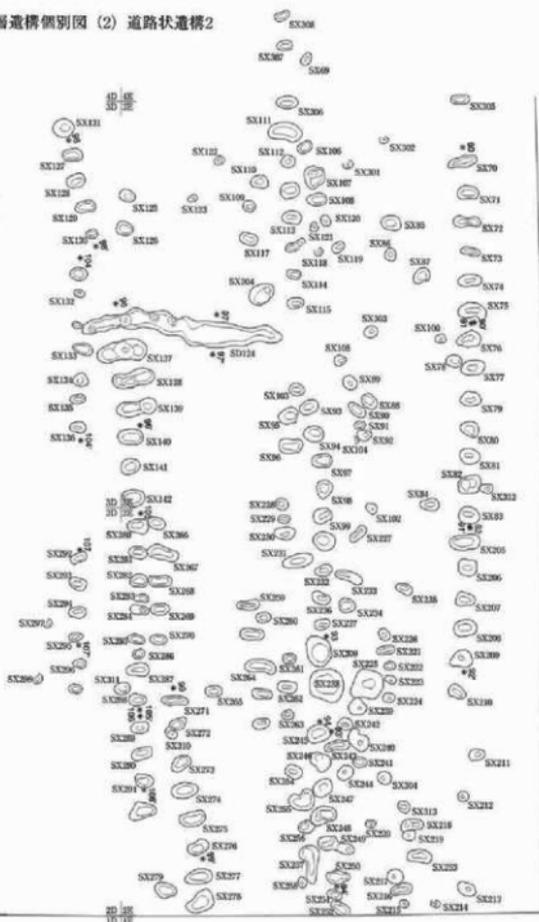


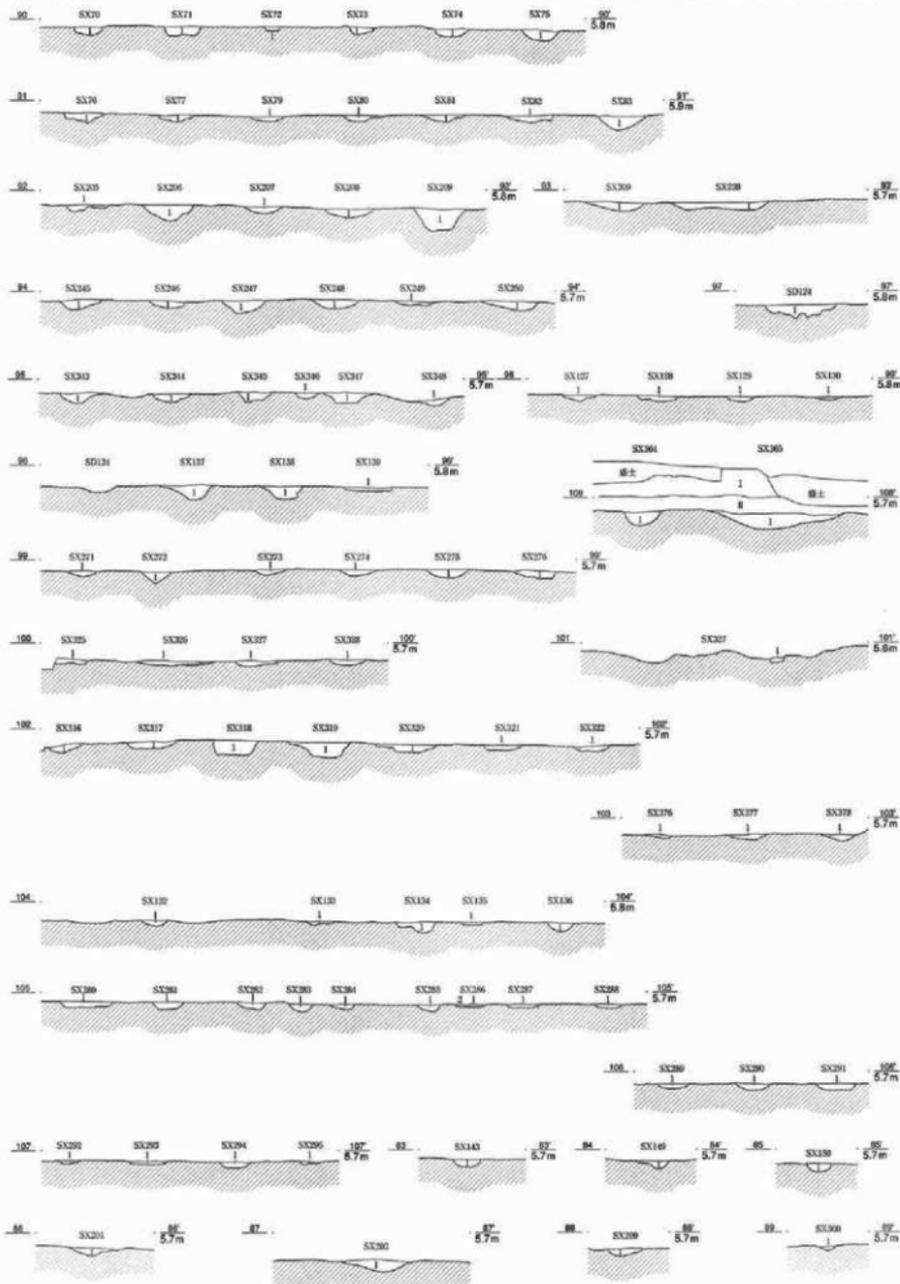
分割概念図





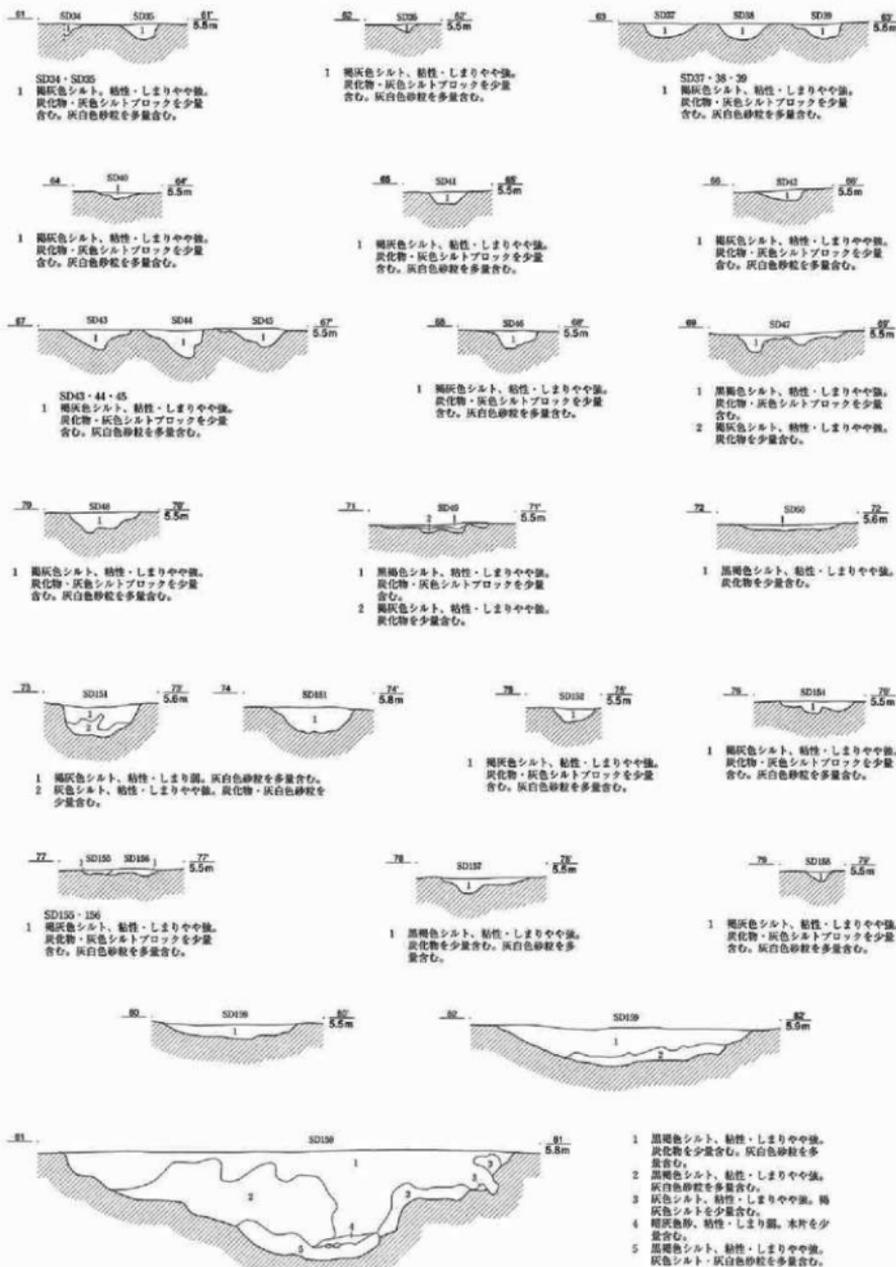


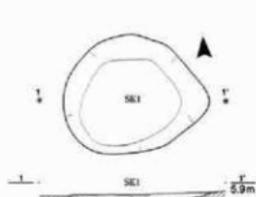




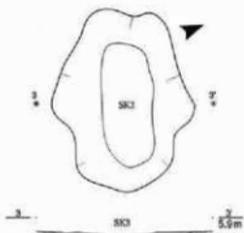
1 灰色シルト、粘性・しまりや強、基層を基本とする土層、散化物をわずかに含む。







1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物を少量含む。



1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物を少量含む。
2 灰色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物をわずかに含む。



1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物を少量含む。灰色シルトブロックを少量含む。



1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物を少量含む。灰色シルトブロックを少量含む。



1 黒褐色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物をわずかに含む。炭分の酸化により色調やや変味がある。



1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物を少量含む。



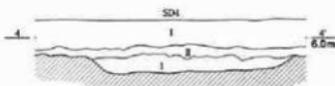
1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物・灰色シルトブロックを少量含む。



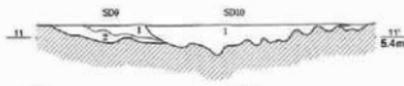
1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物・灰色シルトブロックを少量含む。



1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強。



1 褐色色シルト、粘性・しまりやや弱、炭化物を少量含む。



SD9
1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物・植物遺体を少量含む。
2 黒褐色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物・植物遺体を少量含む。

SD10
1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物・植物遺体を少量含む。

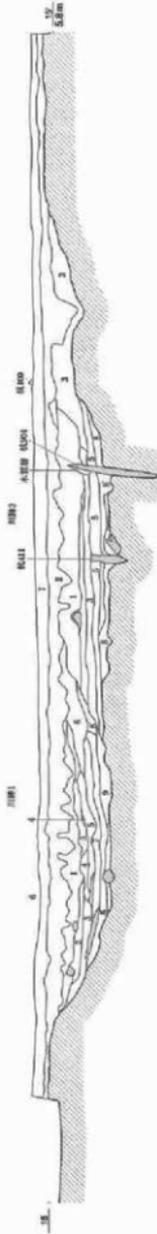


1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物を少量含む。



1 褐色色シルト、粘性・しまりやや強、炭化物を少量含む。





川跡1

- 1 黒褐色土、粘質、しまり中硬、黒褐色シルトを多量含む。
- 2 黒褐色土、粘質、しまり中硬、粘粉層を多く含む。
- 3 黒褐色土、粘質、しまり中硬、粘粉層、灰白色砂を少量含む。
- 4 黒褐色土、粘質、しまり中硬、粘粉層、灰褐色土、灰白色砂を少量含む。
- 5 黒褐色土、粘質、しまり中硬、粘粉層、灰褐色土、灰白色砂を少量含む。
- 6 黒褐色土、粘質、しまり中硬、粘粉層、灰褐色土、灰白色砂を少量含む。
- 7 黒褐色土、粘質、しまり中硬、粘粉層、灰褐色土、灰白色砂を少量含む。
- 8 黒褐色土、粘質、しまり中硬、粘粉層、灰褐色土、灰白色砂を少量含む。
- 9 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層、灰褐色土、灰白色砂を少量含む。
- 10 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を少量含む。



川跡1



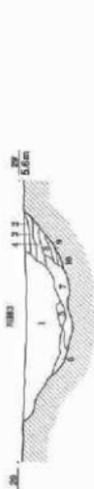
川跡1

川跡2

- 川跡2
- 1 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、黒褐色土を多量含む。
 - 2 黒褐色土、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。
 - 3 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。
 - 4 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。
 - 5 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。
 - 6 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。
 - 7 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。
 - 8 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。
 - 9 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。
 - 10 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。
 - 11 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。
 - 12 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を多量含む。

川跡2

川跡2



川跡1

川跡2

- 川跡3
- 1 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、灰白色砂を少量含む。
 - 2 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を少量含む。
 - 3 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を少量含む。
 - 4 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を少量含む。
 - 5 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を少量含む。
 - 6 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を少量含む。
 - 7 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を少量含む。
 - 8 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を少量含む。
 - 9 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を少量含む。
 - 10 灰褐色シルト、粘質、しまり中硬、粘粉層を少量含む。

川跡3

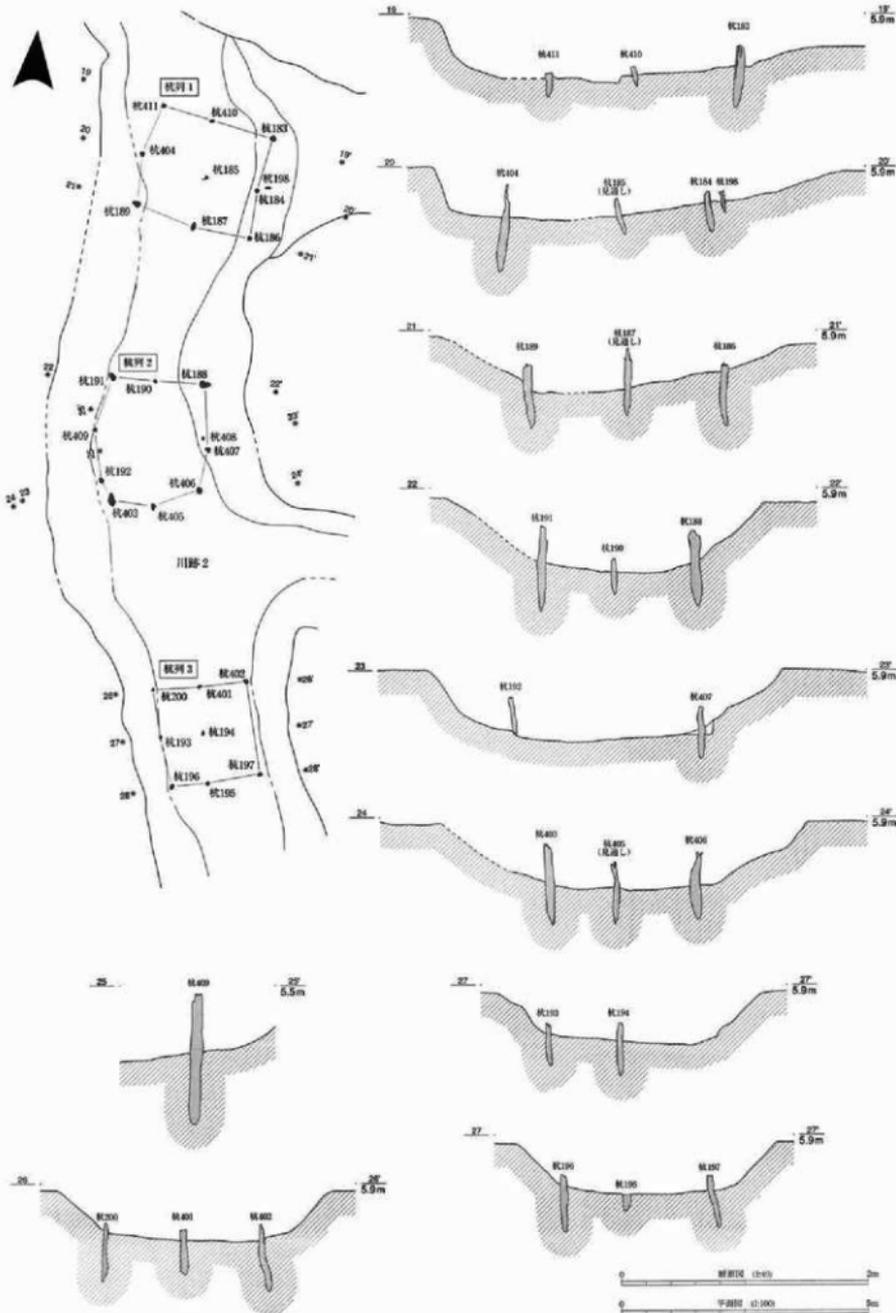
川跡3

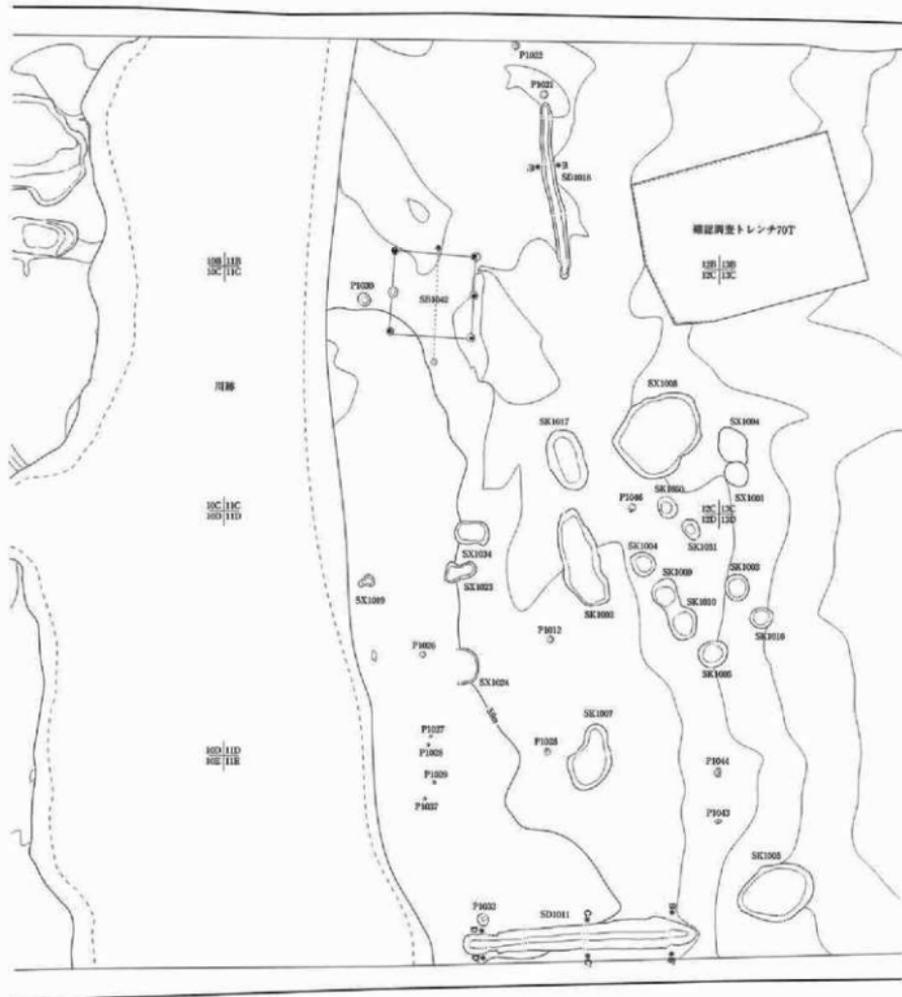


川跡1

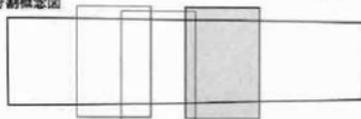
川跡2

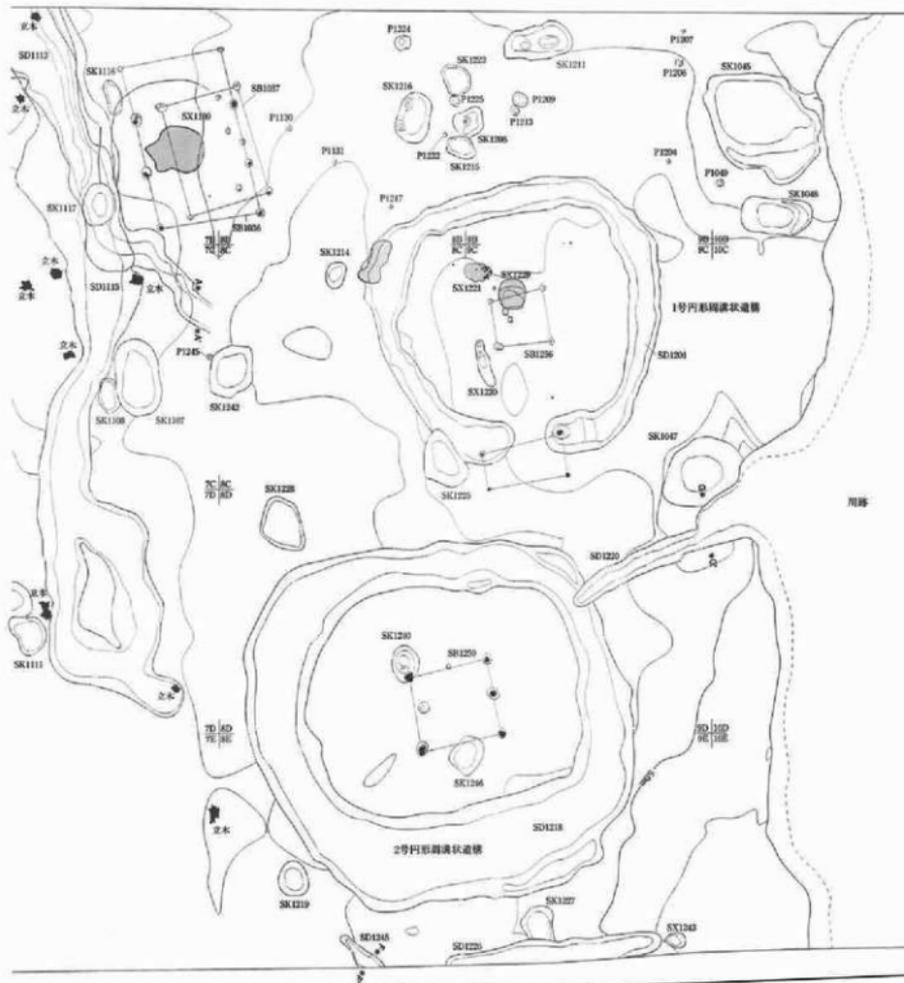




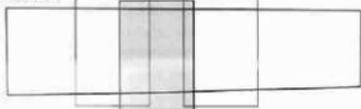


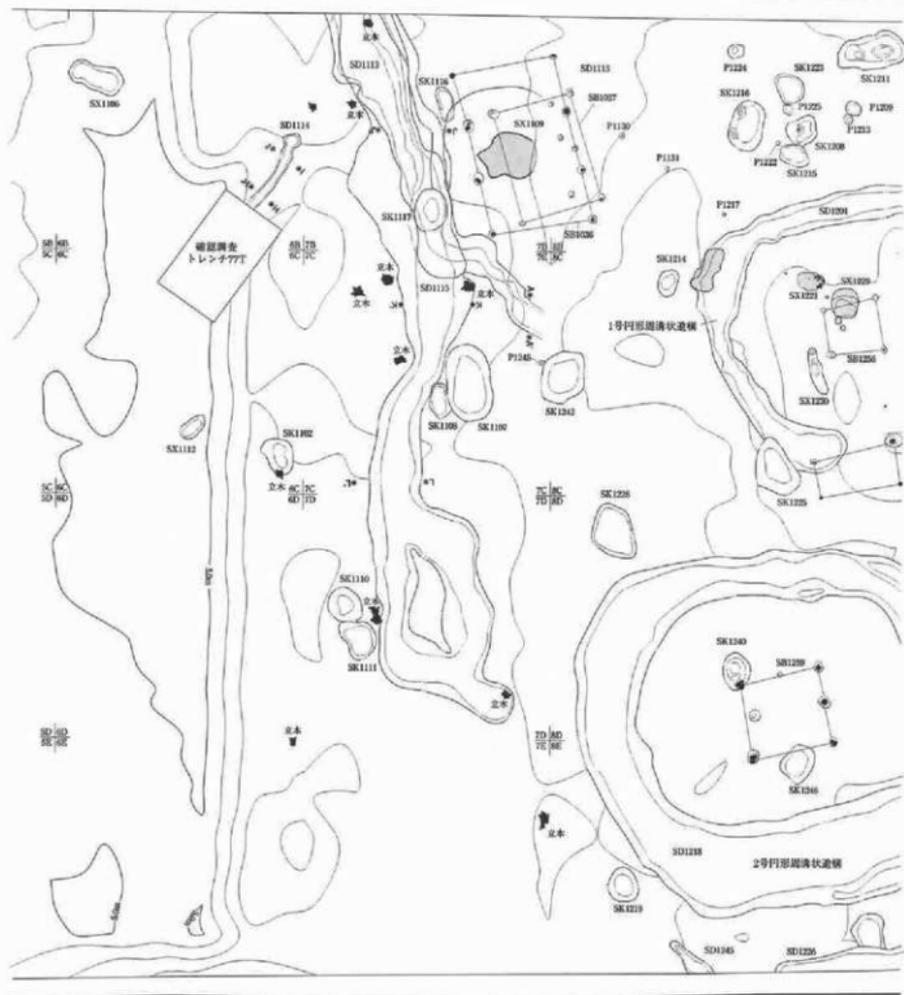
分割概念図





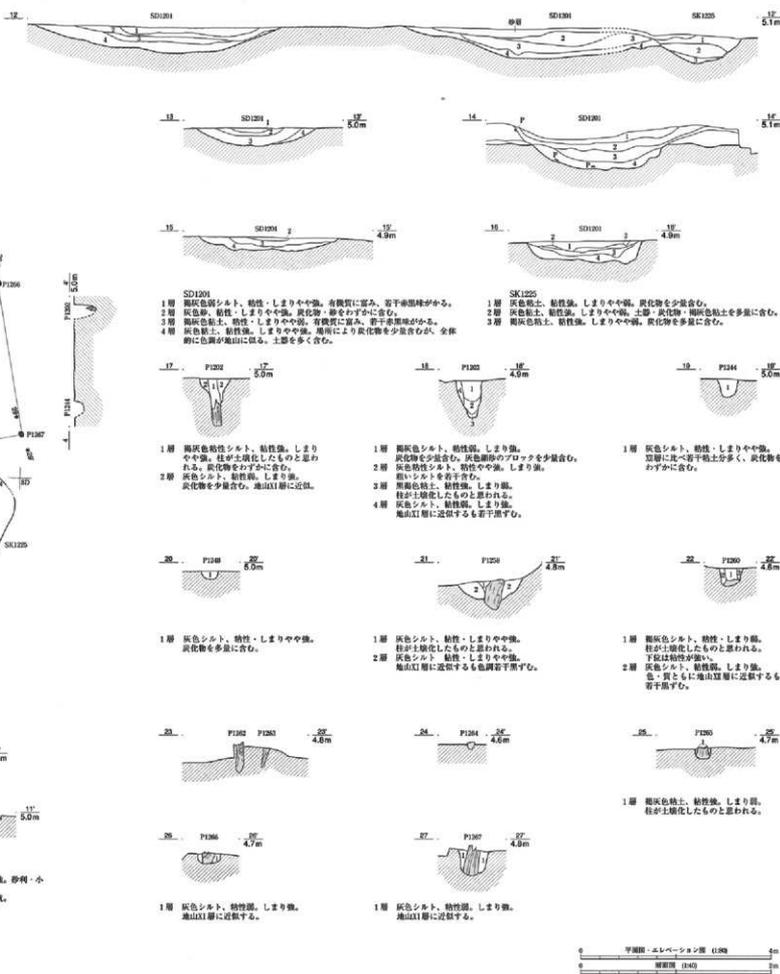
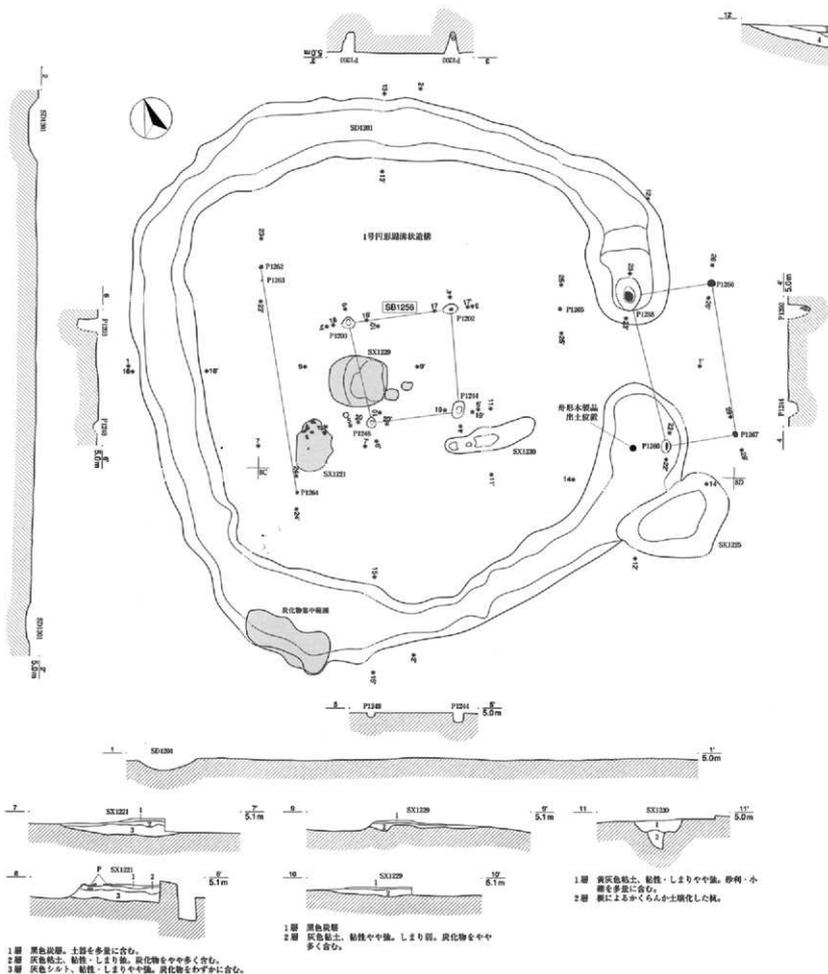
分割概念図





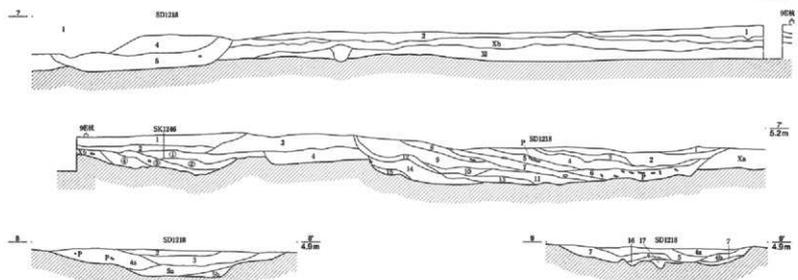
分割概念図



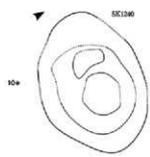




2号円形溝状遺構



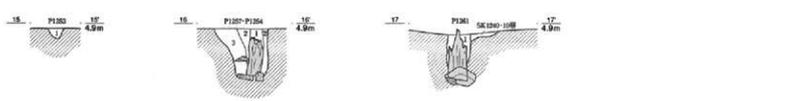
- SD1218
- 1層 遺構の残りと思われる。
 - 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。互層構造。
 - 3層 灰色粘粘土、粘性・しまりやや強。シルトとの互層構造。
 - 4層 灰色粘粘土、粘性・しまりやや強。3層より粘土分多い。
 - 4a層 層上部分の中層。
 - 5層 灰色シルト、粘性やや強。しまりやや強。5mm大の炭化物をわずかに含む。
 - 6層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。5層に比べ炭化物を多量に含む。土層を少量含む。色黄やや弱。
 - 7層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。6層に比べ炭化物の最少含む。土層を多量に含む。
 - 8層 灰色シルト、粘性やや強。しまり強。炭化物をわずかに含む。
 - 9層 灰色シルト、粘性やや強。しまり強。層に比べ粘土分がやや多く認められる。
 - 10層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。層よりさらに粘土分多。
 - 11層 灰色粘粘土、粘性・しまりやや強。炭化物をやや多く含む。
 - 12層 灰色粘粘土、粘性やや強。しまりやや強。炭化物をやや多く含む。土層を多量に含む。
- SK1246
- 1層 灰色粘粘土、粘性・しまりやや強。灰白色炭粒子・暗褐色土をわずかに含む。
 - 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。1層に似た粘土分をやや多く含む。
 - 3層 灰色シルト、粘性。しまりやや強。5mm大の炭化物をわずかに含む。
 - 4層 灰色粘粘土、粘性・しまりやや強。5mm大の炭化物をわずかに含む。



- SK1240
- 1層 灰色砂質シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
 - 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。
 - 3層 黒褐色粘土、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。
 - 4層 灰色砂質シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
 - 5層 シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。
 - 6層 灰色砂質シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。
 - 7層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
 - 8層 灰色粘土、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
 - 9層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をやや多く含む。
- SK1246
- 10層 黒色粘土、粘性・しまりやや強。炭化物・土層を多量に含む。
 - 11層 黒褐色粘土、粘性・しまりやや強。炭化物を多量に含む。
 - 12層 黒褐色粘土、粘性・しまりやや強。炭化物を多量に含む。
 - 13層 黒褐色粘土、粘性・しまりやや強。炭化物を多量に含む。
 - 14層 灰色粘土、粘性・しまりやや強。炭化物・暗褐色土を多量に含む。

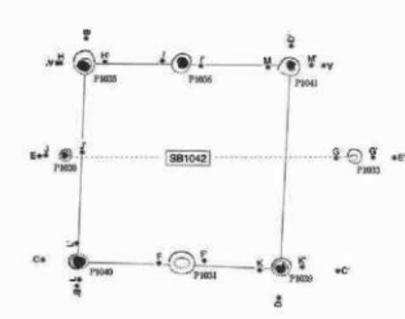
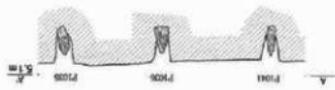


- P1200
- 1層 黒褐色粘土、粘性・しまりやや強。
 - 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
 - 3層 灰色粘土、粘性・しまりやや強。
- P1201
- 1層 黒褐色粘土、粘性・しまりやや強。
 - 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。
- P1202
- 1層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。
 - 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
 - 3層 灰色砂質シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。

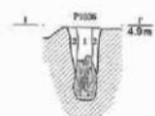
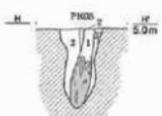
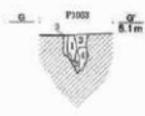
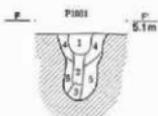


- P1203
- 1層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を多量に含む。
- P1204
- 1層 灰色粘土、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。
 - 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
 - 3層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
- P1205
- 1層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。暗褐色粘土が全体に混入する。





平面図・エレベーション図 (1:50) 4m

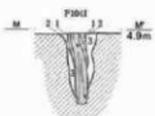
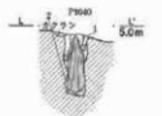
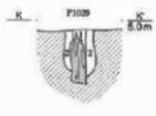
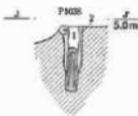


- 1層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を多量に含む。
- 2層 オリーブ灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
- 3層 黒褐色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を多量に含む(粘板)。
- 4層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。
- 5層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。4層に比べ粘性がやや強い。

- 1層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物・植物遺体をわずかに含む。
- 2層 黒褐色粘土、粘性・しまりやや強。植物遺体をわずかに含む。
- 3層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。
- 4層 黒灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。

- 1層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物・植物遺体を少量含む。
- 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。植物遺体をわずかに含む。
- 3層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。2層に比べ砂質が強い。炭化物をわずかに含む。

- 1層 黒灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物・植物遺体を多量に含む。
- 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。



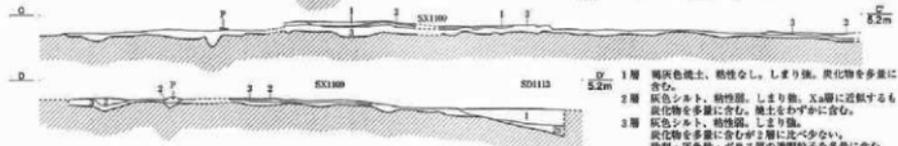
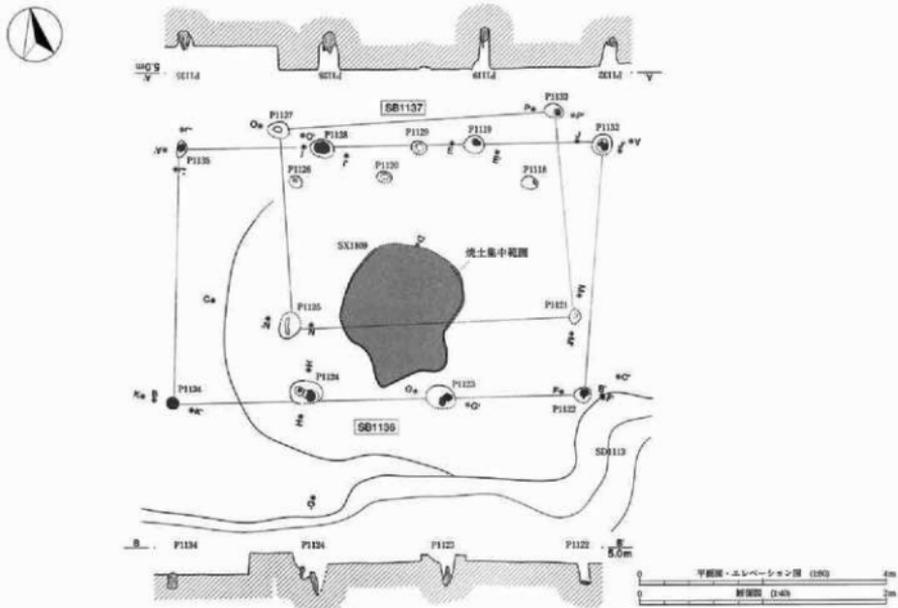
- 1層 黒灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物・植物遺体を多量に含む。
- 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。

- 1層 黒灰色粘土、粘性・しまり強。
- 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。

- 1層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
- 2層 黒灰色シルト、粘性・しまりやや強。植物遺体を多量に含む。
- 3層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。

- 1層 黒灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
- 2層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。
- 3層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。

平面図 (1:40) 2m



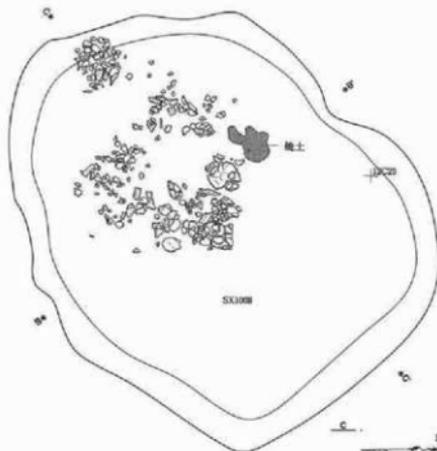
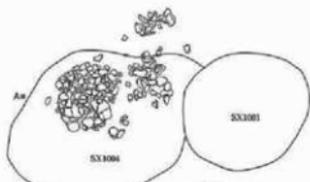
1層 褐色粘土、粘性なし。しまり強。炭化物を多量に含む。
 2層 灰色シルト、粘性弱。しまり強。Xa層に近賦するも炭化物を多量に含む。埋土をわずかに含む。
 3層 灰色シルト、粘性弱。しまり強。炭化物を多量に含むが2層に比べ少ない。砂利・灰色砂・ガラス質の透明粒子を多量に含む。

1層 灰色粘質シルト、粘性弱。しまりやや弱。炭化物をわずかに含む。
 2層 灰色粘土、粘性・しまり強。炭化物をわずかに含む。
 3層 灰色シルト質粘土、粘性強。しまりやや弱。

1層 灰色粘土、粘性やや弱。しまり強。炭化物を少量含む。
 2層 灰色粘土、粘性やや弱。しまりやや弱。シルトをわずかに含む。
 3層 灰色粘土、粘性やや弱。しまり強。炭化物を少量含む。
 4層 灰色粘質シルト、粘性やや弱。しまりやや弱。
 5層 灰色粘土、粘性弱。しまりやや弱。炭化物を少量含む。

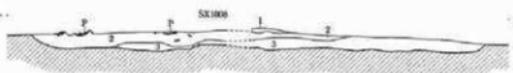
1層 灰色シルト、粘性弱。しまり強。炭化物をわずかに含む。
 2層 灰色粘土、粘性やや弱。しまりやや弱。炭化物を少量含む。
 3層 褐色粘土、粘性弱。しまりやや弱。炭化物を多量に含む。柱が土質化したものと思われる。

1層 灰色シルト、粘性弱。しまり強。炭化物をわずかに含む。
 2層 灰色粘土、粘性・しまり強。シルトをわずかに含む。
 3層 褐色粘土、粘性弱。しまりやや弱。炭化物を多量に含む。柱が土質化したものと思われる。
 4層 灰色シルト質粘土、粘性強。しまりやや弱。炭化物を少量含む。

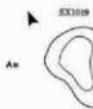


SX1001
1層 黒褐色シルト、粘性・しまりや中強。径1〜2mmの小礫を多量に含む。炭化物を少量に含む。

SX1004
1層 黒褐色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を多量に含む。



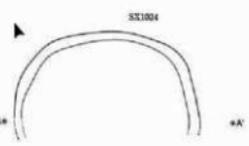
1層 黒灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を多量に含む。
2層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を少量含む。
3層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。灰色の粗砂粒を多量に含む。浅黄褐色の粘土粒を少量含む。



1層 黒褐色シルト、粘性・しまりや中強。黄褐色の粘土ブロック、炭化物、骨片を少量含む。



1層 黒褐色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を少量含む。
2層 黄灰色シルト、粘性・しまりや中強。黄褐色の粘土を少量含む。



1層 黄褐色シルト、粘性・しまりや中強。黄褐色の粗砂粒を多量に含む。小礫、骨片、炭化物を少量含む。
2層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。黄褐色の粗砂粒、炭化物を少量含む。

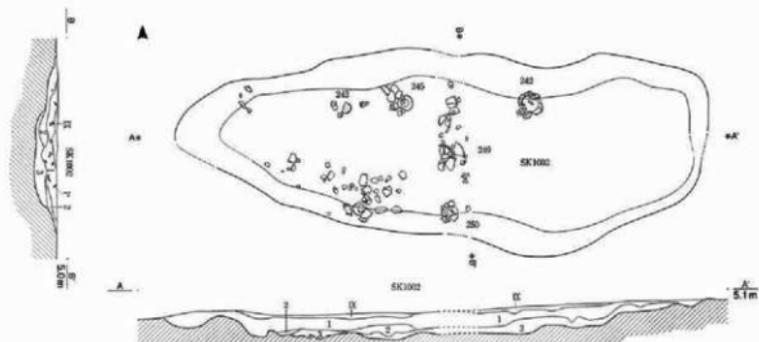


1層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物・黄褐色の粘土粒を多量に含む。

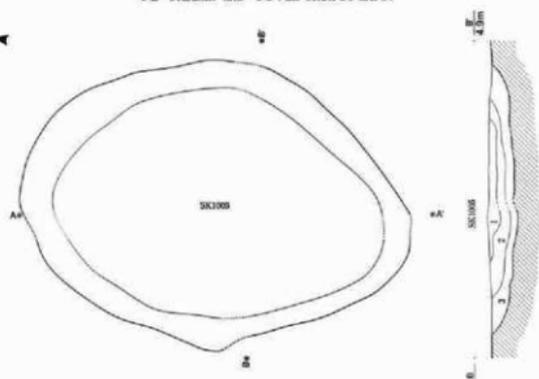


1層 黒灰色砂、粘性少し。しまり弱。植物遺体を多量に含む。
2a層 黒灰色シルト、粘性・しまり弱。灰色砂・植物遺体を多量に含む。
2b層 黒灰色シルト、粘性・しまり弱。2a層より砂を多量に含む。
2c層 2a層に近似。
3層 黒灰色シルト、粘性・しまり弱。2層ベースだが砂はほとんど含まない。植物遺体・炭化物を多量に含む。

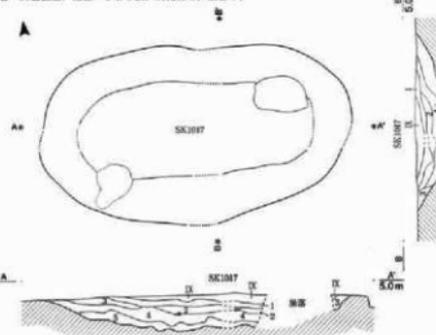




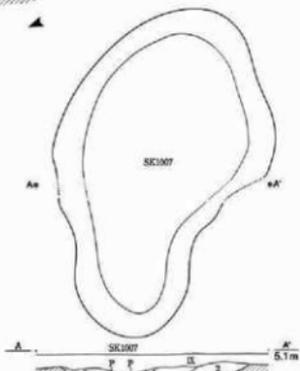
- 1層 黒褐色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を多量に含む。小礫を少量含む。
- 2層 灰褐色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を少量含む。
- 3層 灰褐色粘土、粘性・しまり強。炭化物を少量含む。



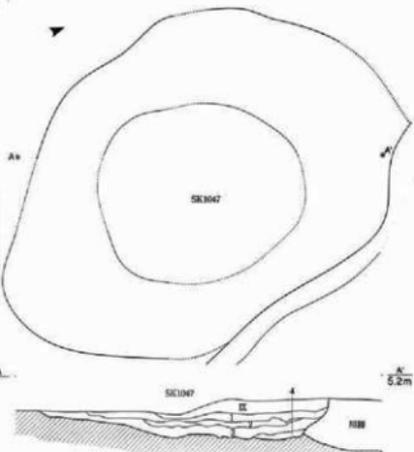
- 1層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を多量に含む。
- 2層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。1層に比べて質が強い。炭化物を少量含む。
- 3層 灰褐色粘土、粘性・しまり強。炭化物を少量含む。



- 1層 黒褐色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を多量に含む。
- 2層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を少量含む。
- 3層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を少量含む。
- 4層 黒褐色粘土、粘性・しまりや中強。土層、炭化物、径2cmの小礫を多量に含む。
- 5層 灰褐色粘土、粘性・しまりや中強。炭化物を少量含む。

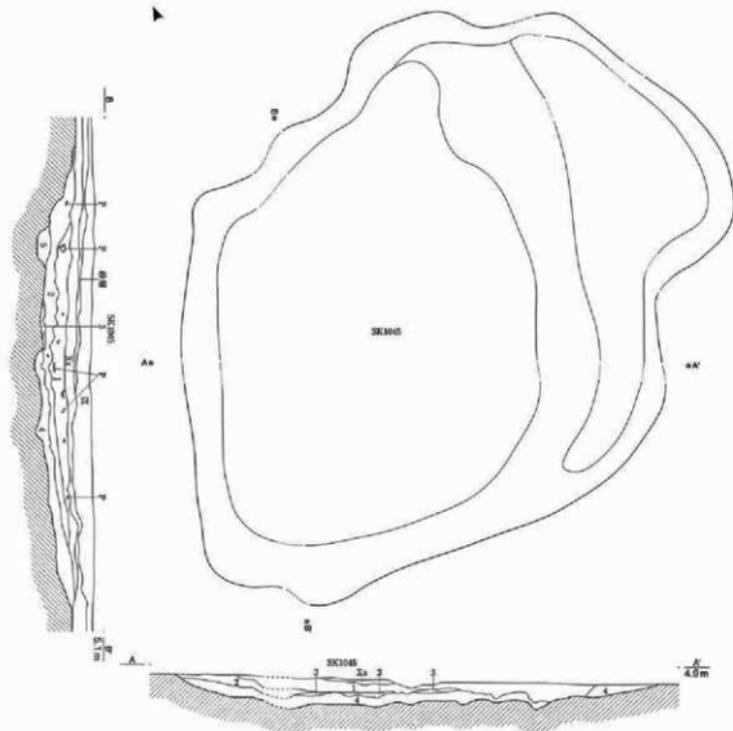


- 1層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。土層・炭化物を多量に含む。
- 2層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を少量含む。

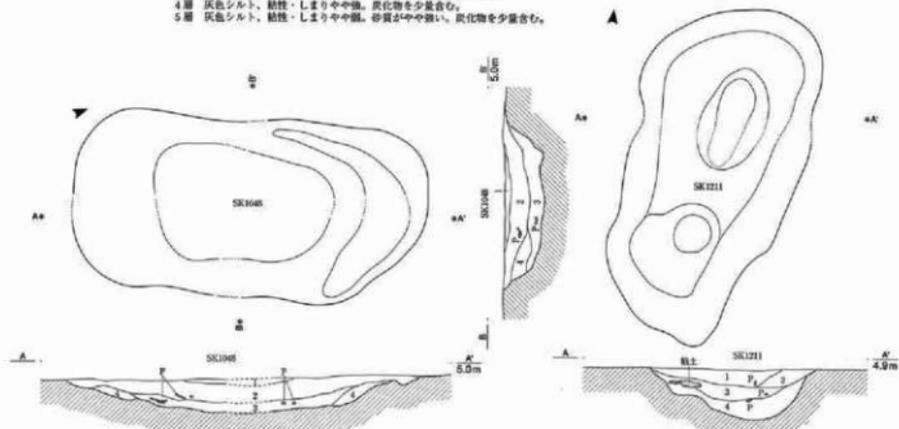


- 1層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物をおおむね含む。
- 2層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を多量に含む。
- 3層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物を少量含む。
- 4層 灰色シルト、粘性・しまりや中強。炭化物をわずかに含む。

0 0.40 1.0m



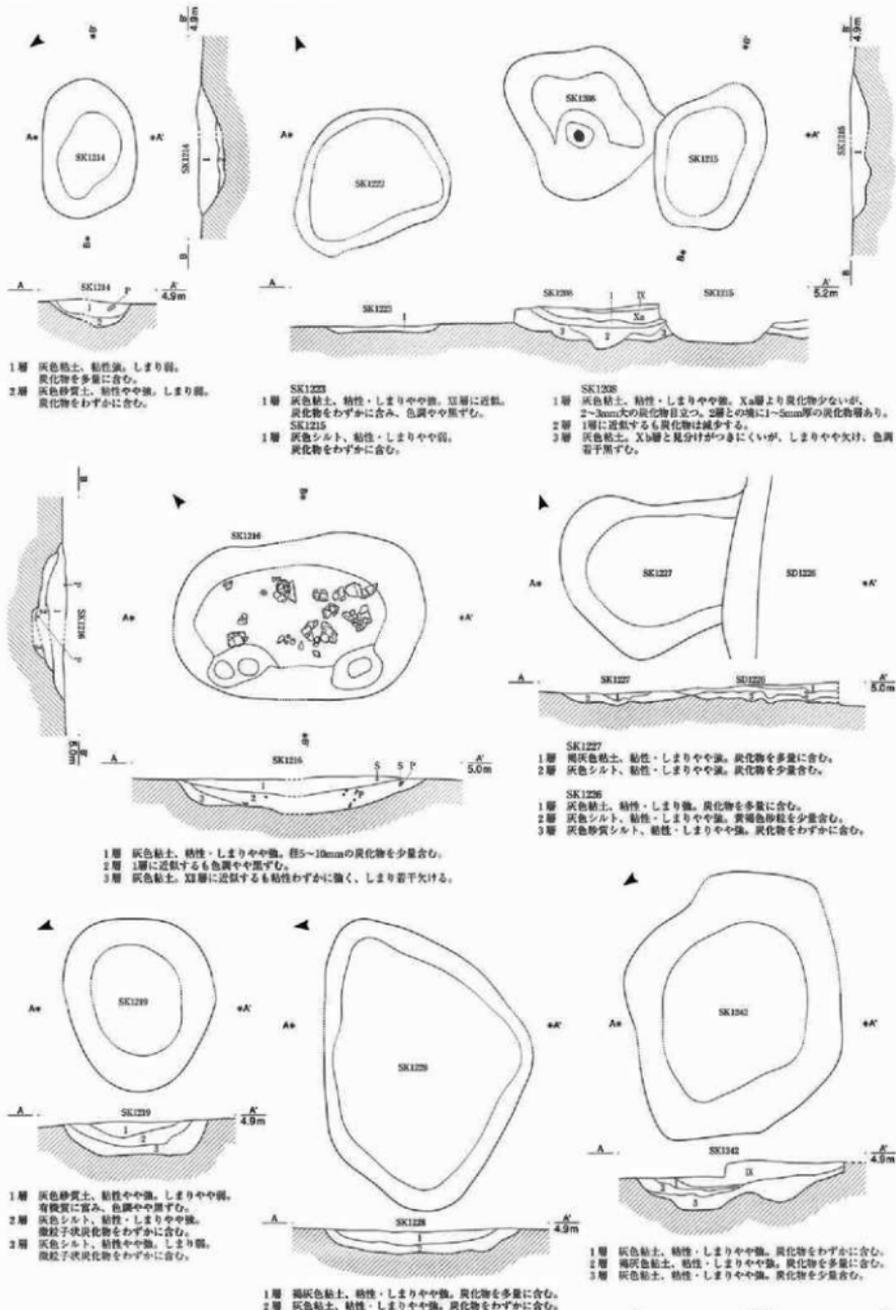
- 1層 黒褐色シルト、粘性・しまりやや強。土部・炭化物を多量に含む。
- 2層 黒褐色シルト、粘性・しまりやや強。灰色シルト、炭化物を多量に含む。
- 3層 黒色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を多くに多量に含む。
- 4層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
- 5層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。砂質がやや強い。炭化物を少量含む。

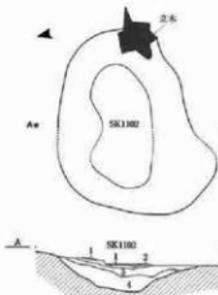


- 1層 黒褐色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。
- 2層 黒褐色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を多量に含む。
- 3層 黒褐色シルト、粘性・しまりやや強。灰色シルト、炭化物を多量に含む。
- 4層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を少量含む。

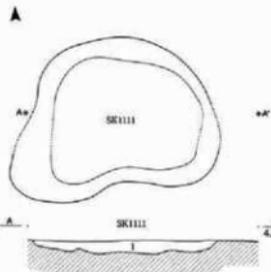
- 1層 灰色粘土。粘性やや強。しまり強。1cm大の炭化物を層下位にやや多く含む。
- 2層 1層に近状。炭化物は少ない。
- 3層 灰色粘土。粘性強。しまりやや弱。色調やや黒ずむ。粘土ブロックを含む。炭化物を少量含む。
- 4層 灰色粘土。粘性やや強。しまり弱。色調さらに黒ずむ。堆山との境に木片が厚く埋没。

0 0.89 2m





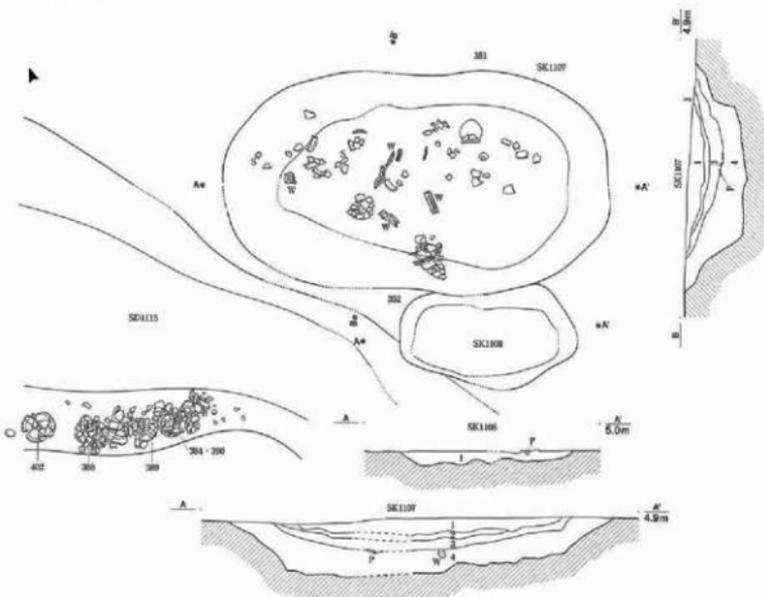
- 1層 灰色シルト、粘性弱、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
- 2層 黒褐色シルト、粘性・しまりやや強。微粒子状の炭化物層をなす。3cm以下の炭化物目立つ。
- 3層 灰色シルト、粘性弱、しまり強。炭化物を少量含む。
- 4層 灰色粘土、粘性・しまりやや強。



- 1層 灰色シルト、粘性弱、しまりやや強。炭化物を多量に含む。灰色雜砂をわずかに含む。

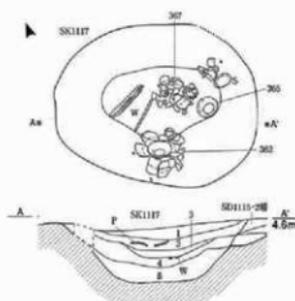


- 1層 灰色シルト、粘性弱、しまりやや強。炭化物を多量に含む。SK1109の3層に近似する。

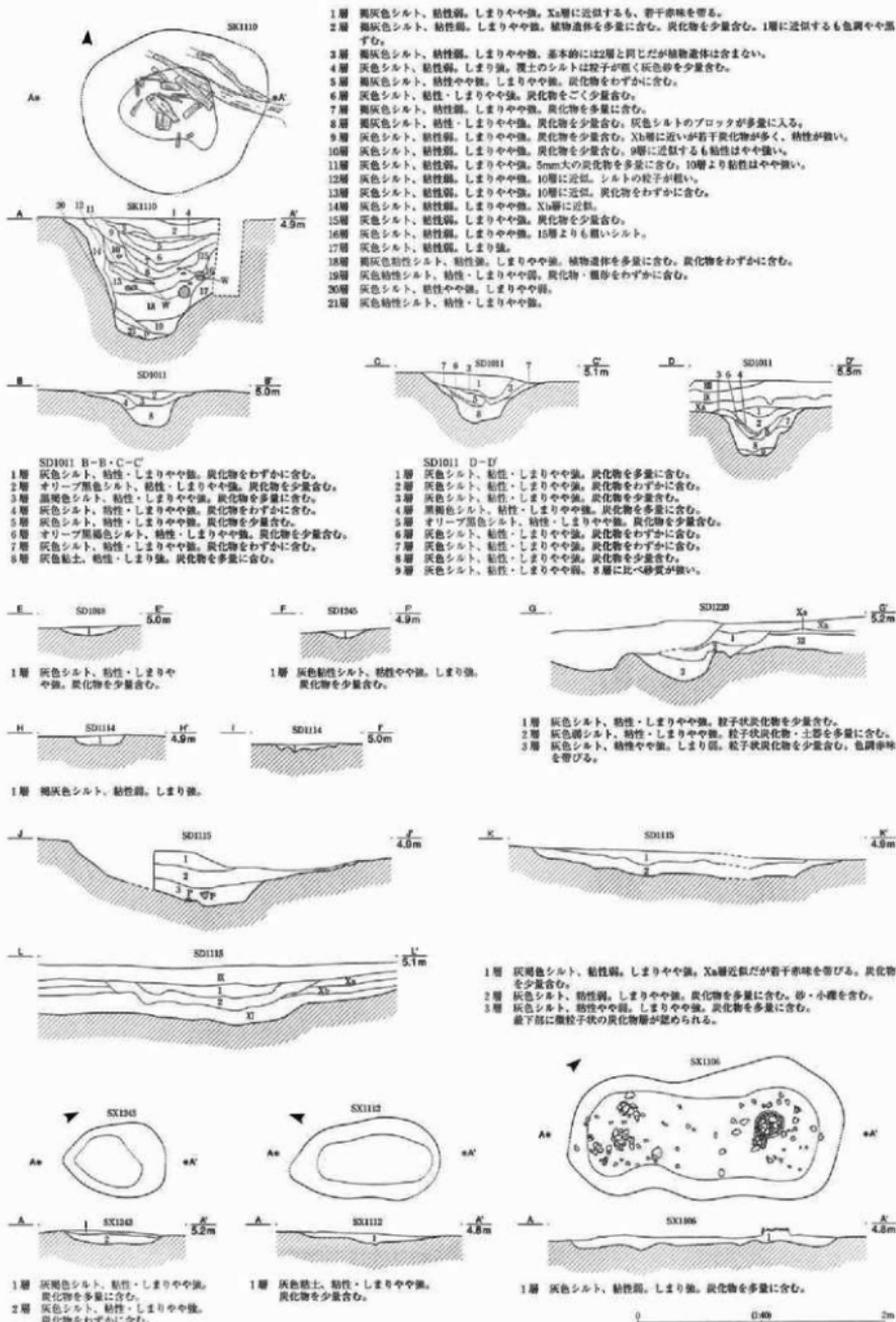


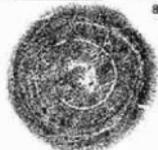
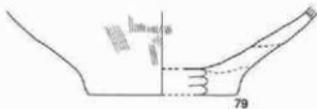
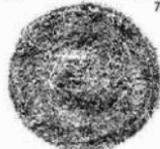
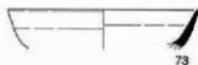
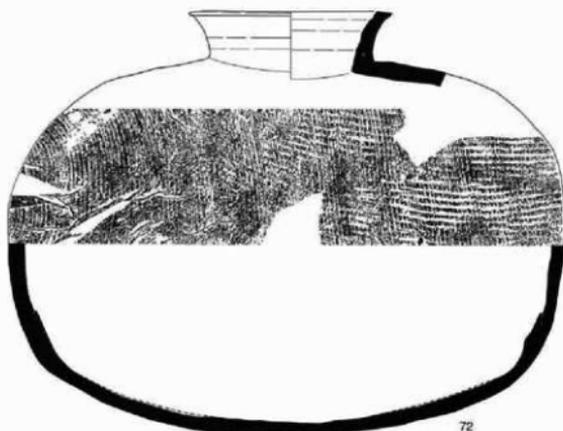
- SK1107
- 1層 黒褐色シルト、粘性弱、しまりやや強。植物遺体を多量に含む。炭化物をわずかに含む。以層に透氣する。
- 2層 灰色シルト、粘性・しまり弱。植物遺体わずかに含む。3層との境に植物遺体のごく薄い層が埋積する。
- 3層 灰色シルト、粘性やや強、しまり弱。炭化物を少量含む。
- 4層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物・植物遺体・土器を多量に含む。

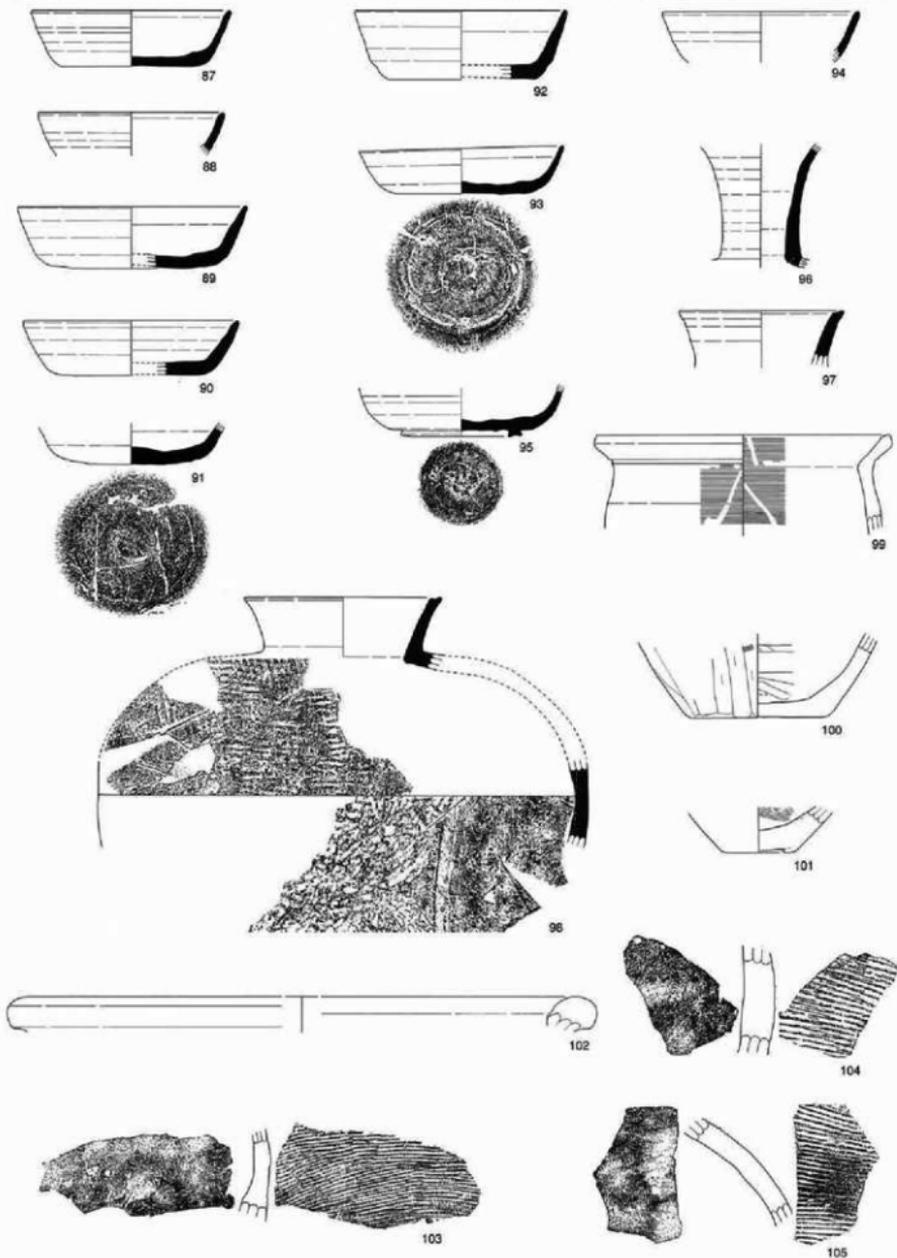
- SK1108
- 1層 灰色シルト、粘性・しまりやや強。炭化物を多量に含む。

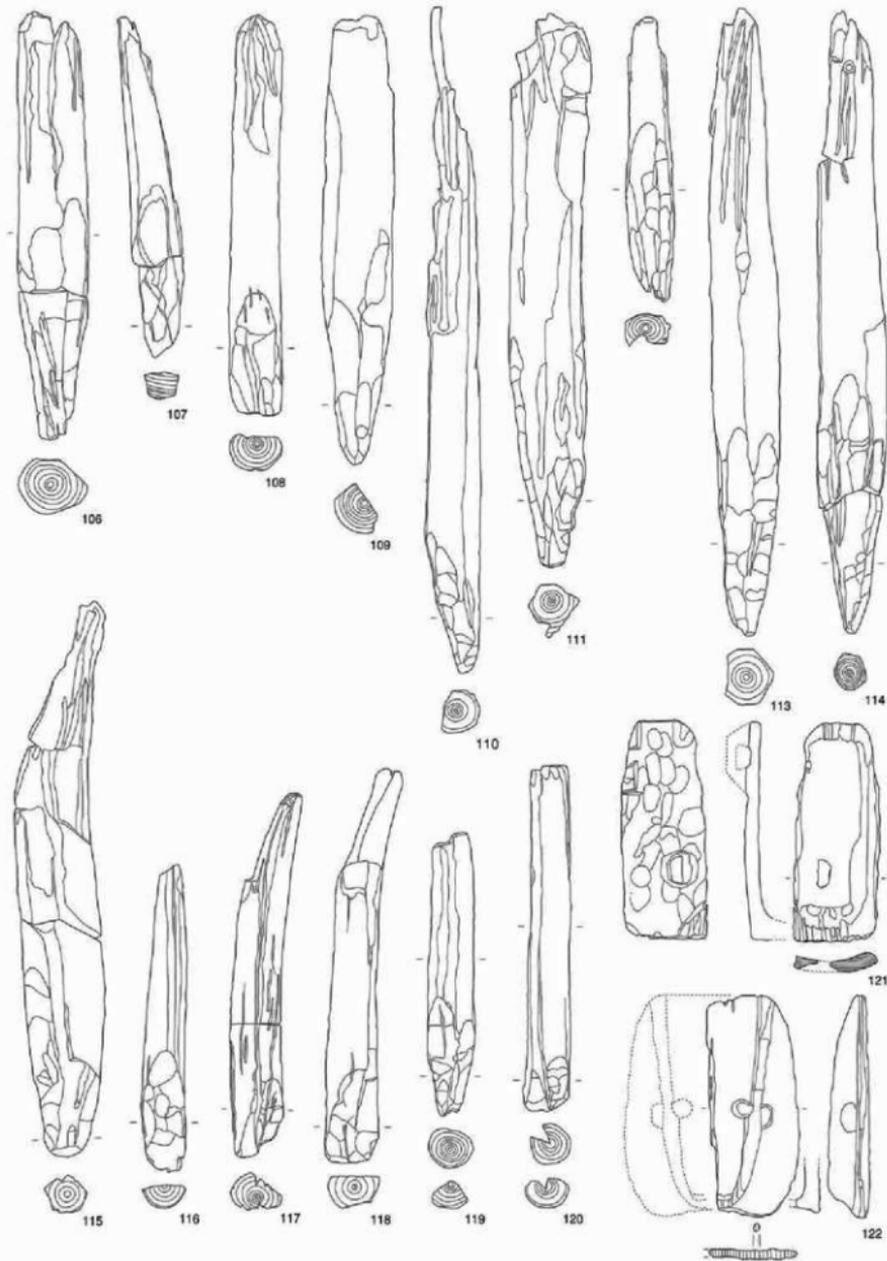


- SK1117
- 1層 黄灰色粘性シルト、粘性強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。植物遺体を少量含む。
- 2層 黄灰色粘土、粘性強、しまりやや強。1層に似るが下に植物遺体を多量に含む。土器・灰・骨片を含む。
- 3層 黒褐色粘性シルト、粘性強、しまりやや強。炭化物・植物遺体を多量に含む。
- 4層 黒褐色粘土、粘性・しまり強。炭化物・植物遺体を多量に含む。灰色砂をわずかに含む。
- 5層 黄灰色粘土、粘性強、しまり弱。炭化物・植物遺体・灰色雜砂を少量含む。



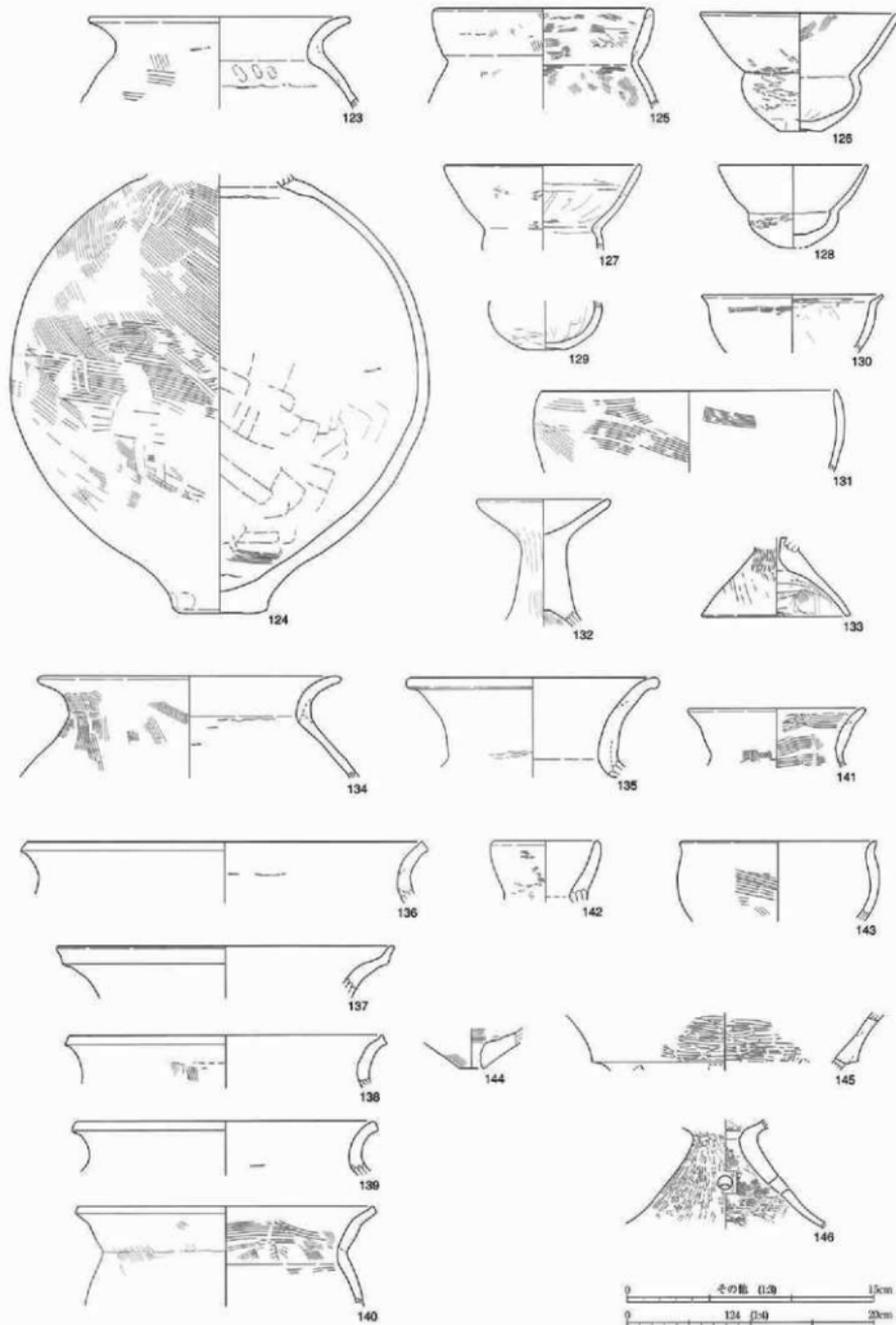




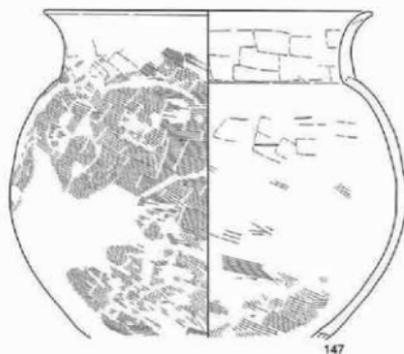


0 121・122 (1:6) 30cm

0 106-120 (1:5) 40cm



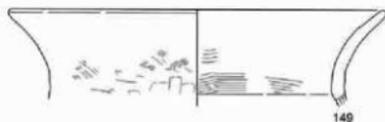
0 15cm
 0 124 (1:4) 25cm



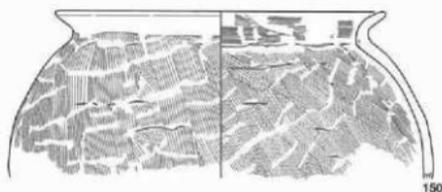
147



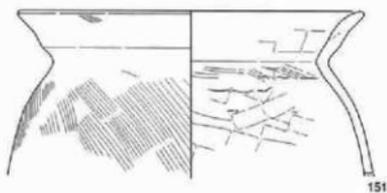
148



149



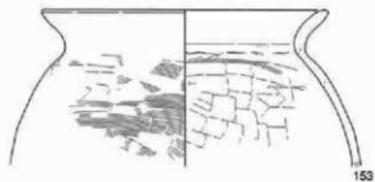
150



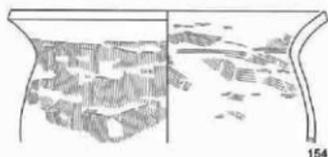
151



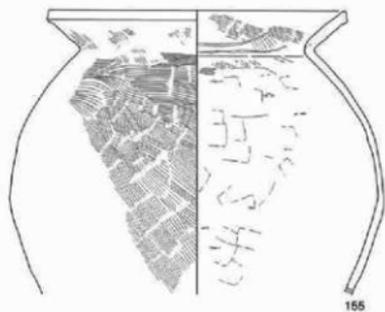
152



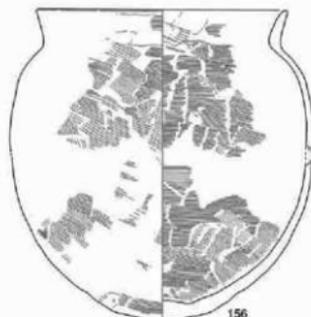
153



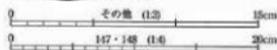
154



155

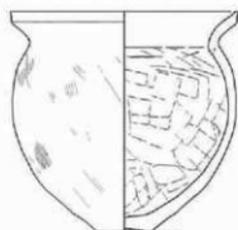


156





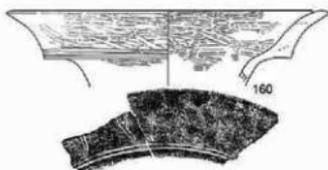
157



158



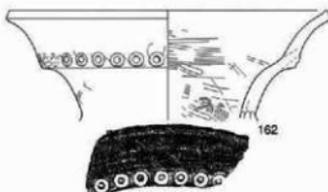
159



160



161



162



163



164



165



166



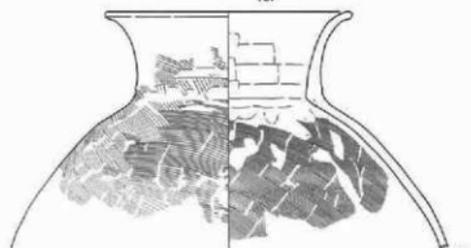
169



167



168

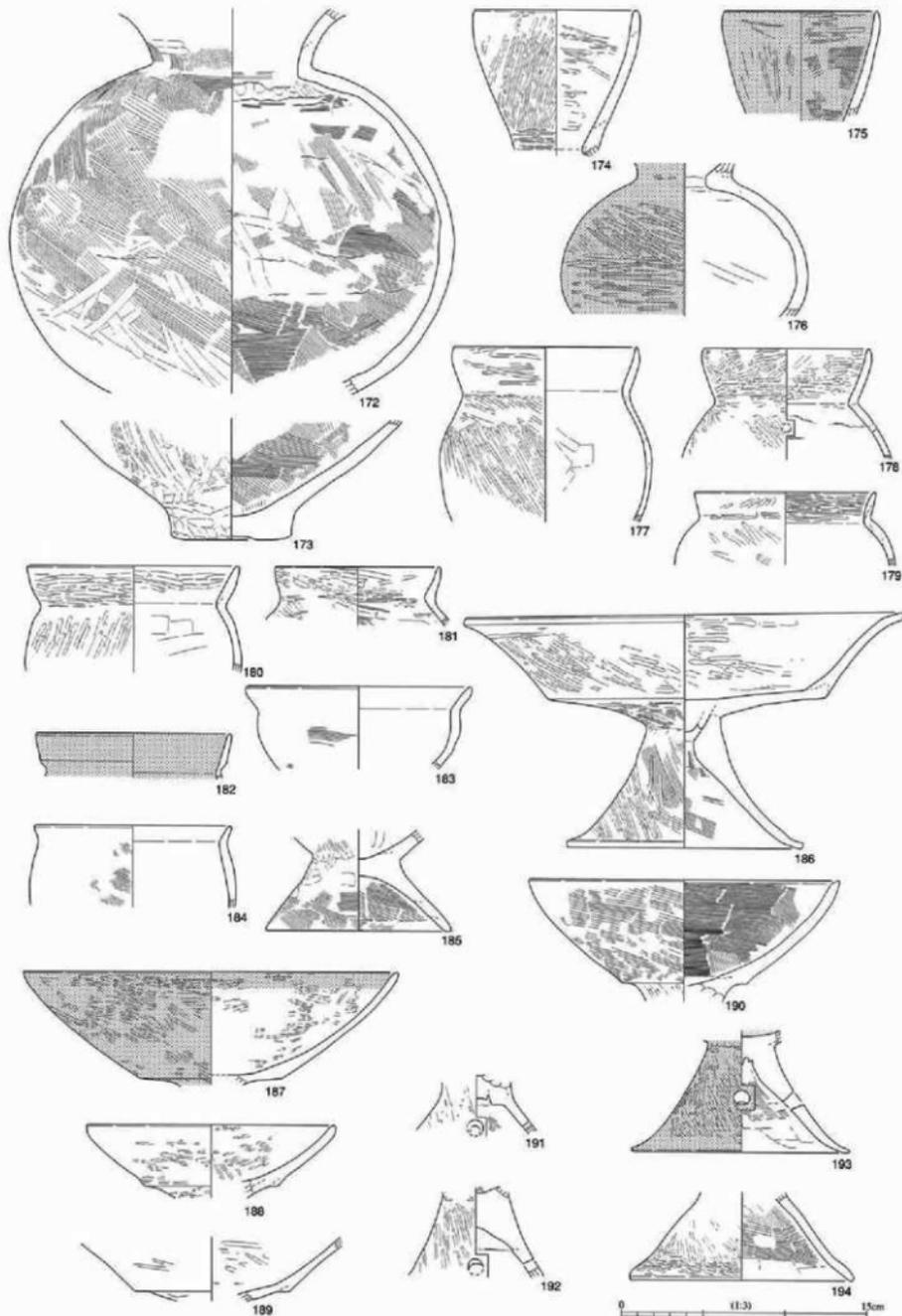


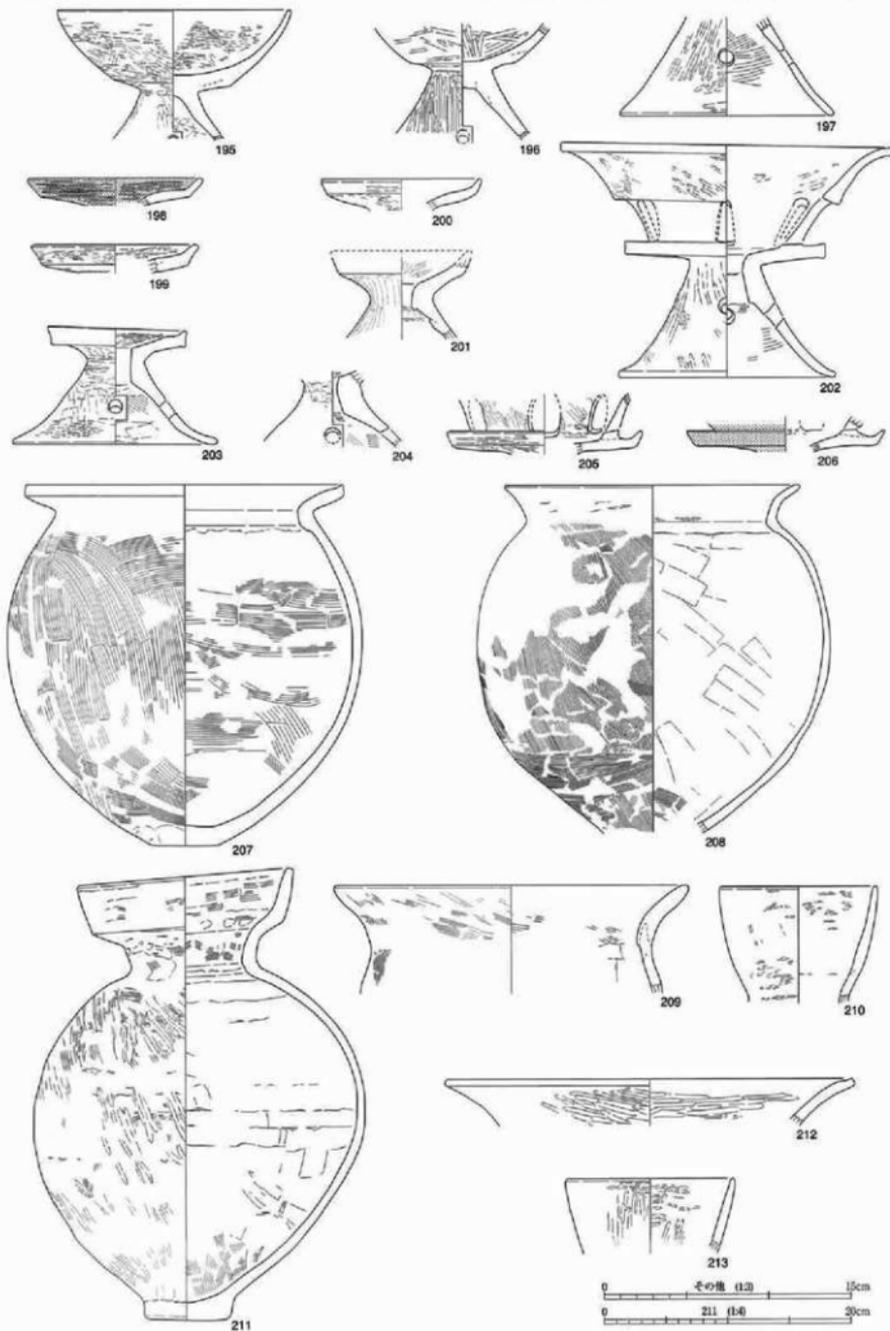
170

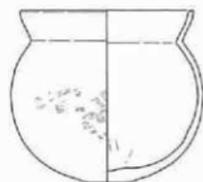


171

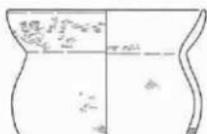




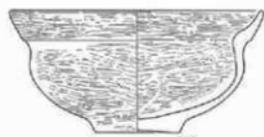




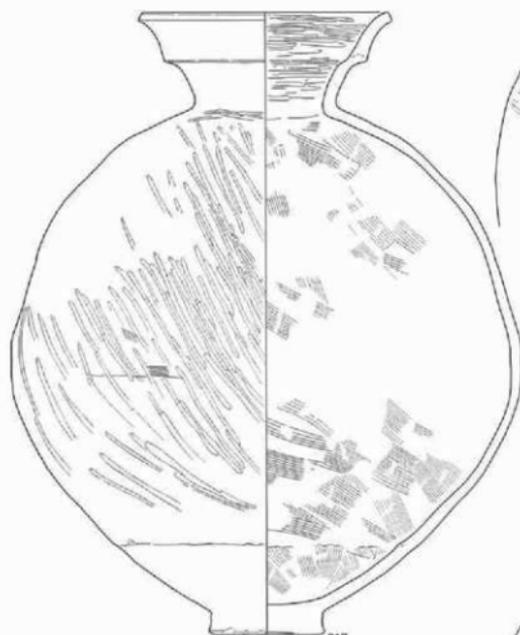
214



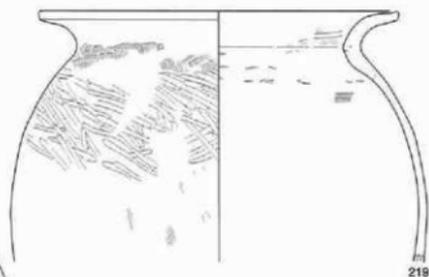
215



216



217



219



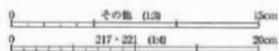
220

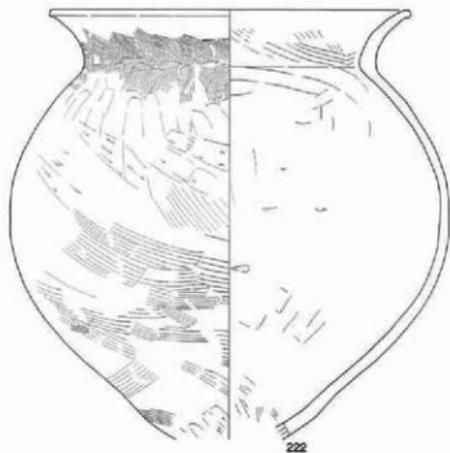


218

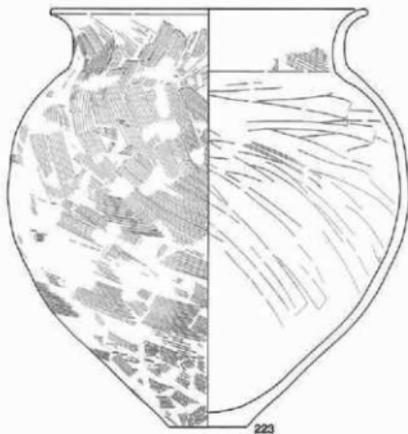


221

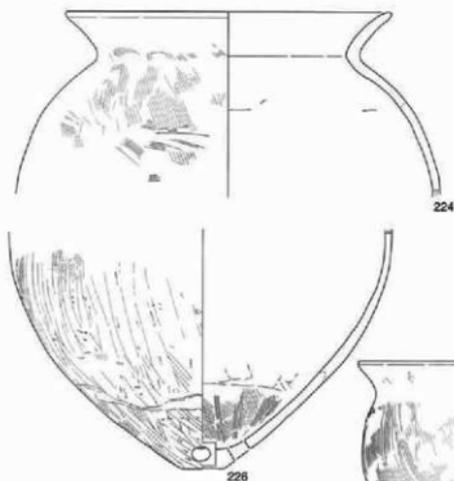




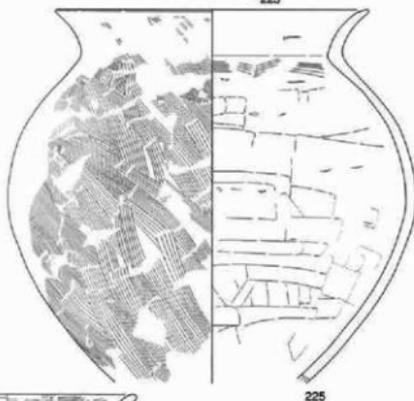
222



223



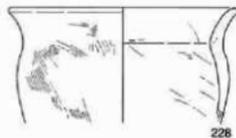
224



225



227



228



229

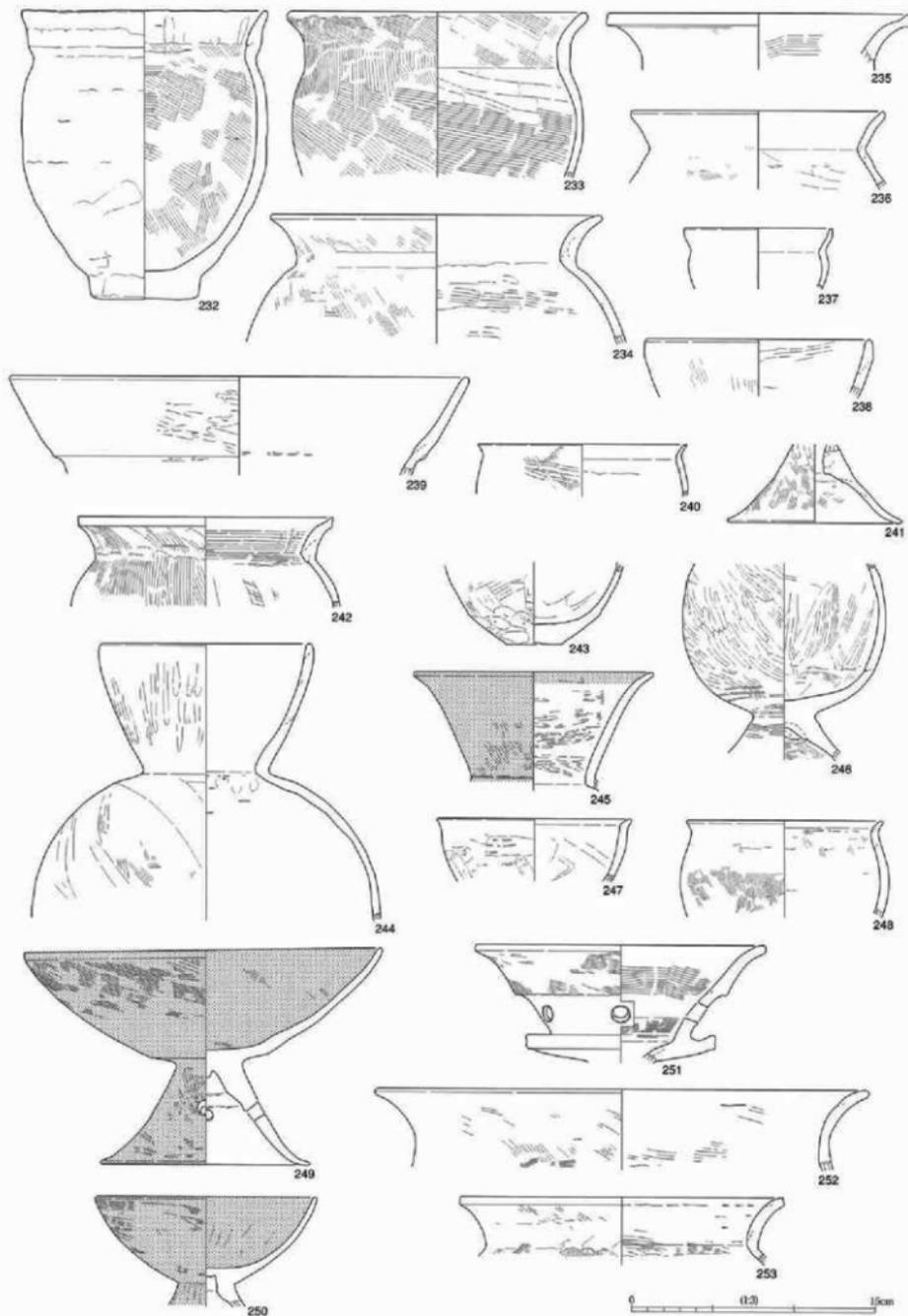


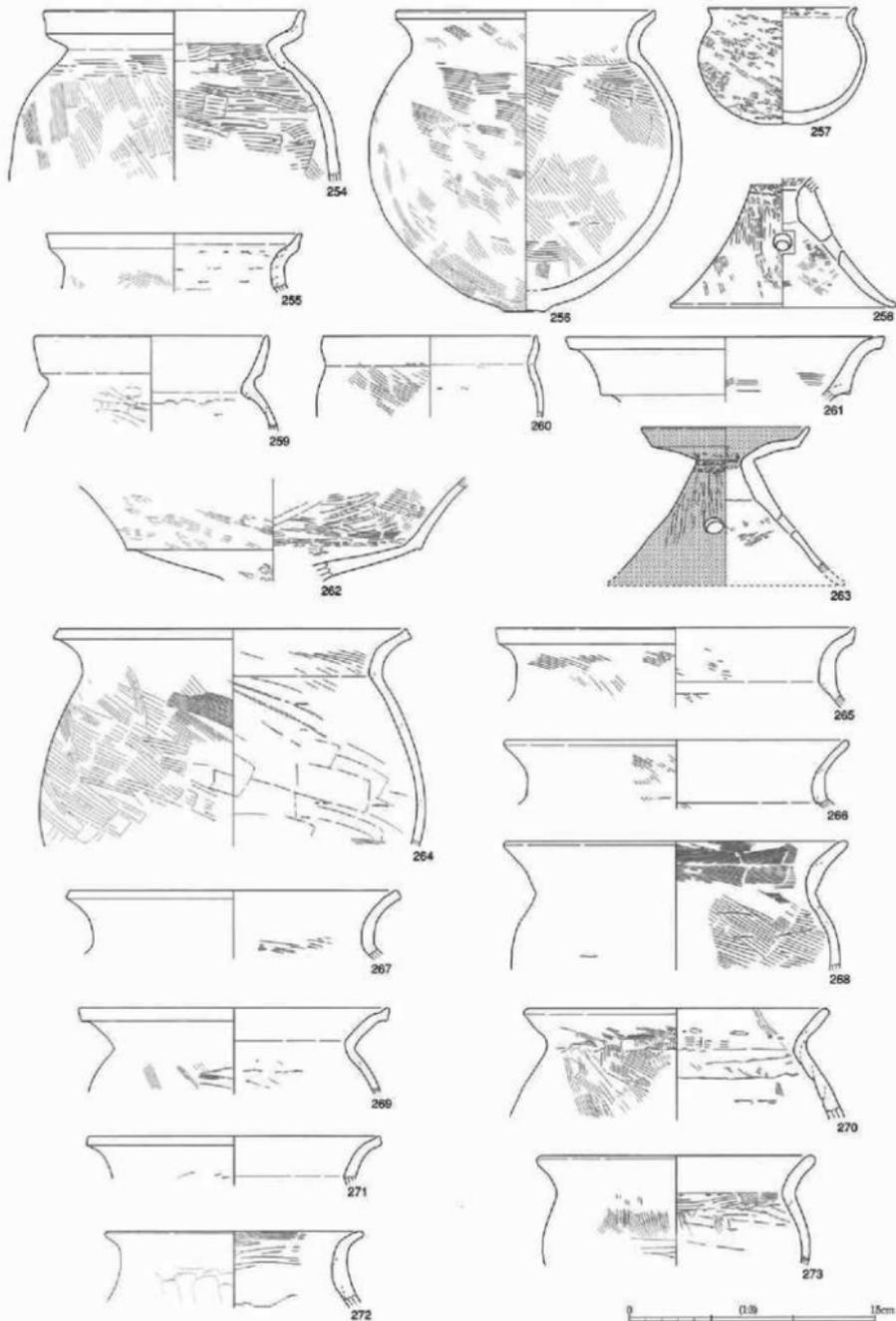
230

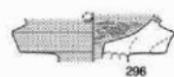
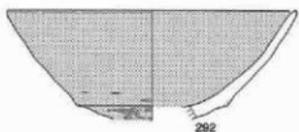
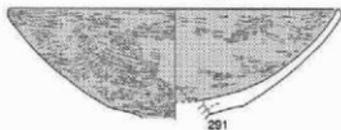
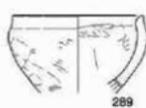
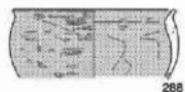
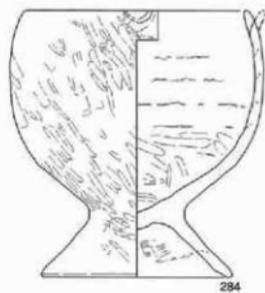
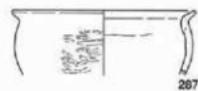
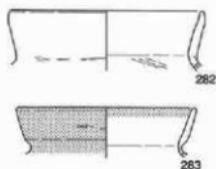
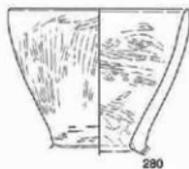
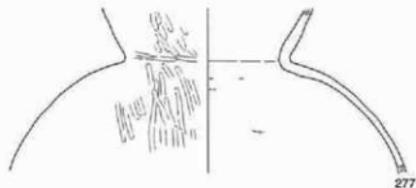
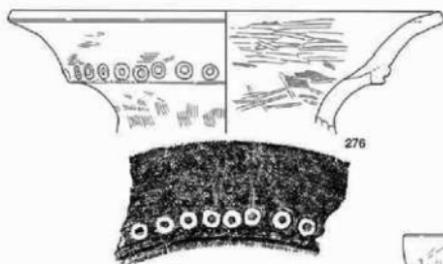
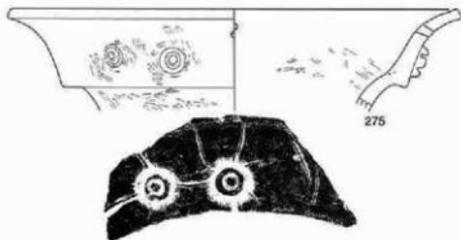
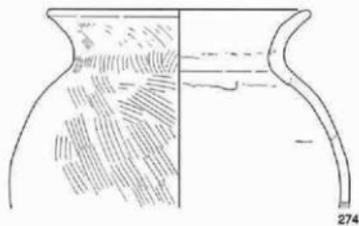


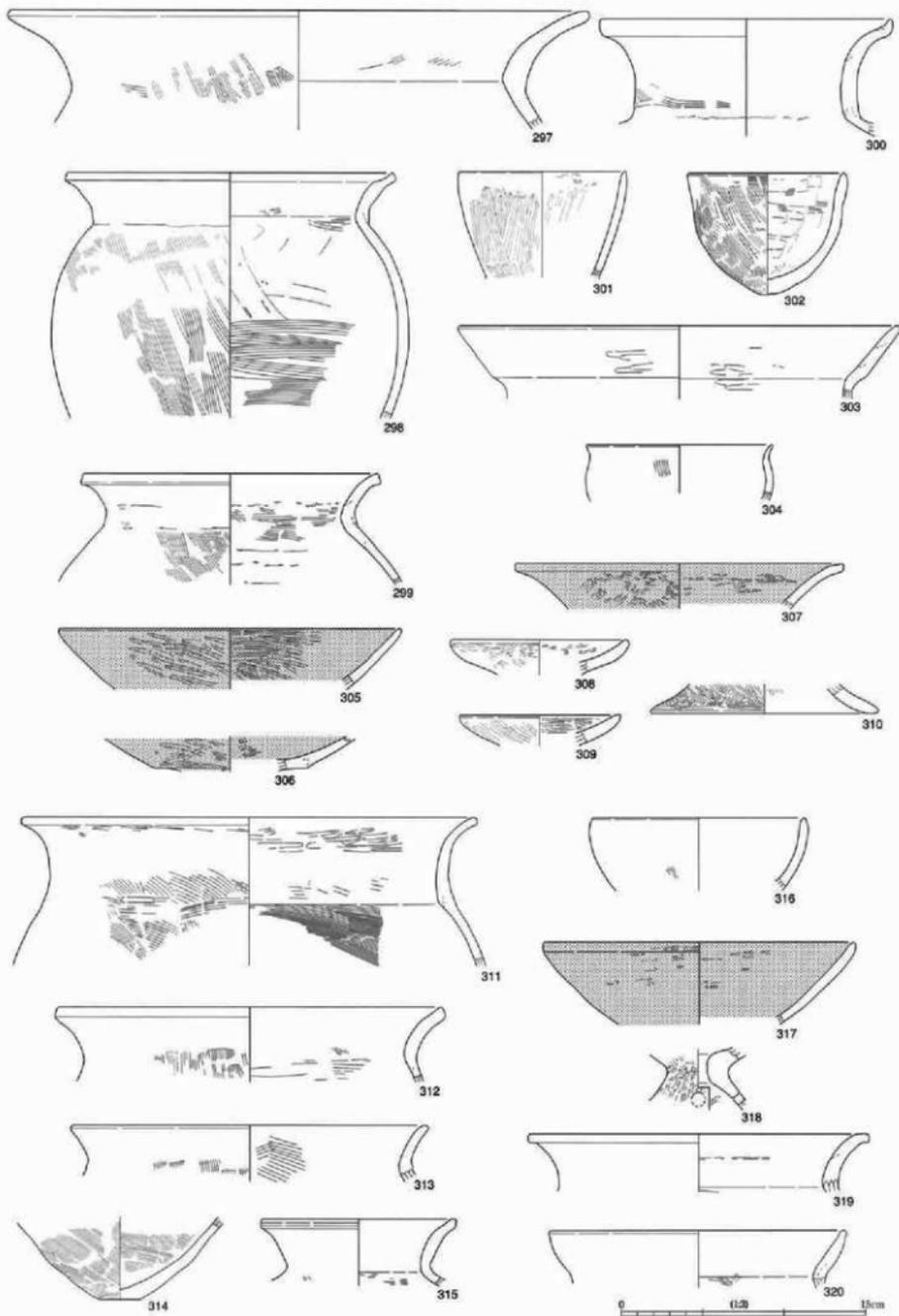
231

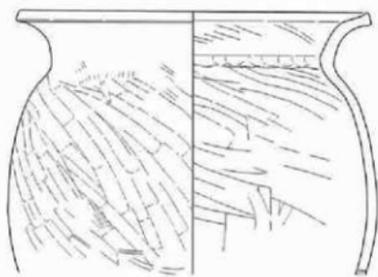








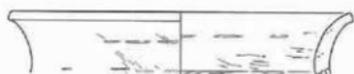




321



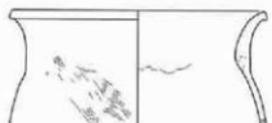
323



324



325



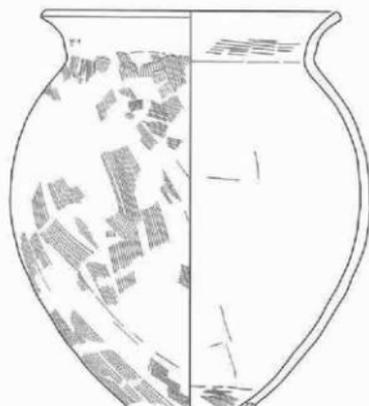
327



329



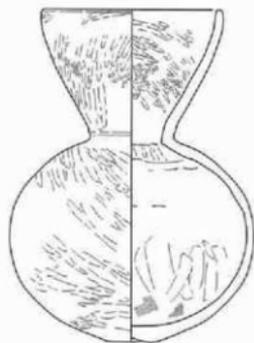
322



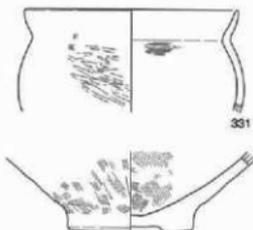
326



328



330



332



334



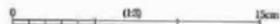
333

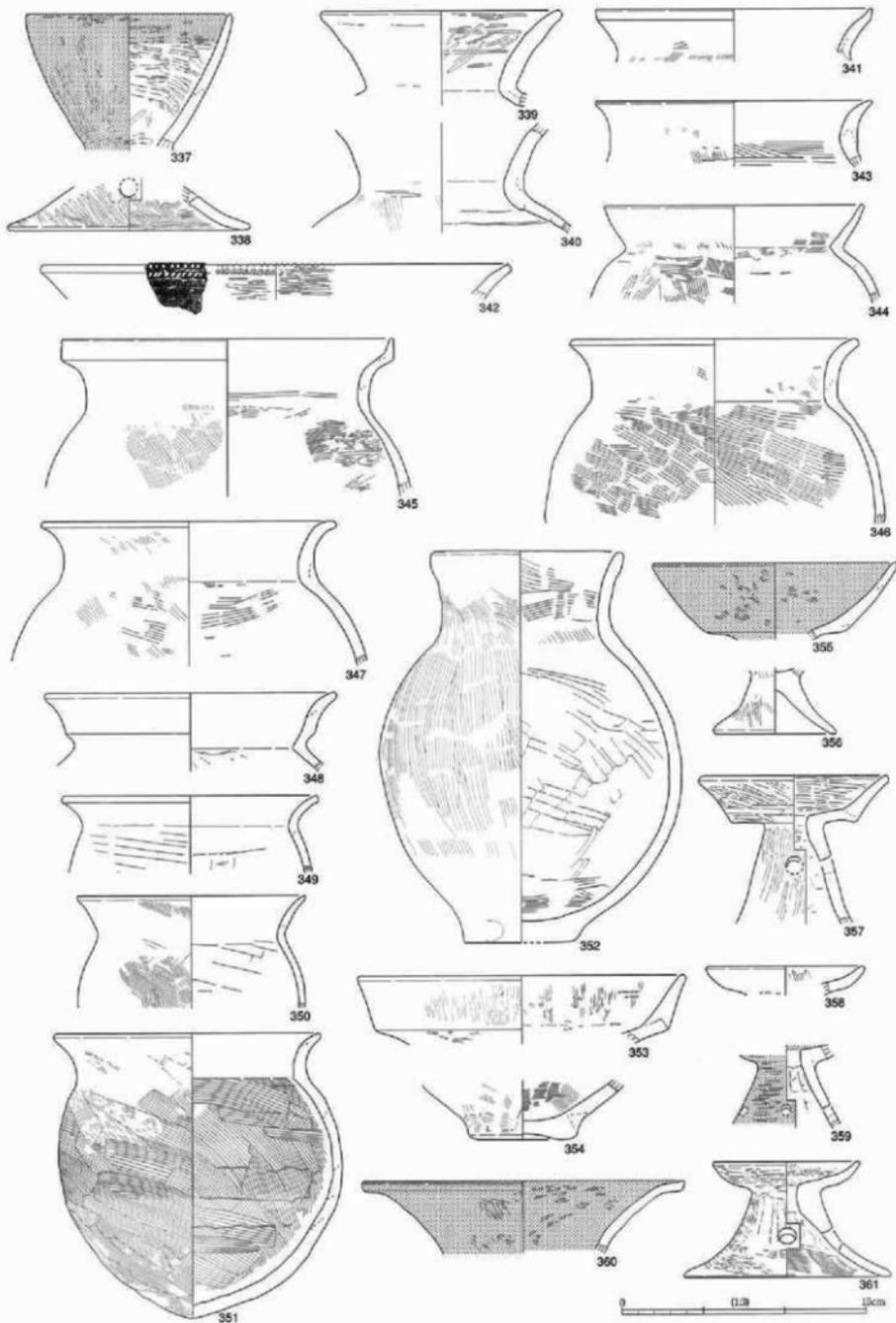


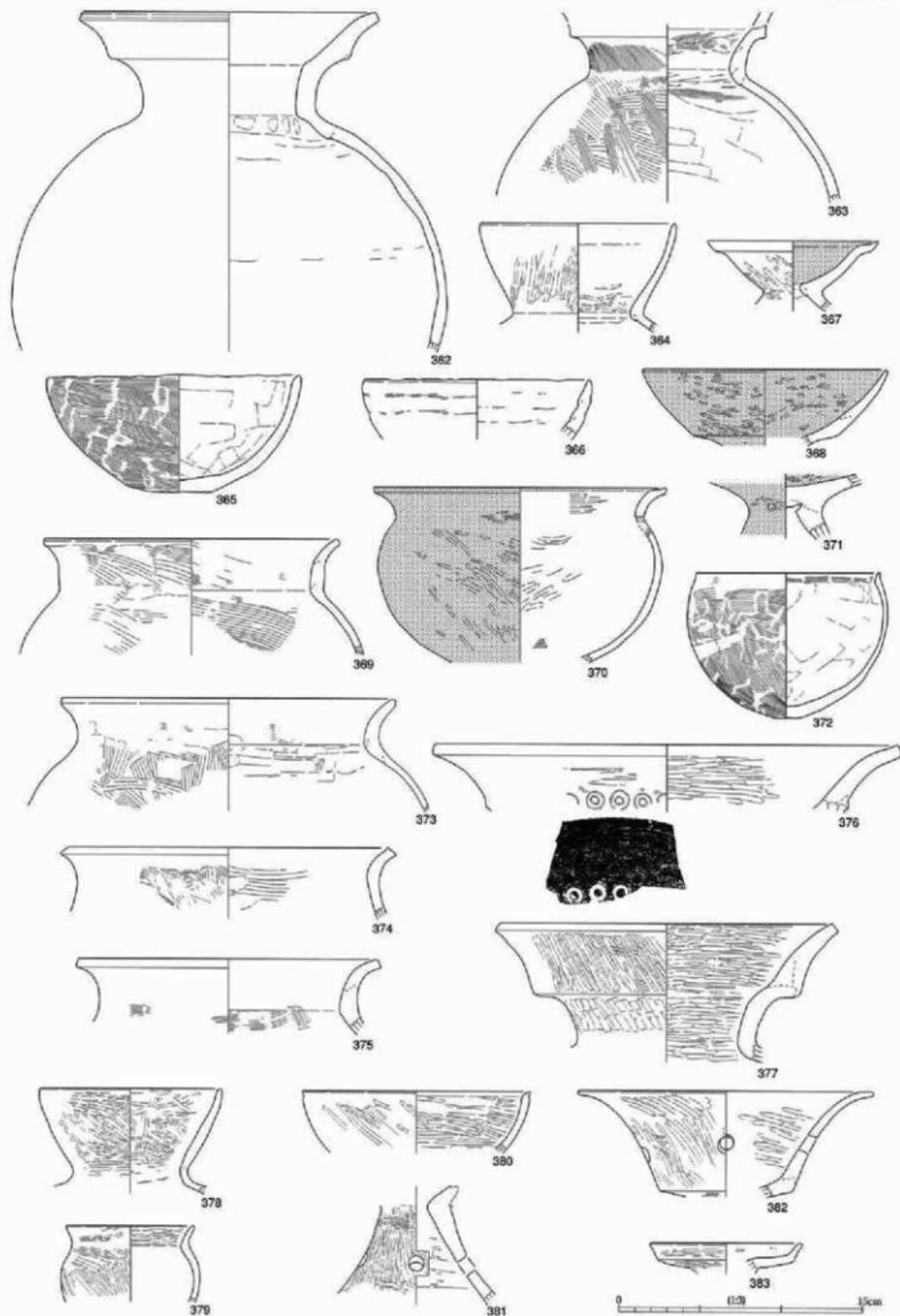
335

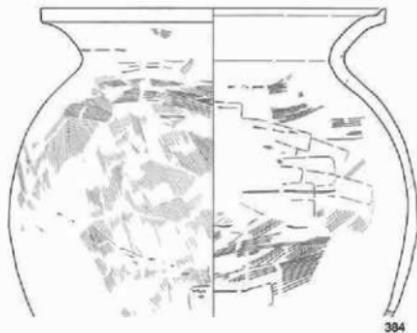


336

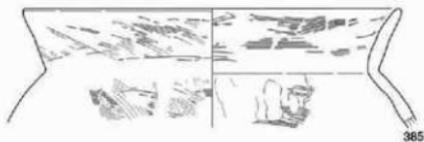




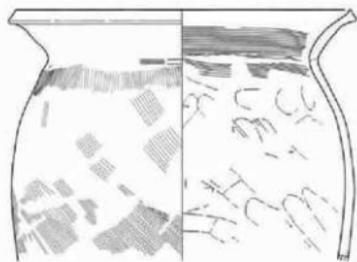




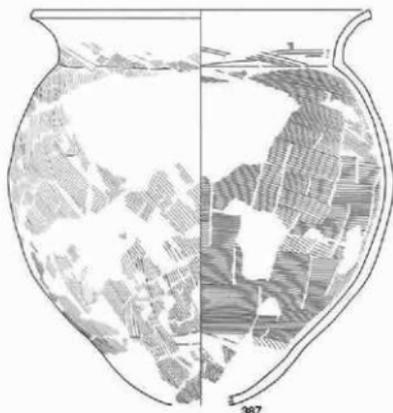
384



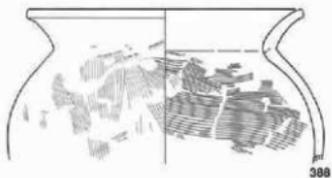
385



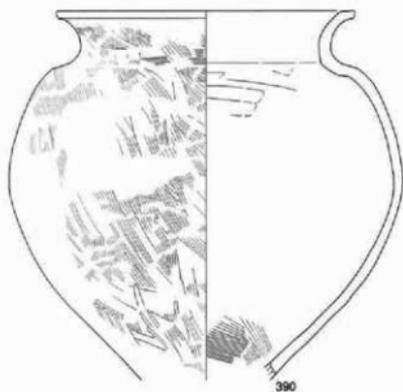
386



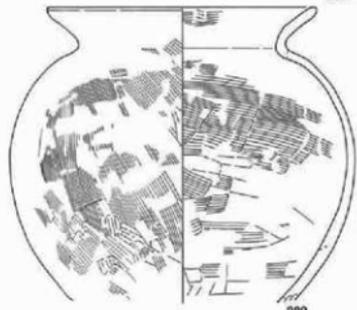
387



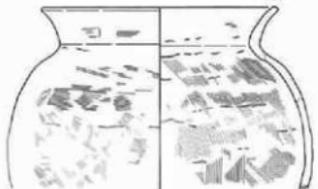
388



390



389

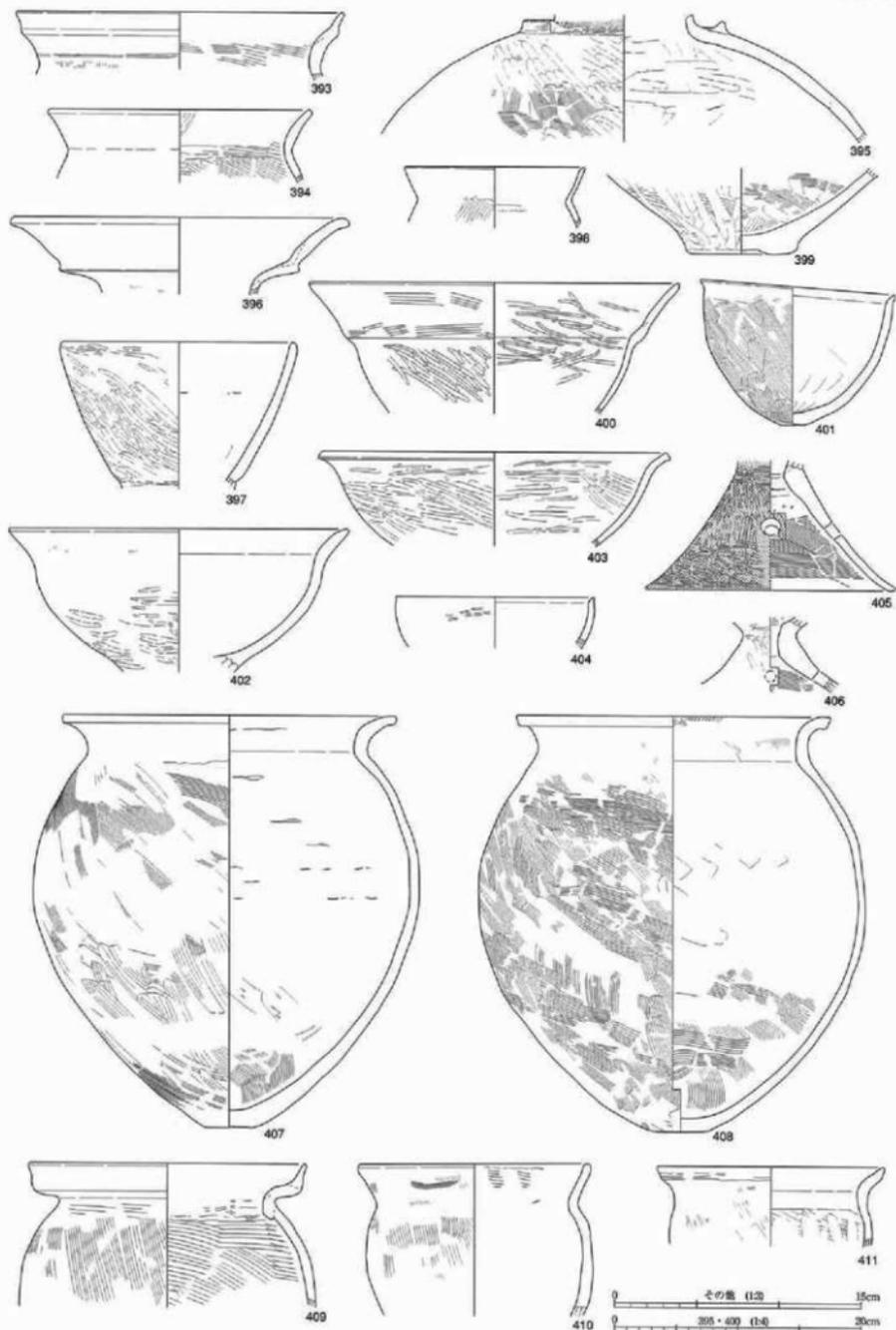


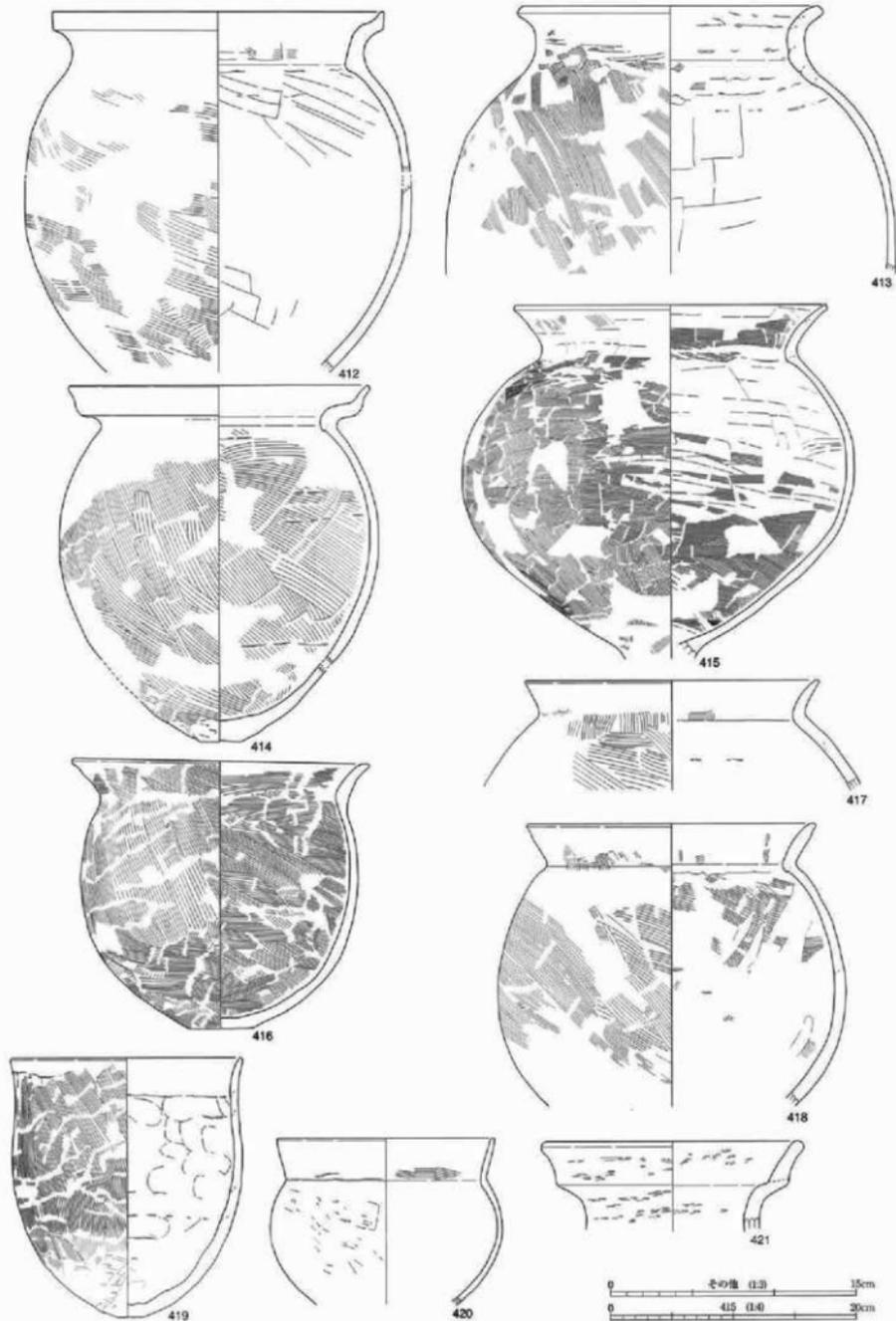
391

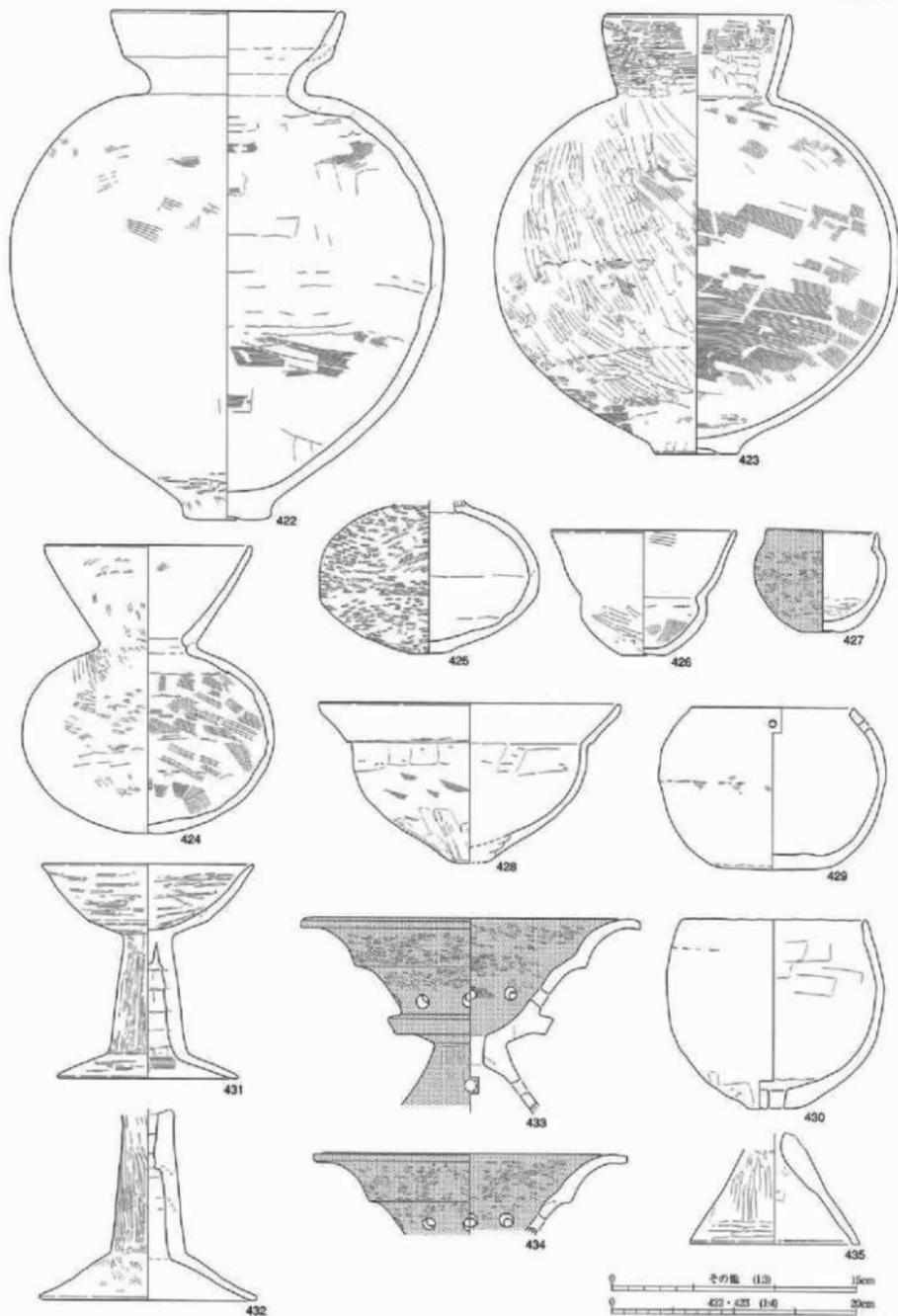


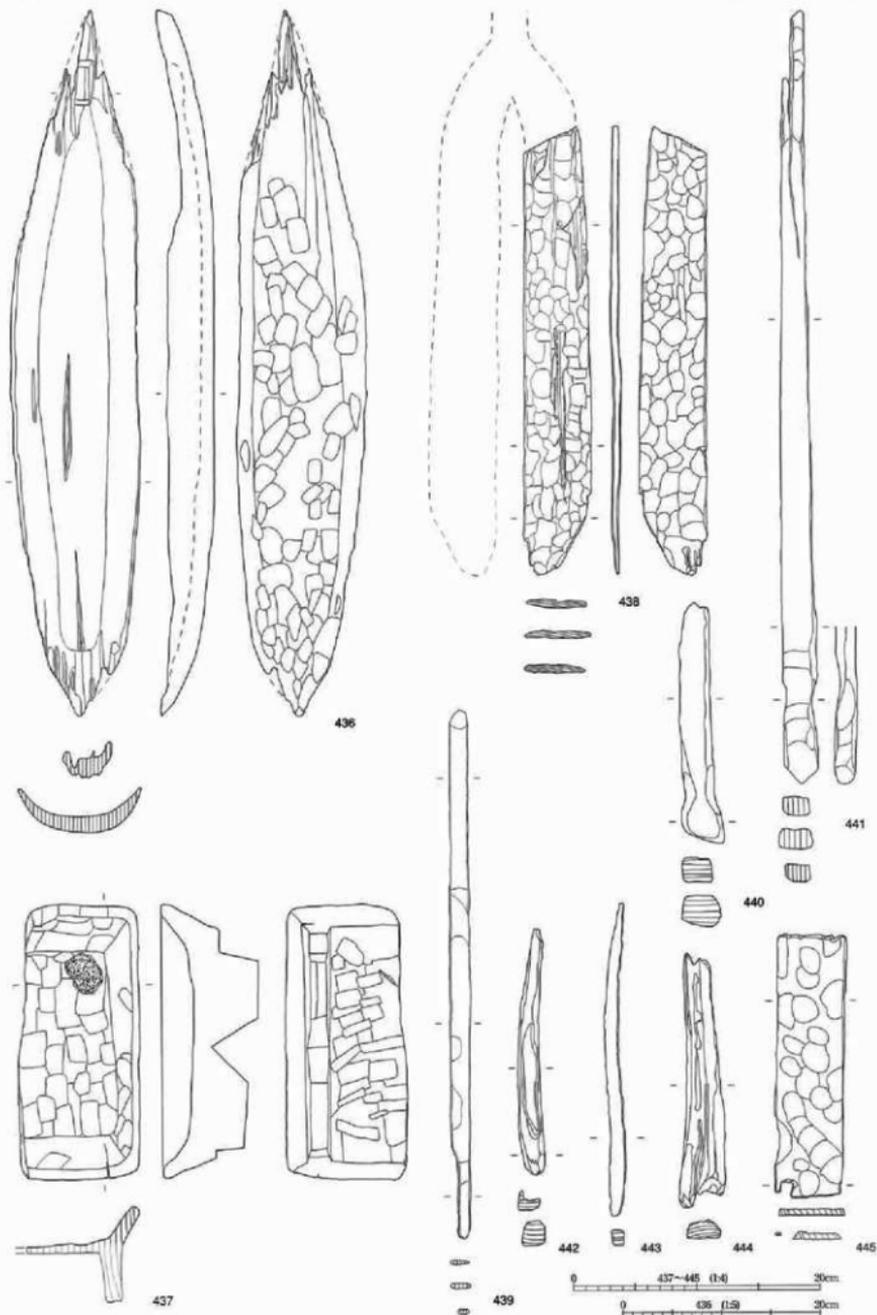
392

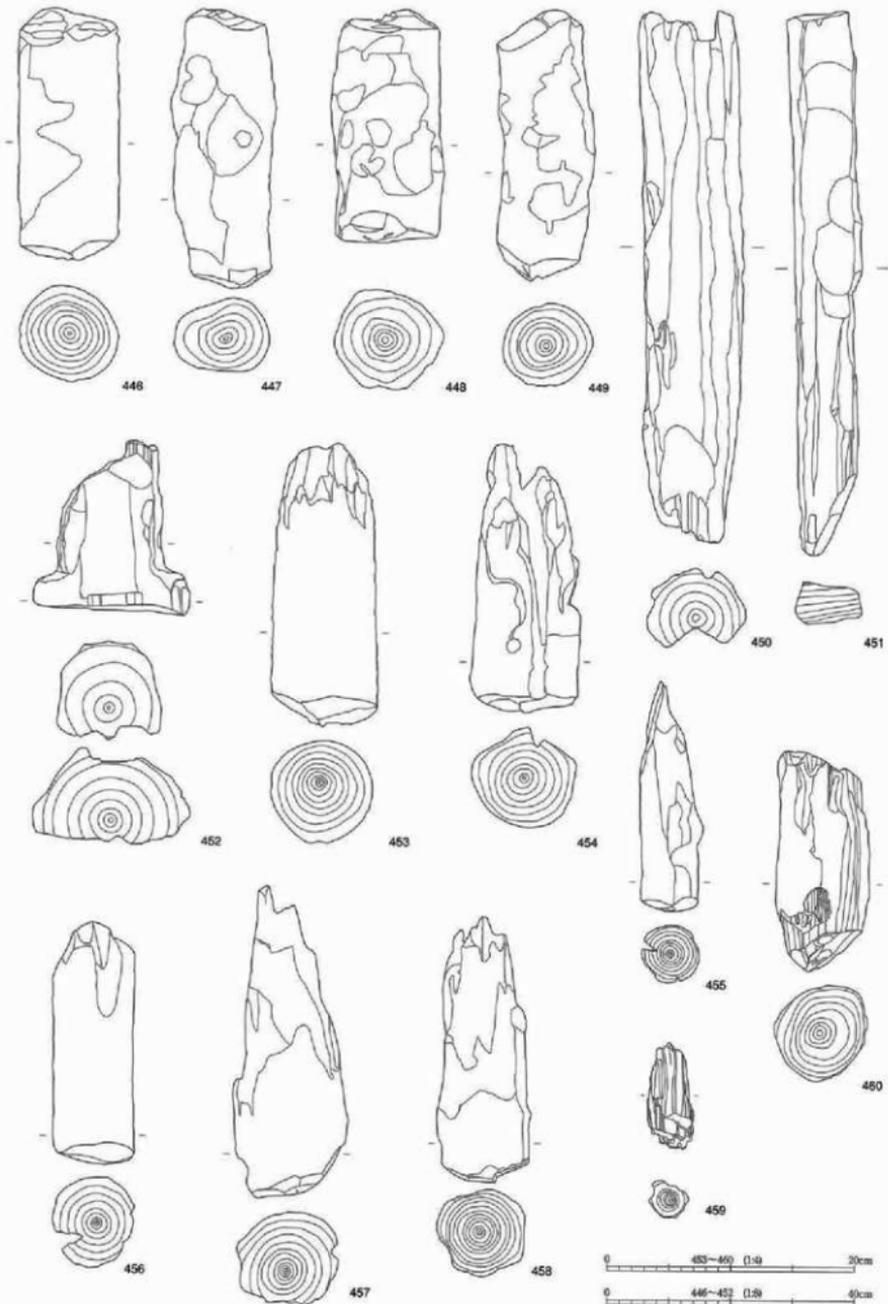
0 1.0 15cm

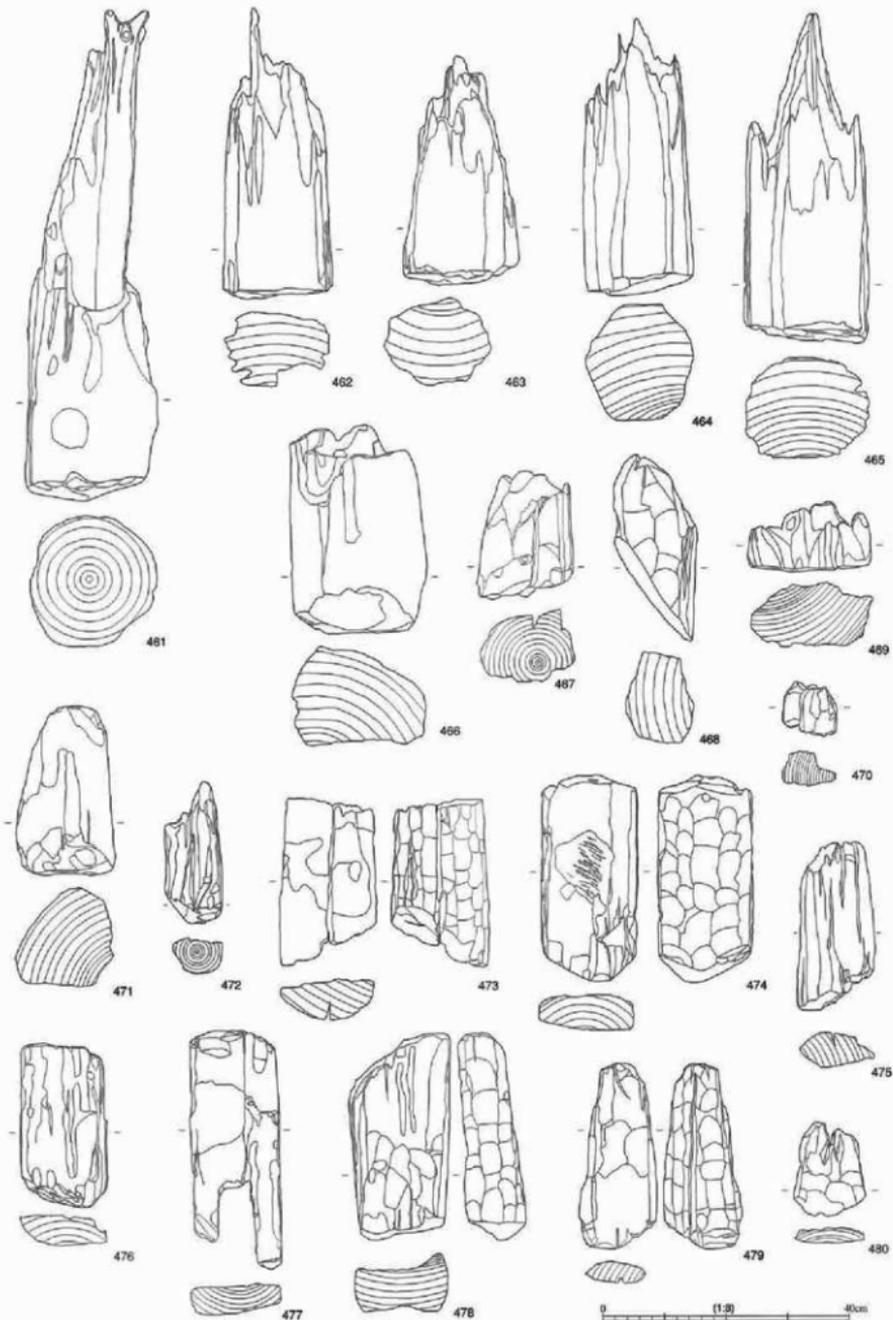


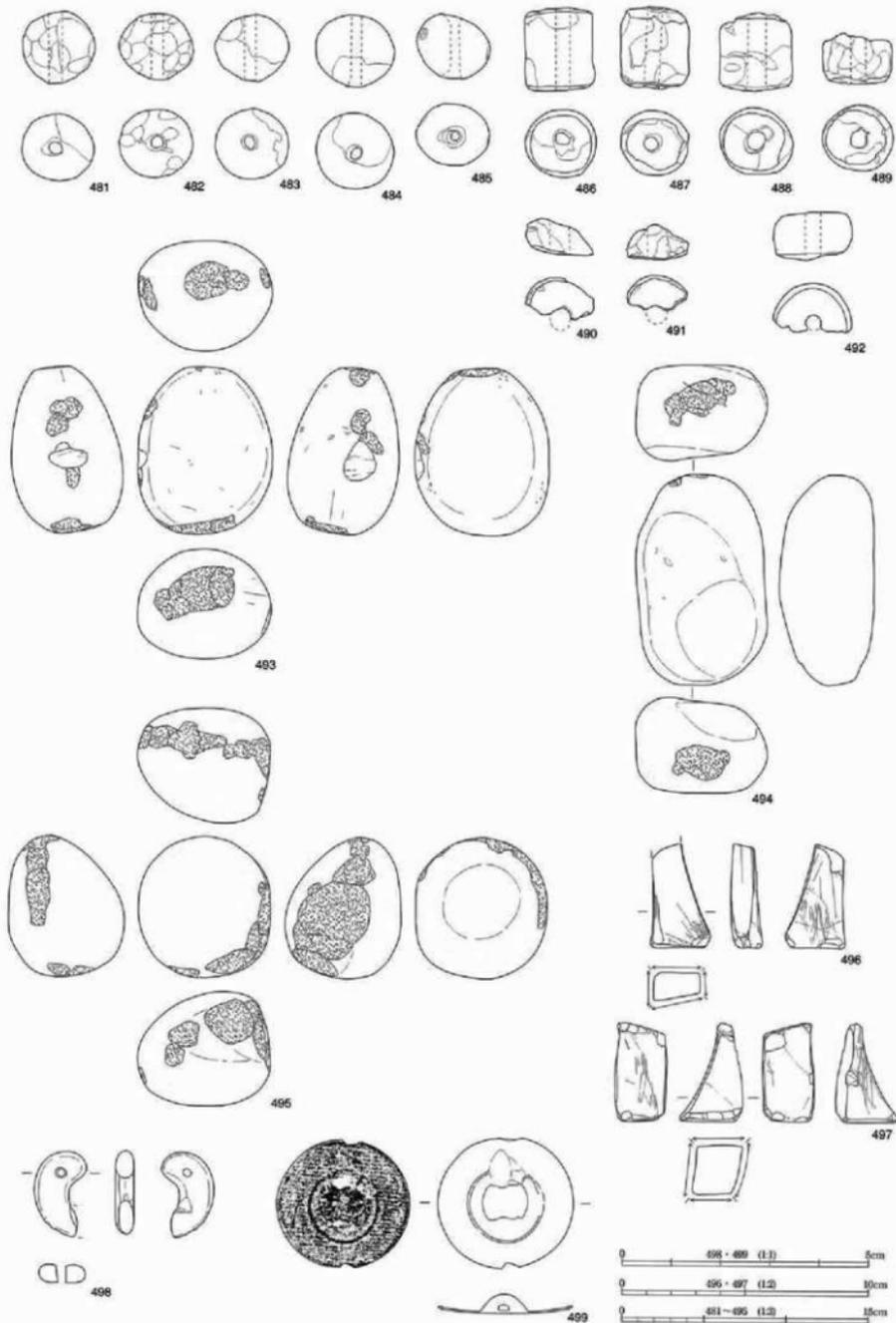










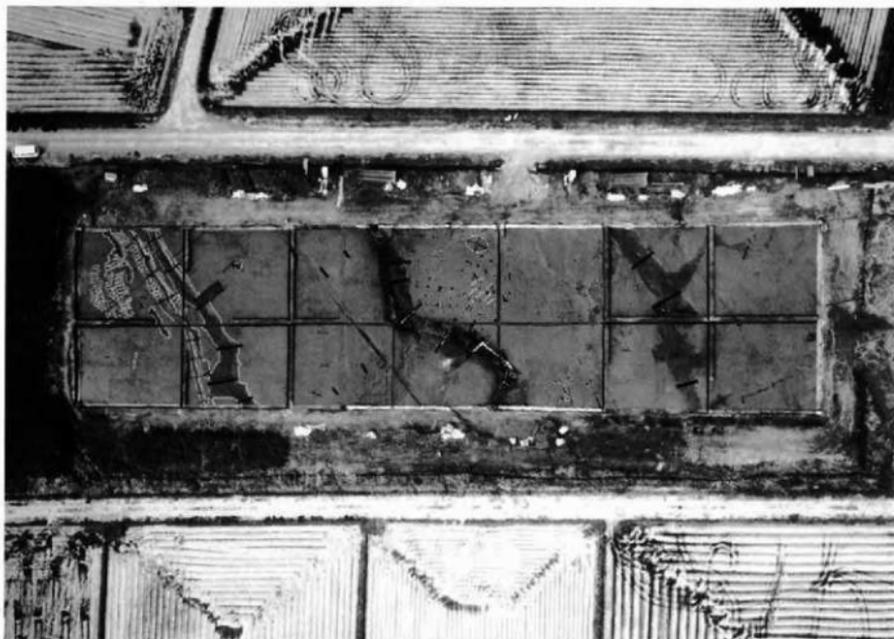




遺跡近景 北から (2003年11月撮影)



遺跡近景 北から (2004年5月撮影)



調査区全景



建物群と川跡 西から



調査前の状況 南から



5Dグリッド土層堆積状況 東から



作業風景



SB1001検出状況 西から



SB1001完掘状況 西から



SB1001 P1007断面 南から



SB1001 P1007断面 南から



SB1001 P1003断面 西から



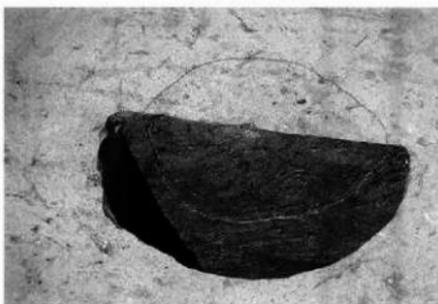
SB1001 P1003断面 南から



SB1001 P1009断面 南から



SB1014完備状況 西から



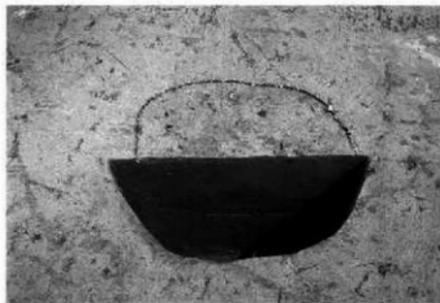
SB1014 P1015断面 北から



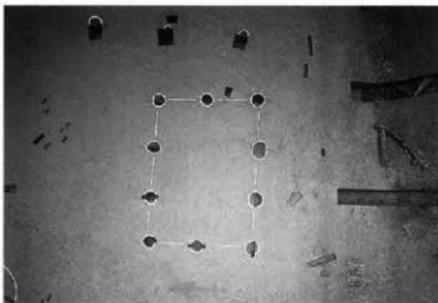
SB1014 P1018断面 南から



SB1014 P1021断面 北から



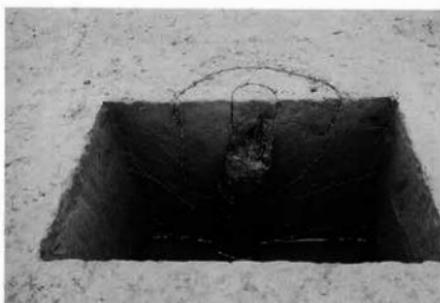
SB1014 P1020断面 南から



SB1014完備状況 (上から)



SB1069実態状況 南から



SB1069 P1036断面 南から



SB1069 P1049断面 東から



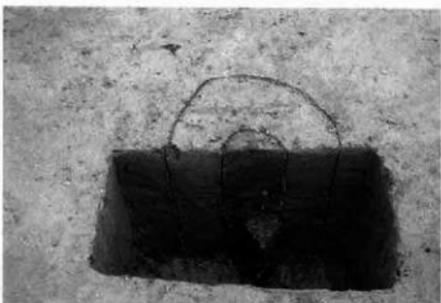
SB1069 P1051断面 南から



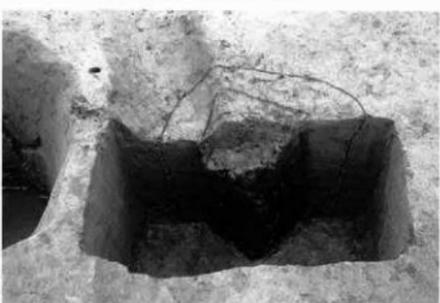
SB1069 P1039断面 西から



SB1069 P1064断面 南から



SB1069 P1082断面 南から



SB1069 P1083断面 南から



SB1070 発掘状況 西から



SB1070 P1042断面 西から



SB1070 P1043断面 西から



SB1070 P1044断面 西から



SB1070 P1065断面 南から



SB1070 P1066断面 南から



SB1070 P1067断面 南から



SB1070 P1068断面 南から



SB1085 P1040断面 南から



SB1085 P1041断面 西から



SB1085 P1076断面 西から



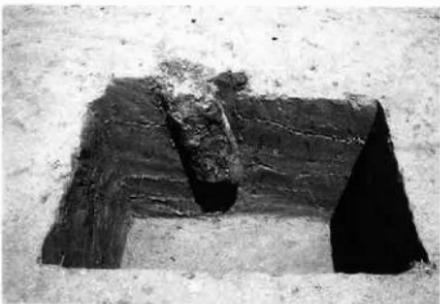
SB1085 P1078断面 南から



柱1012断面 南から



P1025断面 南から



P1037断面 南から



柱1047断面 西から



SX1026確認面遺物出土状況 西から



SX1026確認状況 南から



SX1026断面B'-B'北半 西から



SX1026断面B'-B'南半 西から



SX1026 P1057・P1058断面 東から



SX1026 P1060断面 西から



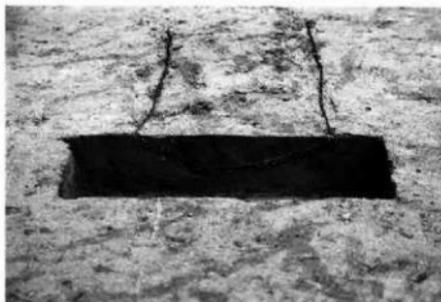
SX87完整状況 南から



SX90完整状況 南から



SD1027-SD1035完掘状況 南から



SD1028断面 南から



SD56完掘状況 西から



SD57完掘状況 西から



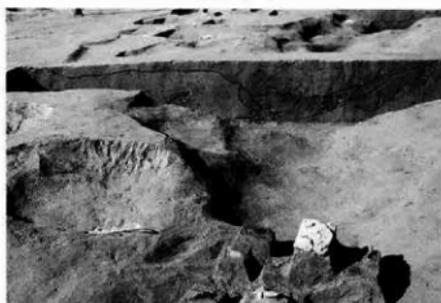
SD29断面 東から



SD56断面 東から



SD57断面B-B' 東から



SD57断面C-C' 東から



SD56・SD88・SD89 西から



SD88・SD89 西から



SD29・SD57・波板状凹凸面 西から



波板状凹凸面最南列 西から



波板状凹凸面(2Cグリッド) 西から



SD57・波板状凹凸面 西から



SD82 西から



SD57出土遺物 北から



川跡 (SD91) 西から



川跡 (SD91) 断面A-A' 東から



川跡 (SD91) 断面B-B' 東から



川跡 (SD91) 遺物出土状況 西から



川跡 (SD91) 遺物出土状況



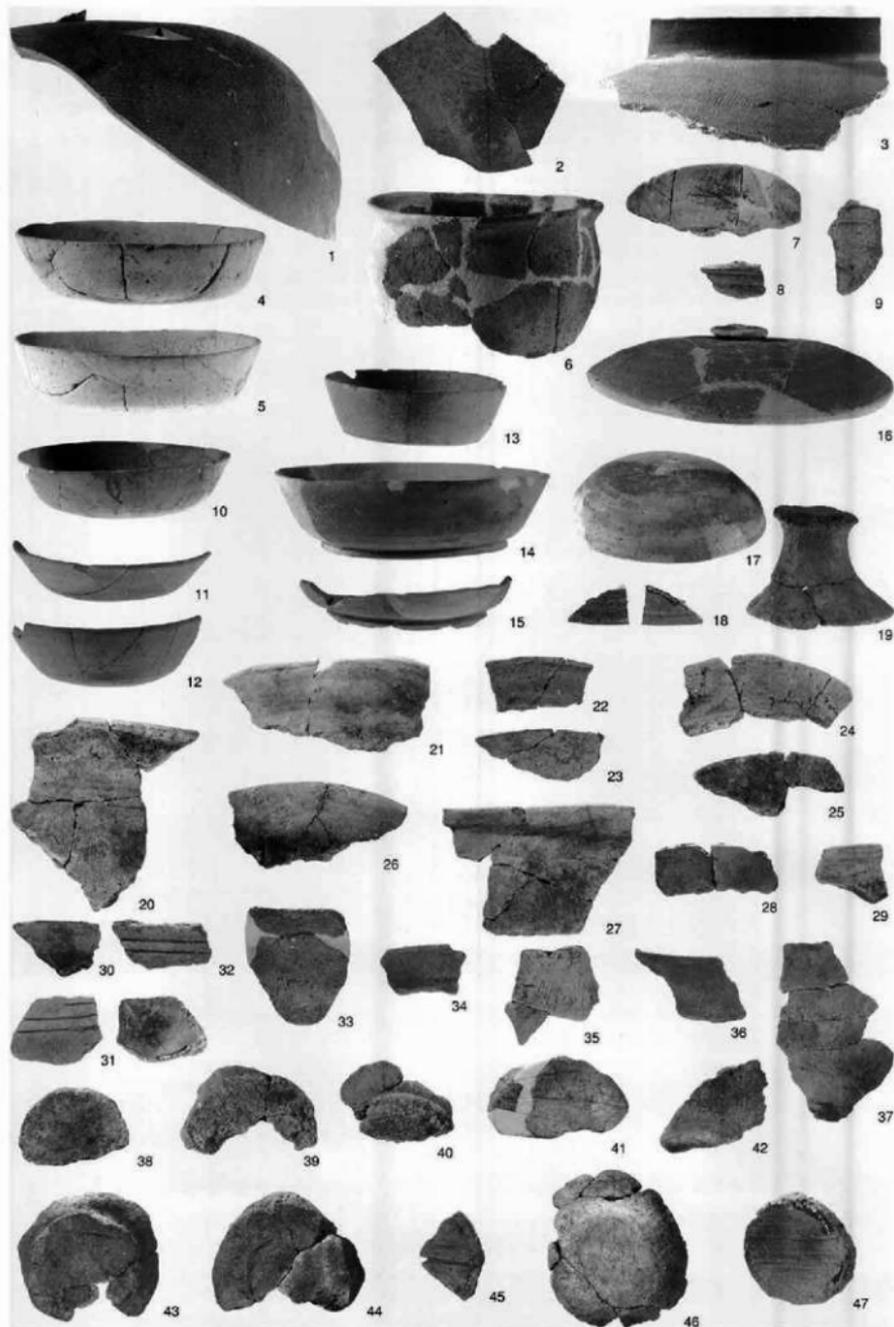
川跡 (SD91) 遺物出土状況

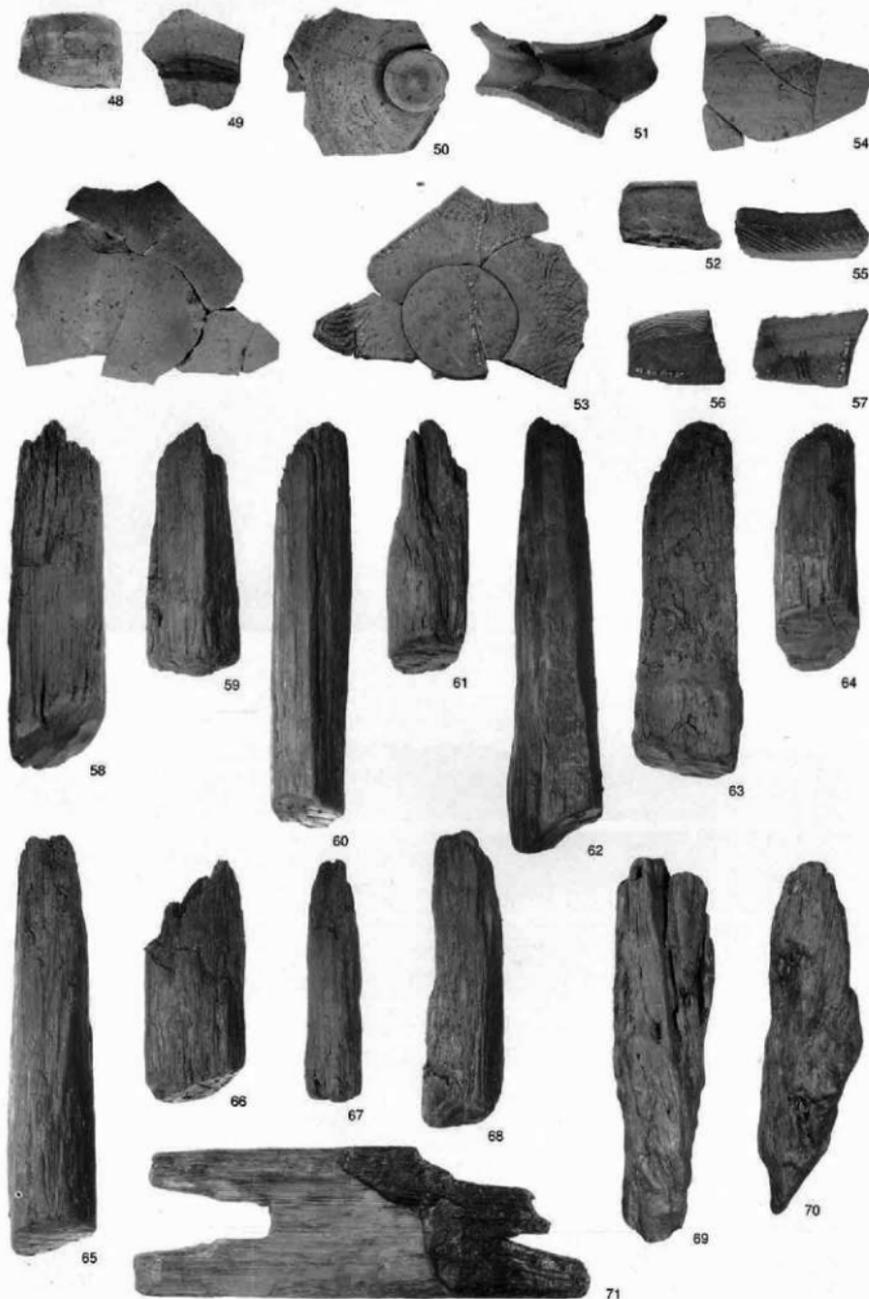


川跡 (SD91) 自然木出土状況 西から



川跡 (SD91) 建物部材出土状況 西から







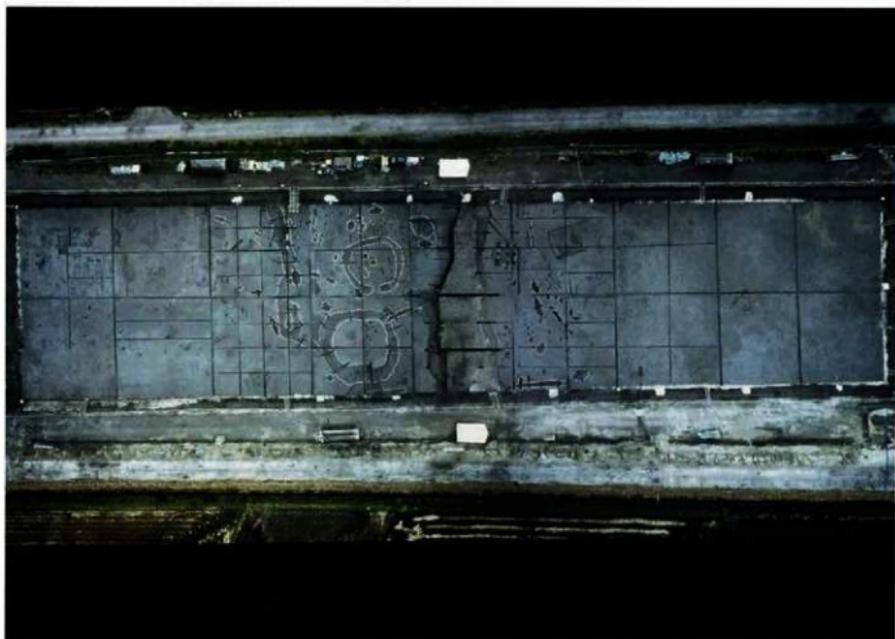
遺跡近景（上層） 南から



遺跡遠景（下層） 西から 東奥に柳形山脈



上層完掘状況



下層完掘状況



上層 道路状遺構1 東から



下層 円形周溝状遺構 1号(手前)・2号(奥) 西から



西川内南遺跡 上層 土器集合



西川内南遺跡 下層 土器集合



小型銅鏡



勾玉



上層完掘状況 (1-11グリッド)



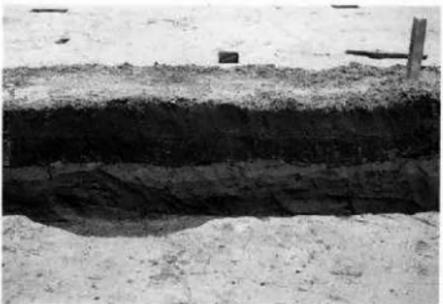
道路状遺構 2完掘状況



調査前の状況 北から



作業風景



17E グリッド土層堆積状況 南から



14D グリッド土層堆積状況 南から



6 Bグリッド遺物出土状況



6 Bグリッド遺物出土状況



道路状遺構1 完備状況 東から



道路状遺構1 完備状況 6Bグリッド 西から



道路状遺構1 SK31ほか完備状況 西から



道路状遺構1 SD25完備状況 西から



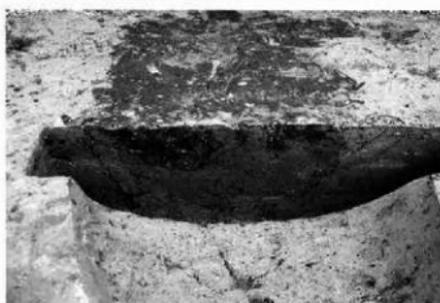
道路状遺構1 SD67・SK64完備状況 東から



道路状遺構1 SD22遺物出土状況 南から



道路状遺構1 SD25断面 西から



道路状遺構1 SD26断面 西から



道路状遺構 1 SD59断面 東から



道路状遺構 1 SD60断面 西から



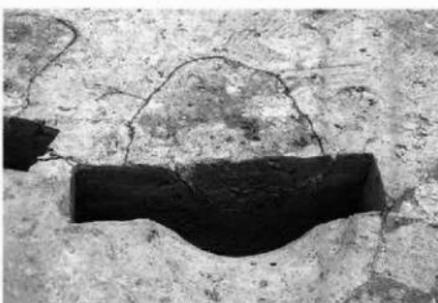
道路状遺構 1 SD62断面 西から



道路状遺構 1 SD66断面 西から



道路状遺構 3 SD43-45断面 南から



道路状遺構 3 SD46断面 南から



道路状遺構 3 SD49断面 南から



道路状遺構 3 SD50断面 南から



道路状遺構 3 完備状況 西から



道路状遺構 3 完備状況 南から



道路状遺構 3 SD151断面 南から



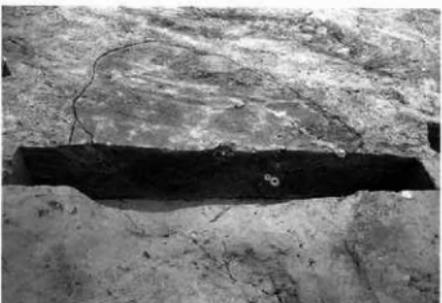
道路状遺構 3 SD152断面 南から



道路状遺構 3 SD154断面 南から



道路状遺構 3 SD155・SD156断面 南から



道路状遺構 3 SD157断面 南から



道路状遺構 3 SD158断面 西から



道路状遺構 2 完掘状況 南から



道路状遺構 2 完掘状況 北から



道路状遺構 2 完掘状況 北から



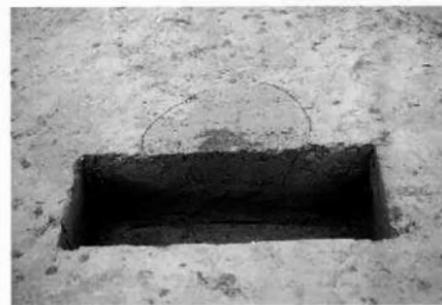
道路状遺構 2 完掘状況 北から



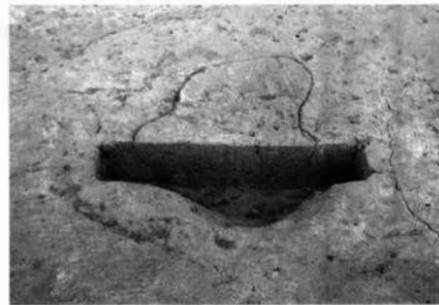
道路状遺構 2 SX317-320完掘状況 東から



道路状遺構 2 SD124ほか完掘状況 東から



道路状遺構 2 P89断面 北から



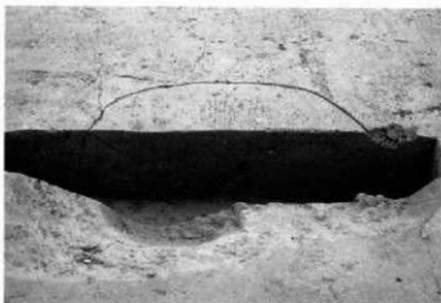
道路状遺構 2 SX71断面 西から



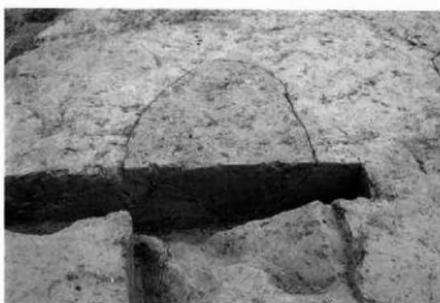
道路状遺構 2 SX95断面 西から



道路状遺構 2 SX97断面 西から



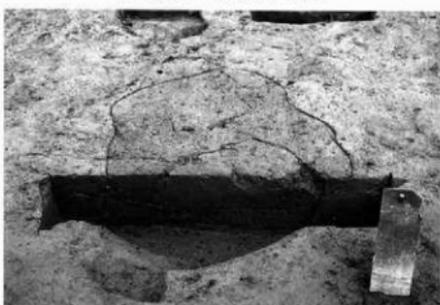
道路状遺構 2 SX107断面 西から



道路状遺構 2 SX137断面 西から



道路状遺構 2 SX138断面 西から



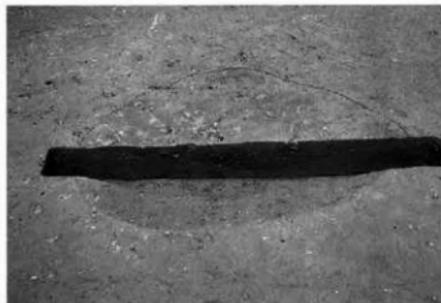
道路状遺構 2 SX142断面 西から



道路状遺構 2 SX206断面 西から



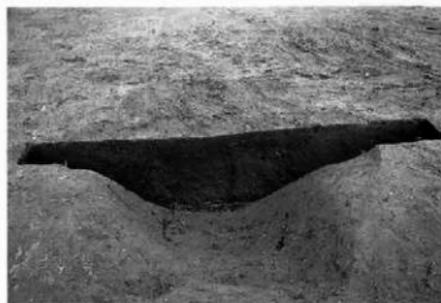
道路状遺構 2 SX318断面 西から



SK1断面 南から



SK1完掘状況 南から



SK3断面 西から



SK3完掘状況 西から



SK5断面 南から



SK5完掘状況 南から



SX7断面 南から



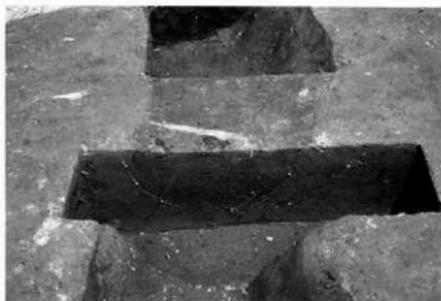
SX51完掘状況 西から



SX52断面 南から



SX52完備状況 南から



SD2断面 西から



SD2完備状況 東から



SD6断面 南から



SX7・SD6・SD6完備状況 西から



SD4完備状況 南から



SD6断面 南から



SD9完壁状況 東から



SD9遺物出土状況 東から



SD10断面 西から



SD10完壁状況 西から



SD53断面 南から



SD53完壁状況 南から



杭160検出状況 南から



杭199検出状況 西から



川跡1・2・3発掘状況 東から



川跡1発掘状況 東から



川跡1断面15-15' 西から



川跡1断面15-16' 西から



川跡1出土遺物



川跡1・2断面 西から



川跡2断面17-17' 西から



川跡3断面30-30' 西から



川跡2・3完掘状況 東から



川跡2・3断面18-18' 西から



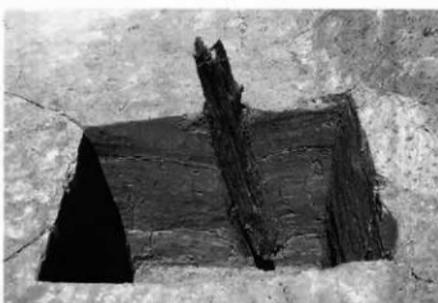
川跡2杭列1完掘状況 東から



川跡2杭列2完掘状況 東から



川跡2杭列3完掘状況 東から



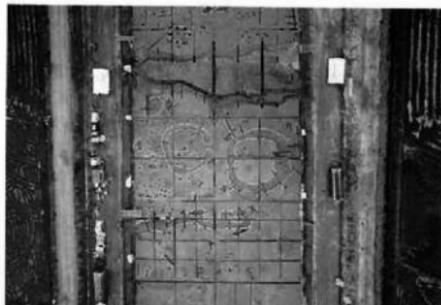
杭列3 杭197検出状況 南から



杭列2 杭407・杭408検出状況 南から



杭列2 杭409検出状況 東から



下層完掘状況



作業風景



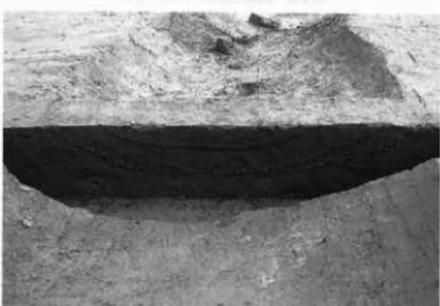
7Cグリッド土層堆積状況 西から



9Bグリッド土層堆積状況 南から



1号円形周溝状遺構完掘状況 西から



1号円形周溝状遺構 SD1201断面13-13' 西から



1号円形周溝状遺構 SD1201断面14-14' 南から



1号円形周溝状遺構 SD1201断面15-15' 西から



1号円形周溝状遺構 SD1201断面16-16' 南から



1号円形周溝状遺構 出入口部分北側断面 西から



1号円形周溝状遺構 出入口部分南側断面 西から



1号円形周溝状遺構 舟形木製品出土状況 西から



SK1225断面 南から



SK1225完掘状況 南から



SB1256 P1202断面 南から



SB1256 P1202完掘状況 南から



SB1256 P1203断面 南から



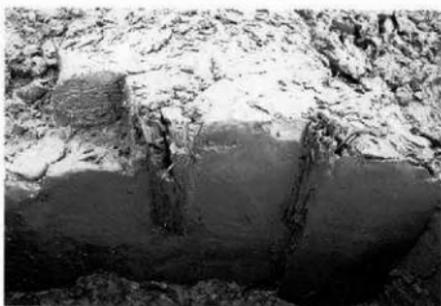
SB1256 P1203完備状況 南から



P1258断面 西から



P1260断面 西から



P1263・P1263断面 西から



SX1221遺物出土状況 西から



SX1221断面 西から



SX1229断面 北から



2号円形周溝状遺構 完形状況 東から



2号円形周溝状遺構 SD1218東側断面7-7' 南から



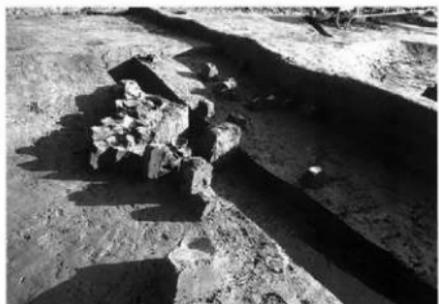
2号円形周溝状遺構 SD1218西側断面7-7' 南から



2号円形周溝状遺構 SD1218断面8-8' 西から



2号円形周溝状遺構 SD1218断面9-9' 西から



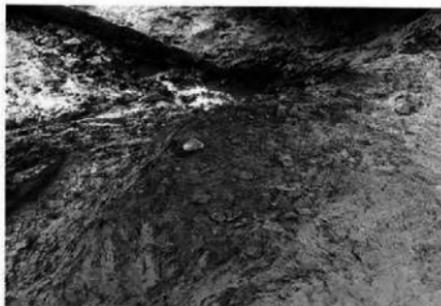
2号円形周溝状遺構 SD1218遺物出土状況 北から



2号円形周溝状遺構 SD1218遺物出土状況 東から



2号円形周溝状遺構 SD1218遺物出土状況 西から



2号円形周溝状遺構 SD1218砂集中範囲 北西から



SB1259 P1269断面 西から



SB1259 P1251断面 西から



SB1259 P1251完掘状況 西から



SB1259 P1254・P1257断面 南から



SB1259 P1254・P1257完掘状況 南から



SK1240断面 西から



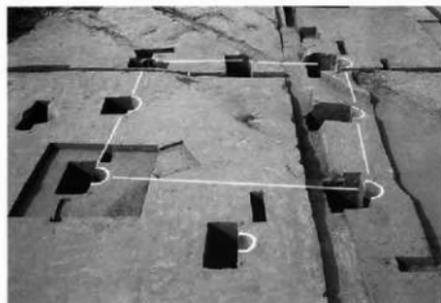
SK1240(奥P1261)完掘状況 西から



SK1246断面 南から



SK1246完掘状況 南から



SB1042完掘状況 東から



SB1042 P1036断面 南から



SB1042 P1039断面 南から



SB1042 P1040断面 東から



SX1109焼土検出状況 西から



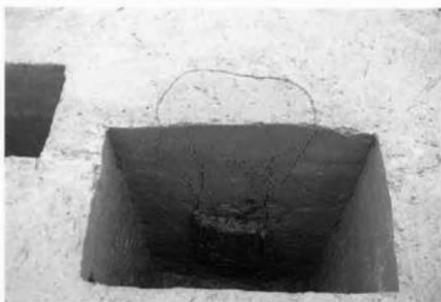
SX1109断面 南から



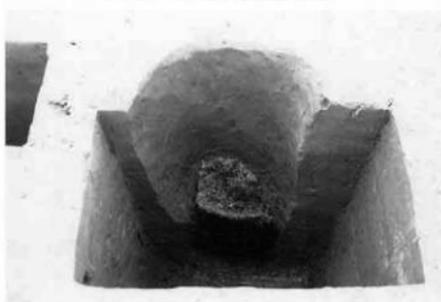
SX1109断面 西から



SB1136 P1122礎板検出状況 南から



SB1136 P1126断面 南から



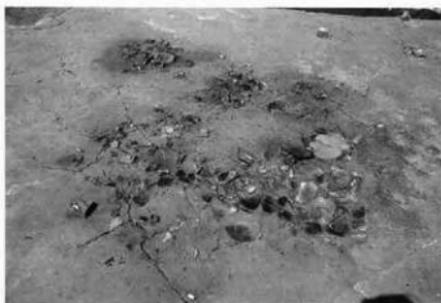
SB1136 P1128完掘状況 南から



SX1001・SX1004検出状況 南から



219・220・221遺物出土状況 南から



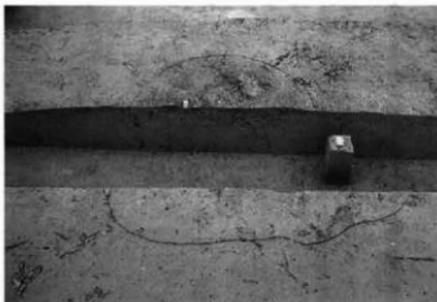
SX1008遺物出土状況 南から



SX1009断面 南から



SX1019断面 南から



SX1023断面 南から



SX1024断面 南から



SX1034断面 南から



SD1113断面 南から



SK1002遺物出土状況 南から



SK1002断面 南から



SK1002完態状況 南から



SK1005断面 西から



SK1005完備状況 南から



SK1007断面 西から



SK1007完備状況 南から



SK1017断面 南から



SK1017断面 南から



SK1045断面 西から



SK1045完備状況 南から



SK1048断面 西から



SK1048完態状況 西から



SK1047断面 東から



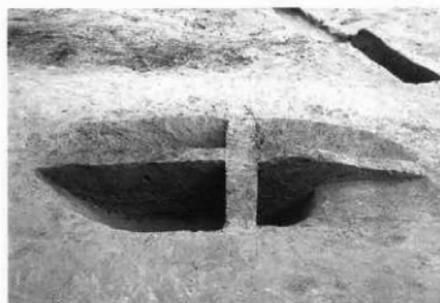
SK1211樹皮検出状況 西から



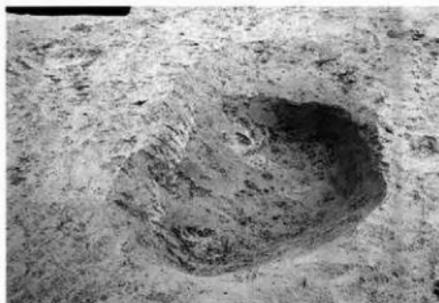
SK1211断面 南から



SK1211完態状況 南から



SK1214断面 南から



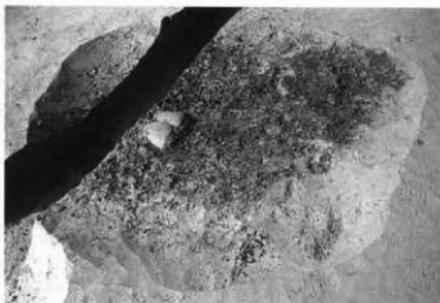
SK1214完態状況 西から



SK1208断面 南から



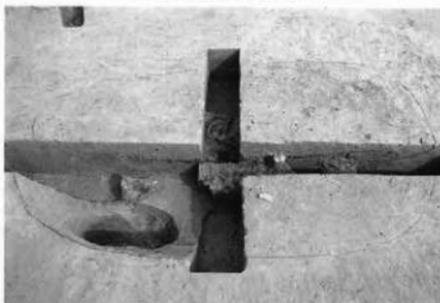
SK1208完備状況 南から



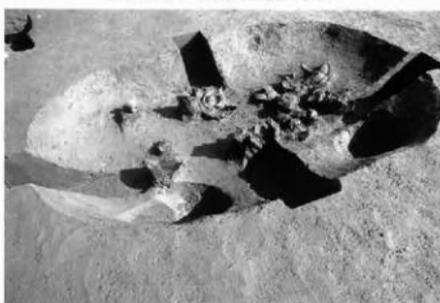
SK1208炭化物層検出状況 東から



SK1206骨片・炭化物検出状況 東から



SK1216断面 南から



SK1216遺物出土状況 南から



SK1219断面 東から



SK1219完備状況 東から



SK1228断面 西から



SK1228完掘状況 西から



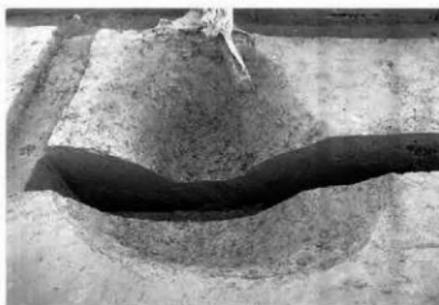
SK1242断面 西から



SK1242完掘状況 西から



SK1102断面 西から



SK1102完掘状況 西から



SK1107断面A-A' 西から



SK1107断面B-B' 西から



SK1107遺物出土状況 南から



SK1117遺物出土状況 北から



SK1117断面 北から



SK1117完掘状況 南から



SK1110断面 南から



SK1110完掘状況 南から



SD1011断面 北から



SD1011完掘状況 南から



SD1018断面 西から



SD1018変掘状況 西から



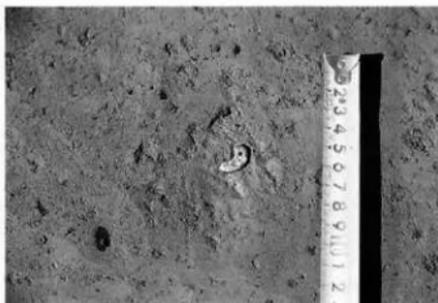
SD1220断面 南から



SD1115断面 西から



SD1115遺物出土状況 北から



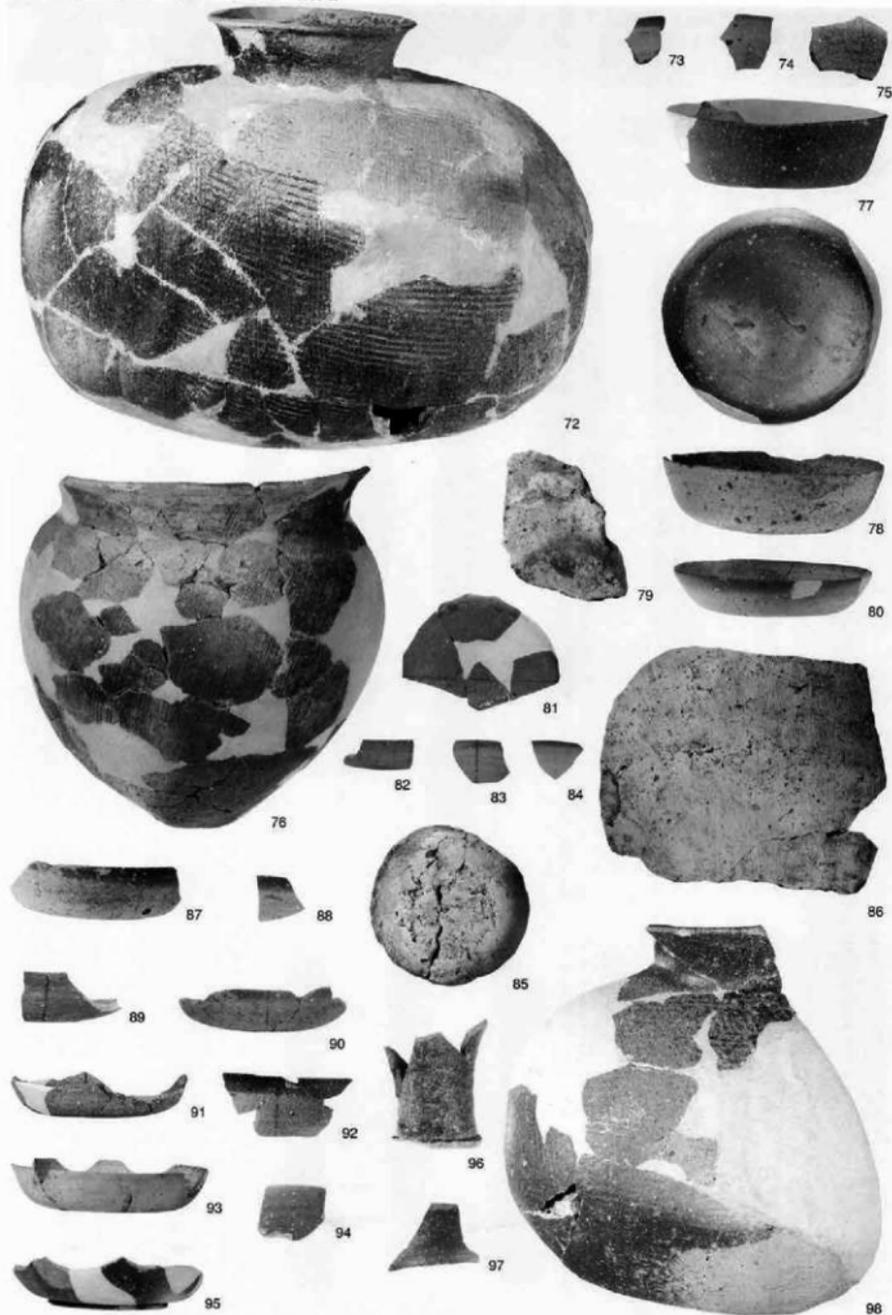
SD1115勾玉出土状況 東から

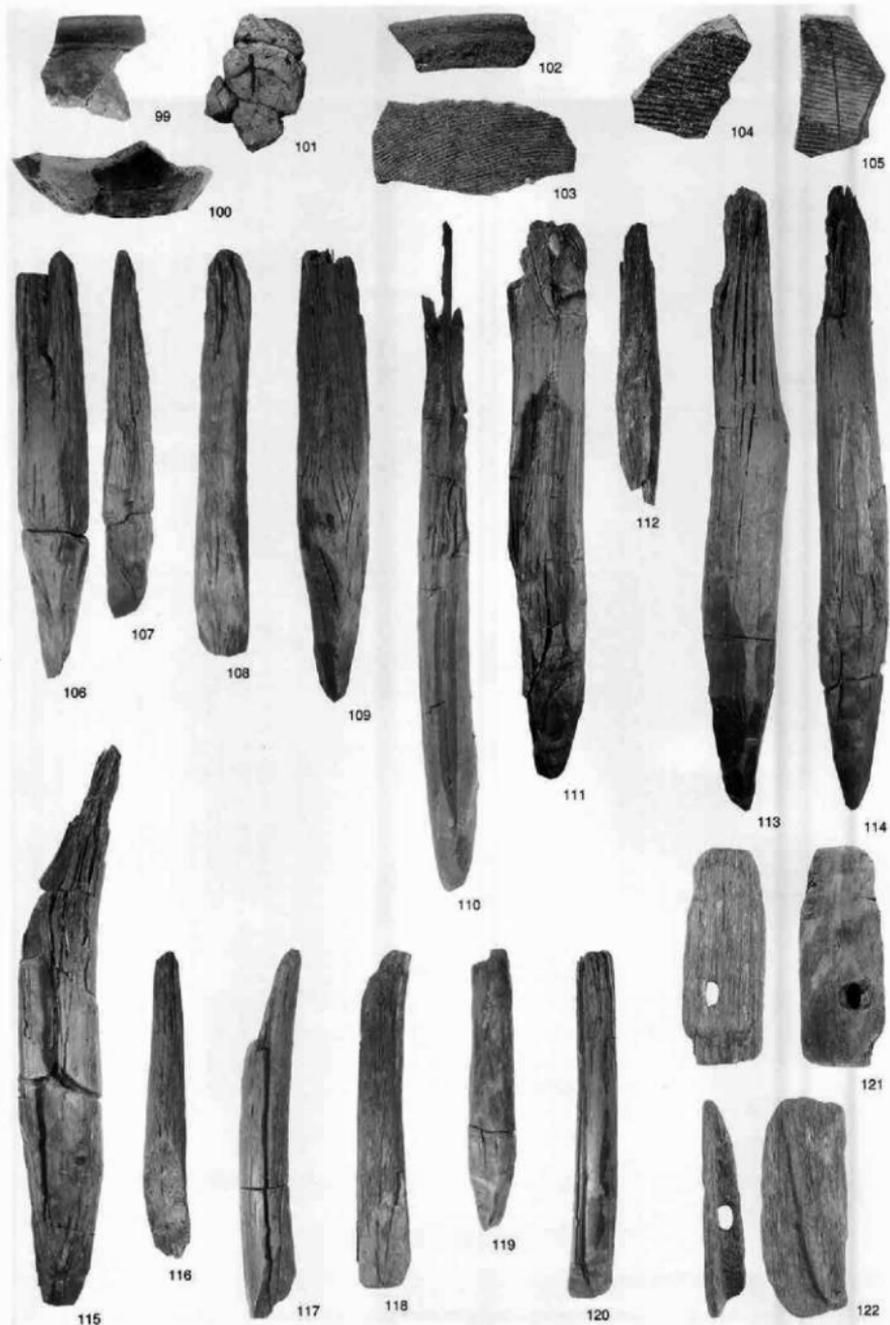


川跡脚付盤出土状況 北から



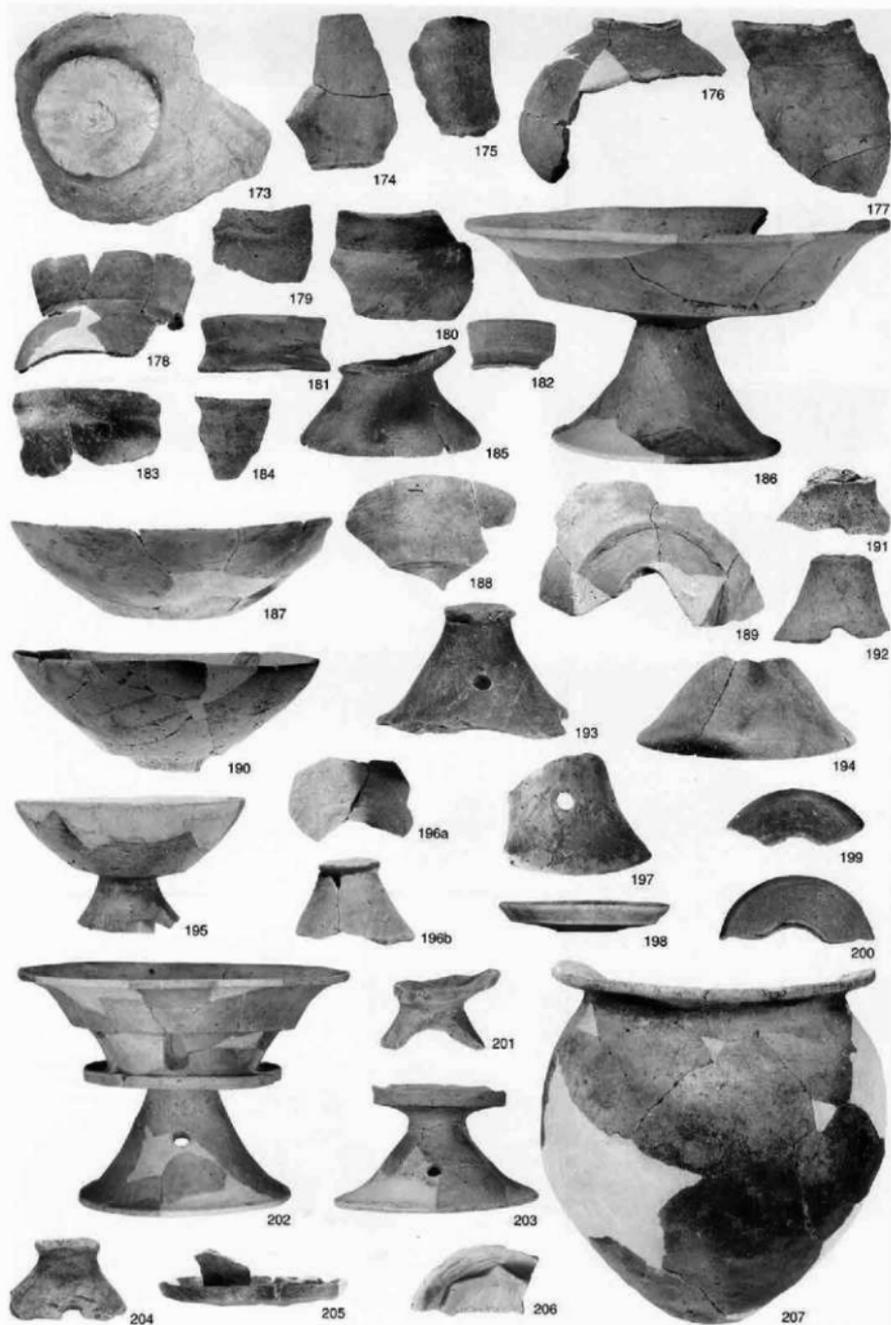
小型銅錢出土状況 南から

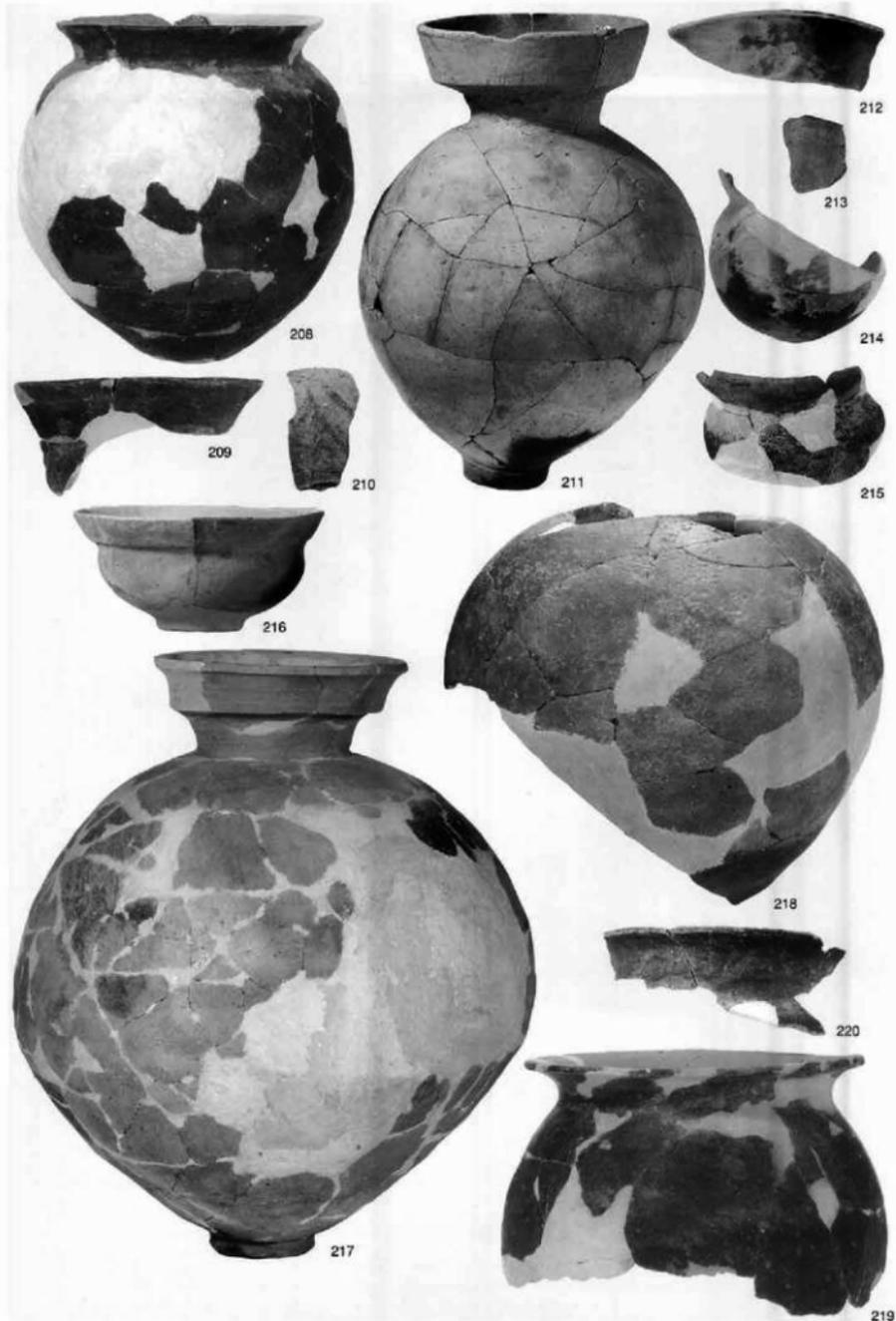


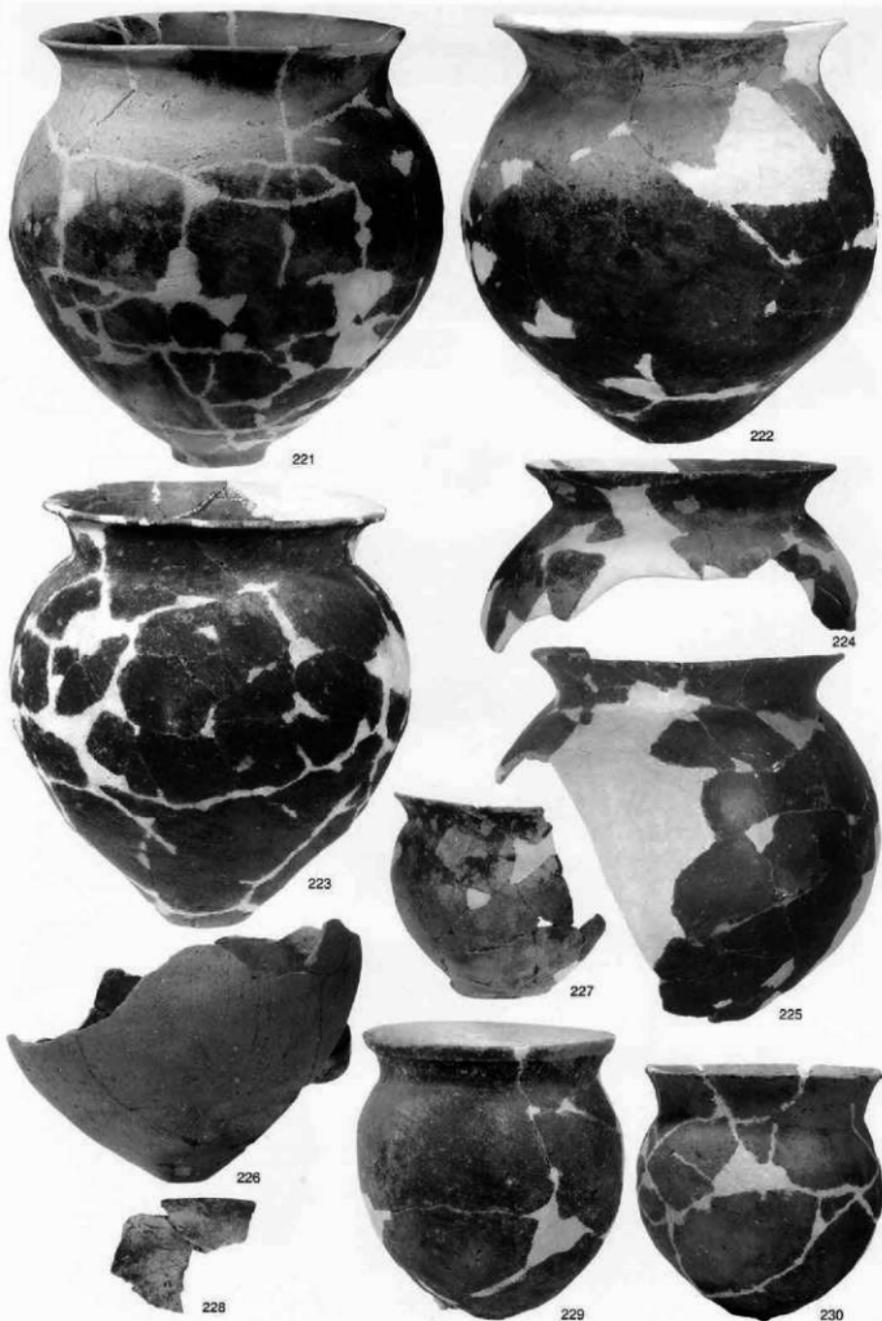






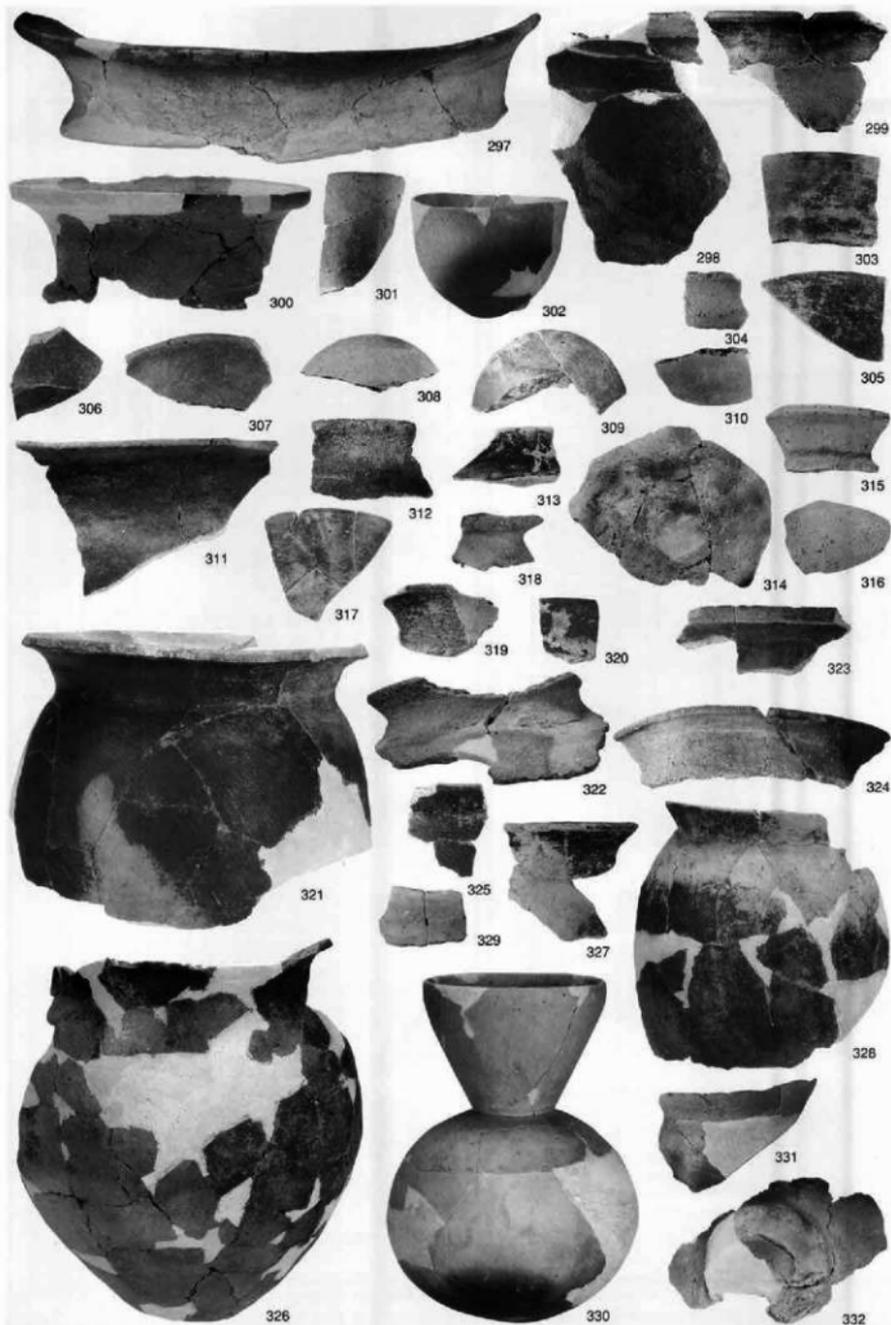




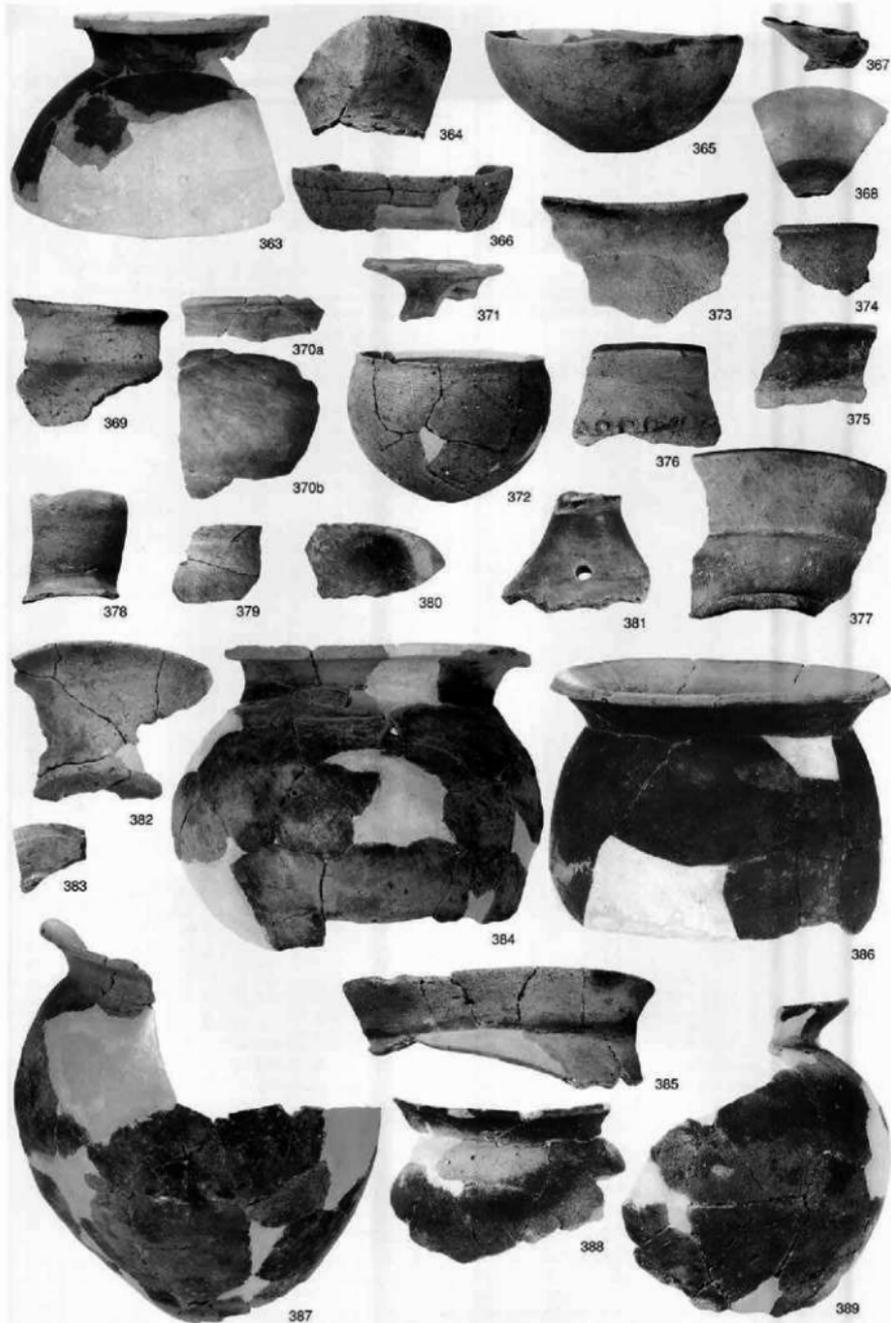




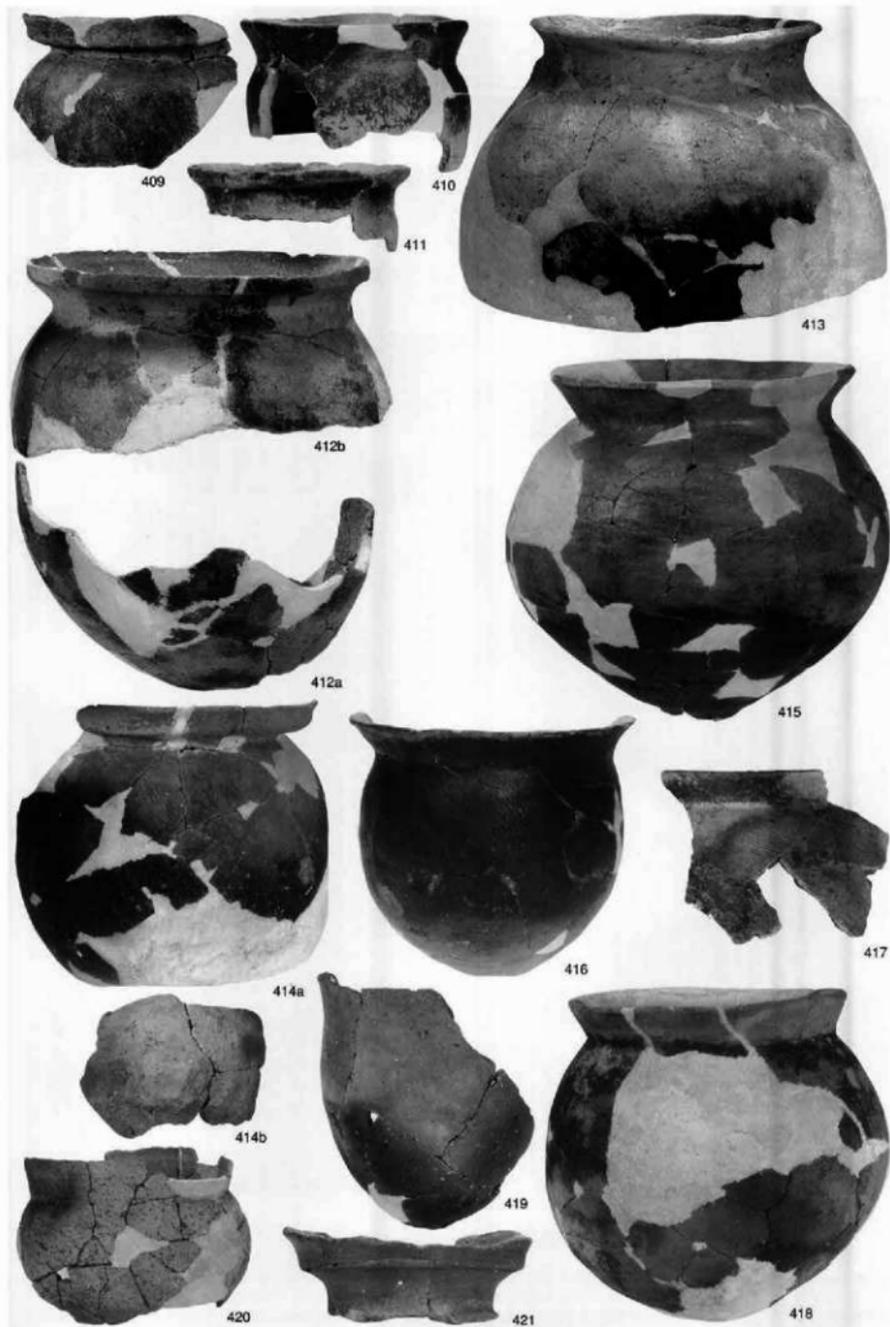


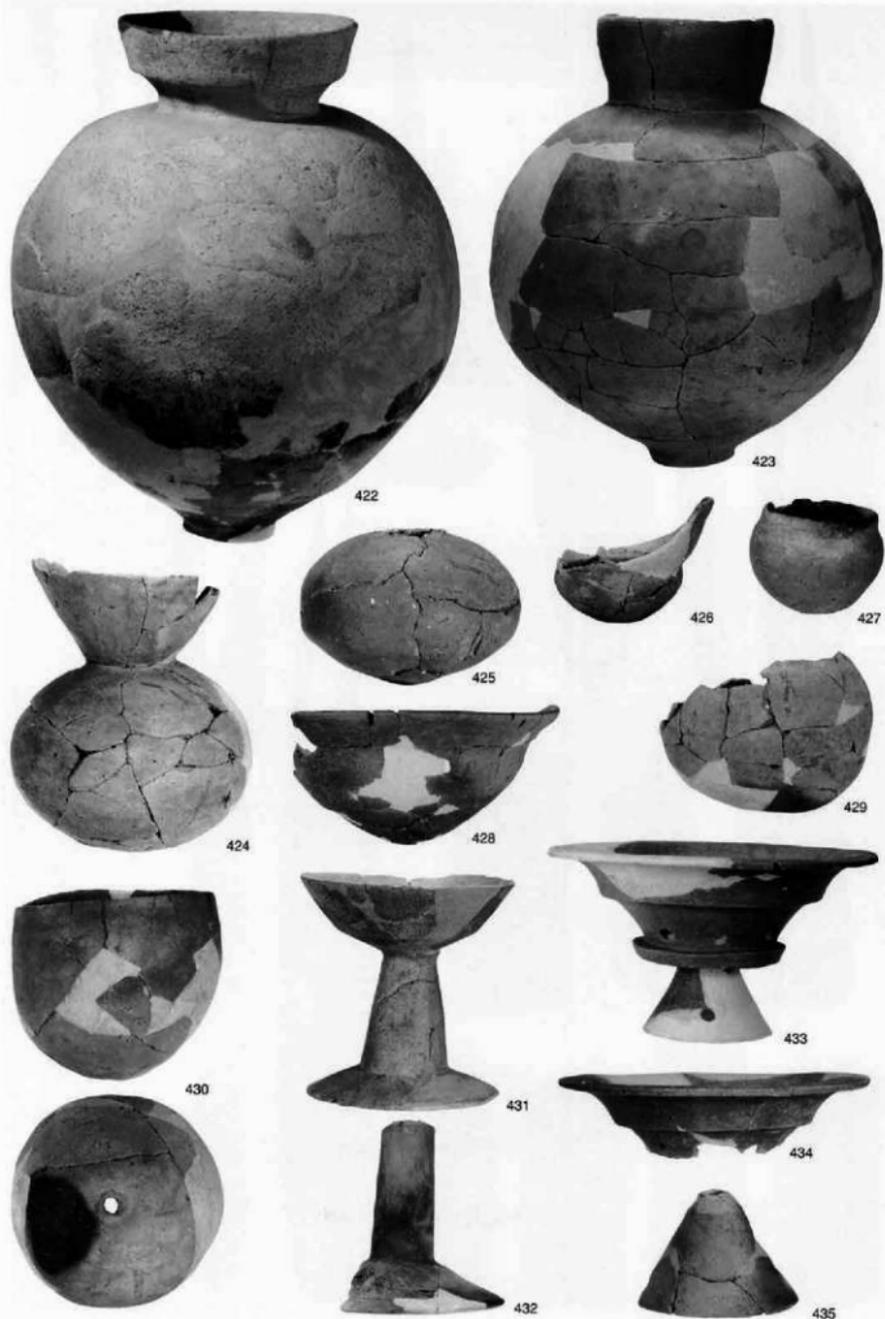


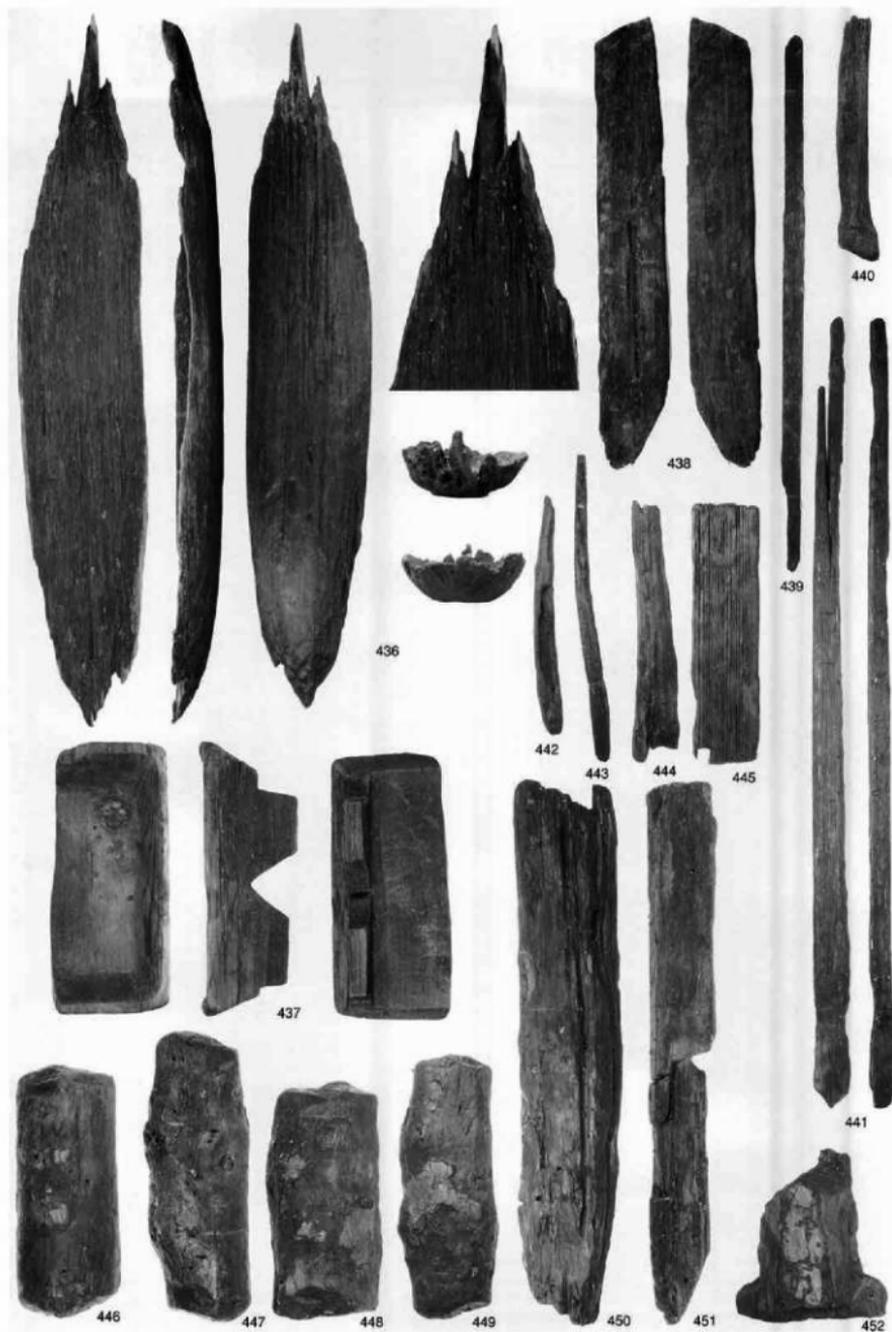


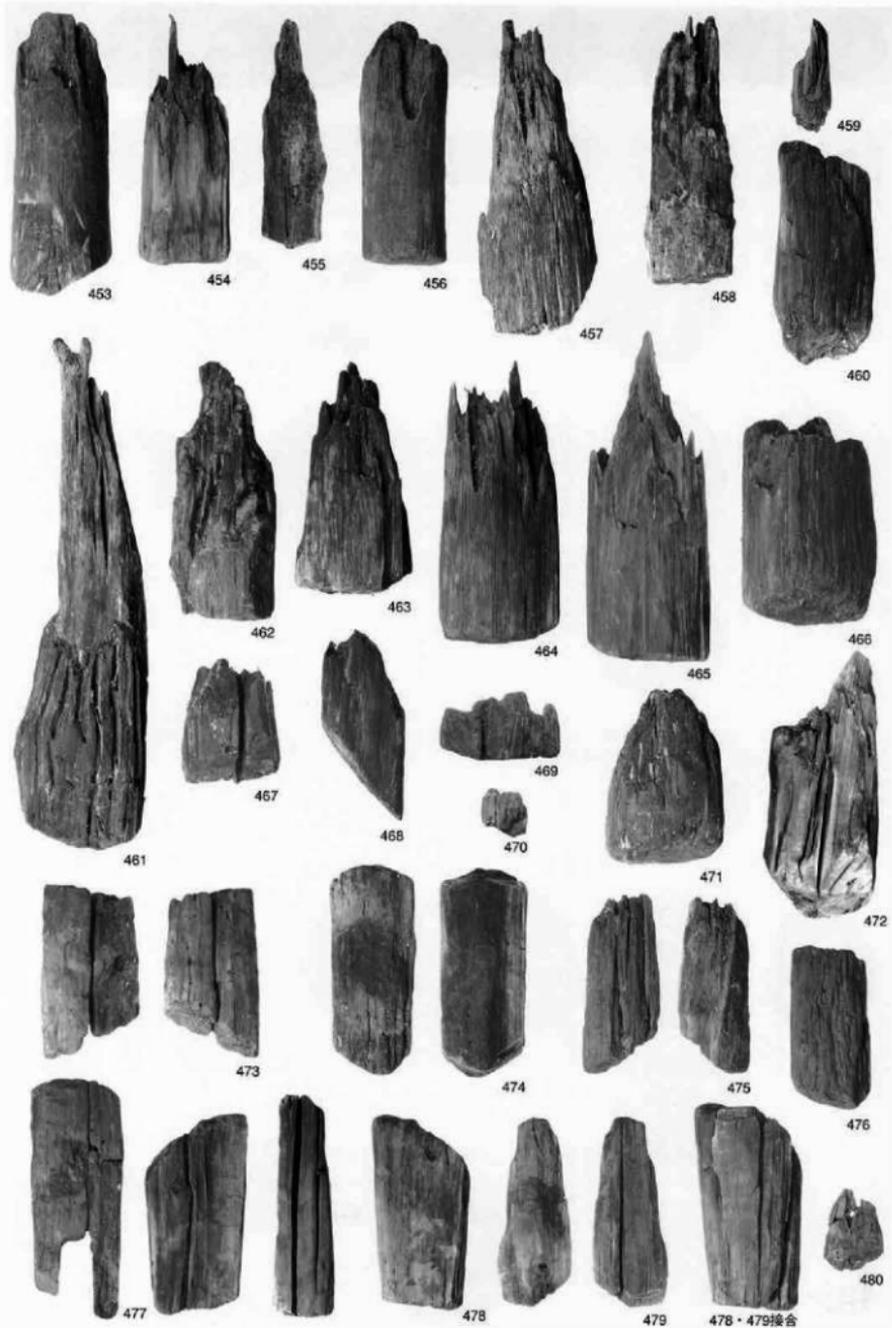


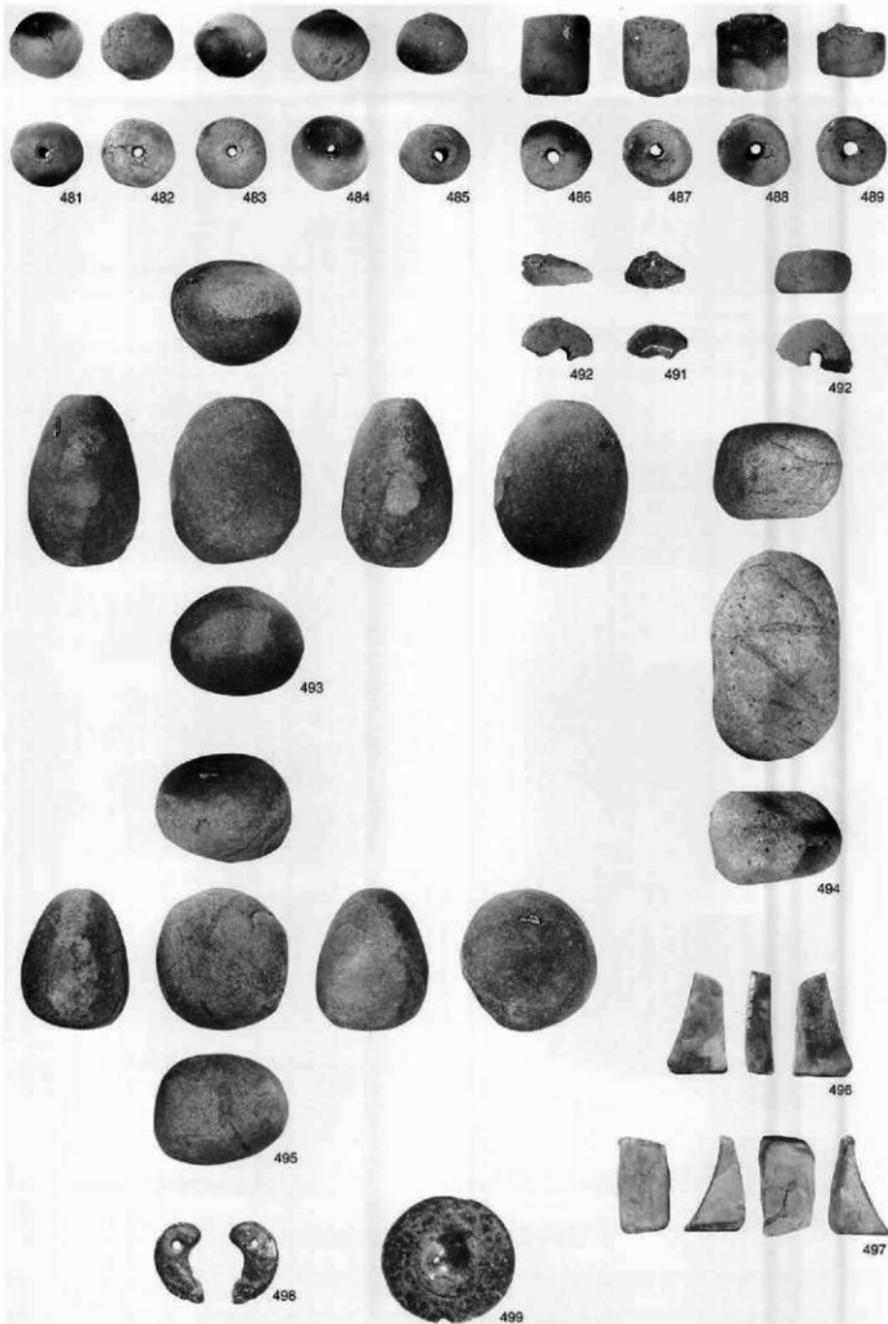












報告書抄録

ふりがな	にしかわうちきたいせき・にしかわうちみなみいせき						
書名	西川内北遺跡・西川内南遺跡						
副書名	日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書						
巻次	X						
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第146集						
編著者名	野水晃子・藤 実・小林義広・伊藤正志・山下 研 (以上 株式会社 吉田建設)、 寺崎祐助 (以上 新潟県埋蔵文化財調査事業団)						
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団・株式会社 吉田建設						
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市金津93番地1 TEL 0250(25)3981						
発行年月日	西暦2005(平成17)年5月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
西川内北遺跡	新潟県北蒲原郡中 条町大字西川内 字家ノ道148はか	15310 163	38度 2分 59秒 (旧座標)	139度 22分 15秒 (旧座標)	20030704～ 20040607	4,620㎡	日本海沿岸東 北自動車道 建設
西川内南遺跡	新潟県北蒲原郡中 条町大字西川内 字中曾根22はか	15310 162	38度 2分 49秒 (旧座標)	139度 22分 11秒 (旧座標)	20040407～ 20041130	12,940㎡	日本海沿岸東 北自動車道 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
西川内北遺跡	集落	奈良時代(8世紀初頭)	掘立柱建物5・道路状遺構1・畝状小溝5・性格不明遺構3		須恵器・土師器・珠洲焼・木製品(柱・杭)	道路状遺構を検出。	
西川内南遺跡	集落	奈良・平安時代(8世紀後半～9世紀前半)、中・近世	道路状遺構3・土坑3・溝7・性格不明遺構3・杭列3		土器(須恵器・土師器・珠洲焼)、木製品(柱・杭・榑・田下駄)	形態が異なる3基の道路状遺構、橋脚と考えられる杭列を検出。	
	集落	古墳時代前期	円形周溝状遺構2・掘立柱建物3・土坑24・溝8・ピット28・性格不明遺構14		土器(土師器)・木製品(柱・杭・舟形木製品・脚付盤・甕または甗)・土製品(有孔土製品、紡錘車)・石製品(敷石・砥石・勾玉)・金属製品(小型銅鏡)	形態が異なる2基の円形周溝状遺構を検出。舟形木製品、小型銅鏡が出土。	

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第146集
日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書 X
西川内北遺跡・西川内南遺跡

平成17年5月30日印刷
平成17年5月31日発行

発 行 新潟県教育委員会
〒950-8570 新潟市新光町4番地1
電話 025(285)5511
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市金津93番地1
電話 0250(25)3981
FAX 0250(25)3986

印刷・製本 (有)半電子印刷所
〒970-8024 福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地
電話 0246(23)9051

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第146集『西川内北遺跡 西川内南遺跡』正誤表追加

頁	位置	誤	正
図版65	左列 下から1枚目	P 1 0 0 7	P 1 0 0 3
図版95	右列 上から1枚目	P 1 2 6 9	P 1 2 6 1
図版99	右列 上から3枚目	断面	完掘
抄録	西川内北遺跡 調査期間	2 0 0 3 0 7 0 4	2 0 0 3 0 4 0 7
抄録	西川内南遺跡 東経	1 3 9 度 0 2 分 4 9 秒	1 3 9 度 0 2 分 5 2 秒

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第146集

西川内北遺跡・西川内南遺跡 正誤表

西川内南遺跡 下層 土器観察表

頁	報告№	訂正か所	誤	正
148	131	器種	鉢	壺
150	185	器種	鉢	壺
152	246	器種	鉢	壺
153	284	器種	鉢	壺
154	300	器種	壺	壺
158	429	器種	鉢	壺

上記表のとおり訂正くださるよう、お願いします。

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団